

**登別市まち・ひと・しごと創生  
総合戦略案（案）**

平成 27 年 月

登 別 市

---

# 【 目 次 】

<b>第1章 人口ビジョン</b> .....	<b>1</b>
1. 我が国の人口推移 .....	2
2. 人口の現状分析 .....	3
(1) 人口の推移 .....	3
(2) 社会増減（転入・転出） .....	7
(3) 自然増減（出生数・死亡数） .....	12
(4) 社会増減と自然増減の関係性 .....	14
3. 人口の将来推計と分析 .....	15
(1) 将来人口推計と分析 .....	15
(2) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析 .....	17
4. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析、考察 .....	24
(1) 1人あたりの地方税の負担増加 .....	24
(2) 基盤施設維持管理費の増大の可能性 .....	25
(3) 小・中学校の減少の可能性 .....	26
(4) 地域産業の担い手の減少 .....	27
5. 人口の将来展望 .....	28
(1) 将来展望の検討に必要な調査分析 .....	28
(2) 現状の問題点と目指すべき将来の方向性 .....	32
(3) 人口の将来展望 .....	34
<b>第2章 総合戦略</b> .....	<b>37</b>
1. 総合戦略の位置づけ .....	38
(1) 総合戦略策定の目的 .....	38
(2) 総合戦略の位置づけ .....	39
(3) 総合戦略の対象期間 .....	39
(4) 総合戦略の全体構成 .....	39
2. 地方創生に対する基本的な考え方 .....	40
3. 地方創生のための重点戦略 .....	42
4. 具体施策と数値目標 .....	44
(1) 基本目標1 子どもを生き育てやすいまちへ .....	44
(2) 基本目標2 安心して老いを迎えることができるまちへ .....	52
(3) 基本目標3 各産業が元気に展開されるまちへ .....	60
(4) 基本目標4 観光地としての魅力づくり .....	72
(5) 基本目標5 移住・定住したいまちへ .....	77

---

---

参考資料 アンケート調査結果.....	81
1. 調査概要.....	82
(1) 調査目的.....	82
(2) 調査日時.....	82
(3) 対象者.....	82
(4) 配布回収数.....	82
(5) 調査結果.....	82
2. 調査結果.....	83
(1) 子育て施策向けアンケート結果.....	83
(2) 高齢者施策向けアンケート結果.....	104
(3) 雇用・経済施策向けアンケート（高校生）結果.....	121
(4) 雇用・経済施策向けアンケート（専門学生）結果.....	135
(5) 雇用・経済施策向けアンケート（事業所）結果.....	148

---



# 第1章 人口ビジョン

# 1. 我が国の人口推移

国の見通しによると 2008 年（平成 20 年）に始まった人口減少は、今後、加速度的に進行すると予測されています。

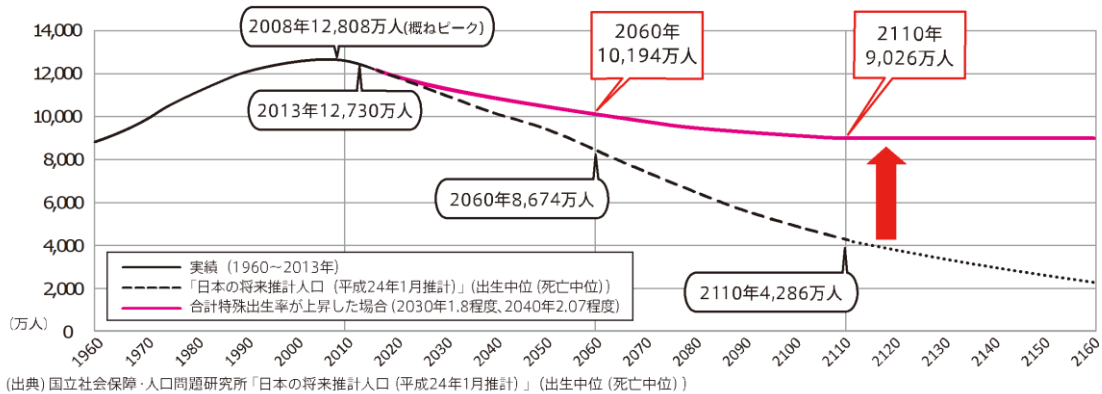
また、生産年齢の減少による経済活動力の低下や、高齢者の増加による社会保障にかかわる負担の増加など、日本経済に大きな影響を及ぼすとされています。道内の人口も、1998 年（平成 10 年）をピークに減少を始めており、国と同様に今後ますます減少する予測となっています。

そのため国は、2014 年（平成 26 年）12 月に将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的とした「まち・ひと・しごと創生法案」を可決し、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を示しました。

これを受け、当市でも、将来人口推計や地域性などを総合的に分析し、今後、目指すべき方向性を示す「人口ビジョン」を策定します。

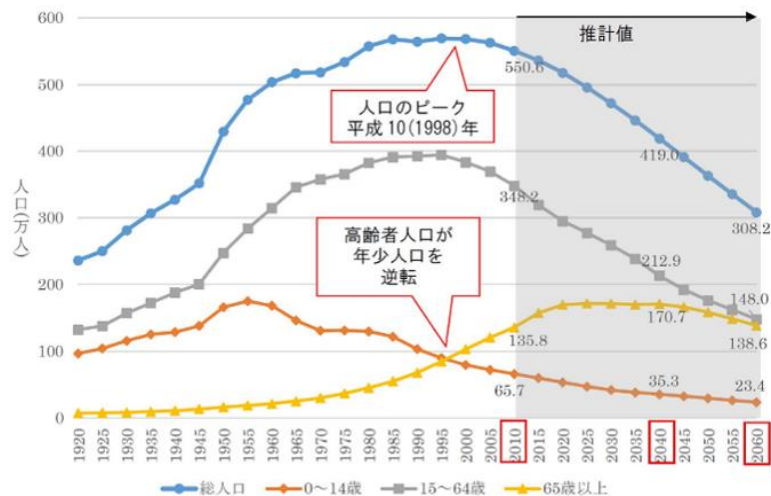
## 我が国の人口の推移と長期的な見通し

我が国の人口の推移と長期的な見通し



資料：「まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」パンフレット（内閣官房）」

## 道内人口の推移と長期的な見通し



出典：2010 年まで 総務省「国勢調査」  
2010 年～2060 年 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づき  
北海道総合政策部人口減少問題対策室で推計

資料：「北海道人口ビジョン」骨子案より

## 2. 人口の現状分析

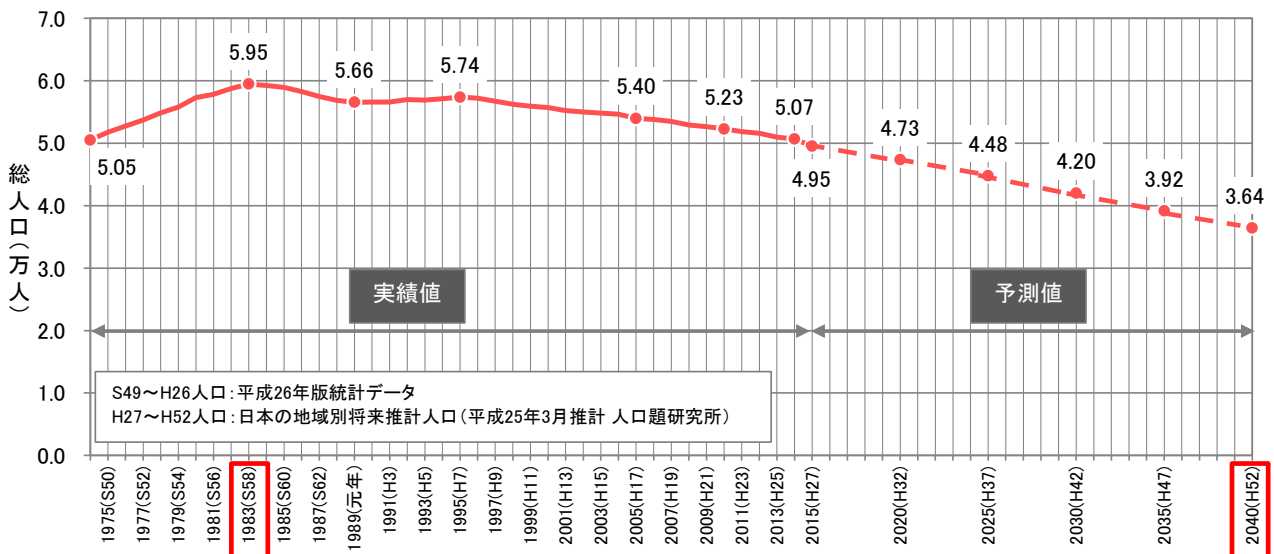
### (1) 人口の推移

#### ① 総人口の推移

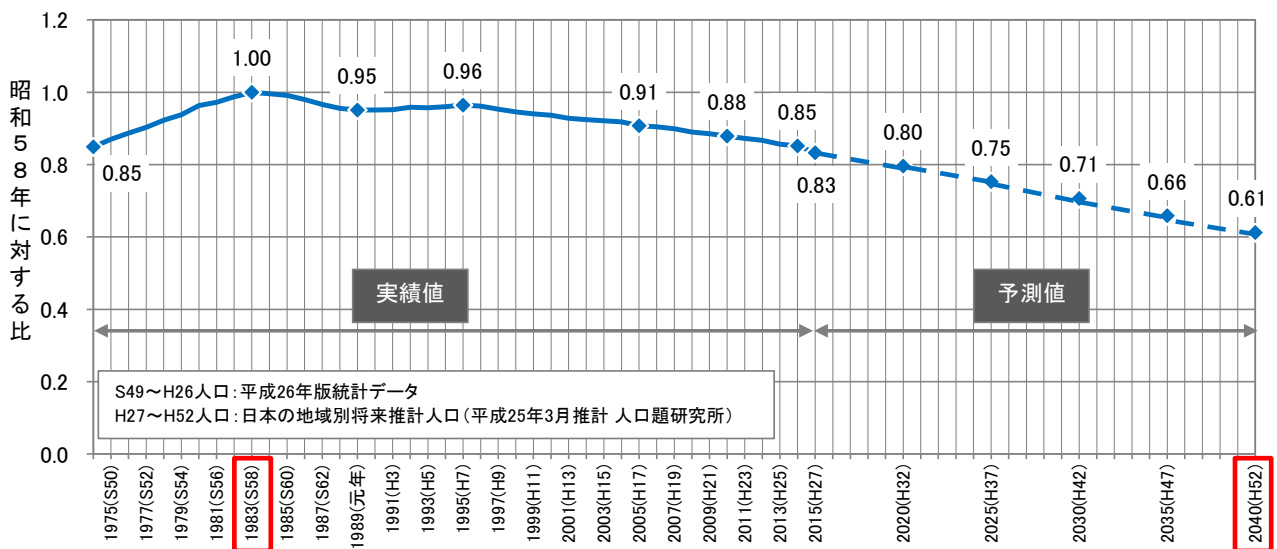
当市の人口は、工業都市室蘭市の人口増加とともに増加し続けてきましたが、昭和58年（1983年）をピークに年々減少しており、平成7年（1995年）頃わずかに増加したものの、以降は減少が続いています。

今後、人口は減少し続けると予測されており、平成52年（2040年）には36,411人と昭和58年時点の約6割程度にまで低下するとされています。

登別市の総人口の推移と将来人口



昭和58年（1983年）人口に対する各年度の人口比

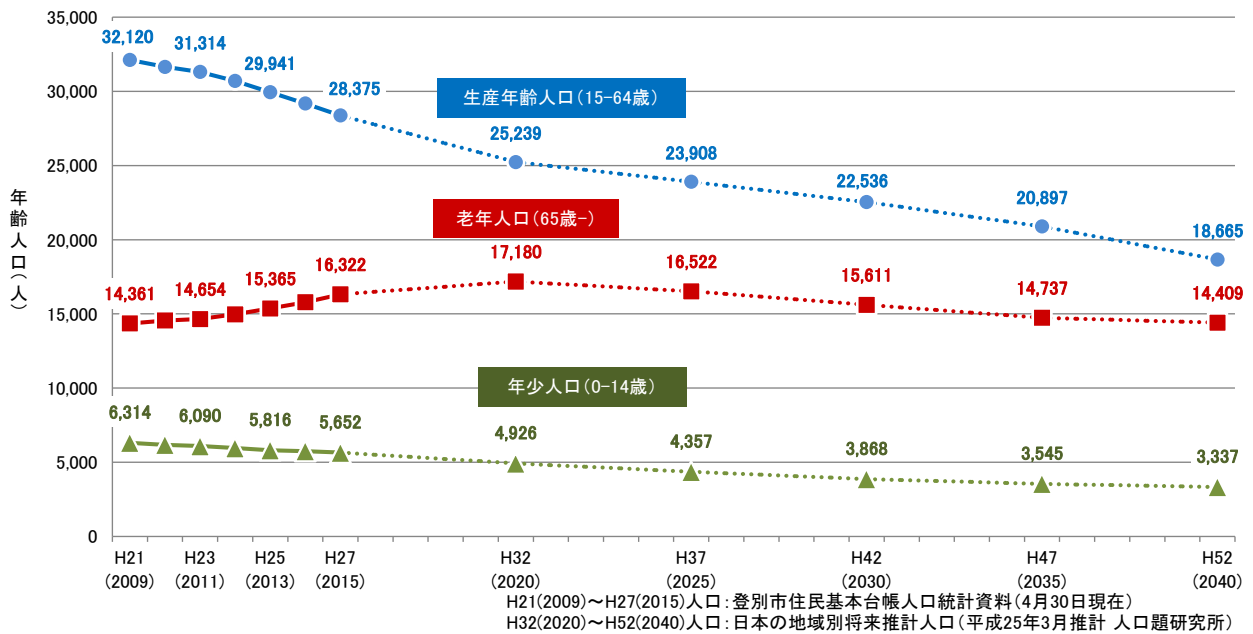


② 年齢別人口の推移

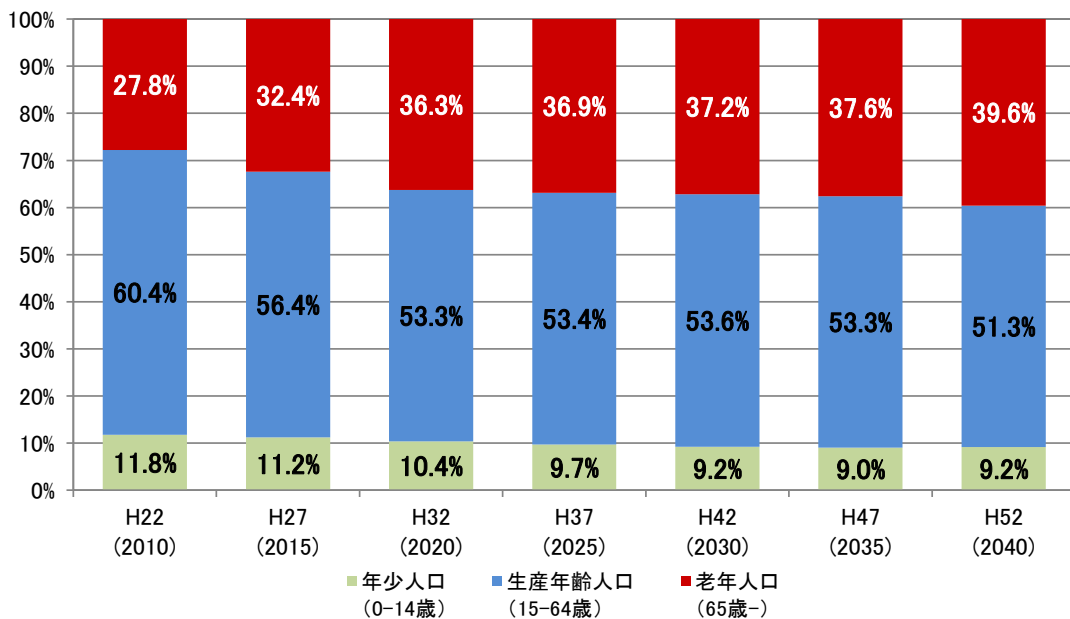
年齢3区分別の人口をみると、老年人口（65歳以上）が平成32年（2020年）までは増加するものの、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）は減少すると予測されています。老年人口も、平成32年以降は減少に転じると予測されています。

高齢化率（65歳以上）は、将来的にますます高まり、平成52年（2040年）には39.6%に達すると予測されています。

登別市の年齢別人口の推移と将来人口



登別市の年齢別人口構成比の推移



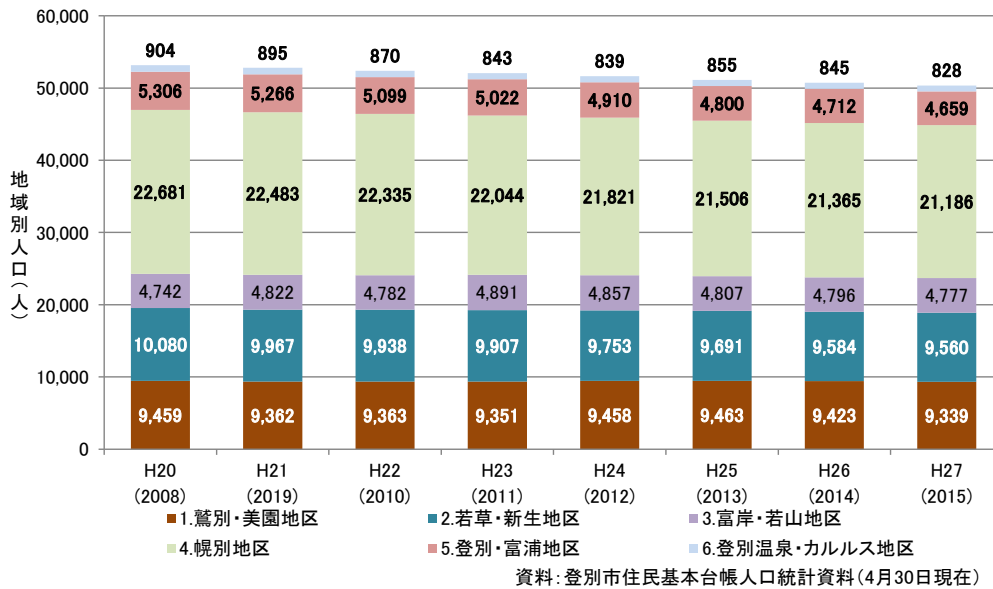
H22・H27人口：登別市住民基本台帳人口統計資料(4月30日現在)  
 H32～H52人口：日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計 人口問題研究所)



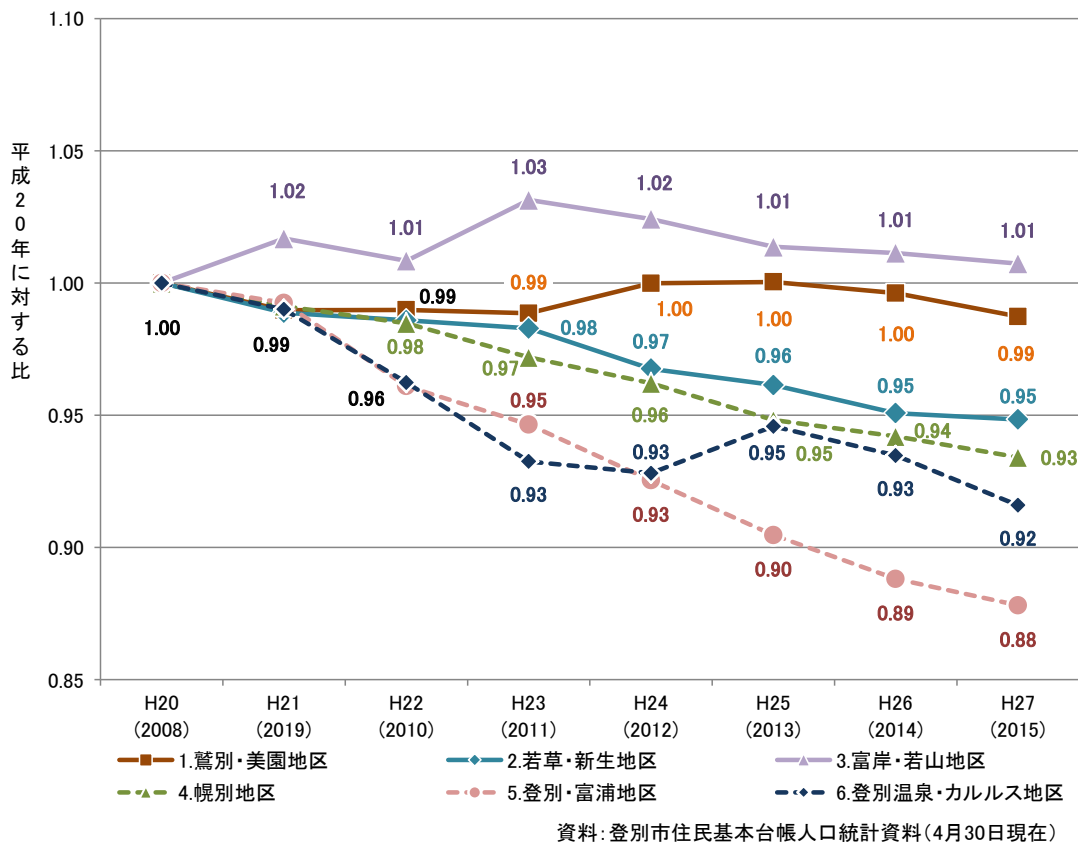
③ 地域別人口の推移

平成27年（2015年）の地域別人口をみると、富岸・若山地区を除き、平成20年（2008年）に比べ減少しています。  
 特に、登別・富浦地区の平成27年の人口は、平成20年と比べ0.12ポイント減少し、市の中で最も減少が著しい状況です。

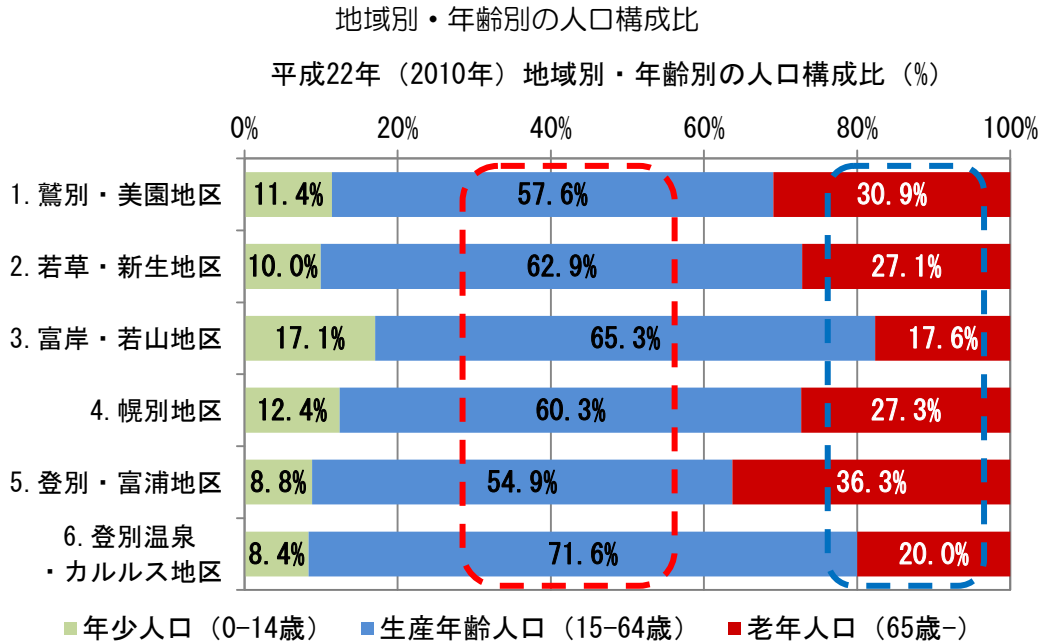
地域別人口の推移



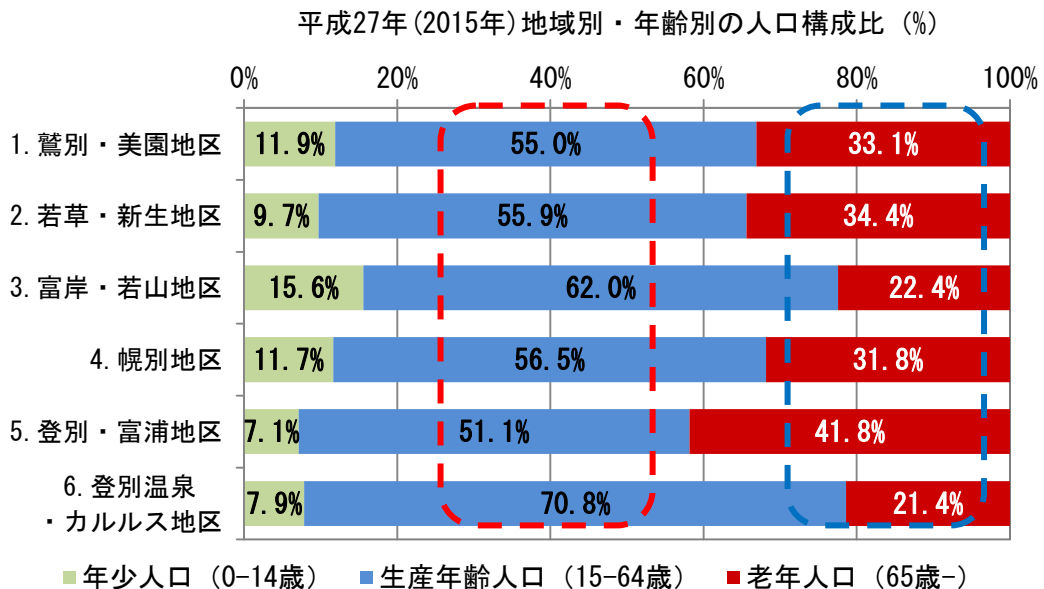
平成20年人口に対する各年度の人口比



地域別・年齢別の人口構成比をみると、ここ5年で全地区共通で、老年人口（65歳以上）の割合が増加し、生産年齢人口（15-64歳）の割合が減少しています。



資料：登別市住民基本台帳人口統計資料（平成27年4月30日現在）



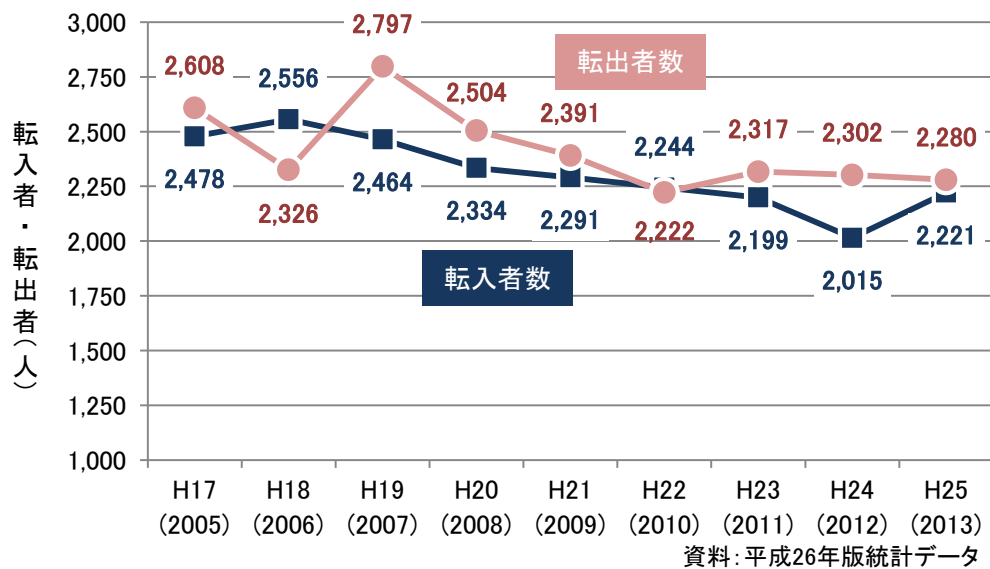
資料：登別市住民基本台帳人口統計資料（平成27年4月30日現在）

(2) 社会増減（転入・転出）

① 転入・転出者数の推移

近年の転入・転出者数をみると、年によってばらつきはありますが、平成18年（2006年）・平成22年（2010年）を除き、転出超過の状況となっています。

転入・転出者数の推移（社会増減）

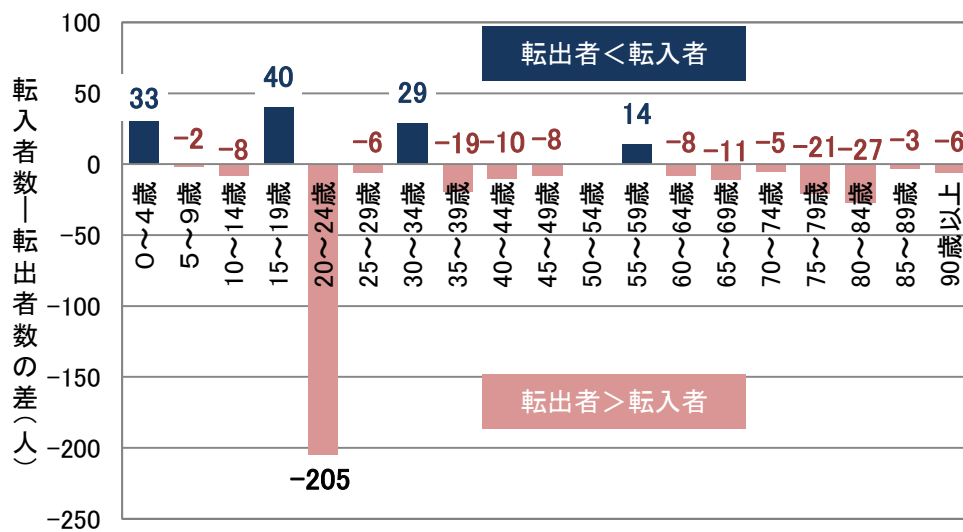


② 年齢階級別の人口移動

年齢階級別に、平成25年（2013年）の人口移動（転入転出の差）をみると、学生と思われる15～19歳では転入者が転出者を上回っています。また、30～34歳とその子供とも考えられる0～4歳で転入者が転出者を上回っています。

一方、20～24歳では転出者が転入者を大きく上回っており、就職などに伴い移動が行われる様子がうかがえます。

年齢階級別の人口移動の状況 [平成25年（2013年）]

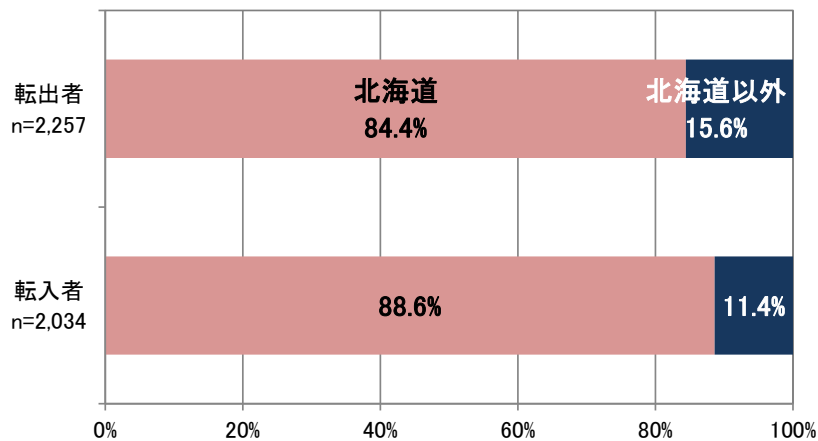


資料：住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表 第1表より

③ 地域別の人口移動

転入・転出者は、北海道内での人口移動が大半を占めていますが、北海道以外との人口移動についても、転出では15.6%・転入では11.4%を占めています。

地域別（道内外）の人口移動の状況 [平成25年（2013年）]



資料：住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表 第1表より

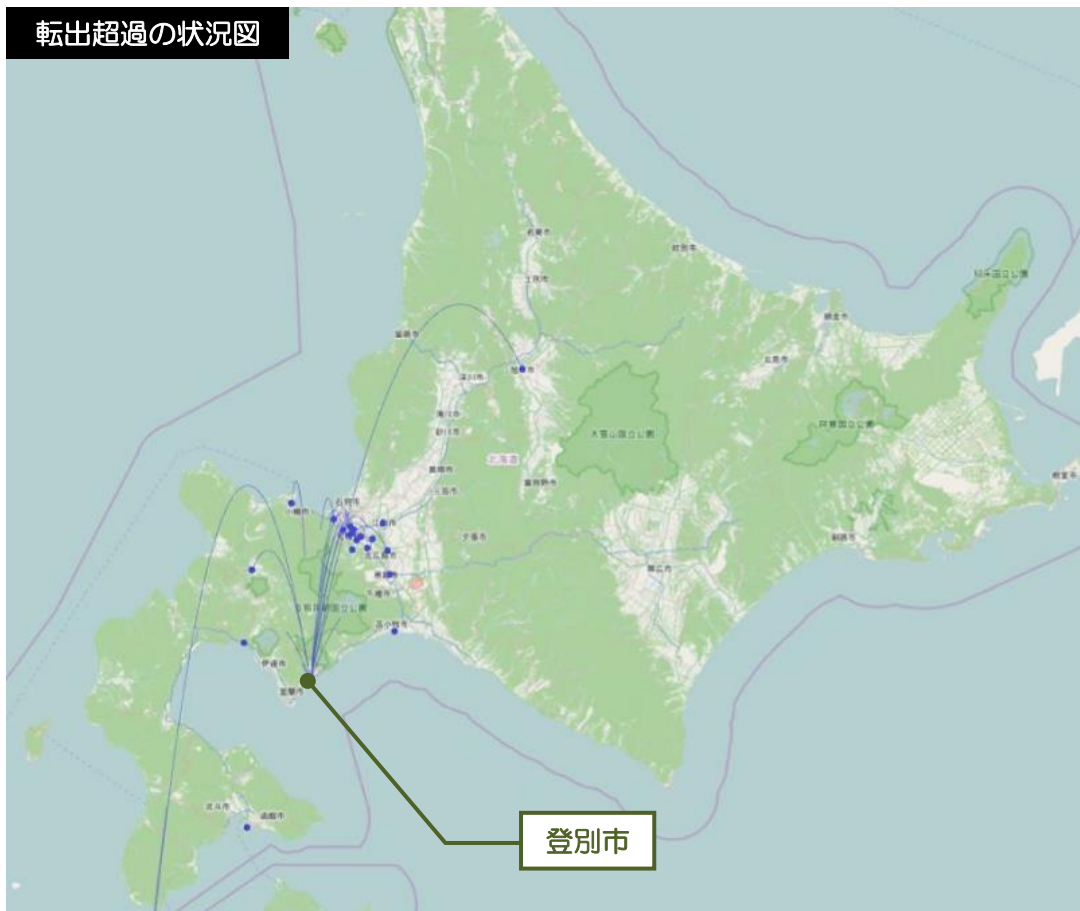
平成25年（2013年）における、転入・転出者の道内での人口移動をみると、室蘭市からの転入が多いことが特徴的です。室蘭市から、住宅購入などを契機とした移動が考えられます。一方、転出者は、札幌市が圧倒的に多く、次いで苫小牧市や伊達市が続いています。

地域別（道内）の人口移動の状況 [平成25年（2013年）]

都道府県、市区町村	転入	転出	移動数
札幌市	255	536	-281
函館市	63	76	-13
小樽市	15	13	2
旭川市	28	24	4
室蘭市	701	491	210
釧路市	25	17	8
帯広市	28	22	6
北見市	13	12	1
夕張市	3	2	1
岩見沢市	27	16	11
網走市	3	5	-2
留萌市	4	10	-6
苫小牧市	108	149	-41
稚内市	10	9	1
美唄市	2	3	-1
芦別市	0	6	-6
江別市	16	24	-8
赤平市	3	0	3
紋別市	4	0	4
士別市	2	1	1
名寄市	4	7	-3
三笠市	0	0	0
根室市	0	1	-1
千歳市	31	49	-18
滝川市	9	17	-8
砂川市	0	2	-2
歌志内市	0	0	0
深川市	3	0	3
富良野市	0	3	-3
恵庭市	25	32	-7
伊達市	55	97	-42
北広島市	7	8	-1
石狩市	14	11	3
北斗市	16	2	14
石狩振興局	2	1	1
渡島総合振興局	33	16	17
檜山振興局	16	8	8
後志総合振興局	29	32	-3
空知総合振興局	2	15	-13
上川総合振興局	17	10	7
宗谷総合振興局	3	1	2
オホーツク総合振興局	23	13	10
胆振総合振興局	110	113	-3
日高振興局	36	23	13
十勝総合振興局	36	18	18
釧路総合振興局	5	7	-2
根室振興局	13	3	10



地域別（道内）の人口移動の状況図



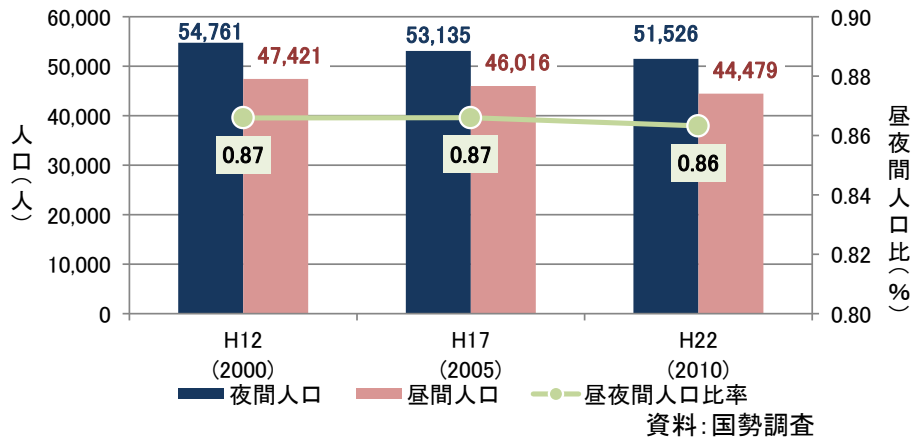
出典：RESAS（地域経済分析システム）より

④ 通勤・通学に伴う移動

昼夜間比（昼間人口/夜間人口）をみると、1.00を下回っており、市外への通勤・通学が中心であることがうかがえます。

また、平成22年（2010年）における就業者・通学者の移動をみると、当市から室蘭市への移動が90%弱、または室蘭市から当市への移動が70%強と室蘭市とのむすびつきが強いことが特徴的です。

昼間・夜間人口の推移



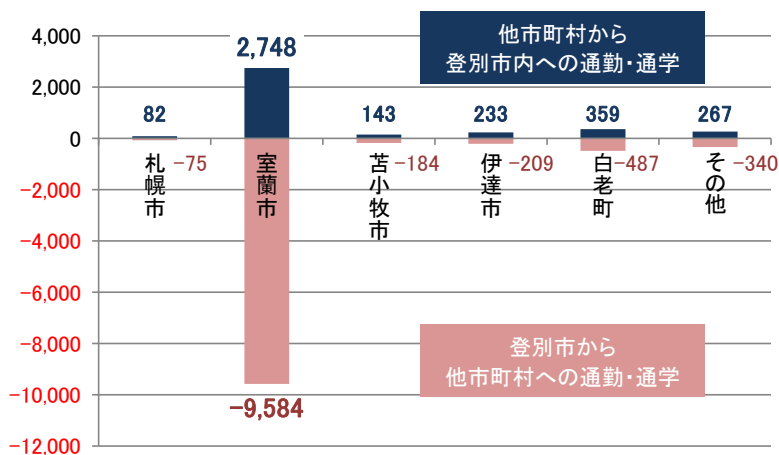
地域別（道内）の通勤・通学の状況 [平成22年（2010年）]

	就業者・通学者数			就業者・通学者数		差	
	①	②		③	④		③-①
常住人口※1	24,350	-	従業人口※2	17,303	-	-	
登別市 ⇒ 登別市	13,471	-	登別市 ⇒ 登別市	13,471	-	-	
登別市 ⇒ 他市町村	10,879	100.0%	他市町村 ⇒ 登別市	3,832	100.0%	-7,047	
登別市 ⇒	札幌市	75	0.7%	札幌市 ⇒ 登別市	82	2.1%	7
	室蘭市	9,584	88.1%	室蘭市 ⇒ 登別市	2,748	71.7%	-6,836
	苫小牧市	184	1.7%	苫小牧市 ⇒ 登別市	143	3.7%	-41
	伊達市	209	1.9%	伊達市 ⇒ 登別市	233	6.1%	24
	白老町	487	4.5%	白老町 ⇒ 登別市	359	9.4%	-128
	その他	340	3.1%	その他 ⇒ 登別市	267	7.0%	-73

※1 常住人口：本市に常住する15歳以上の就業者・通学者

資料：平成22年度国勢調査

※2 従業人口：本市に就業・通学する15歳以上の者

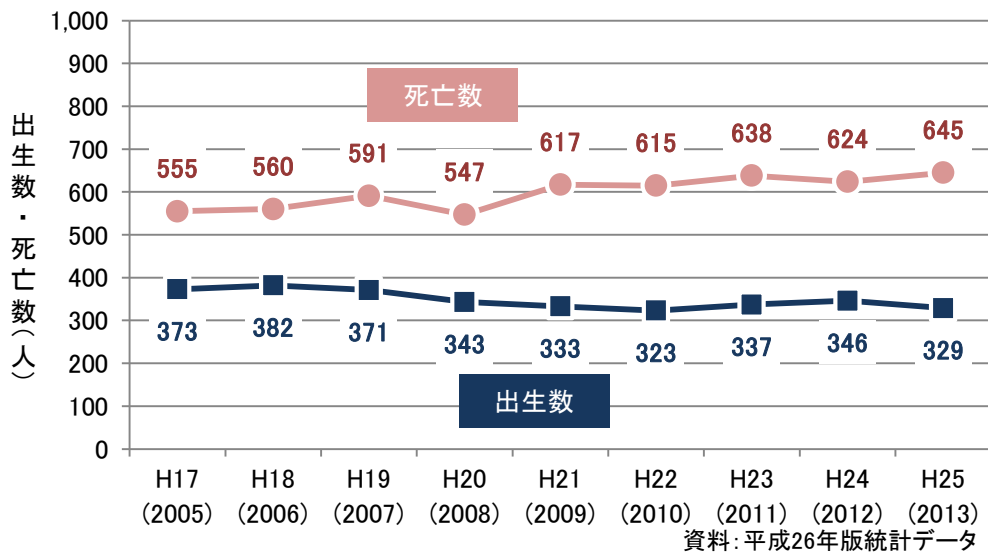


(3) 自然増減（出生数・死亡数）

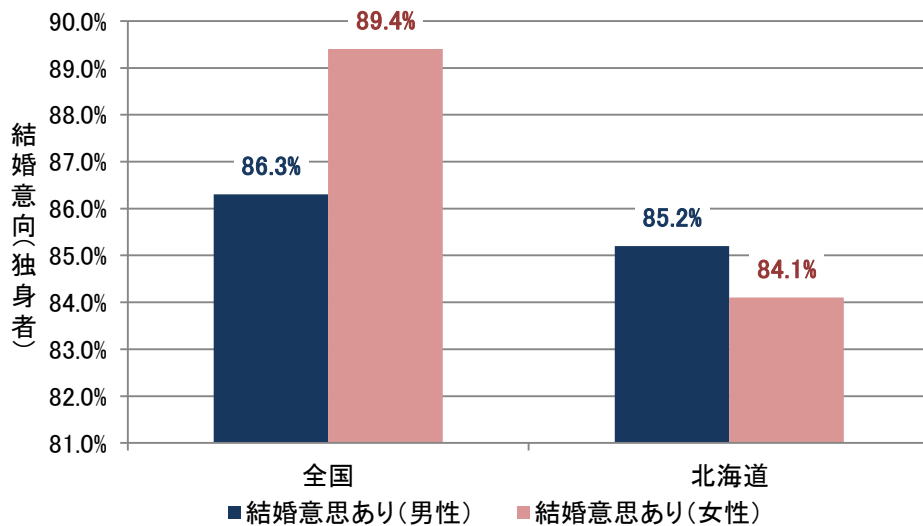
① 出生数・死亡数の推移

出生数・死亡数をみると、死亡数が出生数を上回っており、自然減が続いています。  
 また、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）が実施した出生動向調査から、道内独身者の結婚意向をみると、男女ともに全国値より低い状況にあります。

出生数・死亡数の推移（自然増減）



結婚意向（独身者）



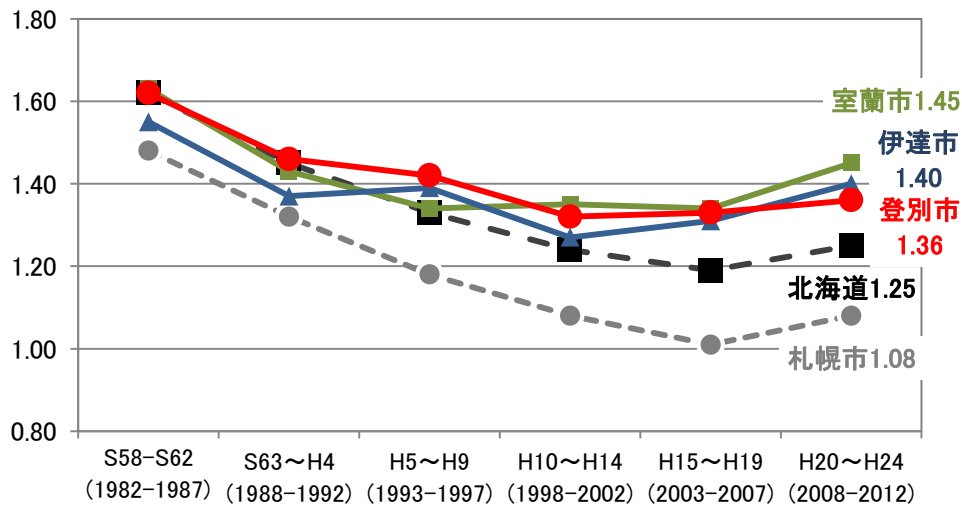
第14回出生動向基本調査（平成22年 人口問題研究所）



② 合計特殊出生率の推移

当市の合計特殊出生率※は、北海道と比較して高い水準となっていますが、近隣の室蘭市・伊達市と比べると低く推移しています。

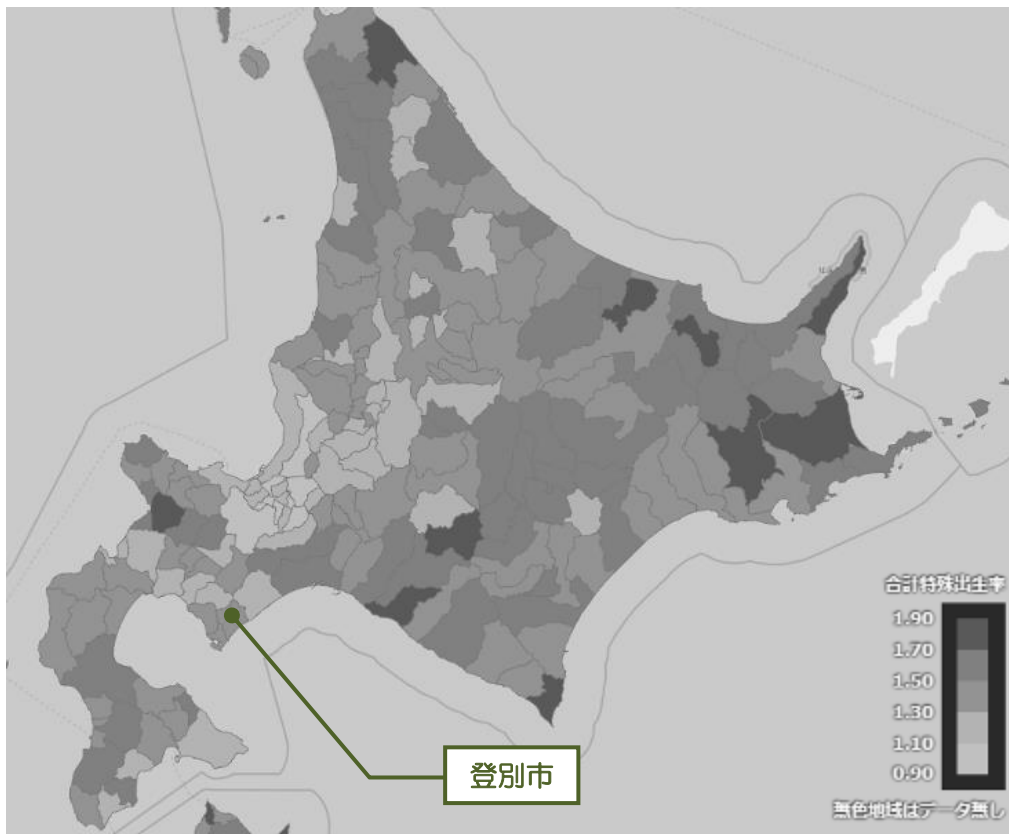
合計特殊出生率の推移



資料：人口動態保健所・市区町村別統計（厚生労働省）

- ※ 合計特殊出生率（TFR）：一人の女性が一生に産む子どもの平均数
- ※ 合計特殊出生率は、地域ごとに平成20年～平成24年の15歳から49歳までの女性の5歳階級別出生率（年率）の5倍を合計して算出。

北海道の市町村別の合計特殊出生率

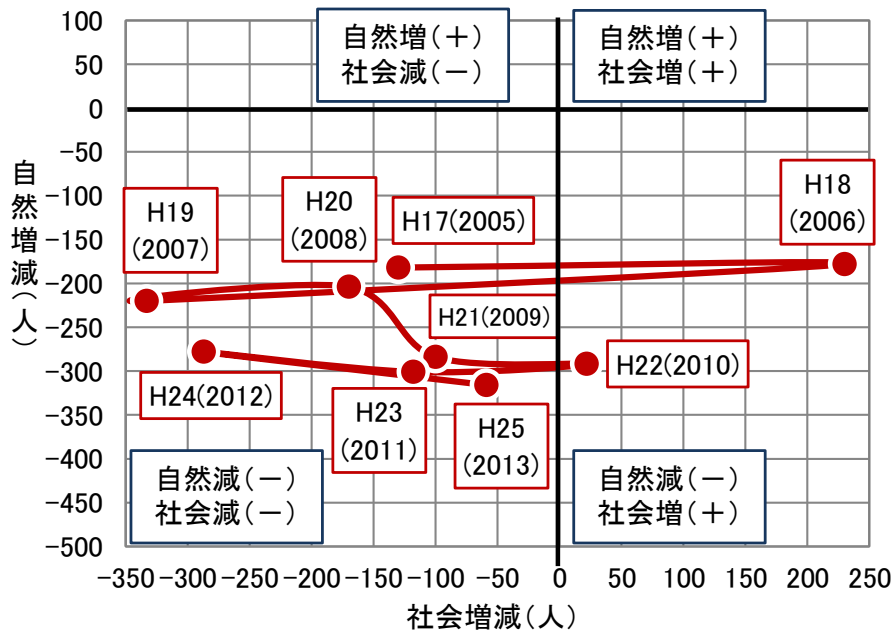


出典：RESAS（地域経済分析システム）より

(4) 社会増減と自然増減の関係性

縦軸に自然増減をとり、横軸に社会増減をとって、各年の自然増減（出生数-死亡数）と社会増減（転入者数-転出者数）の経年変化をみると、各年でばらつきがありますが、年々自然減が大きくなっている状況が読み取れます。

社会増減・自然増減の関係性



資料：平成26年版統計データ

3. 人口の将来推計と分析

(1) 将来人口推計と分析

社人研推計によると、当市の将来人口は平成22年(51,500人)から、平成52年(36,411人)にかけて、約29%減少(約15,000人減少)する予測となっています。  
 また、平成72年(26,486人)には、平成22年の約半数になる予測となっています。

■社人研データによるコーホート要因法による人口推計(市全体)																																																																							
推計手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢別のコーホートに対して、社人研推計による「生残率、純移動率、子ども女性比」を用いて人口を推計(コーホート要因法)</li> <li>同手法を用いて、平成22年を基準に平成72年までの地区別人口推計</li> <li>平成52年以降の生残率、純移動率、子ども女性比については、平成47年→平成52年の社人研推計値と同様と仮定</li> </ul>																																																																						
利用データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>実績値：国勢調査小地域人口(平成12年～平成22年)</li> <li>推計値：国立社会保障・人口問題研究所推計(平成27年～平成52年)</li> <li>〃：生残率、純移動率、子ども女性比の平成47年→平成52年の社人研推計値を用いて、推計(平成57年～平成72年)</li> </ul>																																																																						
推計結果	<p>コーホート要因法による年齢別の推計人口(市全体)</p> <table border="1"> <caption>推計結果のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>合計</th> <th>年少人口</th> <th>生産年齢人口</th> <th>老年人口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H22 (2010)</td><td>51,500</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H27 (2015)</td><td>49,536</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H32 (2020)</td><td>47,345</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H37 (2025)</td><td>44,787</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H42 (2030)</td><td>42,015</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H47 (2035)</td><td>39,179</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H52 (2040)</td><td>36,411</td><td>3,442</td><td>19,245</td><td>13,724</td></tr> <tr><td>H57 (2045)</td><td>33,447</td><td>3,442</td><td>19,245</td><td>13,724</td></tr> <tr><td>H62 (2050)</td><td>30,959</td><td>3,442</td><td>19,245</td><td>13,724</td></tr> <tr><td>H67 (2055)</td><td>28,733</td><td>3,442</td><td>19,245</td><td>13,724</td></tr> <tr><td>H72 (2060)</td><td>26,486</td><td>2,442</td><td>14,027</td><td>10,018</td></tr> </tbody> </table>	年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口	H12 (2000)	54,757	6,086	30,802	14,612	H17 (2005)	53,135	6,086	30,802	14,612	H22 (2010)	51,500	6,086	30,802	14,612	H27 (2015)	49,536	6,086	30,802	14,612	H32 (2020)	47,345	6,086	30,802	14,612	H37 (2025)	44,787	6,086	30,802	14,612	H42 (2030)	42,015	6,086	30,802	14,612	H47 (2035)	39,179	6,086	30,802	14,612	H52 (2040)	36,411	3,442	19,245	13,724	H57 (2045)	33,447	3,442	19,245	13,724	H62 (2050)	30,959	3,442	19,245	13,724	H67 (2055)	28,733	3,442	19,245	13,724	H72 (2060)	26,486	2,442	14,027	10,018
年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口																																																																			
H12 (2000)	54,757	6,086	30,802	14,612																																																																			
H17 (2005)	53,135	6,086	30,802	14,612																																																																			
H22 (2010)	51,500	6,086	30,802	14,612																																																																			
H27 (2015)	49,536	6,086	30,802	14,612																																																																			
H32 (2020)	47,345	6,086	30,802	14,612																																																																			
H37 (2025)	44,787	6,086	30,802	14,612																																																																			
H42 (2030)	42,015	6,086	30,802	14,612																																																																			
H47 (2035)	39,179	6,086	30,802	14,612																																																																			
H52 (2040)	36,411	3,442	19,245	13,724																																																																			
H57 (2045)	33,447	3,442	19,245	13,724																																																																			
H62 (2050)	30,959	3,442	19,245	13,724																																																																			
H67 (2055)	28,733	3,442	19,245	13,724																																																																			
H72 (2060)	26,486	2,442	14,027	10,018																																																																			

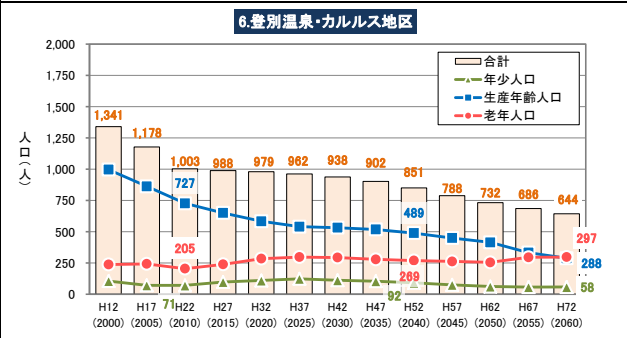
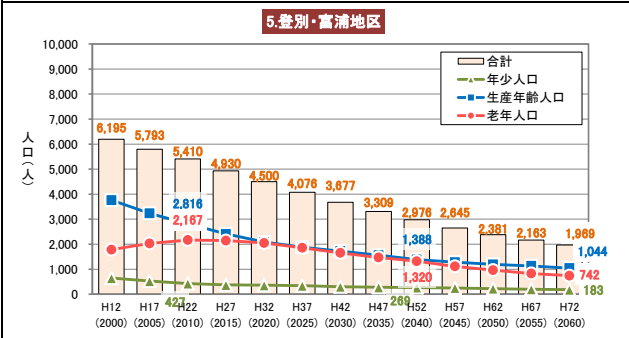
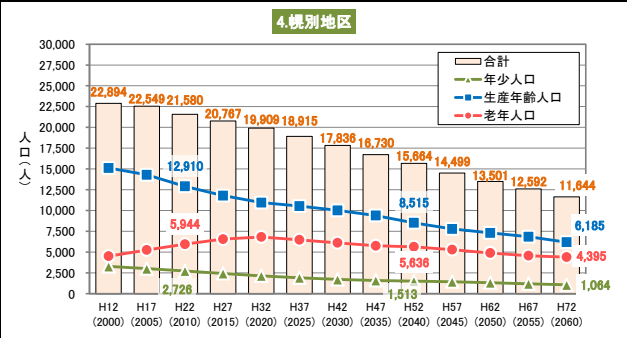
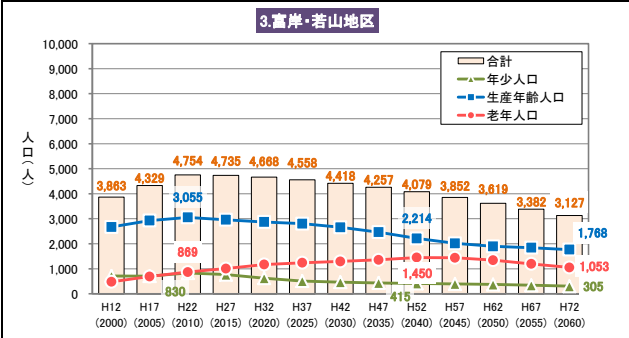
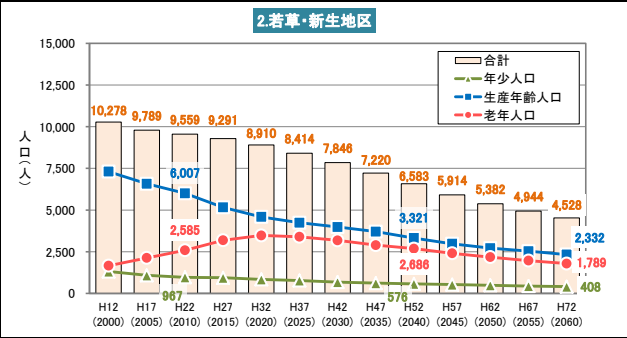
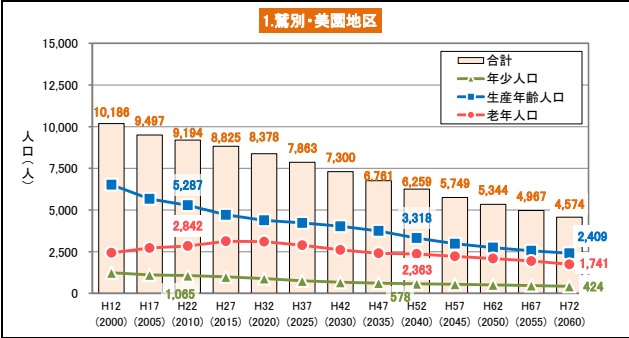
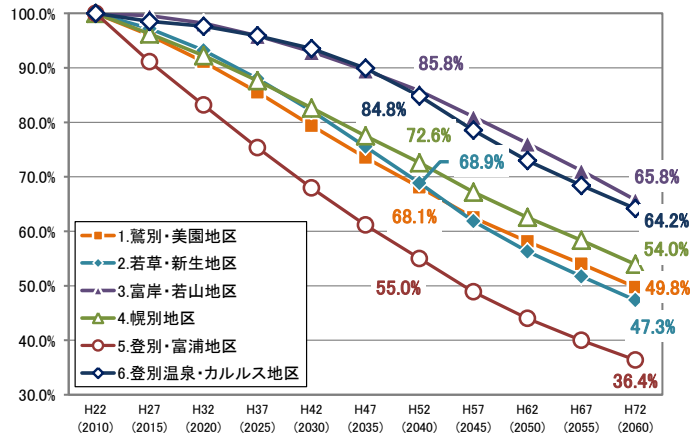
当市の地域別に将来人口をみると、登別・富浦地区は、平成22年(2010年)から平成52年(2040年)にかけて、約半数(55.0%)に、平成72年(2060年)にかけては1/3(36.4%)になると予測されます。

地区別の生産年齢人口は、全地区共通で、平成22年から平成52年にかけて、減少すると予測されます。特に、登別・富浦地区では、生産年齢人口と高齢者がほぼ同数になります。

一方、富岸・若山地区や登別温泉・カルルス地区の高齢者人口は緩やかに増加しつづけ、平成52年までの期間には減少の局面へは移行しません。

■社人研データによるコーホート要因法による人口推計(地域別)

平成22年を基準とした場合の割合(地域別)



※ 地域別人口の合算値が市全体の人口と整合するように調整しています。

## (2) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

将来人口の算定は、不確定な要素が多く難しいものがあります。そこで、自然増減と社会増減については、次のように仮定を行ったうえで予測を行いました。

シミュレーション	自然増減	社会増減
シミュレーション1	<ul style="list-style-type: none"> <li>合計特殊出生率が、平成42年(2030年)までに1.80※、平成52年(2040年)までに2.07※まで上昇した場合</li> <li>生残率の変更なし(社人研の設定値のまま)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>純移動率の変更なし(過去の傾向を維持する社人研の設定値のまま)</li> </ul>
シミュレーション2	<ul style="list-style-type: none"> <li>合計特殊出生率が、直ちに(平成27年:2015年)2.07※まで上昇したとした場合</li> <li>生残率の変更なし(社人研の設定値のまま)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>純移動率の変更なし(過去の傾向を維持する社人研の設定値のまま)</li> </ul>
シミュレーション3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然増減の仮定については、シミュレーション1に準拠</li> <li>生残率の変更なし(社人研の設定値のまま)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会増減均衡(社会減が減少するか社会増が増加し、差し引きがゼロとした場合)</li> </ul>

※ 合計特殊出生率 1.80 とは、若い世代の結婚・子育ての希望が実現した場合の国民希望出生率となっています。

※ 合計特殊出生率 2.07 とは、人口が増加も減少もしない均衡した状態の合計特殊出生率である「人口置換水準」のことです(国立社会保障・人口問題研究所により算出)。

※ なお、3つの仮定のうち、シミュレーション1は国が「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」において示した「2060年に総人口1億人程度」との見込みと同様の仮定としています。

次頁より、上記のシミュレーション結果を示します。

① 自然増減の仮定を設定した場合のシミュレーション

a) シミュレーション1

合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均数）が、平成42年（2030年）までに1.80、平成52年（2040年）までに2.07に上昇すると仮定した場合、平成52年推計人口は、39,039人と社人研推計の1.07倍になります。また、平成72年推計人口（32,991人）は、平成22年の約62%になる予測となっています。

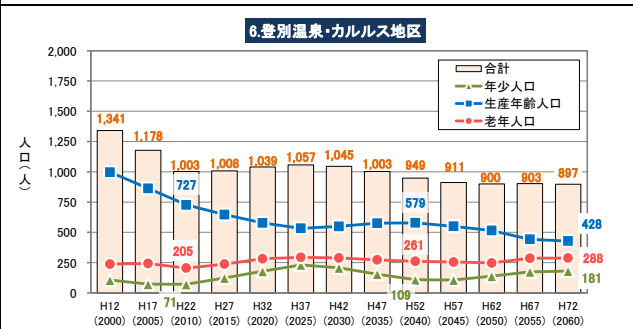
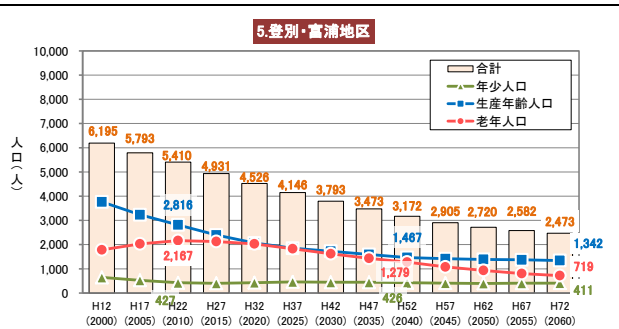
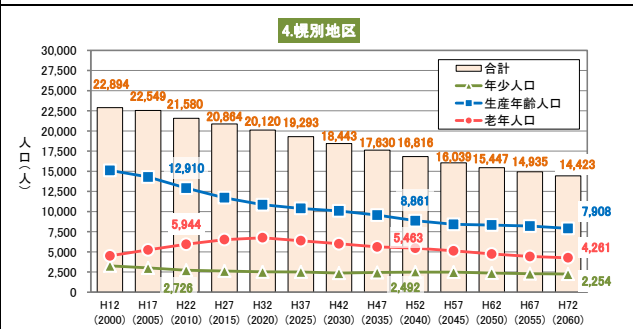
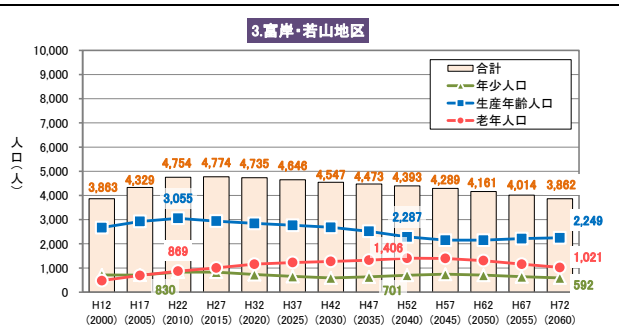
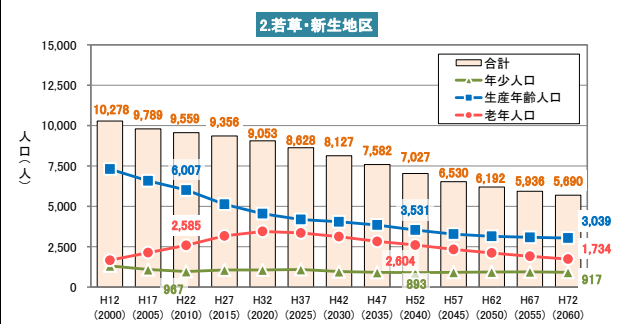
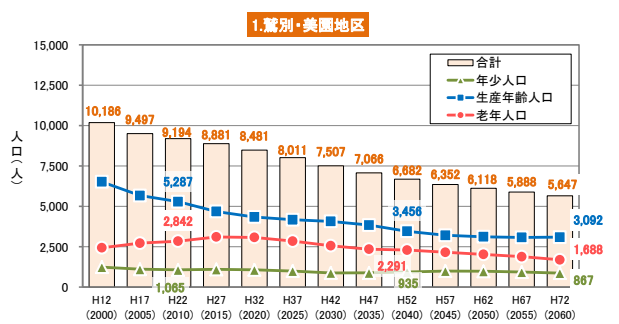
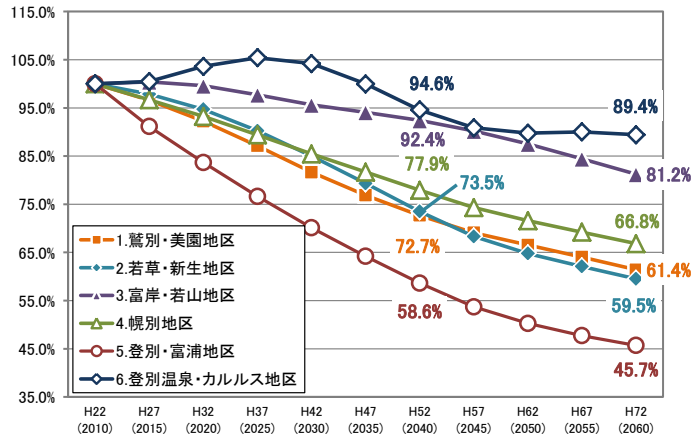
■シミュレーション1（市全体）：合計特殊出生率 （2030年までに1.80、2040年までに2.07まで上昇）																																																																																																																															
推計手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>合計特殊出生率が平成42年（2030年）までに1.80、平成52年（2040年）までに2.07まで上昇すると仮定</li> <li>「生残率、純移動率」については、社人研データに準拠</li> <li>同手法を用いて、平成22年（2010年）を基準に平成72年（2060年）までの地区別人口を推計し、その合算値を市全体の人口としました。</li> <li>平成52年以降の生残率、純移動率、子ども女性比については、平成47年→平成52年の社人研推計値と同様と仮定</li> </ul>																																																																																																																														
利用データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>実績値：国勢調査小地域人口（平成12年～平成22年）</li> <li>推計値：国立社会保障・人口問題研究所公表の生残率・純移動率（平成27年～平成52年）</li> <li>Ⅱ：生残率、純移動率、子ども女性比の平成47年→平成52年の社人研推計値を用いて、推計（平成57年～平成72年）</li> </ul>																																																																																																																														
推計結果	<div style="text-align: center;"> <p>推計人口（市全体）</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>推計人口（市全体）</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績値</th> <th>人口問題研究所</th> <th>シミュレーション1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H22 (2010)</td><td></td><td>51,500</td><td>51,500</td></tr> <tr><td>H27 (2015)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H32 (2020)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H37 (2025)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H42 (2030)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H47 (2035)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H52 (2040)</td><td></td><td>36,411</td><td>39,039 (1.07倍)</td></tr> <tr><td>H57 (2045)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H62 (2050)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H67 (2055)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H72 (2060)</td><td></td><td></td><td>32,991</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>年齢別の推計人口（市全体）</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>年齢別の推計人口（市全体）</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>合計</th> <th>年少人口</th> <th>生産年齢人口</th> <th>老年人口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H22 (2010)</td><td>51,500</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H27 (2015)</td><td>49,813</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H32 (2020)</td><td>47,955</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H37 (2025)</td><td>45,781</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H42 (2030)</td><td>43,462</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H47 (2035)</td><td>41,227</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H52 (2040)</td><td>39,039</td><td>5,555</td><td>20,180</td><td>13,304</td></tr> <tr><td>H57 (2045)</td><td>37,027</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H62 (2050)</td><td>35,539</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H67 (2055)</td><td>34,258</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H72 (2060)</td><td>32,991</td><td>5,222</td><td>18,058</td><td>9,711</td></tr> </tbody> </table> </div>	年	実績値	人口問題研究所	シミュレーション1	H12 (2000)	54,757			H17 (2005)	53,135			H22 (2010)		51,500	51,500	H27 (2015)				H32 (2020)				H37 (2025)				H42 (2030)				H47 (2035)				H52 (2040)		36,411	39,039 (1.07倍)	H57 (2045)				H62 (2050)				H67 (2055)				H72 (2060)			32,991	年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口	H12 (2000)	54,757				H17 (2005)	53,135				H22 (2010)	51,500	6,086	30,802	14,612	H27 (2015)	49,813				H32 (2020)	47,955				H37 (2025)	45,781				H42 (2030)	43,462				H47 (2035)	41,227				H52 (2040)	39,039	5,555	20,180	13,304	H57 (2045)	37,027				H62 (2050)	35,539				H67 (2055)	34,258				H72 (2060)	32,991	5,222	18,058	9,711
年	実績値	人口問題研究所	シミュレーション1																																																																																																																												
H12 (2000)	54,757																																																																																																																														
H17 (2005)	53,135																																																																																																																														
H22 (2010)		51,500	51,500																																																																																																																												
H27 (2015)																																																																																																																															
H32 (2020)																																																																																																																															
H37 (2025)																																																																																																																															
H42 (2030)																																																																																																																															
H47 (2035)																																																																																																																															
H52 (2040)		36,411	39,039 (1.07倍)																																																																																																																												
H57 (2045)																																																																																																																															
H62 (2050)																																																																																																																															
H67 (2055)																																																																																																																															
H72 (2060)			32,991																																																																																																																												
年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口																																																																																																																											
H12 (2000)	54,757																																																																																																																														
H17 (2005)	53,135																																																																																																																														
H22 (2010)	51,500	6,086	30,802	14,612																																																																																																																											
H27 (2015)	49,813																																																																																																																														
H32 (2020)	47,955																																																																																																																														
H37 (2025)	45,781																																																																																																																														
H42 (2030)	43,462																																																																																																																														
H47 (2035)	41,227																																																																																																																														
H52 (2040)	39,039	5,555	20,180	13,304																																																																																																																											
H57 (2045)	37,027																																																																																																																														
H62 (2050)	35,539																																																																																																																														
H67 (2055)	34,258																																																																																																																														
H72 (2060)	32,991	5,222	18,058	9,711																																																																																																																											

合計特殊出生率が、国民希望出生率にまで上昇した場合の当市の地域別将来人口をみると、社人研推計の地区別推計と比べて、減少傾向は緩やかになります。特に、富岸・若山地区の平成52年推計人口は、平成17年と概ね同程度の人口規模を維持します。

また、登別温泉・カルルス地区の生産年齢人口は、平成37年を基準にゆるやかな増加に転じます。

■シミュレーション1（地区別）：合計特殊出生率（2030年：1.80、2040年：2.07）

平成22年を基準とした場合の割合（地域別）



b) シミュレーション2

合計特殊出生率が、ただちに（平成27年：2015年）人口置換水準である2.07まで上昇した場合、平成52年（2040年）の推計人口は、40,222人と社人研推計の1.10倍になります。

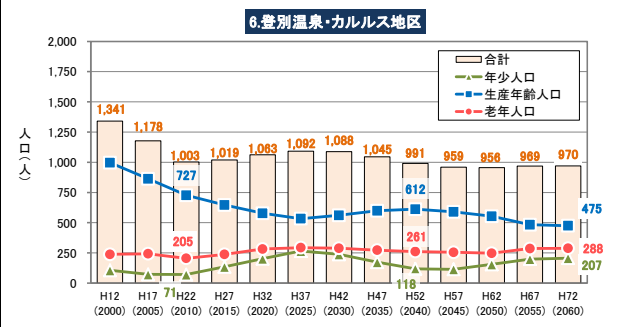
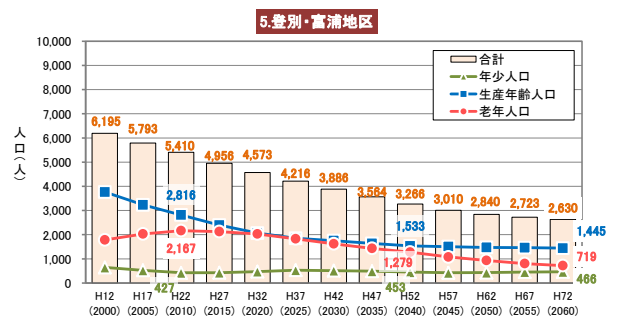
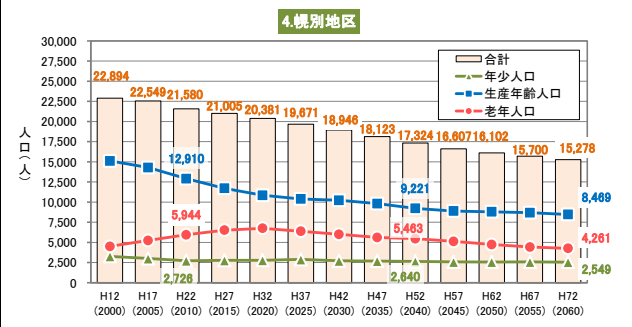
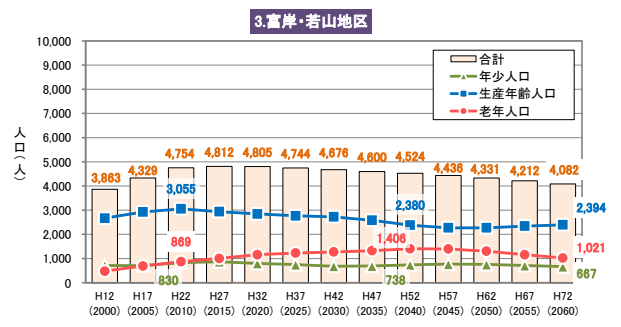
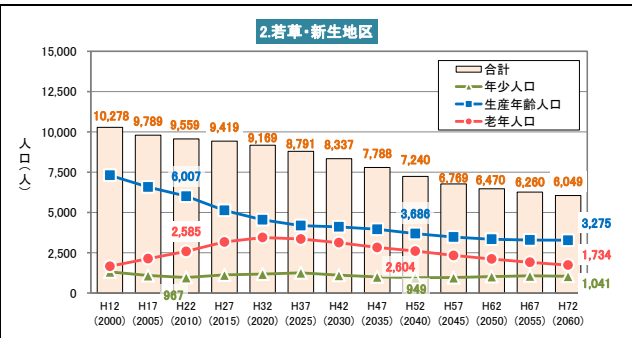
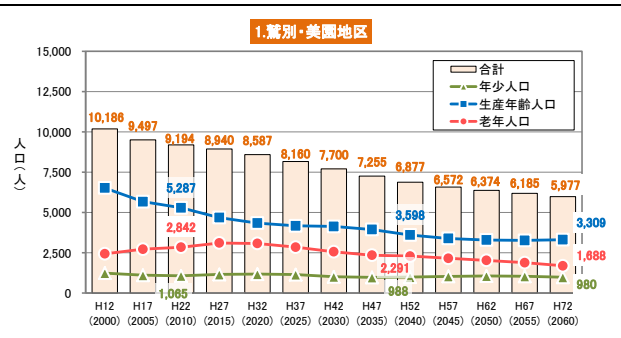
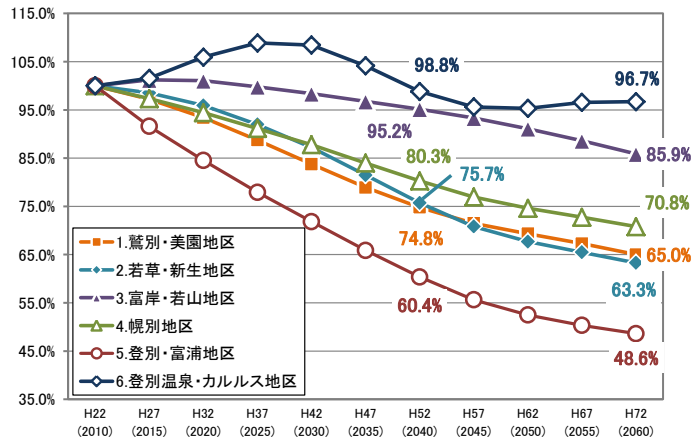
■シミュレーション2（市全体）：合計特殊出生率 （2015年までに2.07まで上昇）																																																																																																																															
推計手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>合計特殊出生率が、直ちに（平成27年：2015年）2.07まで上昇すると仮定</li> <li>「生残率、純移動率」については、社人研データに準拠</li> <li>同手法を用いて、平成22年（2010年）を基準に平成72年（2060年）までの地区別人口を推計し、その合算値を市全体の人口としました。</li> <li>平成52年以降の生残率、純移動率、子ども女性比については、平成47年→平成52年の社人研推計値と同様と仮定</li> </ul>																																																																																																																														
利用データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>実績値：国勢調査小地域人口（平成12年～平成22年）</li> <li>推計値：国立社会保障・人口問題研究所公表の生残率・純移動率（平成27年～平成52年）</li> <li>Ⅱ：生残率、純移動率、子ども女性比の平成47年→平成52年の社人研推計値を用いて、推計（平成57年～平成72年）</li> </ul>																																																																																																																														
推計結果	<p style="text-align: center;">推計人口（市全体）</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>推計人口（市全体）のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績値</th> <th>人口問題研究所</th> <th>シミュレーション2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H22 (2010)</td><td>51,500</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H27 (2015)</td><td></td><td>50,151</td><td>51,500</td></tr> <tr><td>H32 (2020)</td><td></td><td>48,577</td><td></td></tr> <tr><td>H37 (2025)</td><td></td><td>46,673</td><td></td></tr> <tr><td>H42 (2030)</td><td></td><td>44,632</td><td></td></tr> <tr><td>H47 (2035)</td><td></td><td>42,374</td><td></td></tr> <tr><td>H52 (2040)</td><td></td><td>36,411</td><td>40,222</td></tr> <tr><td>H57 (2045)</td><td></td><td></td><td>38,353</td></tr> <tr><td>H62 (2050)</td><td></td><td></td><td>37,073</td></tr> <tr><td>H67 (2055)</td><td></td><td></td><td>36,048</td></tr> <tr><td>H72 (2060)</td><td></td><td></td><td>34,987</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">年齢別の推計人口（市全体）</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>年齢別の推計人口（市全体）のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>合計</th> <th>年少人口</th> <th>生産年齢人口</th> <th>老年人口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,812</td></tr> <tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H22 (2010)</td><td>51,500</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H27 (2015)</td><td>50,151</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H32 (2020)</td><td>48,577</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H37 (2025)</td><td>46,673</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H42 (2030)</td><td>44,632</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H47 (2035)</td><td>42,374</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H52 (2040)</td><td>40,222</td><td>5,887</td><td>21,031</td><td>13,304</td></tr> <tr><td>H57 (2045)</td><td>38,353</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H62 (2050)</td><td>37,073</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H67 (2055)</td><td>36,048</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H72 (2060)</td><td>34,987</td><td>5,909</td><td>19,367</td><td>9,711</td></tr> </tbody> </table>	年	実績値	人口問題研究所	シミュレーション2	H12 (2000)	54,757			H17 (2005)	53,135			H22 (2010)	51,500			H27 (2015)		50,151	51,500	H32 (2020)		48,577		H37 (2025)		46,673		H42 (2030)		44,632		H47 (2035)		42,374		H52 (2040)		36,411	40,222	H57 (2045)			38,353	H62 (2050)			37,073	H67 (2055)			36,048	H72 (2060)			34,987	年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口	H12 (2000)	54,757	6,086	30,802	14,812	H17 (2005)	53,135				H22 (2010)	51,500				H27 (2015)	50,151				H32 (2020)	48,577				H37 (2025)	46,673				H42 (2030)	44,632				H47 (2035)	42,374				H52 (2040)	40,222	5,887	21,031	13,304	H57 (2045)	38,353				H62 (2050)	37,073				H67 (2055)	36,048				H72 (2060)	34,987	5,909	19,367	9,711
年	実績値	人口問題研究所	シミュレーション2																																																																																																																												
H12 (2000)	54,757																																																																																																																														
H17 (2005)	53,135																																																																																																																														
H22 (2010)	51,500																																																																																																																														
H27 (2015)		50,151	51,500																																																																																																																												
H32 (2020)		48,577																																																																																																																													
H37 (2025)		46,673																																																																																																																													
H42 (2030)		44,632																																																																																																																													
H47 (2035)		42,374																																																																																																																													
H52 (2040)		36,411	40,222																																																																																																																												
H57 (2045)			38,353																																																																																																																												
H62 (2050)			37,073																																																																																																																												
H67 (2055)			36,048																																																																																																																												
H72 (2060)			34,987																																																																																																																												
年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口																																																																																																																											
H12 (2000)	54,757	6,086	30,802	14,812																																																																																																																											
H17 (2005)	53,135																																																																																																																														
H22 (2010)	51,500																																																																																																																														
H27 (2015)	50,151																																																																																																																														
H32 (2020)	48,577																																																																																																																														
H37 (2025)	46,673																																																																																																																														
H42 (2030)	44,632																																																																																																																														
H47 (2035)	42,374																																																																																																																														
H52 (2040)	40,222	5,887	21,031	13,304																																																																																																																											
H57 (2045)	38,353																																																																																																																														
H62 (2050)	37,073																																																																																																																														
H67 (2055)	36,048																																																																																																																														
H72 (2060)	34,987	5,909	19,367	9,711																																																																																																																											



合計特殊出生率が、ただちに（平成27年：2015年）2.07まで上昇した場合の当市の地域別将来人口をみると、社人研推計の地区別推計と比べて、人口の減少傾向は緩やかになります。特に、富岸・若山地区の平成52年推計人口は、平成17年以上の人口規模を維持します。また、社人研推計では、生産年齢人口と高齢者人口が同規模であった登別・富浦地区では、生産年齢人口が持ち直す結果となっています。

■シミュレーション2（地区別）：合計特殊出生率（2015年までに2.07まで上昇）

平成22年を基準とした場合の割合（地域別）



② 自然増減と社会増減の仮定を設定した場合のシミュレーション

a) シミュレーション3

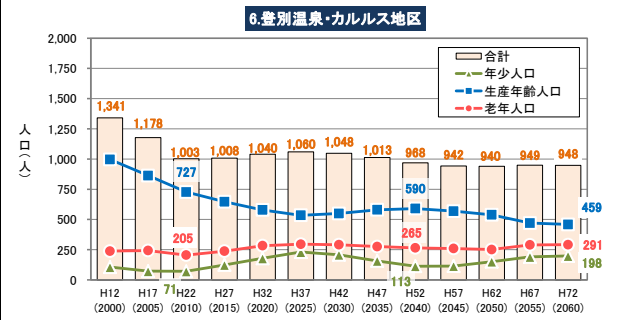
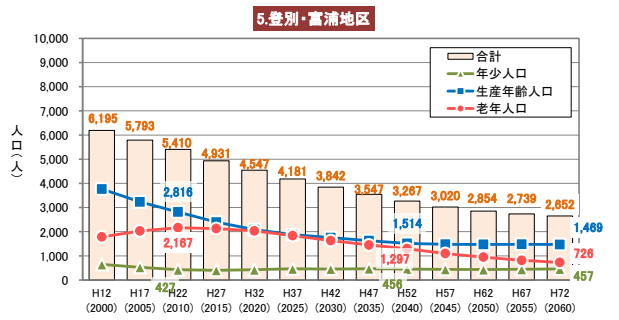
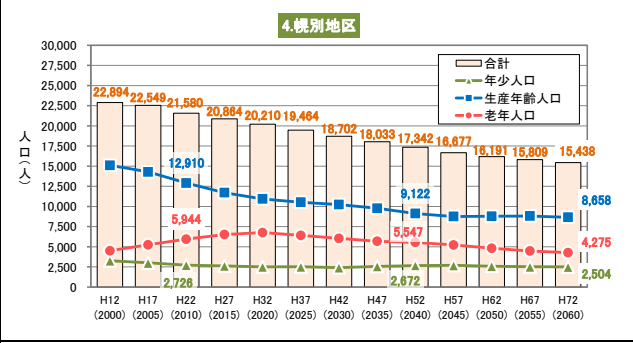
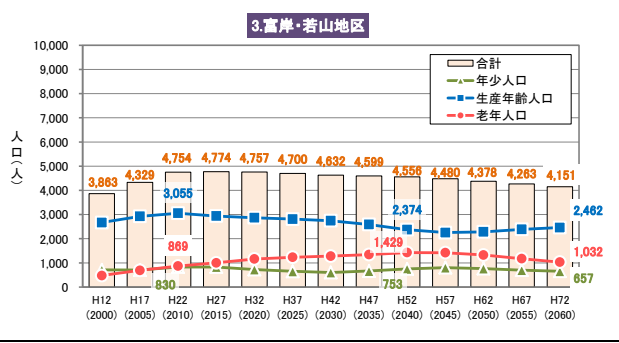
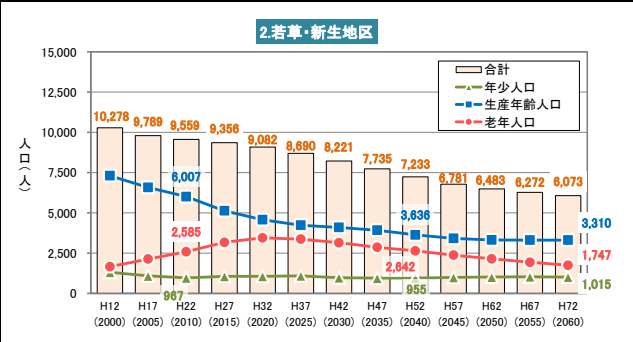
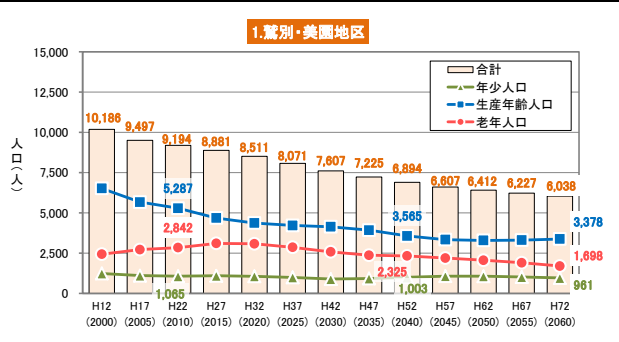
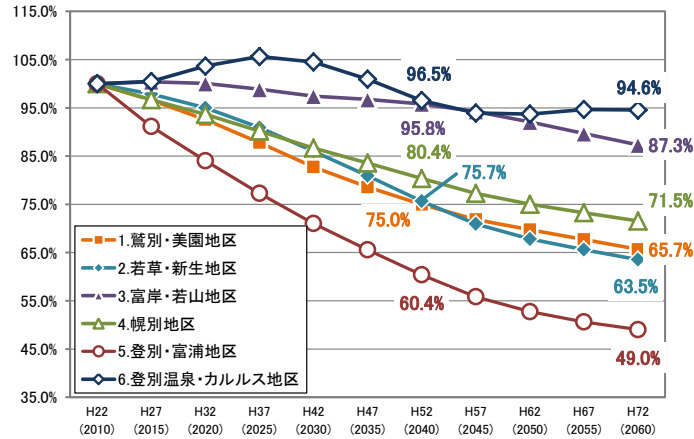
自然増減をシミュレーション1と同じとし、社会増減は社人研の純移動率をもとに、2016年以降、15歳未満人口及び15～64歳人口の社会減が均衡すると仮定した場合、平成52年(2040年)の推計人口は40,259人と社人研推計の1.11倍になります。

■シミュレーション3 (市全体)：社会減の均衡 (2016年以降)																																																																																																																															
推計手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社人研の純移動率をもとに2016年以降、15歳未満人口及び15～64歳人口の社会減が均衡したと仮定</li> <li>・ なお、自然増減の仮定については、シミュレーション1と同じ</li> <li>・ 同手法を用いて、平成22年(2010年)を基準に平成72年(2060年)までの地区別人口を推計し、その合算値を市全体の人口としました。</li> <li>・ 平成52年以降の生残率、純移動率、子ども女性比については、平成47年→平成52年の社人研推計値と同様と仮定</li> </ul>																																																																																																																														
利用データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実績値：国勢調査小地域人口(平成12年～平成22年)</li> <li>・ 推計値：国立社会保障・人口問題研究所公表の生残率・純移動率(平成27年～平成52年)</li> <li>・ // : 生残率、純移動率、子ども女性比の平成47年→平成52年の社人研推計値を用いて、推計(平成57年～平成72年)</li> </ul>																																																																																																																														
推計結果	<p style="text-align: center;">推計人口(市全体)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>推計人口(市全体)のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績値</th> <th>人口問題研究所</th> <th>シミュレーション3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H12(2000)</td><td>54,757</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H17(2005)</td><td>53,135</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H22(2010)</td><td></td><td>51,500</td><td>51,500</td></tr> <tr><td>H27(2015)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H32(2020)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H37(2025)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H42(2030)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H47(2035)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H52(2040)</td><td></td><td>36,411</td><td>40,259 (1.11倍)</td></tr> <tr><td>H57(2045)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H62(2050)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H67(2055)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H72(2060)</td><td></td><td></td><td>35,300</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">年齢別の推計人口(市全体)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>年齢別の推計人口(市全体)のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>合計</th> <th>年少人口</th> <th>生産年齢人口</th> <th>老年人口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H12(2000)</td><td>54,757</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H17(2005)</td><td>53,135</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H22(2010)</td><td>51,500</td><td>6,086</td><td>30,802</td><td>14,612</td></tr> <tr><td>H27(2015)</td><td>49,813</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H32(2020)</td><td>48,147</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H37(2025)</td><td>46,185</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H42(2030)</td><td>44,052</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H47(2035)</td><td>42,151</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H52(2040)</td><td>40,259</td><td>5,953</td><td>20,801</td><td>13,505</td></tr> <tr><td>H57(2045)</td><td>38,508</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H62(2050)</td><td>37,257</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H67(2055)</td><td>36,259</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H72(2060)</td><td>35,300</td><td>5,793</td><td>19,736</td><td>9,771</td></tr> </tbody> </table>	年	実績値	人口問題研究所	シミュレーション3	H12(2000)	54,757			H17(2005)	53,135			H22(2010)		51,500	51,500	H27(2015)				H32(2020)				H37(2025)				H42(2030)				H47(2035)				H52(2040)		36,411	40,259 (1.11倍)	H57(2045)				H62(2050)				H67(2055)				H72(2060)			35,300	年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口	H12(2000)	54,757				H17(2005)	53,135				H22(2010)	51,500	6,086	30,802	14,612	H27(2015)	49,813				H32(2020)	48,147				H37(2025)	46,185				H42(2030)	44,052				H47(2035)	42,151				H52(2040)	40,259	5,953	20,801	13,505	H57(2045)	38,508				H62(2050)	37,257				H67(2055)	36,259				H72(2060)	35,300	5,793	19,736	9,771
年	実績値	人口問題研究所	シミュレーション3																																																																																																																												
H12(2000)	54,757																																																																																																																														
H17(2005)	53,135																																																																																																																														
H22(2010)		51,500	51,500																																																																																																																												
H27(2015)																																																																																																																															
H32(2020)																																																																																																																															
H37(2025)																																																																																																																															
H42(2030)																																																																																																																															
H47(2035)																																																																																																																															
H52(2040)		36,411	40,259 (1.11倍)																																																																																																																												
H57(2045)																																																																																																																															
H62(2050)																																																																																																																															
H67(2055)																																																																																																																															
H72(2060)			35,300																																																																																																																												
年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口																																																																																																																											
H12(2000)	54,757																																																																																																																														
H17(2005)	53,135																																																																																																																														
H22(2010)	51,500	6,086	30,802	14,612																																																																																																																											
H27(2015)	49,813																																																																																																																														
H32(2020)	48,147																																																																																																																														
H37(2025)	46,185																																																																																																																														
H42(2030)	44,052																																																																																																																														
H47(2035)	42,151																																																																																																																														
H52(2040)	40,259	5,953	20,801	13,505																																																																																																																											
H57(2045)	38,508																																																																																																																														
H62(2050)	37,257																																																																																																																														
H67(2055)	36,259																																																																																																																														
H72(2060)	35,300	5,793	19,736	9,771																																																																																																																											

自然増減をシミュレーション1と同じとし、社会増減は均衡とした場合、当市の地域別将来人口をみると、概ねシミュレーション2と同様の結果となっています。ただし、富岸・若山地区の人口は、平成52年（2040年）でほぼ横ばいになっています。

■シミュレーション3（地区別）：社会減の均衡（2016年以降）

平成22年を基準とした場合の割合（地域別）



4. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析、考察

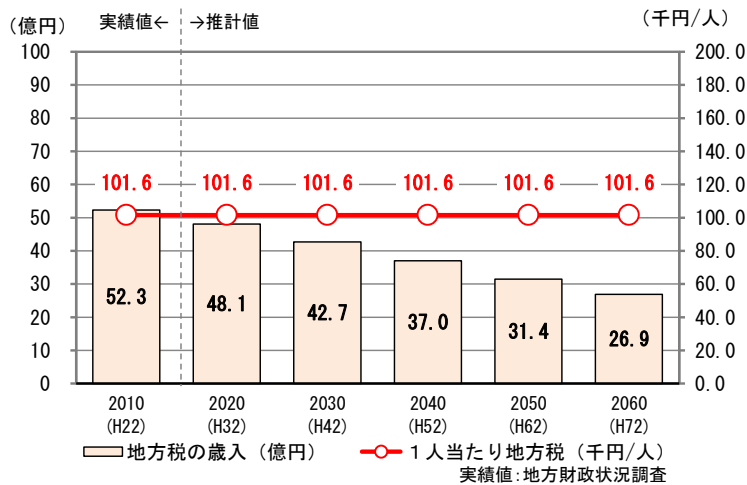
将来の人口変化が、公共施設や商業・地域産業などに対して、どのような影響を与えるのか分析を行いました。なお、使用する将来の人口は、P15の「社人研推計におけるコーホート要因法による人口推計結果」とします。

(1) 1人あたりの地方税の負担増加

平成22年の一人当たりの地方税の負担額101.6千円を踏まえると、今後の人口減少に伴い、平成72年には、地方税の歳入は26.9億円となり、平成22年の約半分の水準になってしまいます。

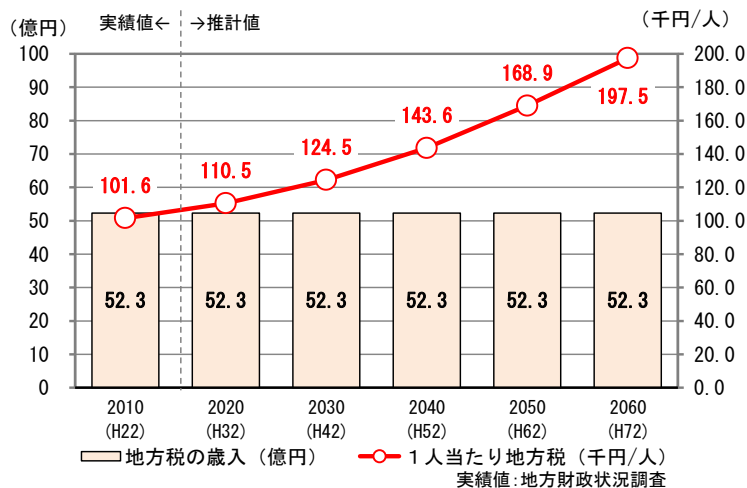
平成22年の地方税の歳入52.3億円を維持するためには、平成72年には平成22年の約2倍の負担となってしまいます。

地方税の歳入の推計（一人あたりの地方税固定）



※ 一人当たりの地方税負担が将来も変化しないと仮定

1人あたりの地方税の負担額の推計（地方税の歳入固定）



※ 地方税の歳入を維持すると仮定

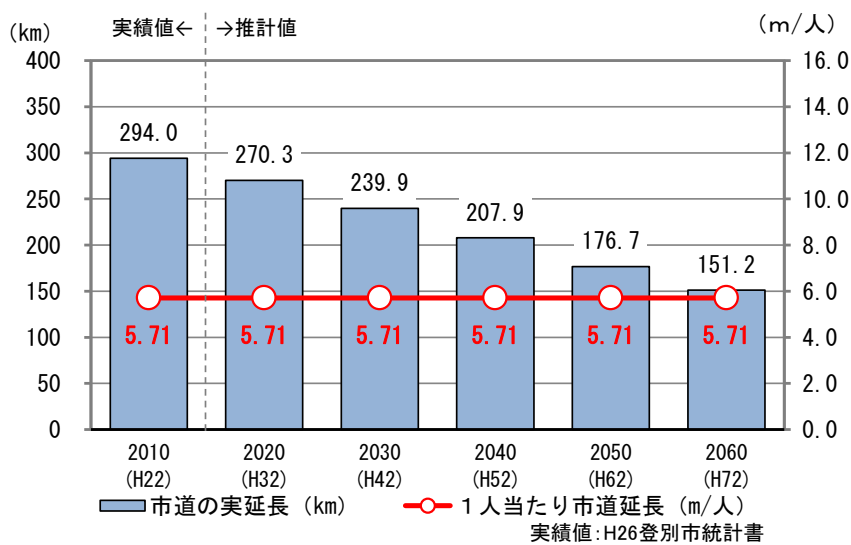
(2) 基盤施設維持管理費の増大の可能性

平成 22 年度の市道の実延長は 294.0km で、人口 1 人あたりに割り戻すと 5.71m/人に相当します。これは、一人が市道 5.71m を維持・管理しているとも考えられます。

一人あたりの維持・管理延長が変わらないと仮定すると、今後の人口減少に伴い平成 72 年に維持可能な市道延長は 151.2km に減少してしまいます。

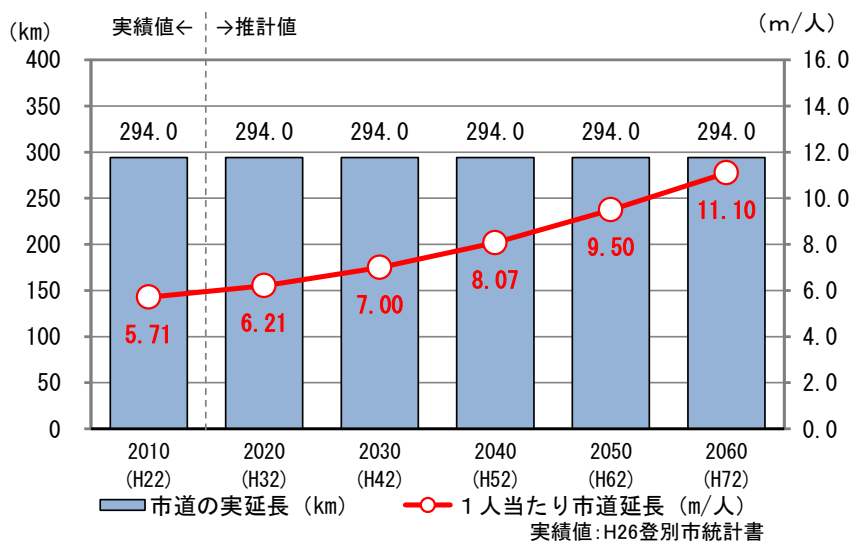
なお、平成 22 年の市道延長 294.0km を将来も維持するには、平成 72 年に一人あたり負担すべき市道延長は 11.1m/人となり、平成 22 年の約 1.9 倍になる見込みです。これは、一人あたりの維持管理費負担が増大することを意味します。

維持可能な市道延長の推計



※ 1 人あたりの市道延長が将来も変化しないと仮定

1 人あたりの市道延長の推計



※ 市道の実延長を将来も維持すると仮定

(3) 小・中学校の減少の可能性

市内には、平成22年時点で小学校8校（一学年平均児童数426人）、中学校5校（一学年平均生徒数424人）が配置されています。

児童・生徒数は、平成72年に小学校で一学年170人、中学校で一学年174人まで減少する見込みであり、統廃合の必要性も高まることが予測されます。統廃合に伴い、送迎やスクールバスなどさらなる課題も生じる可能性があります。

小学校・中学校の児童数の推計

		実績値	推計値				
			2010 (H22)	2020 (H32)	2030 (H42)	2040 (H52)	2050 (H62)
小学校	児童数 A	2,555	2,113	1,646	1,415	1,248	1,022
	児童数/学年 A/6	426	352	274	236	208	170
5歳階級別人口	5～9歳 B	2,050	1,674	1,280	1,145	993	807
	10～14歳 C	2,218	1,857	1,470	1,218	1,092	900
	合計 B+C	4,268	3,530	2,749	2,363	2,085	1,707
割合 A/(B+C)		59.9%	(H22実績値と同じ割合より、児童数を推計)				

※小学校：6歳～12歳

生徒数はH22時点

中学校

単位：人

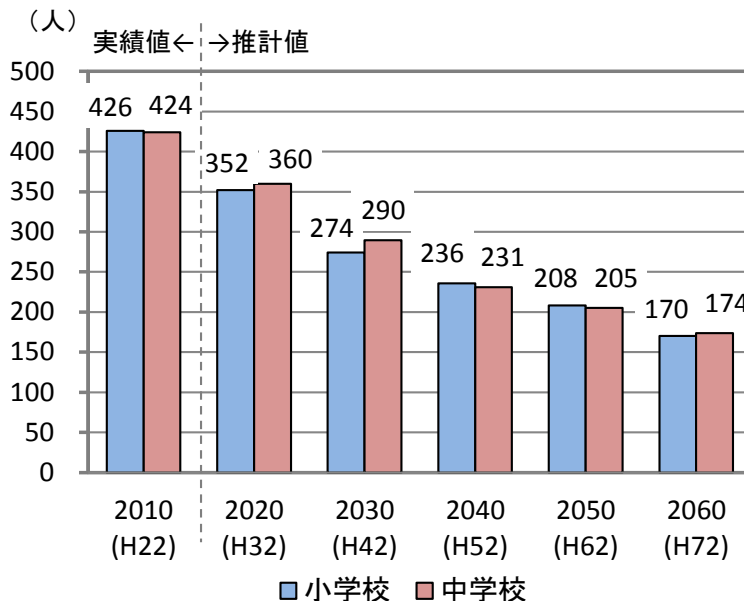
		実績値	推計値				
			2010 (H22)	2020 (H32)	2030 (H42)	2040 (H52)	2050 (H62)
中学校	生徒数 A	1,272	1,080	869	692	616	522
	生徒数/学年 A/3	424	360	290	231	205	174
5歳階級別人口	10～14歳 B	2,218	1,857	1,470	1,218	1,092	900
	15～19歳 C	2,518	2,165	1,766	1,360	1,202	1,042
	合計 B+C	4,736	4,022	3,236	2,578	2,294	1,942
割合 A/(B+C)		26.9%	(H22実績値と同じ割合より、児童数を推計)				

※中学校：12歳～15歳

生徒数はH22時点

※ 生徒数/5歳階級別人口の比は、将来も同様と仮定

小中学校の一学年あたりの児童・生徒数の変化



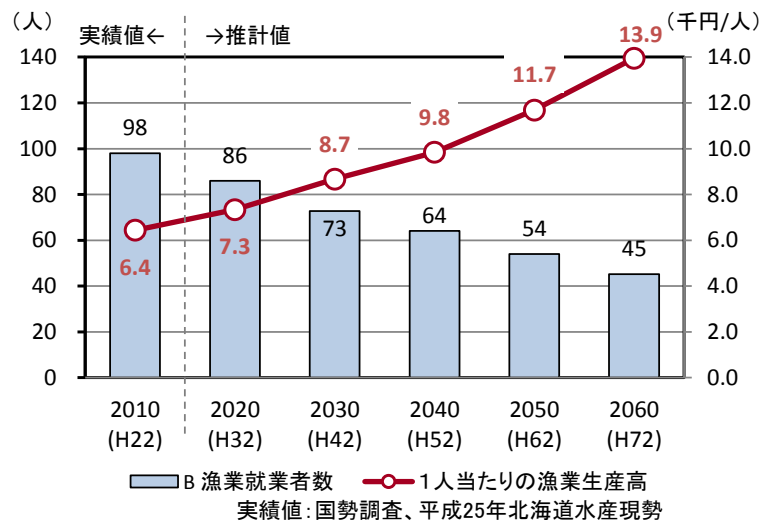
実績値：H26登別市統計書

(4) 地域産業の担い手の減少

平成 22 年の漁業の総生産高を今後も維持するためには、漁業就業者数の減少が見込まれるため、一人あたりの生産高を高める必要があります。単純計算では、平成 72 年の一人当りの漁業生産高は、平成 22 年の約 2.2 倍にする必要があります。

農業に関しても同様の考え方に立つと、農業就業者数の減少が見込まれるため、平成 22 年と同様の耕地面積を維持するためには、平成 72 年の一人当りの耕地面積は、平成 22 年の約 2.1 倍とする必要があります。

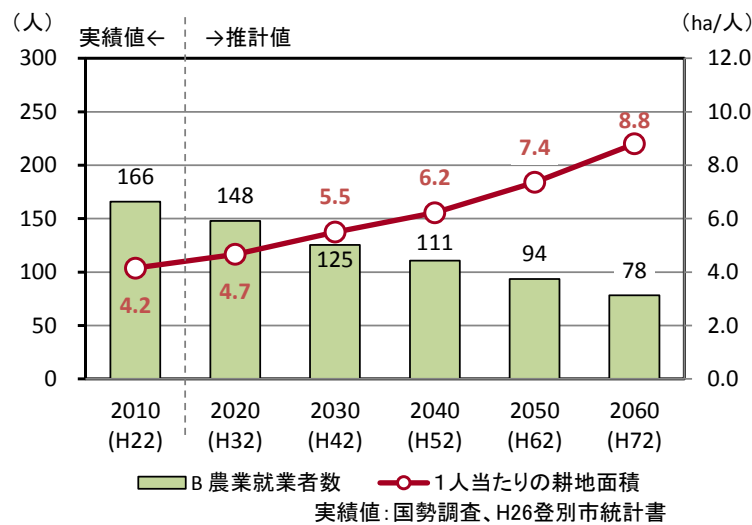
漁業就業者数と1人あたりの生産高の推計



※ 将来の漁業生産高は、平成 25 年の実績値と同様と仮定

※ 年齢別の漁業就業者数/年齢別の人口の比より、年齢別の漁業就業者数を推計

農業就業者数と1人あたりの耕地面積の推計



※ 将来の耕地面積は、平成 26 年の実績値と同様と仮定

※ 年齢別の農業就業者数/年齢別の人口の比より、年齢別の農業就業者数を推計

5. 人口の将来展望

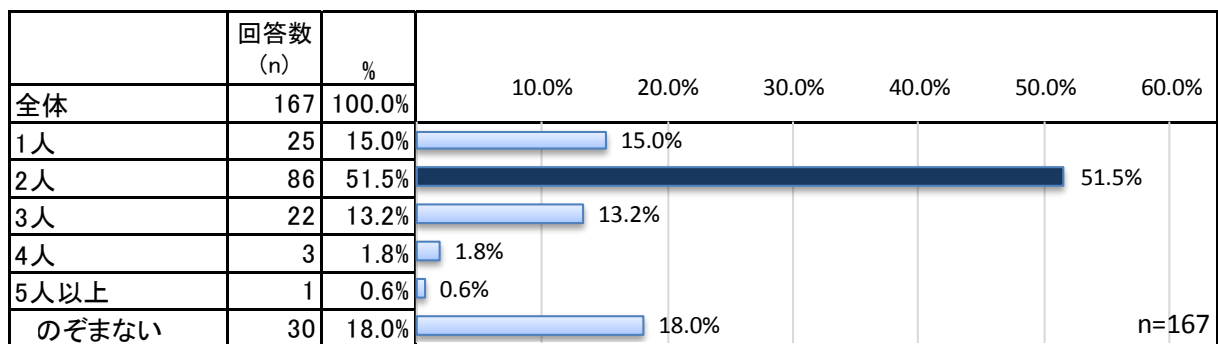
(1) 将来展望の検討に必要な調査分析

① 子育て施策向けアンケート

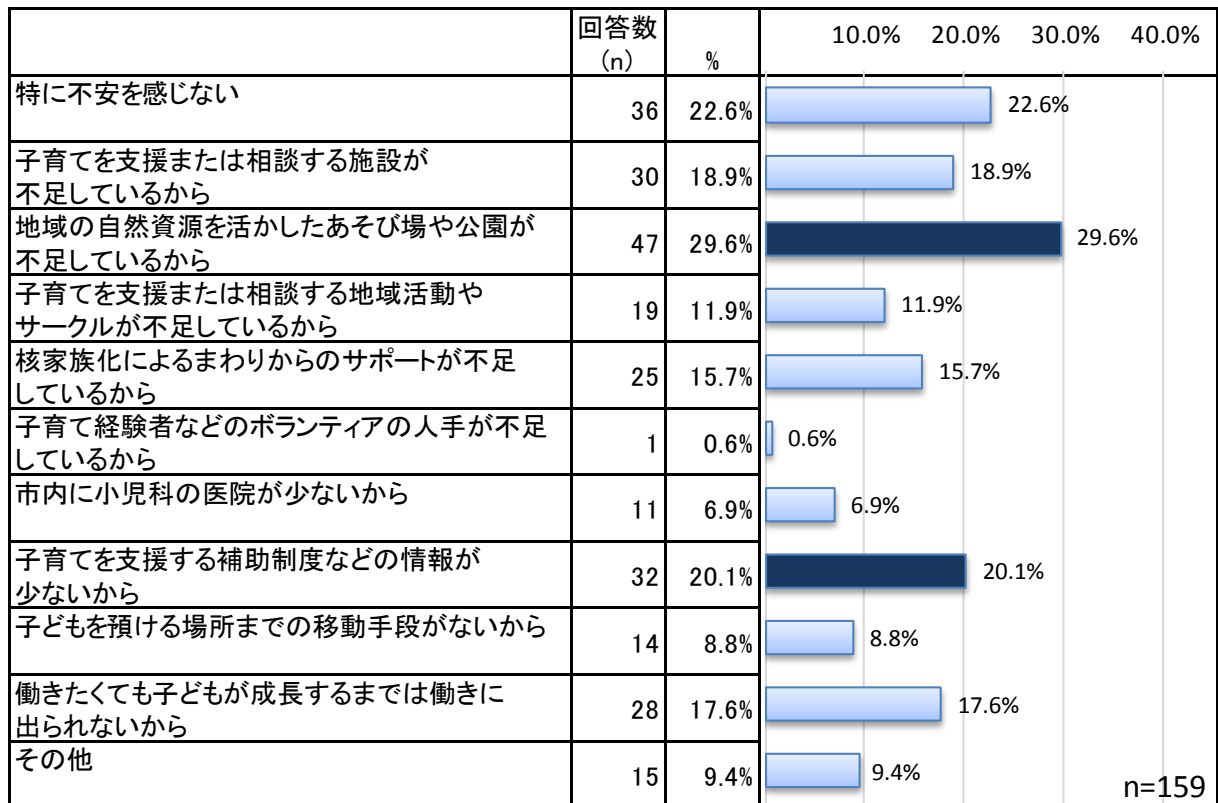
子育て世帯への意向調査結果をみると、当市では、将来的に2～3人の子どもが欲しいと思う子育て世代が多いことがわかりました。一方、結婚に関しては、結婚に向けた出会いの機会の創出や費用面での支援などが求められています。

出産・子育てに関しては、医療費等の費用面の支援だけでなく、補助制度などの情報提供の拡充が求められます。また、子どもを安心して預けられる児童館の拡充だけでなく、子育て世代が子どもと一緒に訪れることができる自然資源を活かした広場なども求められています。

将来希望する子どもの人数について



子育て環境に関する印象や不安について



※有効回答数 159 票に対する割合



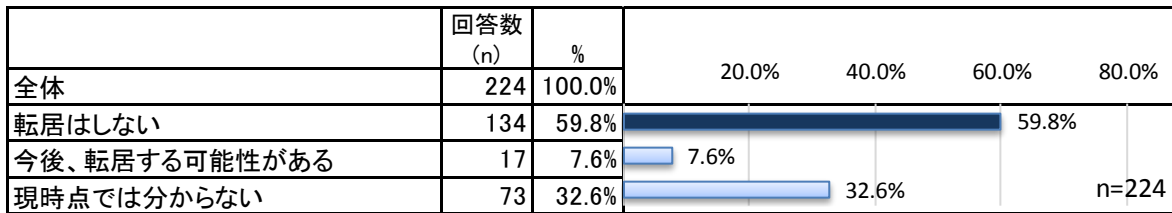
② 高齢者施策向けアンケート

高齢者世帯への意向調査結果をみると、子どもの自立等により、夫婦のみの世帯が半数以上となっており、将来にわたって転居する可能性も低いことが確認されました。

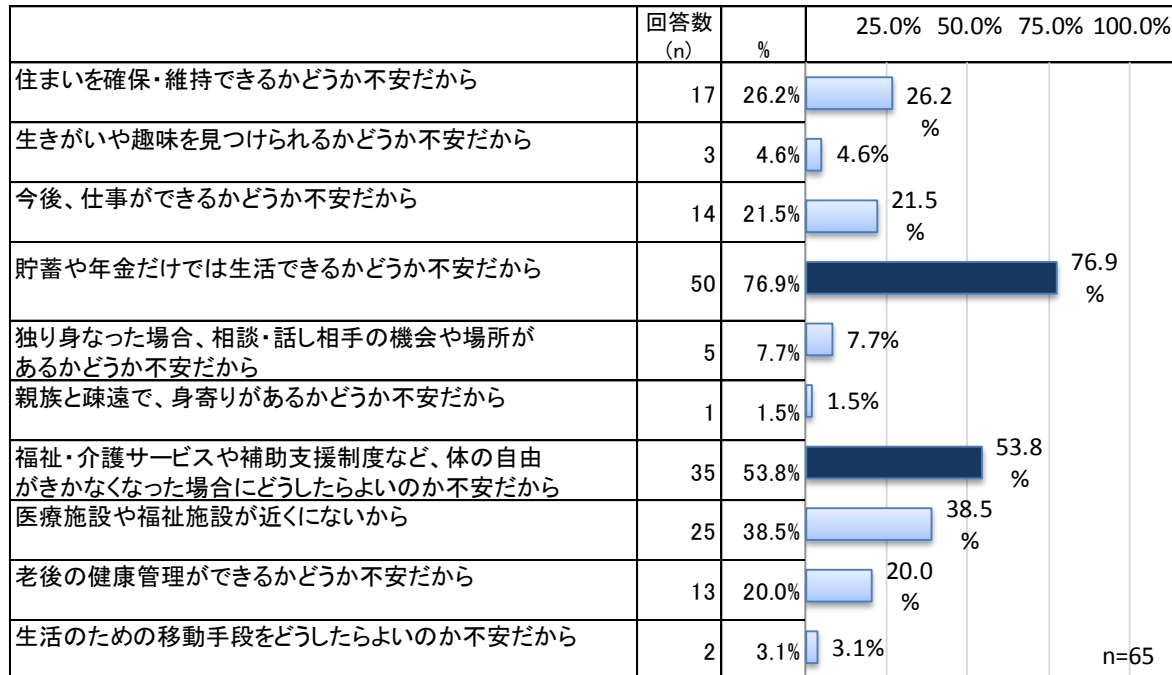
一方、日々の生活については、「貯蓄・年金のみの生活」や「体が不自由になった際の介護サービスや補助支援制度」に対する不安が多く挙げられており、これらの支援も求められています。

また、シニア世代の地域協力の意向は高く、特に「保育所などでの幼児との交流・保育サポート」などの子育て支援への参画の可能性があるとわかりました。

高齢者の登別市以外に転居する可能性

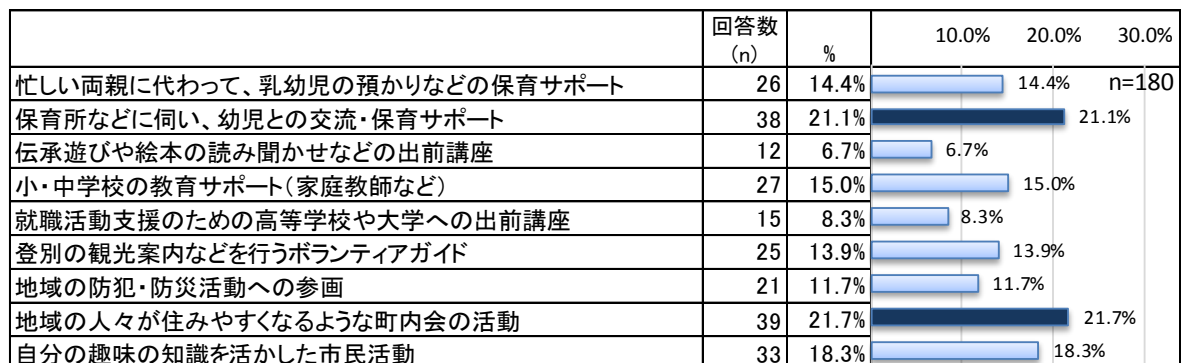


日々の生活で不満を感じる要因



※有効回答数 65 票に対する割合

技術や知識を含めた地域協力の可能な分野



※有効回答数 180 票に対する割合

③ 雇用・経済施策向けアンケート（高校生・専門学校生）

高校生・専門学校生アンケート調査結果をみると、市外への就職理由として、市内に志望する企業が少ないという指摘も挙げられています。特に、「医療・福祉」や「宿泊業・飲食業」、美容室などの「生活関連サービス業」などの業種が求められています。

市外の就職理由（上段：高校生、下段：専門学校生）

	回答数 (n)	%		
全体	482	100.0%		25.0% 50.0%
登別市内に志望する職場(企業等)が少ないため	179	37.1%		37.1%
登別市内の職場(企業等)までの交通手段が不便なため	29	6.0%		6.0%
登別市内には遊ぶところや買い物の場が少ないため	50	10.4%		10.4%
登別市外に出てみたい・出なければならないため	152	31.5%		31.5%
その他	72	14.9%		14.9%

n=482

	回答数 (n)	%		
全体	212	100.0%		25.0% 50.0%
登別市内に志望する職場(企業等)が少ないため	86	40.6%		40.6%
登別市内の職場(企業等)までの交通手段が不便なため	8	3.8%		3.8%
登別市内には遊ぶところや買い物の場が少ないため	15	7.1%		7.1%
登別市外に出てみたい・出なければならないため	35	16.5%		16.5%
その他	68	32.1%		32.1%

n=212

今後市内で増えると思う働き口（高校生）

	回答数 (n)	%		
全体	629	100.0%		5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0%
農林漁業	21	3.3%		3.3%
鉱業・採石業	3	0.5%		0.5%
建設業	5	0.8%		0.8%
製造業 (食料品、電子部品等)	20	3.2%		3.2%
情報通信業 (民間放送、出版業等)	12	1.9%		1.9%
運輸業 (バス、トラック、郵便等)	15	2.4%		2.4%
卸売業・小売業 (各種商品の販売等)	46	7.3%		7.3%
金融・保険業 (銀行、貸金、保険等)	2	0.3%		0.3%
不動産業 (土地、建物の取引、賃貸等)	6	1.0%		1.0%
医療・福祉 (病院、看護師、老人ホーム等)	105	16.7%		16.7%
宿泊業・飲食業 (温泉、レストラン、デリバリー等)	127	20.2%		20.2%
生活関連サービス業・娯楽業(美容業、 衣服裁縫、映画館、パチンコ屋等)	125	19.9%		19.9%
教育関連(幼稚園、小・中学校、動物園、 水族館等)	41	6.5%		6.5%
学術研究・専門・技術サービス業 (研究所、法律事務所、デザイン業等)	22	3.5%		3.5%
公務員 (裁判所、道市町村勤務等)	34	5.4%		5.4%
サービス業 (自動車整備業、警備業等)	3	0.5%		0.5%
その他	42	6.7%		6.7%

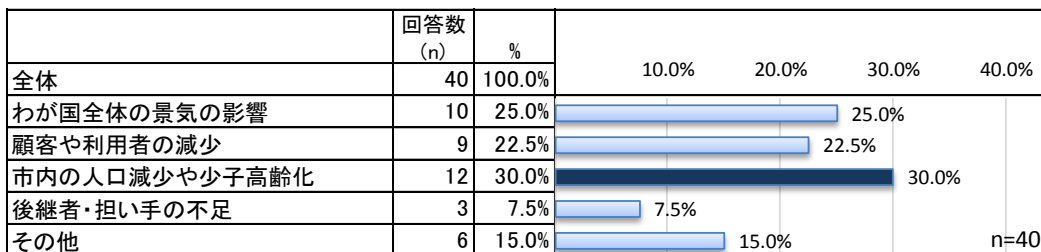
n=629

④ 雇用・経済施策向けアンケート（事業所）

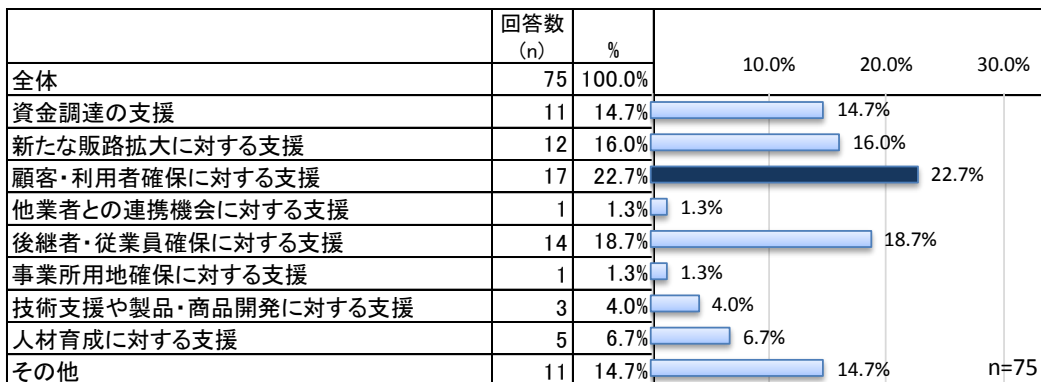
昨今の売上低迷については、人口減少や少子高齢化の影響が大きいと回答しており、人口に関する各種対策が求められています。また、今後、市内で事業を継続していくための「顧客・利用者確保に対する支援」、「新たな販路拡大に対する支援」、「後継者・従業員確保に対する支援」などが求められています。

事業所の地域連携に関しては、地域連携を行っている事業所は1割程度に留まっていますが、将来的に、業務上連携が可能な分野としては、「医療福祉」や「学術研究・専門・技術サービス業」などが挙げられています。

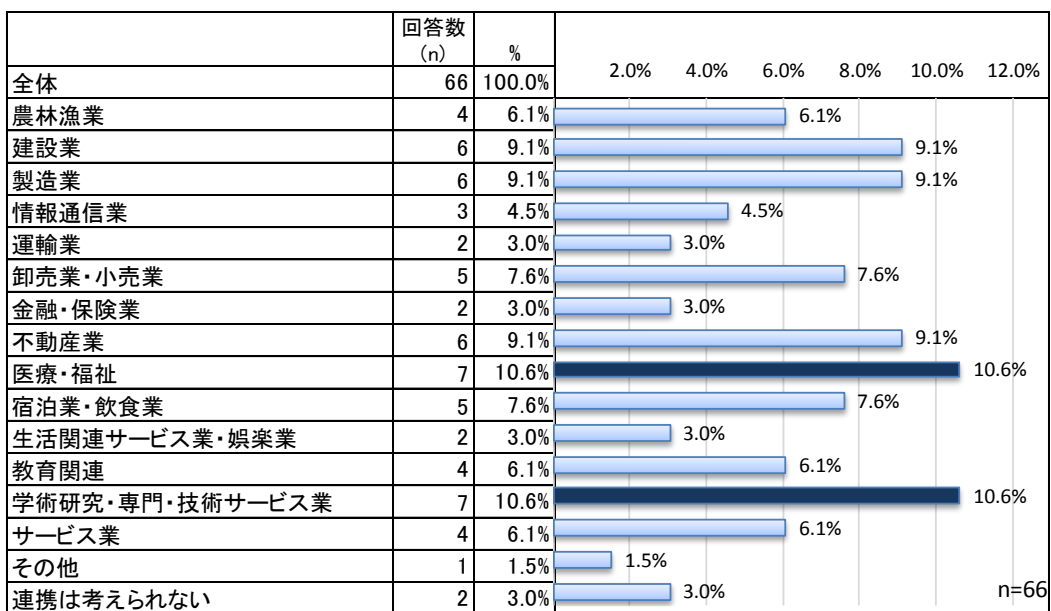
売上減少の主な原因



市内での事業継続のために必要な支援策



業務提携が可能な分野



(2) 現状の問題点と目指すべき将来の方向性

当市が抱える現状及び将来の問題点やアンケート調査結果を踏まえ、目指すべき将来の方向性については、以下の4点に重点を置き、出生率の向上・定住促進を図ることとします。

現状の問題点と目指すべき将来の方向性

人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 将来人口（平成 52 年 36,411 人）は、ピーク時（昭和 58 年）の 8 割程度</li> <li>◎ 高齢者人口は、昭和 52 年まで増加傾向（高齢者率は 39.6%）</li> <li>◎ 生産年齢・年少人口は、今後も減少</li> <li>◎ 登別・富浦地区が最も人口減少が著しい状況</li> </ul>	将来人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 平成 52 年の将来人口は、平成 22 年の約 29%減の見込み</li> <li>◎ 平成 72 年の将来人口は、平成 22 年の約半数になる見込み</li> <li>◎ 将来人口の減少により、地方税の負担増加や小・中学校の減少、地域産業の担い手の減少など各分野への影響の可能性あり</li> </ul>
社会・自然増減	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 転出超過の状況（特に 20～24 歳の転出）</li> <li>◎ 転出・転入ともに北海道内での移動が 9 割</li> <li>◎ 転入先は室蘭市、転出先は札幌市の状況</li> <li>◎ 死亡数が出生数を上回る状況（自然減）</li> <li>◎ 出生率は、道内平均より高いが、近隣市より低い</li> </ul>	アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 将来の子どもの希望人数と現状の乖離</li> <li>◎ 出産・子育てに関する支援や環境づくりの要望</li> <li>◎ 高齢者の日々の生活の不安の軽減</li> <li>◎ シニア世代の地域協力の可能性あり</li> <li>◎ 高校生・専門学校生の希望就職先と市内事業所のかい離</li> <li>◎ 事業所の市内継続に向けた支援策の要望</li> </ul>



目指すべき将来の方向性	出生率の向上の実現のため、安心して子どもを産み育てられるまちを目指します
	高齢者が活躍できる長寿社会を目指します
	定住人口の増加に向けた安定した雇用・就業環境づくりを目指します
	交流人口の増加に向けた魅力ある観光地づくりを目指します

**①出生率の向上の実現のため、安心して子どもを産み育てられるまちを目指します**

結婚・出産・子育てについては、自由な選択ができるような環境づくりを前提とし、安心して子どもを産み育てられるまちづくりが求められています。

そのため、「個人と地域で支える子育て環境」を作ることにより、「子育てに対する不安と負担の軽減」を図り、出生率の向上を目指します。

**②高齢者が活躍できる長寿社会を目指します**

今後、ますます高齢化率が増加する中で、ひとり暮らしの高齢者も含めて、活動・活躍できる社会づくりや生きがいづくりが求められます。

そのため、高齢者については、「支えられる人ではなく、支える人へ」という意識の醸成を行うことにより、高齢者も活躍できる長寿社会の実現を目指します。

**③定住人口の増加に向けた安定した雇用・就業環境づくりを目指します**

若い世代の札幌や周辺市への流出を防ぐため、若い世代が魅力を感じ、生涯を通して働きたいと思う環境づくりや市内産業の育成・創出が求められます。

そのため、市内産業を担う新たな企業の創出や、既存の市内産業の他分野への連携、活動範囲の拡大、さらには周辺市からの受け皿づくりを行うことで、若い世代が生涯を通して働きたい・働ける雇用・就業環境づくりを目指します。

また、若い世代の定住は、結婚・出産・子育てへ結びつく可能性もあることから、出生率の向上など相乗的な効果も期待されます。

**④交流人口の増加に向けた魅力ある観光地づくりを目指します**

当市は、登別温泉など日本有数の温泉地を保有しています。また、温泉地は、多くの従業員が働く貴重な就業環境でもあります。

そのため、魅力ある観光地づくりを行うことにより、交流人口を増加させるだけでなく、安定した雇用・就業環境を創出することを目指します。

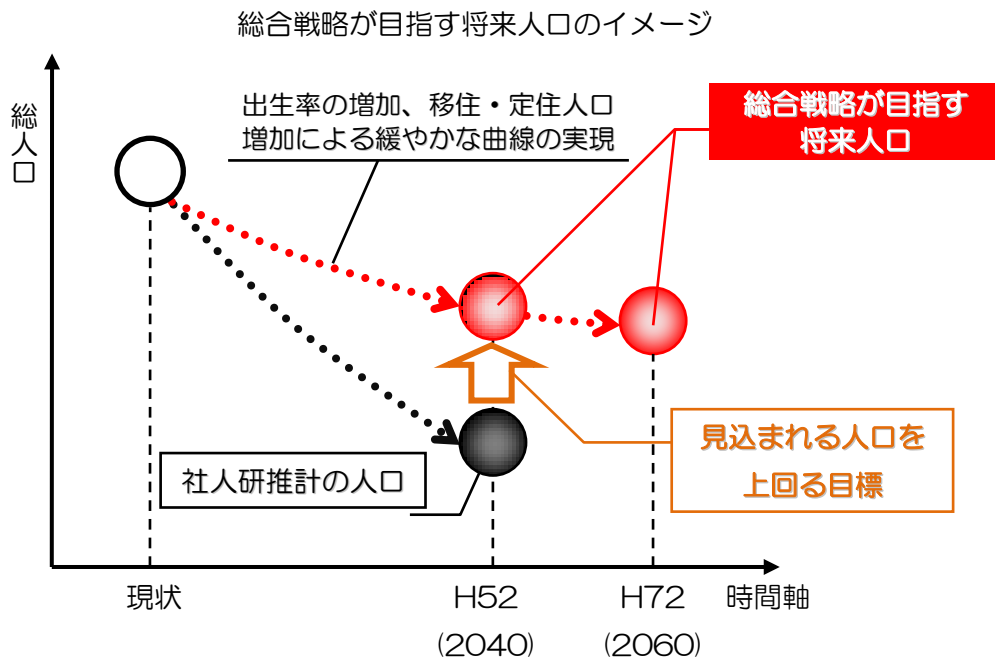
### (3) 人口の将来展望

当市の現状や将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）の見通しだけでなく、アンケート調査結果による住民や事業者等の意見を踏まえ、総合戦略の人口の将来展望を検討します。

総合戦略の将来人口については、現状の人口である5万人を基準に、社人研推計により、見込まれている人口を上回る人口を目標とします。

また、自然増減にかかわる合計特殊出生率については、アンケート調査結果の意向を踏まえ、平成52年（2040年）までに2.00まで上昇させることを目標に、各種施策を展開させます。

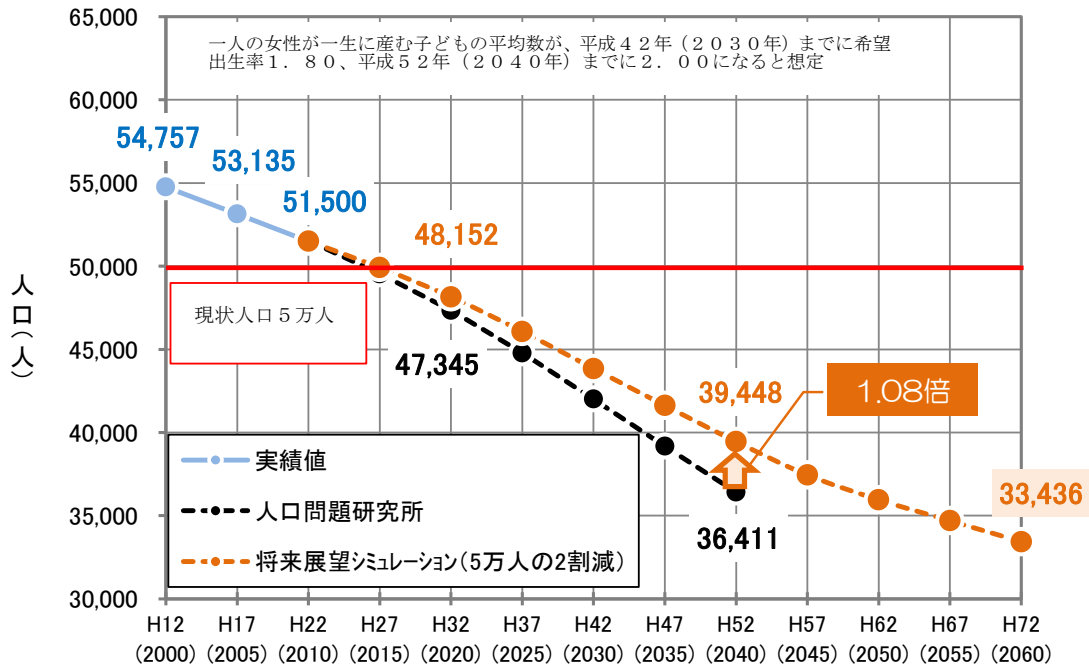
さらに、総合戦略の目標人口達成に向けては、社会増減にかかわる人口移住や定住施策を展開していきます。



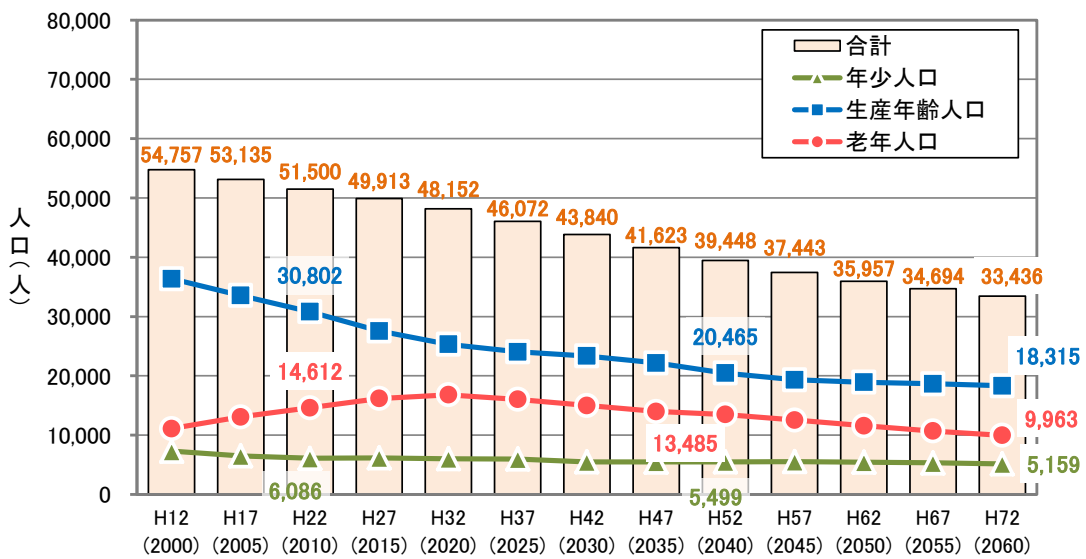
#### [人口の将来展望のための想定]

- ◎ 合計特殊出生率を平成42年（2030年）までに1.80、平成52年（2040年）までに2.00まで上昇すると想定
- ◎ 毎年20人（平均世帯数2.01人/世帯より約10世帯/年）が市内へ移住すると想定
- ◎ 生残率・純移動率等は、社人研推計値に準拠

総人口の推移



年齢別人口の推移



[社人研推計と現状の人口の差]

平成32年 50,000人-47,345人=2,655人

[総合戦略の目標人口]

平成32年時点で2,655人の2割増(531人増)を目指す

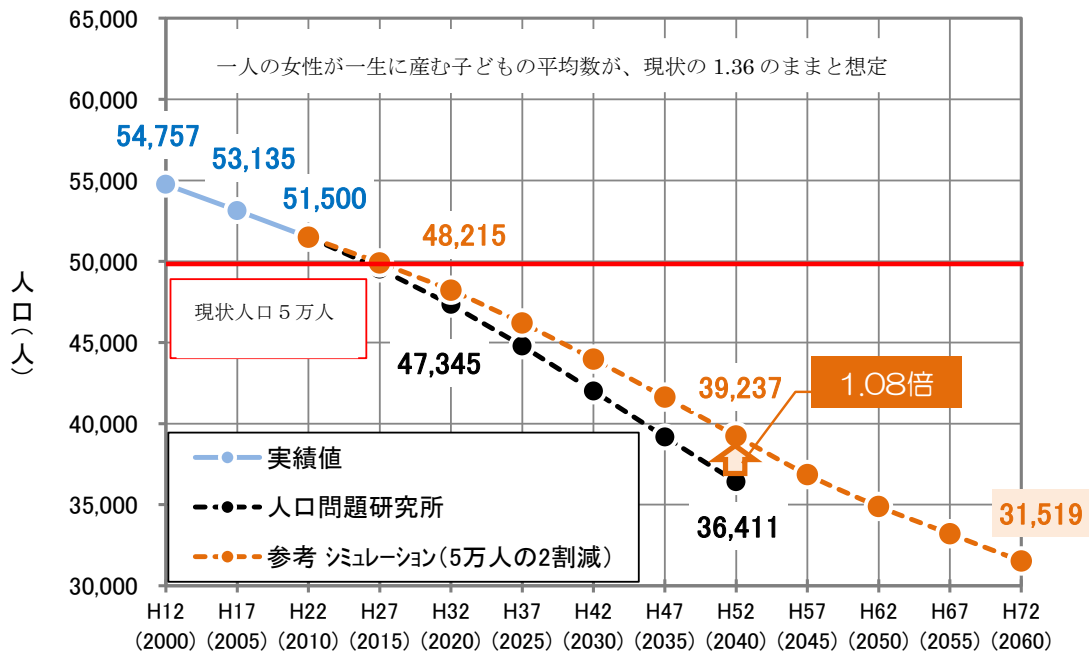
平成32年[目標] 47,345人+531≒約48,000人

平成52年[目標] 約39,500人(現状の人口の2割減)

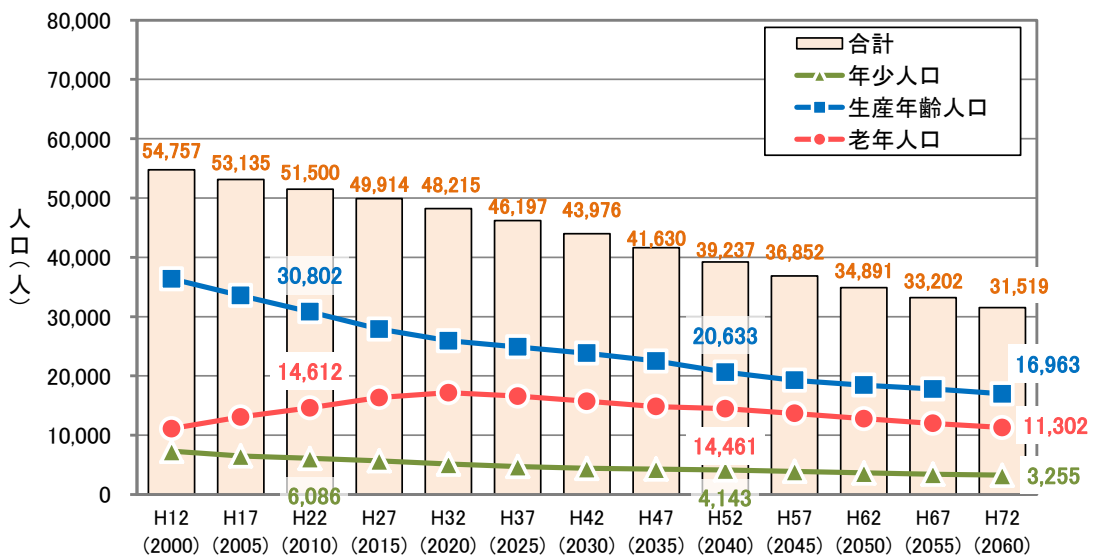
[参考 現状の合計特殊出生率 1.36 を維持した場合]

現状の合計特殊出生率 1.36 を維持した場合の将来人口推計結果を参考として、以下に示します。

総人口の推移



年齢別人口の推移



合計特殊出生率が現状と同様の場合、  
 毎年 130 人（平均世帯数 2.01 人/世帯より約 65 世帯/年）の  
 市内移住により実現が可能

移住・定住施策だけでなく、出生率の向上に向けた取組が必要



## 第2章 総合戦略

## 1. 総合戦略の位置づけ

### (1) 総合戦略策定の目的

当市は、人口減少・少子高齢化の進展など、社会情勢の変化に適切に対応し、福祉、防災、産業振興、教育などさまざまな政策、施策にどのように取り組んでいくのかを指し示す羅針盤として総合計画を定め、これまでも安全安心で住みよいまちづくりに取り組んできました。

国は、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的として、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。この法律では、市町村においても、「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「地方版総合戦略」という。）」の策定に努めなければならないとされています。

まち・ひと・しごと創生では、地方から都市部へ人口が流出するとともに大都市での超低出生率が大きな原因となり、日本全体の人口減少につながっていると捉え、人口減少の克服に向け、東京一極集中を是正するとともに、若い世代の結婚・子育ての希望を実現するため、地域特性に応じた各市町村においての戦略が必要であるとしています。

こうしたことから、地方創生の名のもと、それぞれの自治体が総合戦略を策定し、取り組むことが求められており、当市においては、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や政策5原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）などを勘案しながら、総合計画第3期基本計画に連なるものとして、このまちに住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまちを目指し策定するものです。

## (2) 総合戦略の位置づけ

総合戦略策定の目的を踏まえ、当市においては、総合計画第3期基本計画に連なるものとして、「登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

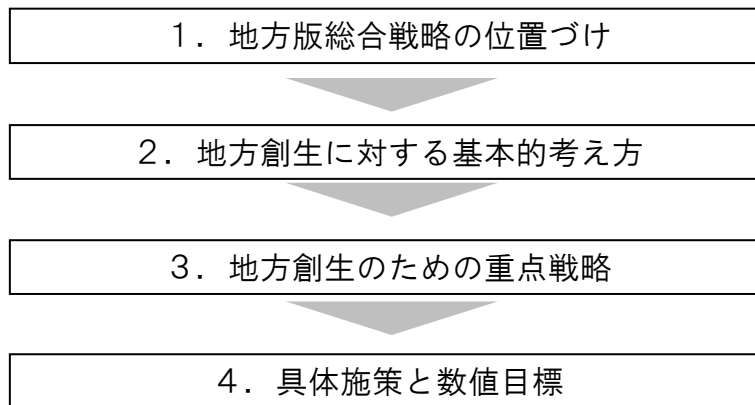
総合戦略に示す各種施策については、市の今後の重点施策として、推進していくものです。

## (3) 総合戦略の対象期間

総合戦略の期間は、平成27年度（2015年）から平成31年度（2020年）の5年間とします。

## (4) 総合戦略の全体構成

総合戦略では、「人口ビジョン」で示した人口の将来展望を踏まえて、総合戦略や地方創生に対する基本的な考え方、地方創生のための重点戦略及び具体の施策及び数値目標を設定します。



## 2. 地方創生に対する基本的な考え方

### ① 登別市が取り組む地方創生

「人口ビジョン」で試算したように、当市の人口が徐々に減少し続けているなかで、人口減少にどのように対応していくのか、的確に施策を展開することが求められます。

総合計画におけるあるべきまちの姿を踏まえ、人口ビジョンの試算により抽出した課題をもとに、当市が、「このまちに住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまち」の実現を目指して、あるべきまちの姿として総合戦略を策定し、当市の人口減少のスピードを鈍化させ、将来においては緩やかであったとしても上昇に転ずることを目指して策定するものです。

このため、人口減少対策を進めることが必要であり、「人口ビジョン」で見えた課題を踏まえ、以下のまちづくりの方向性を示しています。

#### 【人口ビジョンを踏まえたまちづくりの方向性】

- ① 出生率の向上の実現のため、安心して子どもを産み育てられるまちを目指します
- ② 高齢者が活躍できる長寿社会を目指します
- ③ 定住人口の増加に向けた安定した雇用・就業環境づくりを目指します
- ④ 交流人口の増加に向けた魅力ある観光地づくりを目指します

総合戦略では、これら将来の方向性を踏まえ、目指すべきまちの姿を「住みつづけたい、住んでみたいと思える魅力あるまちへ」とし、「住んでみたいと思えるまちへ」（定住人口の確保）、「言ってみてみたいと思えるまちへ」（交流人口の増加）を目指すべき目標とします。

### ② 戦略の基本原則

当市のさらなる創生を目指すため、国が総合戦略で掲げている「まち・ひと・しごと創生」に関する政策5原則を踏まえて、施策を検討します。

#### 「まち・ひと・しごと創生」に関する政策5原則

##### ① 自立性（自立を支援する施策）

地方・地域・企業・個人の自立に資するものであること。この中で外部人材の活用や人づくりにつながる施策を優先課題とする。

##### ② 将来性（夢を持つ前向きな政策）

地方が主体となり、夢を持つ前向きな取り組みに対する支援に重点をおくこと。

##### ③ 地域性（地域の実情等を踏まえた施策）

国の施策の「縦割り」を排除し、客観的なデータにより各地域の実情や将来性を十分踏まえた、持続可能な施策を支援するものであること。

##### ④ 直接性（直接の支援効果のある施策）

ひと・しごとの移転・創出を図り、これを支えるまちづくりを直接的支援するものであること。

##### ⑤ 結果重視（結果を追求する施策）

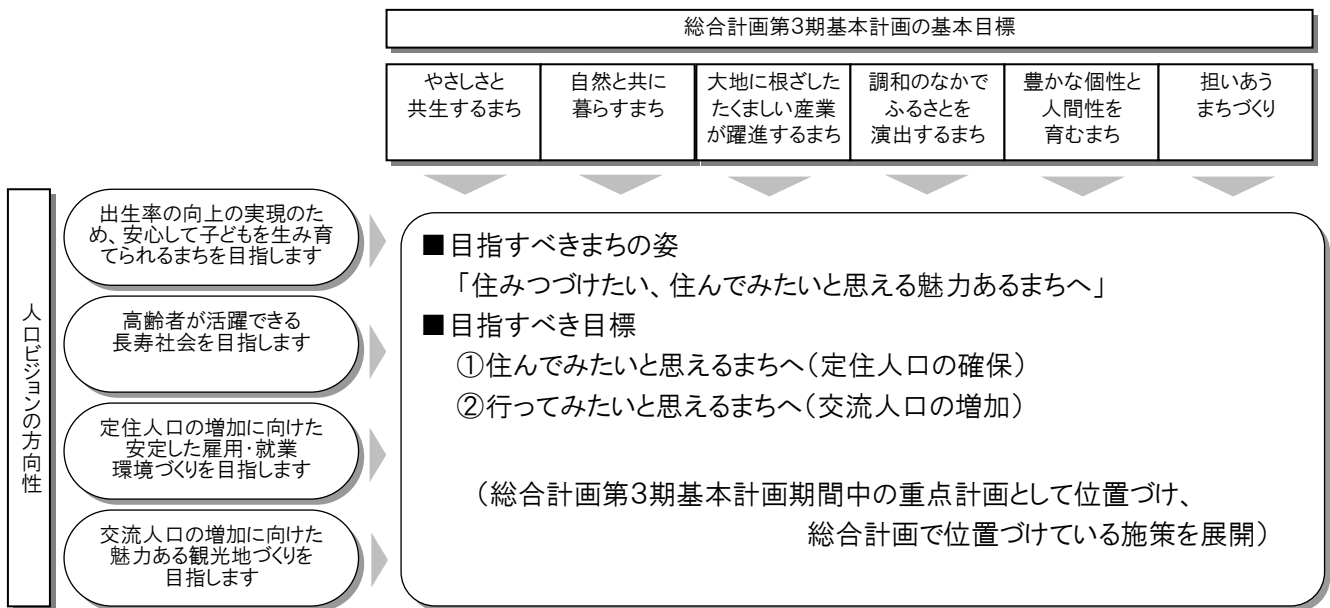
プロセスよりも結果を重視する支援であること。このため、目指すべき成果が具体的に想定され検証等がなされるものであること。

### ③ 戦略推進の考え方

#### a) 総合計画との連携

登別市総合計画第3期基本計画は、平成27年12月の議会提案を目指して検討を進めています。この基本計画における基本目標としては、基本構想でまちづくりの5つのテーマとして位置付ける「やさしさと共生するまち」「自然と共に暮らすまち」「大地に根ざしたたくましい産業が躍進するまち」「調和の中でふるさとを演出するまち」「豊かな個性と人間性を育むまち」に、「担いあうまちづくり」を加えた6点を掲げています。

これら6つの基本目標と、人口ビジョンで示した4つの方向性を踏まえ、総合戦略では総合計画で位置づけている施策にもとづき、人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごと創生と好循環の確立を実現する観点から、戦略的に政策を進めていきます。



#### b) 官民連携・広域連携による推進

「まち・ひと・しごと創生」を実行するには、市民、行政だけではなく、産官学金労言などのさまざまな知見を有した方の参加・協力が重要であることから、総合戦略の策定・運用においては多様な主体が連携し施策を推進します。

また、北海道が策定する総合戦略を勘案するとともに周辺の市町とも連携しながら施策を推進します。

#### c) PDCAによる目標達成評価

総合戦略は、計画策定（Plan）、推進（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）の各過程において、市民はもとより産官学金労言など多様な主体が関わる体制を構築し、着実に検証していきます。

このため、重点施策については、それぞれに対して、客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定し、施策の成果を検証していきます。

重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。

施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

### 3. 地方創生のための重点戦略

国の総合戦略が定める4つの施策分野を踏まえ、目指すべきまちの姿である「住みつつげたい、住んでみたいと思える魅力あるまちへ」向け、本市が進める地方創生のための基本目標を以下の通り設定します。

#### ■国の総合戦略が定める4つの施策分野

- 基本目標1 地方における安定した雇用を創出する
- 基本目標2 地方への新しいひとの流れをつくる
- 基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標4 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する



#### ■登別市の地方創生のための基本目標

- 基本目標① 子どもを生き育てやすいまちへ
- 基本目標② 安心して老いを迎えることができるまちへ
- 基本目標③ 各産業が元気に展開されるまちへ
- 基本目標④ 観光地としての魅力づくり
- 基本目標⑤ 移住・定住施策

#### 【基本目標における数値目標】

**登別市の将来人口 約48,000人(平成31年度末)**

※戦略の体系について

□目指すべきまちの姿

「住みつづけたい、住んでみたいと思える魅力あるまちへ」

□目指すべき目標

- ①「住んでみたいと思えるまちへ」（定住人口の確保）
- ②「行ってみたいと思えるまちへ」（交流人口の増加）

□目指すべき目標を実現させるための基本目標

【住んでみたいと思えるまちへ】

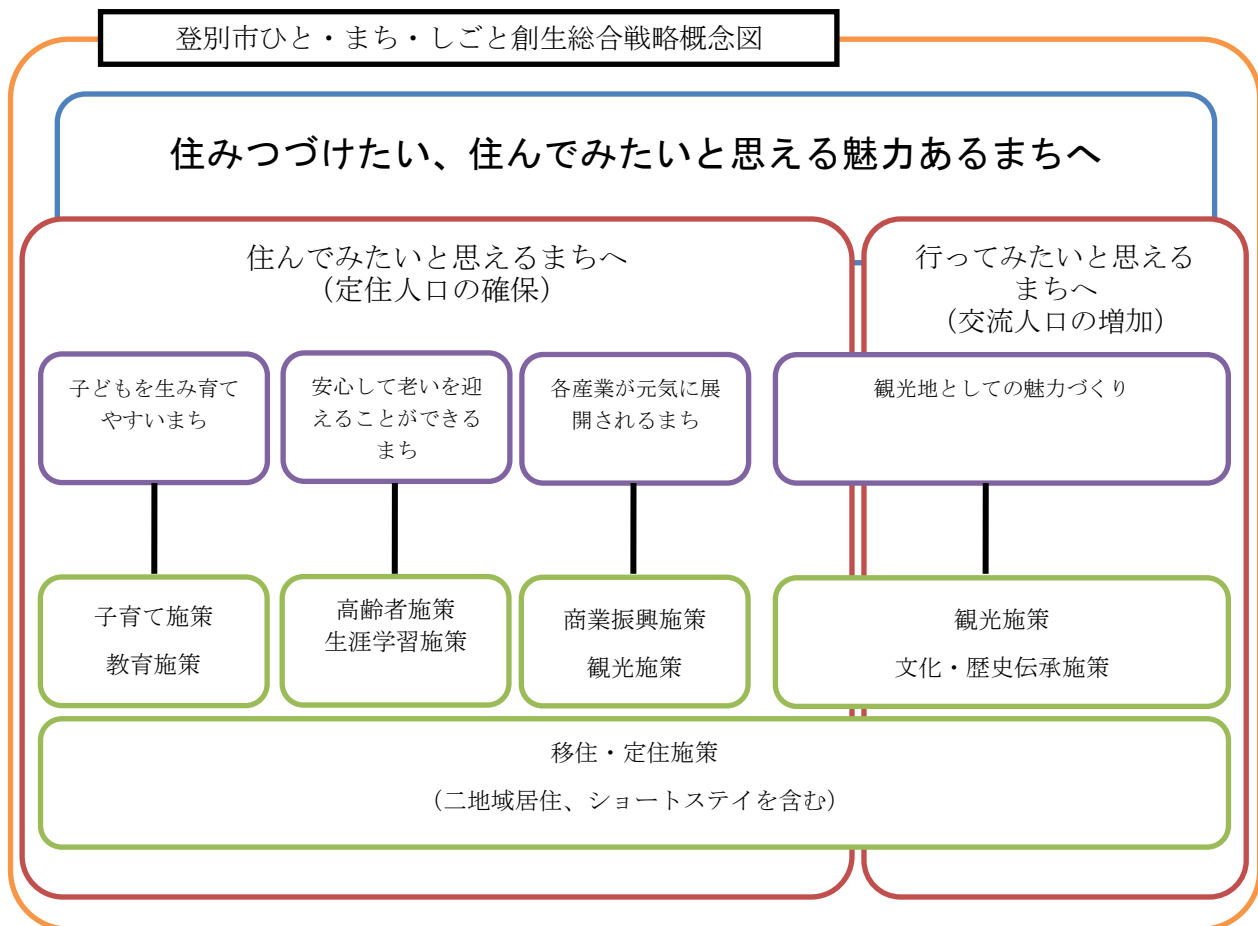
- ①子どもを生き育てやすいまちへ
- ②安心して老いを迎えることができるまちへ
- ③各産業が元気に展開されるまちへ

【行ってみたいと思えるまちへ】

- ①観光地としての魅力づくり

≪複合的に施策に取り組むことで≫

- ①移住・定住施策（二地域居住、ショートステイを含む）



◎さまざまな施策を複合的に行い、まちの総合的な魅力の向上に努めることで、移住定住施策の原動力とします。

## 4. 具体施策と数値目標

### (1) 基本目標1 子どもを生き育てやすいまちへ

#### ① 基本目標

##### 【数値目標】

**子育て施策への市民満足度 85% (平成24年度 79.5%)**

#### ② 講すべき施策に関する基本方向

少子化に歯止めをかけるためには、若い世代が抱えている結婚・出産・子育てに関する不安を解消し、負担を軽減することで、出生率を増加させることが必要です。

一方、当市の出生率は、道内平均よりも高いものの、近隣の自治体に比べ、低い現状となっています。出生率の低下の背景としては、近年の晩婚化や晩産化、若い世代の経済的安定の確保に向けた男女の働き方の変化などが考えられます。

子育て世帯への意向調査結果をみると、当市では、将来的に2～3人の子どもが欲しいと思う子育て世代が多いことがわかっています。一方、結婚に関しては、結婚に向けた出会いの機会の創出や費用面での支援などが求められています。

出産・子育てに関しては、医療費等の費用面の支援だけでなく、補助制度などの情報提供の拡充が求められます。また、子どもを安心して預けられる児童館の拡充だけでなく、子育て世代が子どもと一緒に訪れることができる自然資源を活かした広場なども求められています。

このような時代背景や市民意向を踏まえ、当市では、「子育ての不安と負担の軽減」を図るとともに、「地域に根差した魅力ある学校づくり」や「快適な住環境づくり」を行い、仕事を続けながらも、『子どもを生き育てやすいまちへ』を実現することで、出生率の向上を目指します。



## ③ 具体施策と重要業績評価指標（KPI）

## a) 子育ての不安と負担の軽減

重要業績評価指標（KPI）：子育て支援拠点数 4カ所（平成26年度 3カ所）

## ■ 地域での子育て支援

未来を担う子どもたちの健全な成長には、支援拠点や子育てサークルなど、地域とのつながりを持ちながら、地域ぐるみで生み育てることが大切です。

核家族化や共働き、ひとり親家庭などさまざまな家庭環境により、親だけが子育ての不安や悩みを抱え込んで孤立するなど、子育て世代が過度の負担を抱くことがないよう、地域事情等を踏まえた子育て支援拠点の整備や、地域ボランティアの育成とその活用、子育てサークルの活動支援、相談や学習会等の実施など、地域での子育て支援体制の充実を図ります。

ア)	地域子育て支援拠点の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期的な需要と地域事情、民間活用を含め、子育て支援センターなど子育て支援拠点の効果的な事業展開を進めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 子育て支援センター運営事業</li> <li>◎ 地域子育て支援拠点（ひろば型）事業</li> </ul>
イ)	地域子育てボランティアの育成と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の子育て経験者等の知識・経験の活用を図るとともに、地域ボランティアとして育成し、地域の子育て支援の充実を図ります。</li> <li>・ 若者を地域のボランティアとして育成し、地域での子育てを支援するとともに、若者による育児体験の機会の拡充に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 学生ボランティア活動の受け入れ</li> </ul>
ウ)	地域子育てグループ活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの遊び方の指導や育児相談など地域において交流活動を行っている子育てサークルの取組等を支援します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 育児相談・育児サークルへの支援</li> </ul>
エ)	子育てについての学習、体験機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所や幼稚園、子育て支援センターなどにおいて、子育てに関する相談を充実するとともに、学習、体験の機会の充実に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ あそびの広場</li> <li>◎ すくすく子育て応援事業</li> </ul>
オ)	子育て家庭への相談・情報提供の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファミリーサポートセンターや家庭児童相談室を活用し、子どもを生み育てる喜びを感じられるよう子育てに関する助言や情報提供に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 仕事と家庭両立支援（ファミリーサポートセンター）事業</li> <li>◎ 産後子育てママ派遣事業</li> </ul>

■ 男女共同による子育ての推進

男女の固定的な役割分担意識や子育ての多くを女性の仕事とする考えを見直し、互いに協力して家事や育児を行うという意識醸成を図り、女性の社会進出や子育てによる心身の負担軽減に努めます。

ア)	家事、育児への男性参画の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>• 家庭内における家事・育児は、男女が共同で担うという意識を醸成するとともに、女性の負担を軽減し、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境づくりに努めます。</li><li>• 育児休暇等の取得促進に向け、啓発に努めます。</li></ul>
----	----------------	--

## ■ 子育て環境の整備

保育所や幼稚園は、子どもが交友関係や社会性を培ううえで大きな役割を担う大切な保育・教育拠点です。

次代を担う子どもたちに、良質な保育や教育を提供するため、国の子育て施策に速やかに対応しつつ、地域にあった認定こども園の推進に柔軟に取り組むとともに、乳幼児保育における延長保育、休日保育などの多様な保育ニーズへの対応や就学児童の放課後等の居場所づくりの充実に努め、子育て環境の整備を図ります。

ア)	保育所、幼稚園等における保育・教育の充実及び環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢や世代を超えた交流など、地域の特色等を捉えた保育・教育内容の充実に努めます。</li> <li>施設のバリアフリー化など子どもたちが活用しやすい施設の環境の整備を図ります。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 普通保育所運営事業</li> <li>◎ 世代間交流事業</li> <li>◎ 広域入所（他市町村への保育委託）</li> </ul>
イ)	認定こども園の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能と、地域における子育て支援を行う機能をもった「認定こども園」を、民間等の活力を導入して推進します。</li> </ul>
ウ)	民間活用による柔軟な保育環境の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育需要に柔軟に対応する保育サービスや地域の子育て支援を充実させるため、民間の活力を取り入れ、地域の特色に応じた新たな保育環境の整備に努めます。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 登別保育所運営業務委託</li> </ul>
エ)	乳幼児等保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児保育、延長保育、一時保育、休日保育等、時代とともに変化する保育ニーズに対応した乳幼児等保育の充実に努めます。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 障がい児保育事業</li> <li>◎ 延長保育事業</li> <li>◎ 一時保育事業</li> <li>◎ 休日保育事業</li> </ul>
オ)	児童館、放課後児童クラブなどの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの健全な育成を図るため、安全で安心な居場所となる児童館、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の運営内容の充実に努めるとともに、それぞれが一体となった放課後児童対策に努めます。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 放課後児童クラブ運営事業</li> <li>◎ 児童館（児童センター）管理・運営事業</li> <li>◎ 放課後子ども教室推進事業</li> <li>◎ 鷺別児童館移転改築事業</li> </ul>

**■ 経済的負担等の軽減の支援**

医療費や保育料など、義務的経費の助成や児童手当等の支給により、子育て世代の経済的負担等の軽減を図り、家庭での子育て環境を支援します。

<p>ア)</p>	<p>医療費、保育料、 教育費等の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 乳幼児に対して医療費の一部を助成し、家庭の経済的負担の軽減を図ります。</li> <li>• 幼稚園への就園等に際して、財政的支援を行い家庭の経済的負担の軽減を図ります。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 児童入所施設措置費（助産施設分）</li> <li>◎ 私立幼稚園就園奨励費補助金</li> <li>◎ ひとり親家庭等医療費助成事業</li> <li>◎ 乳幼児等医療費助成事業</li> <li>◎ 未熟児養育医療給付事業</li> </ul>
<p>イ)</p>	<p>子どものいる 家庭等への経済的 支援等の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どものいる家庭へ児童手当等を支給し、子育ての負担軽減を図ります。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 児童手当支給経費</li> <li>◎ 児童扶養手当支給事業</li> <li>◎ 災害遺児手当</li> </ul>

## b) 地域に根ざした魅力ある学校づくり

重要業績評価指標 (KPI) :

一斉学校公開日の来校者に占める地域住民の割合 10% (平成26年度 7%)

## ■ 教育環境の充実

学びのより良い環境づくりのため、地域の事情を考慮しながら学校規模や配置の適正化に努めるとともに、子どもたちが安全安心な学校生活が送れるよう、地域や関係機関と連携した安全対策や学校施設の計画的な耐震改修を進めながら、衛生的な教育環境の整備や特別支援教育の充実、教員の実践的な指導力の向上に努め、教育環境の充実を図ります。

ア)	学校の 適正規模等	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の学びのより良い環境づくりのため、少子化等による人口動態に注視するとともに、地域の事情を考慮しながら、時代に即した学校規模の適正配置に努めます。</li> <li>また、老朽化等に伴う学校施設の計画的な整備や教育環境の改善に努めます。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 小中学校校舎改修事業</li> <li>◎ 小学校周辺整備事業</li> <li>◎ 中学校周辺整備事業</li> <li>◎ スクールバス運行事業</li> </ul>
イ)	児童生徒の 安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心な学校生活が送れるよう、児童生徒の登下校時における通学路や不審者などの安全対策を関係機関と連携して行うとともに、国が示す耐震基準に基づき計画的に学校施設の耐震改修を行います。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 児童生徒遠距離通学費補助金</li> <li>◎ 中学校耐震化改修事業</li> <li>◎ 小学校耐震化改修事業</li> </ul>
ウ)	安心で衛生的な 教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤師による学校環境衛生検査を定期的実施するほか、学校保健委員会を中心に衛生的な教育環境の整備に努めます。</li> </ul>
エ)	特別支援教育 体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に関する校内委員会やコーディネーターの設置をはじめ、個別の教育支援計画に基づいた一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や支援に努めます。</li> <li>特別支援学校、児童相談所等の各関連機関、特別支援教育振興協議会等の各種団体との連携を図り、特別支援教育の充実を図ります。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 特別支援教育推進経費</li> <li>◎ 特別支援教育就学奨励費</li> <li>◎ 言語障害通級指導教室運営経費</li> </ul>
オ)	教員の資質の 向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職免許更新講習や北海道主催の初任者研修・教職経験者研修などの法定研修等により学び続ける姿勢の持続と教師としての力量を高めるとともに、各学校での授業・事例研究や実技講習のほか、市内の教職員を対象とする各種研究会への参加を通して、実践的な指導力の向上に努めます。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 登別市教育研究会運営事業費補助金</li> <li>◎ 教育実践研究奨励事業</li> </ul>

c) 生涯にわたるスポーツ振興の推進

重要業績評価指標（KPI）：

全国体力運動能力調査（小学生）20mシャトルランでT得点の全国平均を上回る。  
（平成 年度 前項平均を50としたとき、47.4ポイント）

■ **健康・体力づくりの推進**

健康・体力づくりを推進するため、関係機関と連携しながら、温水や豊かな自然を利用した健康づくりを推進し、生涯スポーツの振興や市民の健康増進に努めます。

ア)	関係機関の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ・保健関係機関との連携を密にし、役割分担をしながら、健康・体力づくりの充実に努めます。</li> <li>・ 準備運動やトレーニング方法、栄養や食事、休養のとり方などスポーツ医学について保健機関とも連携しながら情報の収集や提供に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 生涯スポーツ振興及びスポーツ関連団体の育成経費</li> </ul>
イ)	温水を利用した健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係機関・団体と連携し、温水を活用した健康・体力づくりを推進します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 市民プール運営管理経費</li> <li>◎ 市民プールバスパック業務委託料</li> </ul>
ウ)	豊かな自然を利用した健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豊かな自然を利用したウォーキングやトレッキングなどの生涯スポーツの振興や市民の健康増進に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 岡志別の森運動公園等運営管理経費</li> <li>◎ ネイチャーセンター管理委託料</li> <li>◎ 登山道維持経費</li> <li>◎ 子ども健康・体力改善事業費</li> </ul>

## d) 快適な住環境づくり

重要業績評価指標 (KPI) : 都市公園の遊具健全度 95% (平成26年度 70%)

## ■ 身近な公園・緑地等の創出と保全

豊かなみどりを守り育てるため、市民や事業者と協力し、公園や緑地、街路樹などの保全に努めるとともに、みどりづくりを推進するための実行計画を策定し、その実施に努めます。

また、市民の憩いやレクリエーションなどの場としての公園を、市民が安全に安心して利用できるよう、適切な修繕や改築を行うほか、地域のバランス等を考慮し、新たな公園の整備に努めます。

ア)	安全で安心できる公園整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の憩いやレクリエーションなどの場として、市民ニーズを踏まえ、地域のバランス等に配慮し、新たな公園の整備に努めます。</li> <li>市民が安全で安心して公園を利用できるよう、施設の適切な修繕や市民ニーズを踏まえた改築を行うなど、その整備に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 都市公園施設長寿命化事業</li> </ul>
イ)	民間活力による公園・緑地の管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者などによって管理・運営している公園については、その団体との連携を深め、より安全安心に利用できるよう、適正な管理に努めるとともに、利用者へのサービスの向上に努めます。</li> <li>また、それ以外の公園等については、町内会などの協力を得ながら、適正な維持管理に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 公園維持管理経費（指定管理者制度による公園の維持管理）</li> <li>◎ 登別市街区公園等清掃交付金事業</li> </ul>
ウ)	みどりの創出と保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路沿いや川沿い、公共施設などへの草花や樹木の植栽を市民とともに進めるなど、みどりの創出に努めます。</li> <li>公園・緑地の樹木や街路樹などを適正に維持管理し、みどりの保全に努めます。</li> <li>草花の育て方や土づくりなどの講習会を開催するなど、市民のみどりに関する意識の向上に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 緑化推進事業</li> </ul>

---

## (2) 基本目標2 安心して老いを迎えることができるまちへ

---

### ① 基本目標

#### 【数値目標】

高齢者施策への市民満足度 **76%** (平成24年度 **71.4%**)

### ② 講ずべき施策に関する基本方向

将来の高齢者割合は、40%近くに達すると予測されており、高齢者の方が当市で安心して老いを迎えることができるように、環境を整備することが必要です。

高齢者世帯への意向調査結果をみると、子どもの自立等により、夫婦のみの世帯が半数以上となっており、将来にわたって転居する可能性も低いことが確認されました。

一方、日々の生活については、「貯蓄・年金のみの生活」や「体が不自由になった際の介護サービスや補助支援制度」に対する不安が多く挙げられており、これらの支援も求められています。

また、シニア世代の地域協力の意向は高く、特に「保育所などでの幼児との交流・保育サポート」などの子育て支援への参画の可能性があることがわかりました。

このような時代背景や市民意向を踏まえ、「高齢者福祉の確立」や「高齢者の暮らしを支える制度」、万が一の際の「地域医療の充実」など、環境の充実を進めます。

また、高齢者の方の知恵や知識を後世に伝えるため、「市民の主体的な学習の推進」に一翼を担うことなど、生きがいづくりを推進することにより、『安心して老いを迎えることができるまちへ』の実現を目指します。



### ③ 具体施策と重要業績評価指標（KPI）

#### a) 高齢者福祉の確立

重要業績評価指標（KPI）：

老後に不安を持っている人の割合 47%（平成26年度 52%）

#### ■ 長寿社会の基盤づくり

高齢者がいきいきと暮らしていくためには、いつまでも健康で充実した生活を送ることが大切です。

高齢者には、これまでの人生経験で培ってきた知識、経験、能力、技術、趣味などさまざまな財産があります。これらの貴重な財産を各種市民団体や趣味のサークル、異世代交流等の場に参加することで、地域に還元されることは、自己の充実のためだけでなく、地域に与える影響も大きいことから、高齢者が積極的に社会参加できるような環境づくりに努めます。

また、介護保険サービスを受けなくても、健康な人生を送ることができるよう、各種介護予防事業の充実を図るとともに、高齢者が暮らしやすい住環境に関する各種相談や公共施設等のバリアフリーなど、高齢者の生活基盤の充実に努め、長寿社会の基盤づくりを進めます。

<p>ア)</p>	<p>高齢者の生きがいづくりの場と機会の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人クラブ関係者や市内高齢者、関係団体等とともに、高齢者団体のあり方などについて検討し、異世代交流等による高齢者の生きがいづくりの場と機会の拡充に努めます。</li> <li>・ 高齢者の就業機会の確保や生きがいの充実、社会参加の促進を図るため、シルバー人材センターの活動を支援に努めます。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 登別市老人クラブ連合会補助金</li> <li>◎ 老人クラブ運営費補助金</li> <li>◎ 敬老会補助金</li> <li>◎ 登別市シルバー人材センター補助金</li> <li>◎ 老人憩の家整備事業</li> </ul>
<p>イ)</p>	<p>高齢者の健康づくり活動の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者が自分の健康を自ら意識して管理できるよう介護予防事業を充実し、健康づくりの支援に努めます。</li> <li>・ 高齢者の健康保持・増進のため、健康相談体制の充実を図ります。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 一次予防事業</li> <li>◎ 二次予防事業</li> </ul>
<p>ウ)</p>	<p>高齢者の生活基盤の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の生活安定のため、介護保険サービスの周知や生活基盤整備に努めます。</li> <li>・ 高齢者が生活しやすい住宅等の改善に向けた相談体制の充実を図ります。</li> <li>・ バリアフリーに配慮した公共施設や暮らしやすい住宅環境など、高齢者の生活基盤整備に努めます。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 住宅改修支援事業</li> <li>◎ 外国人高齢者・障がい者福祉給付金支給事業</li> <li>◎ 高齢者等介護用品給付事業</li> </ul>

## ■ 高齢者福祉の充実

日本人の平均寿命は2013年に初めて男女とも80歳代を超え、世界でも上位の水準にあります。

いつまでも健康に暮らしていけるよう心掛けていても、加齢に伴う心身の衰えなどにより、介護保険サービスなど的高齢者福祉サービスを利用する可能性は誰にでもあります。

高齢者福祉サービスでは、在宅高齢者の身の回りの支援や行動面の支援、権利擁護などさまざまなケースへの対応が求められます。

市は、希望する介護保険サービスが適切に受けられるよう、地域包括ケアシステムの構築を図るとともに、家族介護者の負担軽減策や独居老人の生活支援、認知症高齢者の権利擁護など高齢者福祉の充実に努めます。

ア)	生活支援サービス 機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるようサービス基盤の充実や地域包括ケアシステムの構築を図ります。</li> <li>在宅における家族介護者の介護負担を軽減するために、保健・医療・福祉との連携を深め、在宅介護サービスの充実を図り、家族介護者への支援に努めます。</li> </ul>
イ)	ひとり暮らし 老人の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり暮らし老人等の生活の不安を解消するため、総合的な相談窓口機能の充実を図ります。</li> <li>ひとり暮らし老人等の日常生活の不安解消や人命の安全を確保するため、老人緊急通報システム等の充実を図ります。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 高齢者等緊急通報機器設置</li> </ul>
ウ)	認知症高齢者の 支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう認知症に関する正しい知識の周知啓発に努めます。</li> <li>認知症高齢者等の徘徊に対応するため、地域住民、警察及び交通機関等の協力を得て、行方不明高齢者の捜索・発見・通報・保護や保護後の支援のためのネットワークの充実に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 認知症高齢者等徘徊・見守り（SOS）ネットワーク構築事業</li> <li>◎ 認知症高齢者等GPS貸与事業</li> </ul>

工)	高齢者の権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成年後見制度の周知やその活用を推進し、認知症などの理由で判断能力の不十分な方の保護や支援に努めます。</li> <li>・ 誰もが安心して暮らすことができるよう、高齢者の虐待防止やその早期発見、施設における身体拘束の廃止に向けた取組の徹底に努めます。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 成年後見制度利用支援事業（高齢者）</li> </ul>
オ)	介護保険事業の適切な運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者が住み慣れた地域の中で自立した生活を送るため、安心してサービスを受けられるよう、介護サービス量や質を確保する体制の充実を図り、介護保険事業の健全かつ円滑な運営に努めます。</li> <li>・ 介護サービス事業者が、地域の介護サービス提供についての課題の検討、事業者間の連絡体制の構築を行い、利用者に対して適切なサービスの提供ができるよう事業者との連携に努めます。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 社会福祉法人利用者負担軽減助成金</li> </ul>
カ)	地域包括支援センターによる介護サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括支援センターにより、高齢者の介護や健康など、さまざまな面から高齢者を総合的に支援するなど、介護サービスの充実を図ります。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 地域包括支援センター運営事業</li> </ul>
キ)	質の高い介護サービスの展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被保険者の状態に応じた、適切かつ多様なサービスの提供ができる体制の整備を図ります。</li> <li>・ 介護サービスの量的整備と質の向上を図るため、ケアマネージャーや介護サービスに携わる人材の育成に努めます。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 介護サービス人材確保対策事業</li> </ul>

## b) 自立した暮らしへの支援

重要業績評価指標 (KPI) :

生活困窮者自立支援法に基づく相談件数 30件/年 (平成27年度から実施)

## ■ 自立した暮らしへの支援

やむを得ない理由により、経済的に生活が困窮している方や生活上の問題を抱えている方への就労支援や各種相談を行うとともに、必要な情報提供や助言、求職活動に向けた支援等を行い、自立した暮らしの実現に向けた取組を進めます。

ア)	生活安定対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員児童委員や関係機関との連携を図り、生活困窮者への就労支援、その他の自立の支援に関する相談、生活上の問題を抱える市民への相談や支援に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ たすけあい金庫事業</li> <li>◎ 災害見舞金</li> </ul>
イ)	ひとり親家庭への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり親家庭の生活の安定と向上のため、必要な情報の提供や助言、求職支援、医療費の助成等により、社会的自立に向けて支援します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 母子家庭等自立支援事業 (自立支援教育訓練給付金)</li> </ul>

## c) 暮らしの安心を支える制度

重要業績評価指標 (KPI) : 特定健康診査の受診率 35% (平成26年度 30.2%)

## ■ 安心を支える確かな制度

国民健康保険制度や後期高齢者医療制度などの公的医療保険制度を適切に運営し、加入者の保険給付や疾病予防、健康増進に取り組むほか、国民年金の制度の周知に努め、国等が実施する各種社会保障制度の適正な運用を推進します。

ア)	社会保障制度の適切な運用等	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民健康保険加入者が、必要とする医療保険サービスを受け、健康を保持し、安心して生活を送ることができるよう、疾病や負傷、出産、死亡に関して必要な保険給付を実施し、疾病予防のため、各種健康診査及び健康増進等に取り組みます。</li> <li>後期高齢者医療制度の適切な運用に努めるとともに、健康で生きがいのある生活を送ることができるよう各種健康診査及び健康増進等の事業を推進します。</li> <li>国民年金制度の周知に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 後期高齢者健康診査経費</li> </ul>
----	---------------	---

d) 地域医療の充実

重要業績評価指標 (KPI) : 救急医療の受入時間 24時間 (平成26年度 24時間)

■ 地域医療体制の確保

市民の多様な医療需要に対応するため、医療機関との連携による地域医療体制の確保と介護サービス事業者など各分野との連携を視野に入れ、包括的な医療サービスの提供に努めます。

ア)	地域医療体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の多様な医療需要に応えるため、かかりつけ医の普及に努めるとともに、医療機関の役割分担と連携の促進に努め、きめ細かな医療体制の確立を図ります。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 地域医療対策事業</li> </ul>
イ)	包括的な医療等サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化の進行や生活習慣病の増大など疾病構造の変化などにより、在宅医療や緩和ケア（病気の苦痛の軽減）の必要性が高まっていることから、介護サービスとの連携を強化するなど、患者や家族の意向を尊重した包括的なサービスの提供に努めます。</li> </ul>

■ 救急医療体制の整備

市民が安全安心に暮らせるよう、医療機関と行政がしっかりと連携し、救急医療体制の確保に努めます。

また、公共施設等に設置されているAED（自動体外式除細動器）を使い、正しく心肺蘇生法が実施できるよう救命講習会を実施し、救急への意識啓発に努めるなど、救急医療体制の整備を図ります。

また、救急医療に必要な人材を育成するとともに、救急車両や資器材の充実に努め、救急救命体制の整備を図ります。

ア)	救急医療体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関との連携を図りながら、初期救急から2次救急までの救急医療体制の確保に努めます。</li> <li>乳幼児をもつ保護者が子どもの夜間・休日の急病に不安なく対処できるよう電話相談の普及啓発に努めます。</li> <li>救命率向上のため、心臓マッサージやAEDの使用法など、正しく心肺蘇生法が実施できるよう普通救命講習を行うなど、救急に関する意識の普及啓発に努めます。</li> <li>主要な公共施設に整備しているAEDの設置箇所の情報発信に努めます。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 救急医療対策事業（小児救急医療支援事業）</li> <li>◎ 応急手当普及啓発活動資器材整備事業</li> <li>◎ 救急医療対策事業（救急医療啓発普及事業）</li> <li>◎ 救急医療対策事業（広域救急医療対策事業）</li> <li>◎ 救急講習等普及啓発事業</li> </ul>
イ)	救急救命体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急救命士を養成し、適正配置に努めるとともに、高規格救急車や救急資器材の充実に努め、高度な救命処置ができる救急救命体制の整備を図ります。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 高規格救急自動車更新事業</li> </ul>

## e) 市民の主体的な学習の推進

重要業績評価指標（KPI）：

図書館を利用した市民の割合 13%（平成26年度 10.7%）

## ■ 生涯学習環境の充実

生涯学習環境の充実を図るため、図書館機能の充実、バリアフリー化など生涯学習施設の整備に努めるとともに、生涯学習支援者の確保を図るため、幅広い分野からの人材の発掘と指導者の養成に努めます。

ア)	生涯学習施設の確保と充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習施設のバリアフリー化を推進し、利用者の拡大に努めます。</li> <li>老朽化した生涯学習施設の整備に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 公民館運営管理経費</li> <li>◎ 教育施設運営管理経費</li> </ul>
イ)	生涯学習支援者の育成と確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊富な知識や経験、技能を持つ高齢者、芸術やスポーツなどで活躍している市民など、幅広い分野からの人材の発掘に努めるとともに、人材情報の提供に努めます。</li> <li>行政関係者やNPO法人スタッフ、サークルの指導者など、生涯学習支援者について、各種研修への参加を促すなど資質の向上に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 生涯学習の推進</li> </ul>
ウ)	図書館機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域を支える情報拠点を目指して、利用者の多様なニーズに対応した資料の収集と提供を通して、地域に根ざした図書館づくりに努めます。</li> <li>他の図書館や民間団体などと連携・協力して図書館のあり方を検討します。</li> <li>図書館ボランティアの支援に努めます。</li> <li>子どもの読書活動を推進するため、学校や団体等との連携・協力を通して、子どもの読書環境の整備に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 図書館運営管理事業</li> <li>◎ 移動図書館運行業務委託事業</li> <li>◎ 図書・資料等購入費</li> <li>◎ 図書館ネットワークサービス広域化事業</li> <li>◎ ライブラリースタート事業</li> </ul>

### (3) 基本目標3 各産業が元気に展開されるまちへ

#### ① 基本目標

##### 【数値目標】

**基本計画第3章（観光経済）の市民満足度 74%**  
**（平成25年度 69.2%）**

#### ② 講ずべき施策に関する基本方向

産業及び雇用の創出は、地域の活力向上と人口流出を是正するための基礎となるものです。

事業所へのアンケート調査結果をみると、営業年数が30年以上の事業所が多く、約9割以上が、今後も市内で事業を継続していくことを考えています。

昨今の売上低迷については、人口減少や少子高齢化の影響が大きいと回答しており、人口に関する各種対策が求められています。また、今後、市内で事業を継続していくための「顧客・利用者確保に対する支援」、「新たな販路拡大に対する支援」、「後継者・従業員確保に対する支援」などが求められています。

一方、高校生・専門学校生アンケート調査結果をみると、市外への就職理由として、市内に志望する企業が少ないという指摘も挙げられています。

事業所の地域連携に関しては、地域連携を行っている事業所は1割程度に留まっていますが、将来的に、業務上連携が可能な分野としては、「医療・福祉」や「学術研究・専門・技術サービス業」などが挙げられています。

当市では、かねてより加工食品のブランド化やご当地グルメの開発など地域の特色を活かした取り組みが行われていることから、このような当市の現状と意向調査結果を踏まえ、今後はより一層の情報発信や企業間の連携など、活力ある市内企業の育成に努めます。さらに、新たな企業の創出や育成支援などにも努め、「活力ある複合的産業基盤の形成」を行っていきます。

また、若者から高齢者の就業支援だけでなく、仕事と家庭の両立を支援するために、女性の就業支援など「雇用の安定と快適な就業環境づくりの推進」を行っていきます。

一方、市内の主力産業の一つである観光産業についても、「魅力ある観光地づくり」を行うことで、産業の活性化につなげます。

さらに、農業・漁業については、特色ある取組と高付加価値化を目指すとともに、新規就農者・担い手農業者への支援など、時代に応じた取り組みを行い、「特色ある農業・漁業の推進」を行います。

人口流出を防ぐとともに、市内で事業を継続したいと思う企業、観光、農業・漁業などを支援することにより、『各産業が元気に展開されるまちへ』の実現を目指します。



③ 具体施策と重要業績評価指標（KPI）

a) 活力ある複合的産業基盤の形成

重要業績評価指標（KPI）：	
商業販売額（卸・小売販売額）	39,297,000 千円（平成 24 年度 39,297,000 千円）
製造品出荷額	15,330,290 千円（平成 25 年度 15,330,290 千円）

■ 活力ある市内企業の育成

中小企業者等を支援する情報の発信や市内の産業・経済の実態を把握するため、データの収集・分析・発信に努めるとともに、経営基盤の強化や経営支援機能の充実に努めます。

併せて、中小企業者等が取り組む新技術・新製品の開発や農水産業、商工業、観光業等の産業間の連携、産学官の連携を促進します。

また、市内で開発・製造された製品等の高付加価値化を促進し、積極的に情報発信することにより、ブランド力の強化と事業機会の拡大を図ります。

さらに、商店街に市内外から買い物客が訪れるよう商店会等による賑わいの創出や環境整備などの主体的な取組を支援します。

ア)	経営基盤の強化と 経営支援機能の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域経済の健全な発展及び中小企業の基盤の強化を促進し、市民生活の向上と地域の活性化を図るため、地域経済振興に係るビジョンを示し、市、中小企業者等及び市民が協働して地域経済の活性化を図る取組を推進します。</li> <li>・ 中小企業者等に対する経営支援機能の充実に努めるとともに、経営強化や体質改善などの取組を支援します。</li> <li>・ 経営者の確保・育成を図る取組を支援します。</li> <li>・ 運転、設備資金を低利で融資し、安定した経営基盤づくりを支援します。</li> <li>・ 中小企業者等を支援する情報や市内の経済・産業に関する情報を収集、分析、発信するとともに、中小企業者等が持つ優れた技術や製品、取組などの情報発信に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 中小企業相談事業補助金</li> <li>◎ 中小企業特別融資利子補給金</li> <li>◎ 中小企業特別融資制度</li> <li>◎ 中小企業地域経済振興協議会経費</li> </ul>
----	---------------------------	--

イ)	製品等の魅力の向上とブランド力 ・技術力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工食品の認定制度やご当地グルメの開発など、食の魅力の向上に取り組むとともに、農水産物や工業製品など、地元産品の情報発信に努め、ブランド力の強化を図ります。</li> <li>産学官の連携のもと、市内企業の技術力の強化や研究開発等を支援し、新技術・新製品の開発を促進します。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 登別ブランド推進事業補助金</li> </ul>
ウ)	事業機会の拡大と 域内循環の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内企業が持つ優れた製品や技術などの情報発信に努めるとともに、産業フェアや商談会等への参加を支援し、国内外における事業機会の拡大を図ります。</li> <li>札幌圏の経済関係者との情報交換を通して市内企業のビジネスチャンスの拡大を図ります。</li> <li>生産、加工、販売（消費）など、食による関連産業の連携を強化することにより、市内における企業間取引を促進します。</li> <li>住宅改良に伴う低利融資を行い、住宅関連産業の受注機会の拡大を図ります。</li> <li>市内企業や経済団体等との連携を図りながら、市民の市内消費を促す取組を推進します。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 商談会等出展補助金</li> <li>◎ 住宅改良促進特別融資制度</li> </ul>
エ)	にぎわい溢れる 商業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力的な店舗づくりや情報通信技術を活用した商業活動など、事業者の主体的な取組を支援します。</li> <li>市外からも買い物客が訪れる魅力溢れる商店街づくりを推進するため、商店会等が取り組むにぎわいの創出や店舗等の魅力を高めるための環境整備を支援します。</li> <li>身近な地域で買い物ができるよう、商店街等への新規出店を促進するとともに、多様な買い物ニーズに対応したサービスの提供を支援します。</li> <li>商店街が地域コミュニティの中心となるための取組を支援します。</li> <li>消費税免税店の普及促進や飲食店メニュー等の多言語化を推進し、外国人観光客の利便性の向上を図ります。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 店舗リフォーム補助金</li> <li>◎ 商店街活性化支援事業補助金</li> </ul>

## ■ 市内産業を担う新たな企業の創出

起業・創業や新たな企業の立地等は、地域経済に新陳代謝をもたらし、複合的産業基盤の形成の一助になることから、起業・創業に向けて取り組む人材を育成・支援するとともに、企業立地の推進や新分野進出、新産業の創出に向けた取組を支援します。

また、エネルギー、環境、健康、食、観光など、将来の成長が見込まれる産業の創出を支援します。

ア)	起業・創業の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 起業・創業に向けて取り組む人材を育成・支援するとともに、起業後の活動を支援することにより、市内における起業・創業を促進します。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 事業所開設費補助金</li> <li>◎ 空き店舗活用事業補助金</li> </ul>
イ)	企業立地の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術集積や物流機能及び交通アクセスなどの立地情報を発信し、進出の意向を示す企業を総合的に支援することにより、製造業や情報通信業、運輸業、卸売業などの広範な企業立地を推進します。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 企業立地振興補助金</li> <li>◎ 企業誘致等経費</li> </ul>
ウ)	新分野進出と新産業創出の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域資源や技術を活用した地場製品の創出や新たな技術の事業化、新たなサービスの提供等の新たな分野に進出する取組を支援します。</li> </ul> <p>エネルギー、環境、健康、食、観光など、将来の成長が見込まれる産業の創出に向けた取組を支援します。</p> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ものづくり創出支援事業負担金</li> <li>◎ 再生可能エネルギー普及促進事業費</li> </ul>

b) 雇用の安定と快適な就業環境づくりの推進

重要業績評価指標（KPI）：有効求人倍率 1.00倍（平成26年度 0.92倍）

■ 生涯を通して働ける環境づくり

ハローワーク等と連携し、雇用情報の提供や就職に向けた相談等を行うことにより、求職者等の就業を支援するとともに、労働問題を抱える市民の相談に応じ、適切な助言、指導等を行う取組を支援します。

また、労働実態の把握に努めるとともに、就業条件の改善や労働環境整備のための啓発活動を推進することにより、市内企業における安定的な人材の確保及び定着に努めます。

ア)	雇用情報の提供やキャリア教育の推進等による就業の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハローワークと連携し、雇用情報の提供や就労に向けた相談等を行うことにより、求職者等の就業を支援します。</li> <li>・ 高校生を対象に、インターンシップ（就業体験）やセミナーなどのキャリア教育を推進するとともに、若年者等が就職活動等において抱える不安や悩みなどを解消し、自主的・積極的に就職活動できるよう支援します。</li> <li>・ 仕事と家庭の両立に対する理解を深めるなど、女性が働きやすい環境づくりを推進します。</li> <li>・ 高齢者や障がい者、季節労働者等の生活の安定を図るため、就業機会の確保や通年雇用化に向けた取組を推進します。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 高校生就職フォローアップ事業</li> <li>◎ 若年者等キャリアカウンセリング事業</li> <li>◎ 雇用対策救援事業</li> </ul>
イ)	労働環境の向上と勤労者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労働相談等の取組を支援し、職場環境の改善や勤労者の生活向上に努めます。</li> <li>・ 勤労者の生活に必要な生活資金・教育資金を低利で融資し、生活の安定と福祉の向上に努めます。</li> <li>・ 労働状況の実態把握に努めるとともに、就業条件や労働環境整備のための啓発活動を推進します。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 労働相談事業助成金</li> <li>◎ 勤労者特別融資制度</li> </ul>

## ■ 産業を担う人材の育成

市内企業等で働く技能労働者の技術や専門知識の習得・向上、非正規労働者等の職業能力の向上・開発に向けた取組を支援するとともに、日本工学院北海道専門学校の人材育成を図る取組を支援することにより、登別市の産業を担う人材の育成に努めます。

ア)	職業能力の向上・ 開発の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市内企業で働く勤労者の技術の習得・向上を支援し、地域に根ざした技能労働者の育成に努めます。</li> <li>• 観光業や商工業など、地域の産業を担う人材の育成に努めます。</li> <li>• 地域が必要とする高い技術や専門知識を有した人材を創出する日本工学院北海道専門学校の活動を支援します。</li> <li>• 国や北海道、関係機関と連携し、非正規労働者等の職業能力の向上・開発に向けた取組を推進します。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <p>◎ 事業内職業訓練助成金</p>
----	-------------------	--

c) 魅力ある観光地づくり（各産業が元気に展開されるまちへ）

重要業績評価指標（KPI）：

観光入込客数（年間） 4,400 千人（平成 26 年度 3,536 千人）

■ 国内外の観光客に優しい観光地づくり

観光客が観光施設を安全安心かつ快適に利用できるよう、地獄谷、大湯沼周辺の遊歩道、親水施設等を整備し、適切な維持管理を図るとともに、国内外から訪れる観光客に対応できる観光案内板の設置や維持管理を図ります。

併せて、観光道路等の緑化や景観維持を推進するとともに、ホスピタリティの向上を目指した取組をまちぐるみで推進し、観光客のニーズに応じた情報発信や観光案内を目指します。

ア)	温かいおもてなしの心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光に携わる事業者が、観光客におもてなしの心で提供できる取組を推進します。</li> <li>市民が、地域の魅力をよく自覚し、ホスピタリティの向上を目指した取組を推進します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 観光ホスピタリティ推進事業補助金</li> </ul>
イ)	安全安心な観光施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客がより快適に利用できるよう遊歩道や観光案内板など、観光施設の整備と維持管理を図ります。</li> <li>観光道路等の緑化や景観維持を推進します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 国立公園内観光施設維持管理事業</li> <li>◎ カルルス温泉サンライバスキー場事業</li> </ul>
ウ)	観光客受入体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光案内所の多言語化や広域的な情報提供等を推進し、観光客への対応強化を図ります。</li> <li>登別地区での観光案内の充実や利便性の向上を図るなど、観光客を迎え入れる体制整備を推進します。</li> <li>市内免税店の店舗情報の発信に取り組み、観光客の利便性の向上を図ります。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ （一社）登別観光協会運営事業助成金</li> <li>◎ フラワーファンタジーロード事業補助金</li> <li>◎ インフォメーションプラザ事業補助金</li> <li>◎ 観光客受入環境整備事業</li> <li>◎ 登別湯之国旅行券発行事業</li> </ul>

## ■ 感動と癒しのある観光地づくり

多様化する観光ニーズの変化に対応するため、市内のさまざまな地域資源を活用して観光資源の充実を図るとともに、それらの観光資源を組み合わせた新たな観光プログラムを創出・企画し、観光客へ提供できる仕組みづくりを進めます。

また、賑わいある観光地づくりを推進するとともに、近隣市町の観光資源を活用することにより、登別市を拠点とした滞在型観光を推進します。

ア)	観光資源の 充実と利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 多様化する観光ニーズに対応するため、食、ショッピング、自然など、市内のさまざまな地域資源を活用し、観光資源の充実を図ります。</li> <li>• 体験型観光資源や温泉資源を活用し、教育旅行への利用や市民等の利用を促進します。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <p>◎ 温泉供給施設維持管理事業</p>
イ)	滞在型観光の 推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 観光客が安全安心なまち歩きを楽しめる賑わいのある観光地づくりを推進します。</li> <li>• 観光客が観光や体験型レジャーを楽しめるよう食や自然、歴史や文化、健康などさまざまな観光資源を組み合わせた観光プログラム等を創出・企画し、観光客への提供に努めます。</li> <li>• 近隣市町の観光資源を活用することにより、登別市を宿泊拠点とした周遊型観光を推進し、観光客の滞在日数の増加を図ります。</li> </ul>

**■ 多様な誘客事業の推進**

高度情報化に伴う観光情報の収集手段の多様化に対応するため、従来のポスター、パンフレット等の紙媒体やホームページに加え、ソーシャルネットワーキングサービス等の多様な電子媒体を活用し、多言語化も含めた情報発信を推進します。

また、各地で開催される観光イベント等への参加、観光プロモーションの企画・実施、旅行会社等の招請等に取り組み、国内外への情報発信に努めることにより、交流人口の増加を目指します。

<p>ア)</p>	<p>魅力ある観光情報の発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多言語を考慮したホームページ、ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）等の電子媒体や観光パンフレット、ポスター等の紙媒体を活用し、観光ニーズに対応した情報発信に努めます。</li> <li>・ 北海道新幹線の開業やアイヌ文化に関する国立博物館の白老町での開設、さらには東京オリンピック・パラリンピックの開催などを重要な機会と捉え、これを積極的に活用した誘客の取組を推進します。</li> <li>・ 各地域で開催される観光イベント等への参加、観光プロモーション、旅行会社等の招請事業など、広域連携により国内外への情報発信事業の取組を推進します。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 登別市・白老町観光連絡協議会負担金</li> <li>◎ 観光客誘致促進事業</li> <li>◎ 北海道新幹線開業観光誘客プロモーション事業</li> <li>◎ 北海道新幹線 x nittan 地域戦略会議経費</li> </ul>
-----------	--------------------	--



## d) 特色ある農業・漁業の推進

重要業績評価指標（KPI）：

乳牛 1 頭当たりの生産乳量 9,000 kg（平成 26 年度 8,590kg）

## ■ 農水産物高付加価値化の促進

クリーン農業の普及や水産物の高度衛生管理対策の強化により、安全性が高く品質の良い農水産物の供給を図るとともに、それらを利用した加工品の研究開発を促進するなど、農水産物の高付加価値化を図ります。

また、地産食材の消費拡大を図るため、地場農水産物に関する情報を市民や食品提供業者に発信するとともに、地域の宿泊施設等での地場産品の利用促進に向けた取組を支援します。

ア)	新鮮で安全安心な農水産物供給の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心な農産物を生産するクリーン農業の普及や水産物の高度衛生管理対策を強化し、安全性が高く、品質の良い農水産物の供給を推進します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 胆振西部乳牛検定組合補助金</li> </ul>
イ)	地場農水産物高付加価値化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場農水産物を利用した加工品の研究開発を促進するなど、高付加価値化を推進し、地場農水産物の消費拡大を図ります。</li> </ul>
ウ)	地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場農水産物に関する情報を市民や食品提供業者に発信し、地産食材の消費拡大を図ります。</li> <li>地域の宿泊施設等での地場産品の利用促進に向けた取組を支援します。</li> </ul>

**■ ゆとりある農業経営の促進**

畜産生産基盤の整備や農地の利用集積を推進し、農業の生産性の向上を図るとともに、市牧場への預託放牧や酪農ヘルパーの活用による労働力軽減を図るなど、ゆとりある農業経営に向けた支援に努めます。

また、観光と連携させた農産物加工体験や農業体験に取り組むなど、都市生活者との交流による農村地域の活性化を図るとともに、新規就業者の確保や担い手の育成を関係機関とともに支援します。

ア)	新規就農者、 担い手農業者 への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報化や高度技術化する農業に対応した新規就農者の確保や担い手農業者の育成を関係機関と連携して支援します。</li> <li>・ ゆとりある酪農・畜産経営の安定化に向け、酪農ヘルパー事業や市牧場への預託放牧などを促進し、労働軽減などを通じた省力化を進めます。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 中山間地域等直接支払交付金</li> <li>◎ 酪農ヘルパー事業補助金</li> <li>◎ 市牧場管理事業</li> </ul>
イ)	農業生産基盤の 整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農地の集約化による利用の効率化を図り、農業の生産性の向上に努めます。</li> <li>・ 飼料基盤や家畜飼養管理施設などの畜産生産基盤の整備を促進します。</li> <li>・ 農道や農地保全施設の整備を図ります。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 農業振興特別補助金</li> <li>◎ 農業用施設管理経費</li> </ul>
ウ)	グリーン ツーリズム (農村との交流を 楽しむ余暇活動) の推進	<p>観光と連携させた農産物加工や農業体験に取り組むなど、都市生活者との交流により、農業への理解を深めるとともに、地域の活性化を図ります。</p> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 札内高原館運営管理事業</li> </ul>
エ)	有害鳥獣の 捕獲推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林水産業や生活環境に被害を及ぼすエゾシカ・アライグマ等の有害鳥獣の捕獲を推進し、農産物等の生産の安定化に努めます。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 有害鳥獣駆除経費</li> </ul>

## ■ 時代に即した漁業生産の基盤づくり

品質・衛生管理による供給基盤の強化を図るとともに、販売イベントの開催や観光地への供給体制の確立による地域内消費の推進と観光産業との相乗効果の発現を図ります。

また、「つくり育てる漁業」や「資源管理型漁業」を推進するとともに、漁業資本装備の近代化への支援や漁港施設の整備を促進するなど、快適で安全な漁業活動の場の確保と漁家経営の安定を図ります。

ア)	マリンビジョンの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>マリンビジョンのコンセプトである登別漁港産水産物を核に徹底した品質、衛生管理の強化を図り、産地基盤が強固になるよう努めます。</li> <li>水産物販売のイベント等を開催し、地産地消の推進や地場水産物の応援団の拡大、地域の活性化を図るとともに、温泉等の周辺観光地への供給体制を確立し、観光産業との相乗効果の発現を図ります。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 地場水産物消費拡大（登別漁港まつり）事業補助金</li> </ul>
イ)	つくり育てる漁業や資源管理型漁業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つくり育てる漁業」や「資源管理型漁業」を推進することにより、新たな水産資源を確保し、漁家経営の安定化を図ります。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ホッキ空貝処分事業補助金</li> </ul>
ウ)	漁業経営の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁船建造等に係る漁業者の経済的負担を軽減することにより、漁業資本装備の近代化を促進し、漁家経営の安定化を図ります。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 漁業近代化資金利子補給金</li> </ul>
エ)	漁港の維持・管理と環境整備促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>登別漁港の衛生管理・就労環境改善対策や防災・減災対策、静穏度対策などを促進します。</li> <li>漁港の適切な維持管理や環境整備を行うことにより、快適で安全な漁業活動の場や地域住民の交流の場の確保に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 登別漁港維持管理事業補助金</li> <li>◎ 鷺別漁港維持管理事業補助金</li> </ul>

---

#### (4) 基本目標4 観光地としての魅力づくり

---

##### ① 基本目標

**【数値目標】**

**観光施策の市民満足度 84%(平成25年度 79.1%)**

##### ② 講ずべき施策に関する基本方向

登別市へ訪れる方を増やすことは、来登者が増える事のみならず、リピーターや移住者が増える可能性も考えられるなど、交流人口の増加に向けて、魅力あるまちづくりに取り組む必要があります。

高校生・専門学校生アンケート調査結果をみると、若い世代が感じる登別市の良いところとして、温泉地が充実している点が挙げられています。

また、登別市の将来像としても、「自然や観光地を全面に打ち出した観光都市」が求められています。

全国的にも有名な登別温泉など地域固有の資源や、地域の歴史や文化など有形無形の資源などの「文化の保存・継承」を行うとともに、魅力ある観光地としての整備や人材育成、観光PRなど「魅力ある観光地づくり」を行い、『観光地としての魅力づくり』の実現を目指します。

## ③ 具体施策と重要業績評価指標（KPI）

## a) 魅力ある観光地づくり（観光地としての魅力づくり）

重要業績評価指標（KPI）：

観光入込客数（年間） 4,400 千人（平成 26 年度 3,536 千人）

## ■ 国内外の観光客に優しい観光地づくり

観光客が観光施設を安全安心かつ快適に利用できるよう、地獄谷、大湯沼周辺の遊歩道、親水施設等を整備し、適切な維持管理を図るとともに、国内外から訪れる観光客に対応できる観光案内板の設置や維持管理を図ります。

併せて、観光道路等の緑化や景観維持を推進するとともに、ホスピタリティの向上を目指した取組をまちぐるみで推進し、観光客のニーズに応じた情報発信や観光案内を目指します。

ア)	温かいおもてなしの心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光に携わる事業者が、観光客におもてなしの心で提供できる取組を推進します。</li> <li>市民が、地域の魅力をよく自覚し、ホスピタリティの向上を目指した取組を推進します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 観光ホスピタリティ推進事業補助金</li> </ul>
イ)	安全安心な観光施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客がより快適に利用できるよう遊歩道や観光案内板など、観光施設の整備と維持管理を図ります。</li> <li>観光道路等の緑化や景観維持を推進します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 国立公園内観光施設維持管理事業</li> <li>◎ カルルス温泉サンライバスキー場事業</li> </ul>
ウ)	観光客受入体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光案内所の多言語化や広域的な情報提供等を推進し、観光客への対応強化を図ります。</li> <li>登別地区での観光案内の充実や利便性の向上を図るなど、観光客を迎え入れる体制整備を推進します。</li> <li>市内免税店の店舗情報の発信に取り組み、観光客の利便性の向上を図ります。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ （一社）登別観光協会運営事業助成金</li> <li>◎ フラワーファンタジーロード事業補助金</li> <li>◎ インフォメーションプラザ事業補助金</li> <li>◎ 観光客受入環境整備事業</li> <li>◎ 登別湯之国旅行券発行事業</li> </ul>

**■ 感動と癒しのある観光地づくり**

多様化する観光ニーズの変化に対応するため、市内のさまざまな地域資源を活用して観光資源の充実を図るとともに、それらの観光資源を組み合わせた新たな観光プログラムを創出・企画し、観光客へ提供できる仕組みづくりを進めます。

また、賑わいある観光地づくりを推進するとともに、近隣市町の観光資源を活用することにより、登別市を拠点とした滞在型観光を推進します。

ア)	観光資源の充実と利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 多様化する観光ニーズに対応するため、食、ショッピング、自然など、市内のさまざまな地域資源を活用し、観光資源の充実を図ります。</li> <li>• 体験型観光資源や温泉資源を活用し、教育旅行への利用や市民等の利用を促進します。</li> </ul> <p><u>【主な事業・取組】</u></p> <p>◎ 温泉供給施設維持管理事業</p>
イ)	滞在型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 観光客が安全安心なまち歩きを楽しめる賑わいのある観光地づくりを推進します。</li> <li>• 観光客が観光や体験型レジャーを楽しめるよう食や自然、歴史や文化、健康などさまざまな観光資源を組み合わせた観光プログラム等を創出・企画し、観光客への提供に努めます。</li> <li>• 近隣市町の観光資源を活用することにより、登別市を宿泊拠点とした周遊型観光を推進し、観光客の滞在日数の増加を図ります。</li> </ul>

## ■ 多様な誘客事業の推進

高度情報化に伴う観光情報の収集手段の多様化に対応するため、従来のポスター、パンフレット等の紙媒体やホームページに加え、ソーシャルネットワーキングサービス等の多様な電子媒体を活用し、多言語化も含めた情報発信を推進します。

また、各地で開催される観光イベント等への参加、観光プロモーションの企画・実施、旅行会社等の招請等に取り組み、国内外への情報発信に努めることにより、交流人口の増加を目指します。

ア)	魅力ある観光情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多言語を考慮したホームページ、ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）等の電子媒体や観光パンフレット、ポスター等の紙媒体を活用し、観光ニーズに対応した情報発信に努めます。</li> <li>・ 北海道新幹線の開通やアイヌ文化に関する国立博物館の白老町での開設、さらには東京オリンピック・パラリンピックの開催などを重要な機会と捉え、これを積極的に活用した誘客の取組を推進します。</li> <li>・ 各地域で開催される観光イベント等への参加、観光プロモーション、旅行会社等の招請事業など、広域連携により国内外への情報発信事業の取組を推進します。</li> </ul> <p><b>【主な事業・取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 登別市・白老町観光連絡協議会負担金</li> <li>◎ 観光客誘致促進事業</li> <li>◎ 北海道新幹線開業観光誘客プロモーション事業</li> <li>◎ 北海道新幹線 x nittan 地域戦略会議経費</li> </ul>
----	-------------	--

b) 文化の保存・継承

重要業績評価指標 (KPI) :

歴史文化施設入館者数 5,700人/年 (平成26年度 5,490人/年)

■ 歴史の伝承と活用

既存施設の有効活用と整備に努め、郷土の歴史を学ぶ場の充実を図るとともに、登別市の歴史や郷土の文化・芸能に触れる機会づくりや活動への支援に努め、歴史の伝承と活用を図ります。

ア)	郷土の歴史を学ぶ場の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>登別市の歴史を学ぶことができるよう、歴史資料を適切に保存し、調査・研究を進めます。</li> <li>登別市の歴史資料を市民に分かりやすく展示し、郷土を知る機会の充実に努めます。</li> <li>講演会、講座、体験などの学習会を開催し、登別市の歴史や文化を学べる機会の充実に努めます。</li> <li>幌別鉱山の歴史をネイチャーセンターで伝えるなど、既存施設の有効活用を図るほか、郷土資料館やのぼりべつ文化交流館などの施設整備に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 郷土資料館運営管理経費</li> <li>◎ 文化伝承館運営管理経費</li> </ul>
イ)	埋蔵文化財の保管、展示施設の整備と学習会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財出土品を適切に保管・展示し、児童生徒や市民が体験学習できる施設の充実に努めます。</li> <li>市内の埋蔵文化財等について調査・研究を進めるとともに出前講座などの学習会等を開催して市民が登別市の歴史を学べる機会を拡充し、周知に努めます。</li> <li>郷土史関係者との連携を深めるとともに、登別市の埋蔵文化の適切な保存に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 文化財保護経費</li> <li>◎ のぼりべつ文化交流館運営管理経費</li> </ul>
ウ)	地域文化・郷土芸能に触れる機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域文化を学ぶ機会を提供するとともに、地区の歴史を知る方からの聞き取り調査等を実施し、登別市の歴史を伝承します。</li> <li>子どもたちが学校や地域で継続的に郷土芸能に触れる機会の取組や活動の支援に努めるとともに、郷土芸能を継承する資料や道具、映像の保存に努めます。</li> <li>町内会史など市の歴史に関わる資料の収集を行い、市史を発行します。</li> </ul>



---

**(5) 基本目標5 移住・定住したいまちへ**

---

**① 基本目標****【数値目標】****ちょっと暮らし（体験移住者） 200人/年（平成26年度 96人/年）****② 講ずべき施策に関する基本方向**

地方への新しい人の流れをつくるためには、移住・定住施策が欠かせません。来登者や観光客の方などに、登別市を知っていただき、まちに住みたいと思ってもらえるような施策を推進します。

また、移住・定住を希望していても、どうしていいかわからない、情報が欲しい方に対しても、機会の提供や情報提供の拡大を行うことにより、『移住・定住したいまちへ』を実現していきます。

③ 具体施策と重要業績評価指標（KPI）

a) 国内における交流の場と機会の拡大

重要業績評価指標（KPI）：

姉妹都市（四五都市を含む）都市間交流人数 700人/年  
 （平成26年度 480人/年）

■ 国内のさまざまな地域との交流の推進

近隣市町との連携による広域行政に取り組み、効率的な行政運営に努めるとともに、姉妹都市である宮城県白石市や神奈川県海老名市などの民間及び行政間の交流を推進します。

また、東京登別げんきかいや札幌のぼりべつ会、登別市ふるさと大使の協力のもと、登別市の情報の受発信に努めます。

ア)	広域行政の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な行政運営を図るため、日胆地域や西胆振の市町、白老町等との連携を進め、広域行政に取り組みます。</li> <li>地方自治体における共通の課題に対応するため、近隣市町や関係する市等との協議を進めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>西いぶり広域連合を核とした取組（電算処理など）</li> </ul>
イ)	姉妹都市交流等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮城県白石市及び神奈川県海老名市との姉妹都市盟約に基づき、物産展などの経済交流、児童生徒のスポーツ交流や民間による文化交流などを推進します。</li> <li>四五都市連絡協議会を構成している東京都福生市、滋賀県守山市との交流を推進します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 登別・白石・海老名友好交流事業</li> </ul>
ウ)	札幌圏・首都圏における交流拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京登別げんきかいや札幌のぼりべつ会を通じて、首都圏や札幌圏の人々との情報交換を進めます。</li> <li>登別市ふるさと大使へPRカード（名刺）や広報紙などを提供し、ふるさと大使と連携しながら、地域ブランドやふるさとの情報の発信に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 東京登別げんきかい交流事業</li> <li>◎ 登別市ふるさと大使事業</li> <li>◎ 札幌のぼりべつ会交流事業</li> </ul>

## b) 海外との交流の場と機会の拡大

重要業績評価指標 (KPI) :

国際理解講座への参加者数 70人/年 (平成26年度 53人/年)

## ■ 地域国際化の推進

海外の友好都市との人的、文化的な交流に努めるとともに、ALT (外国語指導助手) や外国からの研修生を受け入れ、国際社会に対応できる人材育成に努めます。

また、国際交流団体の活動を支援し、国際協力・貢献活動を奨励するとともに、多言語看板の整備など、外国人が快適に滞在できるまちづくりを進めます。

ア)	国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流団体が受け入れる研修生の活動の支援に努めます。</li> <li>友好都市のデンマーク「ファボー・ミッドフュン市」、中国「広州市」及びアメリカ合衆国北マリアナ諸島「サイパン市」と人的、文化的な交流を推進します。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <p>◎ 国際交流推進事業</p>
イ)	外国人が快適に滞在しやすいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人にもわかりやすい情報提供を行い、快適に滞在できるまちづくりを進めるとともに、市民のホスピタリティ精神の醸成に努めます。</li> </ul>
ウ)	国際性豊かな人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT (外国語指導助手) や外国からの研修生の受入れを積極的に行うとともに、次代を担う青少年が諸外国の生活や異文化に接する機会をより多く提供し、国際感覚をもてる市民の育成に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <p>◎ 登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業</p>
エ)	国際協力・貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流団体の活動を助長し、国際的な理解を深めるとともに国際協力・貢献活動を奨励します。</li> </ul>

c) **定住の地を求める人の勧誘と定住支援**

重要業績評価指標（KPI）：

移住ワンストップ窓口への相談者数 55人/年（平成26年度 39人/年）

■ **移住・定住の受入態勢の充実**

人口減少に対応するため、他市町村に居住する移住・定住希望者に対し、迅速かつ有益な情報提供を行うため、移住相談窓口のワンストップサービスを行い、ショートステイや二地域居住等の拡充も視野に、移住誘致の促進を図ります。

また、移住先を求める方に対しては、観光振興の視点も加味しながら、移住を検討するうえで必要となる情報やまちの魅力を発信します。

ア)	移住・定住 相談体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移住に関する問い合わせに対し、迅速かつ有益な情報提供を行うため、移住相談窓口のワンストップサービスを行い、きめ細やかな対応に努めます。</li> <li>・ 宅地や住宅などの需要に対応するため、民間を含めた情報提供に努めます。</li> <li>・ 定住を促進するためには、地域の理解が必要なことから、地域住民との連携を図ります。</li> <li>・ ショートステイに対応するため、関係団体等と連携し、ウィークリーマンションなどの活用に努めます。</li> <li>・ 市や北海道等のホームページにおける移住・定住情報において、まちの概要やセールスポイントなどをPRするとともに、さまざまな機会を通じ、情報提供に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 移住促進事業</li> <li>◎ きて・みて・体感のほりべつ移住促進事業</li> </ul>
イ)	移住体験の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3大都市圏等を主なターゲットとし、他市町村からの移住促進に努めます。</li> <li>・ リピーターの増加を図るため、観光事業と連携しながら、広域的な連携に努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ちょっと暮らし（移住体験）を活用した移住促進</li> </ul>

■ **人口流出の阻止・都市機能の充実**

これからのまちづくりは、各市町村において、市民生活に最低限必要とする施設等を備えるとともに、近隣自治体の機能を十分活用するなど、自治体単独でのまちづくりに加え、広域的な連携のもと、行政運営に努めることが必要です。

このため、定住自立圏での取組に引き続き参画し、中心市との役割分担のもと、連携を図りながら圏域における都市機能の充実に努めます。

ア)	定住自立圏の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定住自立圏形成協定を締結した中心市の都市機能を活用するとともに、役割分担のもと、連携を図りながら、くらしやすいまちづくりに努めます。</li> </ul> <p>【主な事業・取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 西胆振定住自立圏の形成に関する協定に基づく取組</li> <li>◎ 「生涯活躍のまち」構想の実現に向けた調査検討</li> </ul>
----	----------	---

## 参考資料 アンケート調査結果

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

人口の将来展望や戦略を検討するうえでの基礎資料とするために、アンケート調査を実施した。

なお、アンケートの設問設計に関しては、当市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の3つの戦略の柱（平成27年2月 市政執行方針より）との整合を図った。

- 子どもを生み育てやすいまちへ
- 安心して老いを迎えることができるまちへ
- 各産業が元気に展開されるまちへ

### (2) 調査日時

アンケートの配布は、7月上旬に実施した。

### (3) 対象者

	区分	対象者
1	子育て	現在またはこれから結婚、出産、子育てを行うと想定される世代の18～44歳の男女（市内在住）
2	高齢者	現在またはこれから老後を向かえる世代の55歳・65歳・75歳の男女（市内在住）
3	高校生	将来の登別市を支える全高校生の男女（登別青嶺高校、登別明日中等教育学校）
4	専門学校生	将来の登別市を支える専門学校生の最高学年の男女（日本工学院北海道専門学校）
5	事業者	市内の営業している事業所（第1次産業～第3次産業）

### (4) 配布回収数

アンケートの回収数は、以下の通りとなっている。

表 アンケート回収率

	区分	発送数（票）	回収数（票）	回答率（％）
1	子育て	800	197	24.6%
2	高齢者	500	228	45.6%
3	高校生	686	661	96.4%
4	専門学校生	475	236	49.7%
5	事業者	200	81	40.5%

### (5) 調査結果

調査結果を、次ページ以降に示す。回答の割合については、四捨五入のため合計値が100%にならない場合がある。

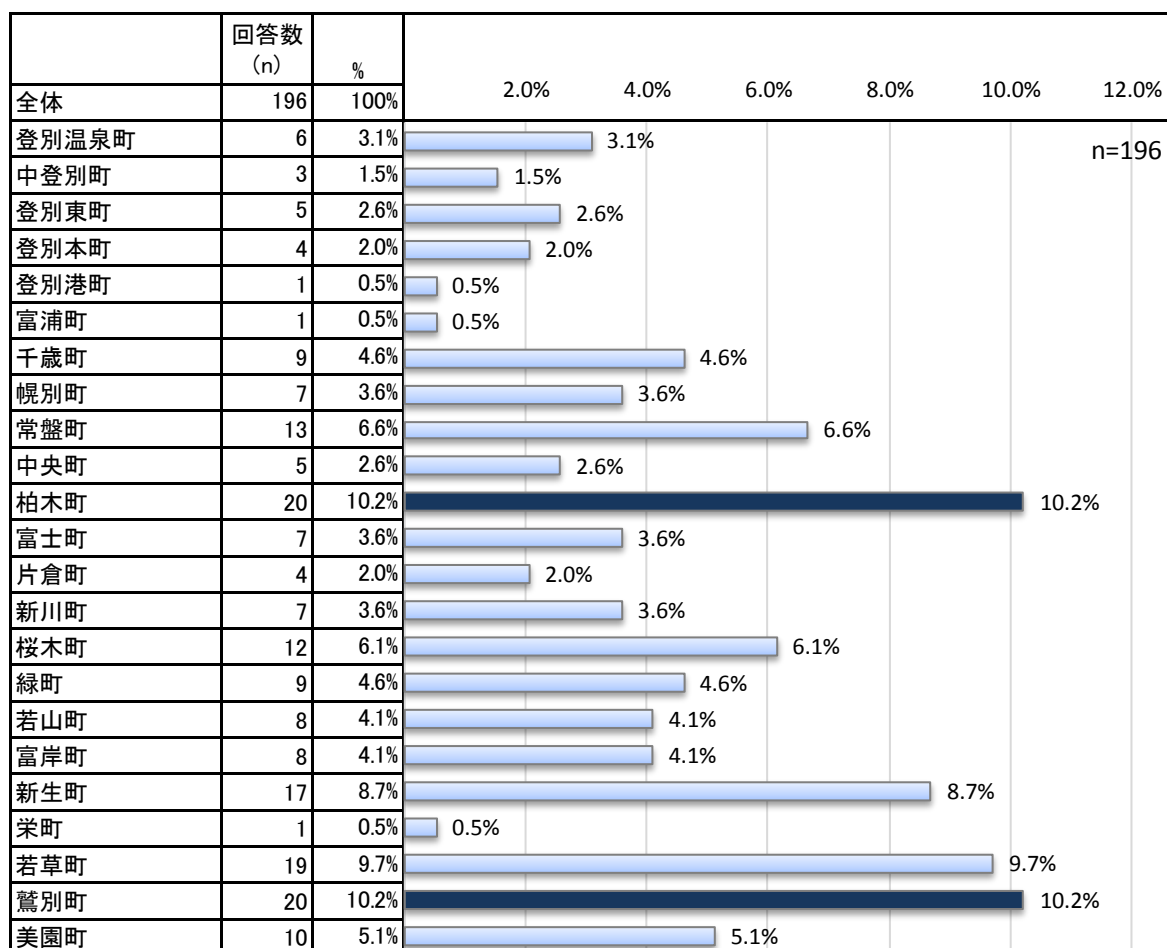
## 2. 調査結果

### (1) 子育て施策向けアンケート結果

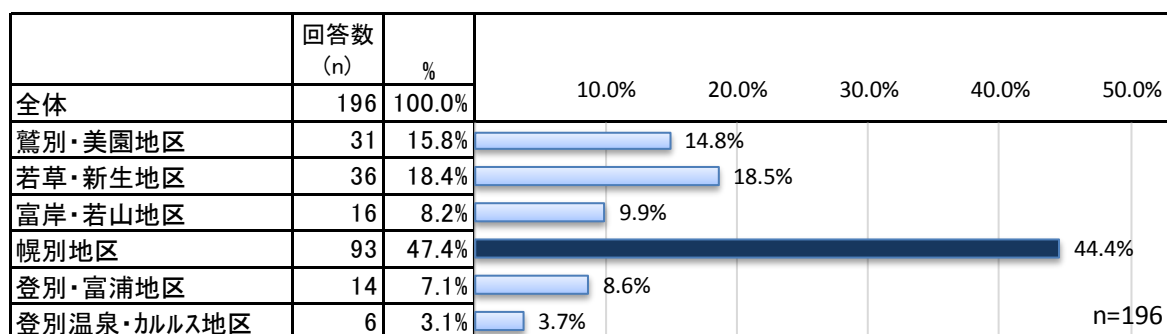
#### ① 基本属性

問1 あなたのお住まいの町名を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、「柏木町」・「鷺別町」が10.2%、次いで「若草町」が9.7%となっています。

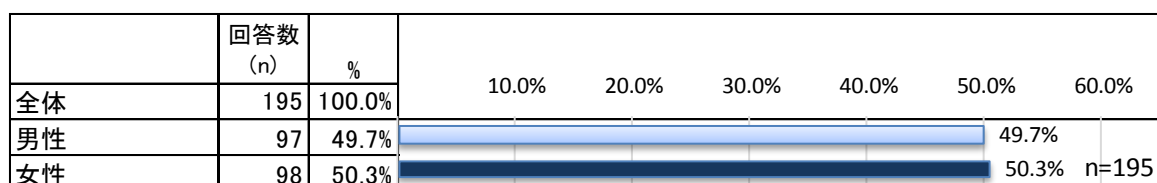


[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]



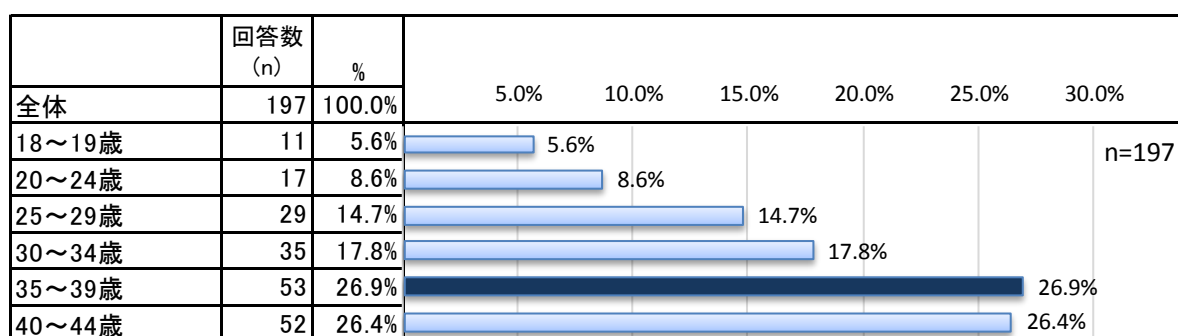
問2 あなたの性別を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の性別は、「男性」が49.7%、「女性」が50.3%となっています。



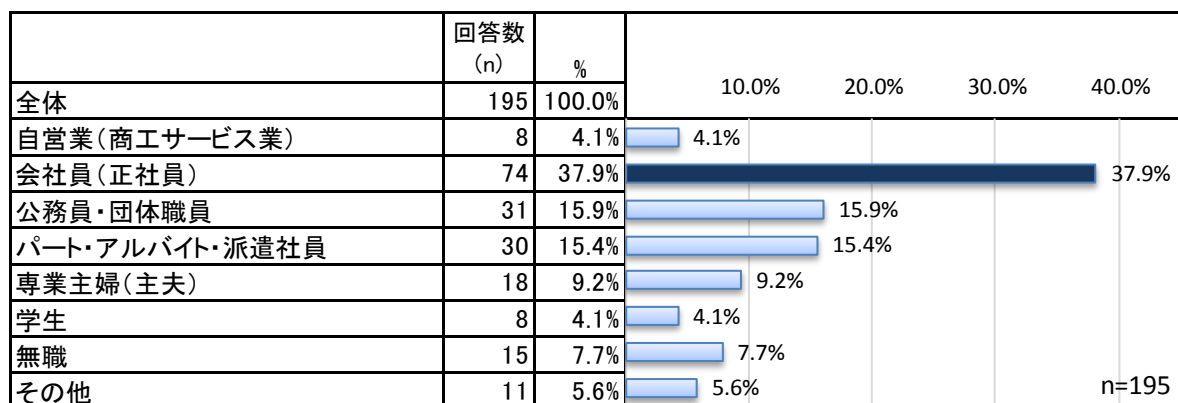
問3 あなたの年代（平成27年4月1日現在）を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の年代は、「35～39歳」が26.9%と一番多くなっています。



問4 あなたの職業を教えてください（1つだけ選び番号に○）

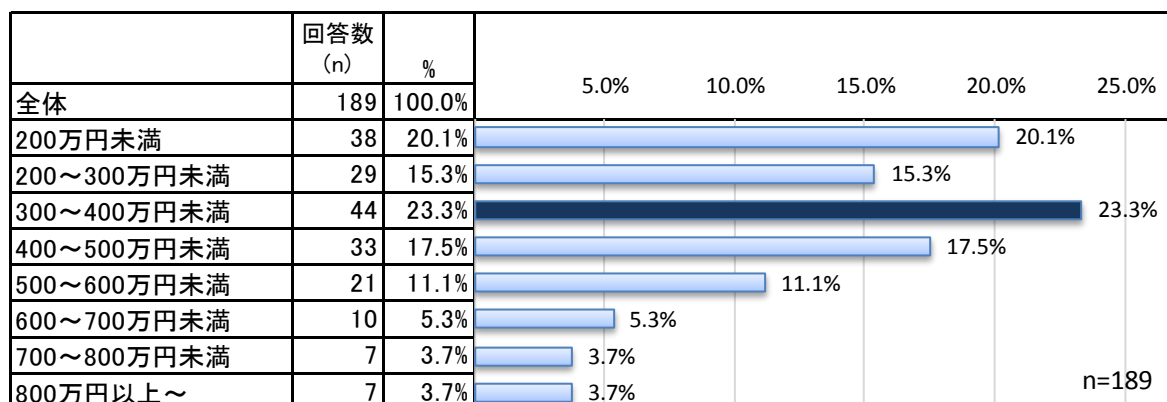
回答者の職業は、「会社員（正社員）」が37.9%と一番多くなっています。





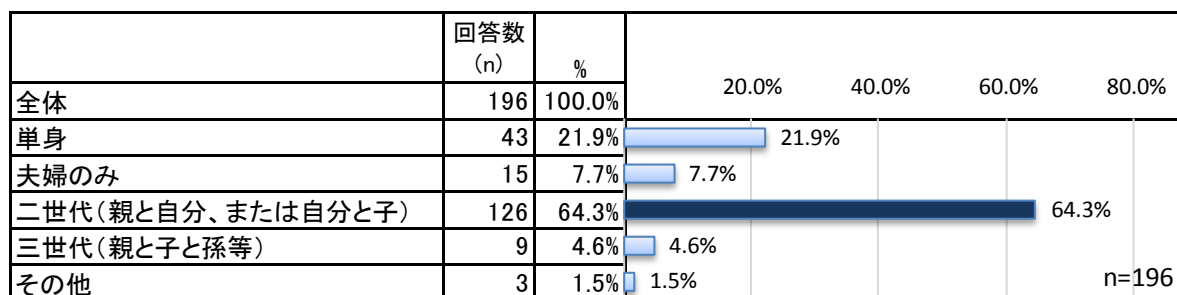
問5 あなたの世帯の収入について教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の世帯収入は、「300～400万円未満」が23.3%と一番多くなっています。



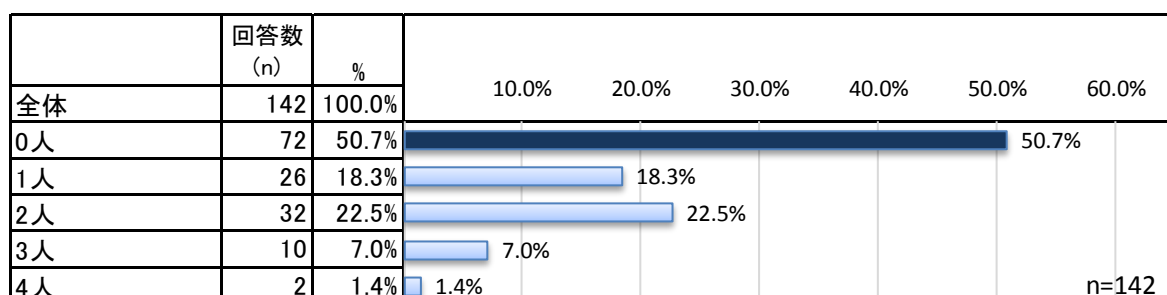
問6 あなたの世帯構成を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の世帯構成は、「二世帯(親と自分、または自分と子)」が62.8%、次いで「単身」が21.9%となっています。



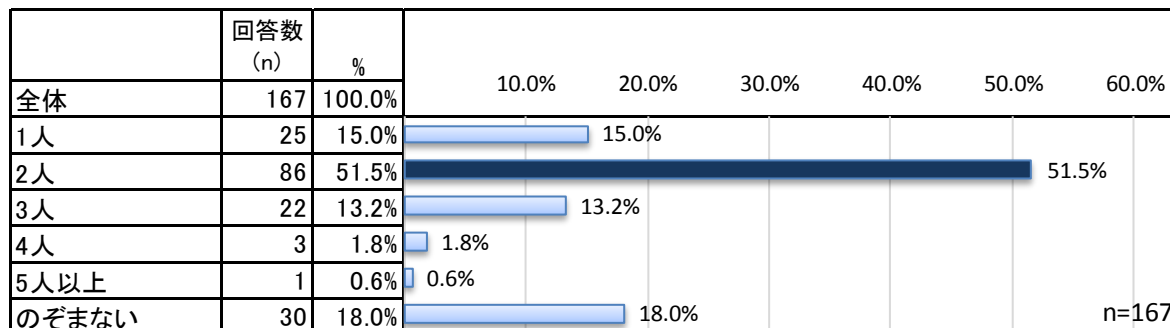
問7 あなたの子ども的人数を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の子どもの数は、「0人(いない)」が50.7%と半数を占めています。



問8 あなたは、将来、子どもを何人希望しますか。子どもがいる方は、今の子ども的人数とあわせてお答えください（1つだけ選び番号に○）

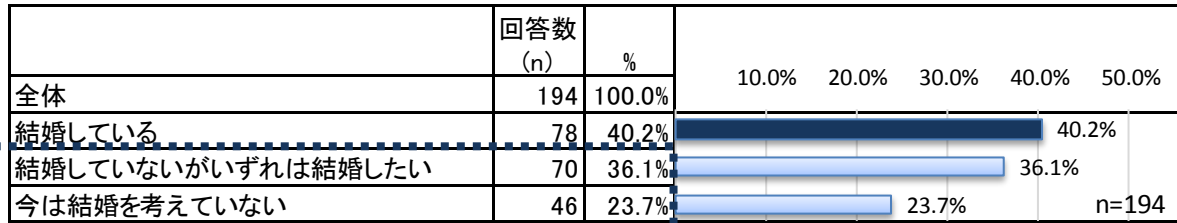
回答者の将来希望する子どもの数は、「2人」51.5%と半数を占めています。



② 結婚について

問9 あなたの結婚を取り巻く環境について、現在の状況を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の既婚率は、「結婚している」が40.2%、「結婚していないがいずれは結婚したい」が36.1%となっています。



問10 あなたは、「結婚」に関する環境についてどのような印象や不安がありますか（3つまで選び番号に○）

回答者の結婚についての印象は、「自由や気楽さを失うと感じる」が33.6%、次いで「学校・職場（企業等）・地域の中で、出会いがないと感じる」が32.8%となっています。



※有効回答数 116 票に対する割合

### ③ 出産・子育てについて

問11 あなたの出産を取り巻く環境について、現在の状況を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の出産率は、「子どもがいる」が41.2%、「子どもはいないがいずれ欲しい」が35.6%となっています。

	回答数 (n)	%	
全体	177	100.0%	10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0%
子どもがいる	73	41.2%	41.2%
子どもはいないがいずれ欲しい	63	35.6%	35.6%
子どものことは、今は考えていない	41	23.2%	23.2%

n=177

問12 あなたは、「出産」に関する環境についてどのような印象や不安がありますか（3つまで選び番号に○）

回答者の出産に関する環境は、「2.出産直後の生活について、経済的に不安だから」が49.0%、次いで「8.出産を支援する補助制度などの情報が少ないから」が28.8%となっています。

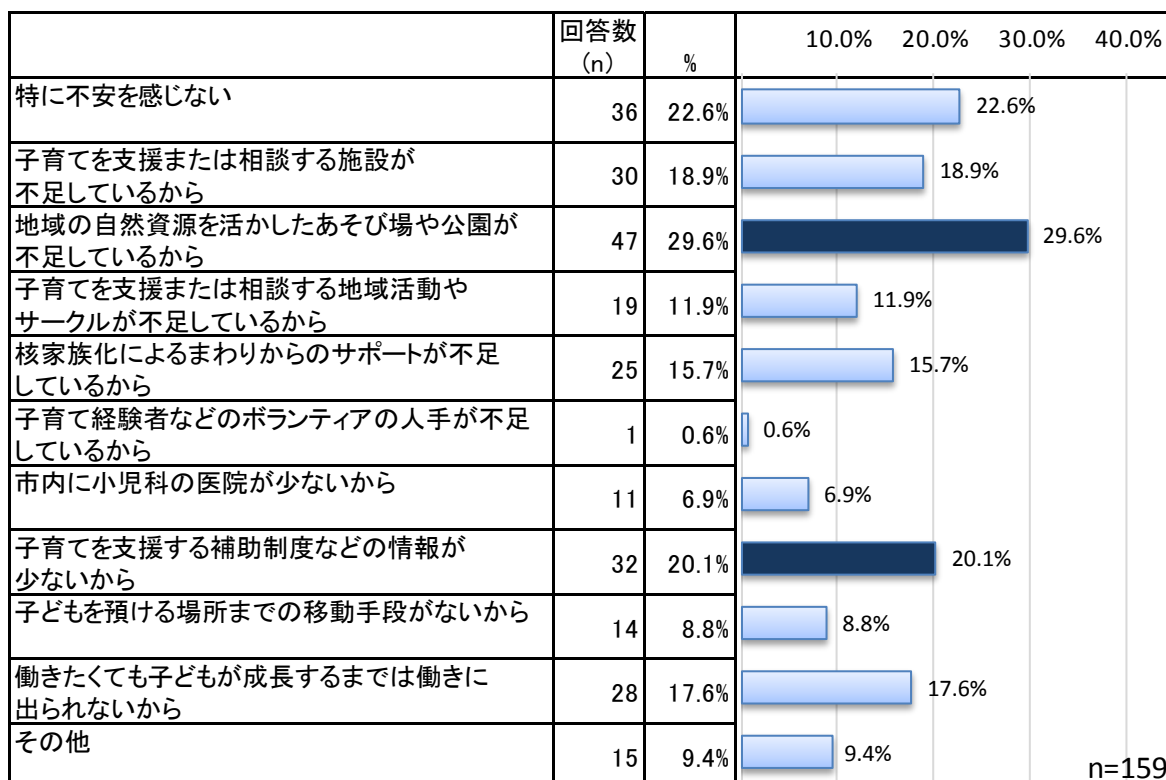
	回答数 (n)	%	
特に不安を感じない	29	27.9%	27.9%
出産直後の生活について、経済的に不安だから	51	49.0%	49.0%
出産直後の生活用品を買う施設が近くにないから	6	5.8%	5.8%
乳幼児を預ける施設が近くにないから	7	6.7%	6.7%
出産直後の情報収集や情報共有できる施設が少ないから	11	10.6%	10.6%
乳幼児を預かってもらえる家族や親せき等が近くにいないから	10	9.6%	9.6%
近くに産婦人科がある病院がないから	11	10.6%	10.6%
出産を支援する補助制度などの情報が少ないから	30	28.8%	28.8%
乳幼児を預ける施設までの移動手段がないから	3	2.9%	2.9%
勤務先等での育児の支援が充実していないから	14	13.5%	13.5%
その他	13	12.5%	12.5%

n=104

※有効回答数 104 票に対する割合

問13 あなたは、「子育て」に関する環境についてどのような印象や不安がありますか  
(3つまで選び番号に○)

回答者の子育てに関する環境は、「地域の自然資源を活かしたあそび場や公園が不足しているから」が29.6%、次いで「子育てを支援する補助制度などの情報が少ないから」が20.1%となっています。



※有効回答数 159 票に対する割合

子育て施策向けアンケート結果

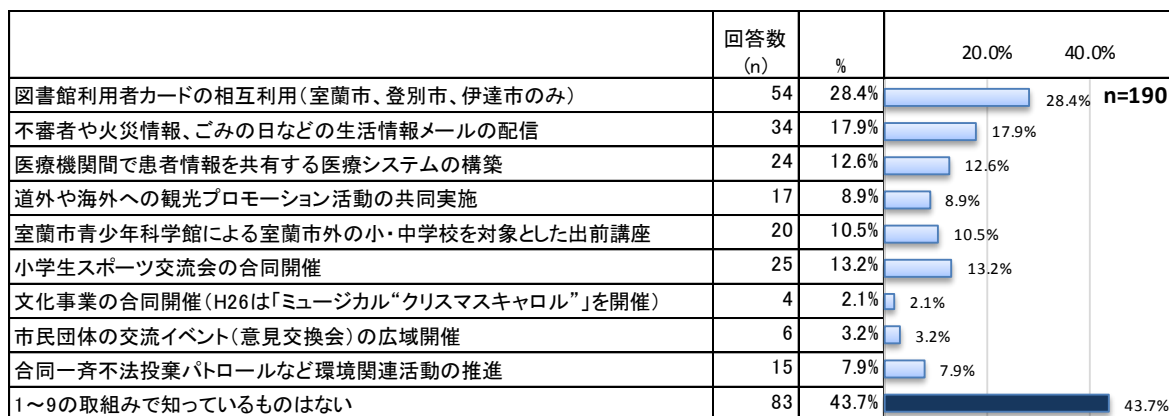
[その他]

番号	内容
1	お金の面が不安。子ども手当は18歳まで支給するべき
2	サークルや気軽に行ける子育てサロンの少なさにやや不満です。屋内遊園地もなく、毎日行く所がありません。
3	企業の育休制度が形骸化しているから
4	経済的不安
5	公園はあっても設備がない
6	子どもを預ける施設（児童クラブ等）の金額が高い
7	子育てにお金がかかり、大きくなり進学の事など心配
8	子ども医療費の助成が少なすぎる
9	助成金など支援を充実してほしい
10	同じく子育ても考えていないので子育てする人は大変だと思う。
11	日本の行先不安
12	富岸にも児童館を作ってほしい。
13	保育所や小学校の学童保育へ迎えに行く時間（残業すると大変）。年末年始は、仕事があってもあずける所がない。（学童保育はだいたい1/5頃まで休みのため）
14	問12とおなじ貧乏なのです
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の日などに子どもをあそばせられる屋内施設を作って欲しい。有料でも利用する人はいると思う。亀田公園は自然はあるが遊具が少ない。川上公園もイマイチ自然は大事だけど、虫が苦手な人にはあまり行きたくない。</li> <li>・暑い日に水遊びをさせられる噴水がある公園を作ってほしい。とうや湖畔にある公園が理想。</li> <li>・とにかくキレイに整備された公園をつくって!!伊達市がうらやましいです!!</li> </ul>
16	ベビーシッターの制度が確立し不安なく利用できる環境になっていない
17	そもそも行政が少子化の事をちゃんと考えているとは思えない。
18	競争する機会が減り、成長するチャンスもへっている印象があります。
19	保育園等が不足しているから
20	雨天時に屋内で遊べる道具がある施設がない。

#### ④ 圏域全体の活性化と魅力ある地域づくりについて

問14 次の取組みから、あなたが知っている連携事業はどれですか  
(該当するものをすべて選び番号に○)

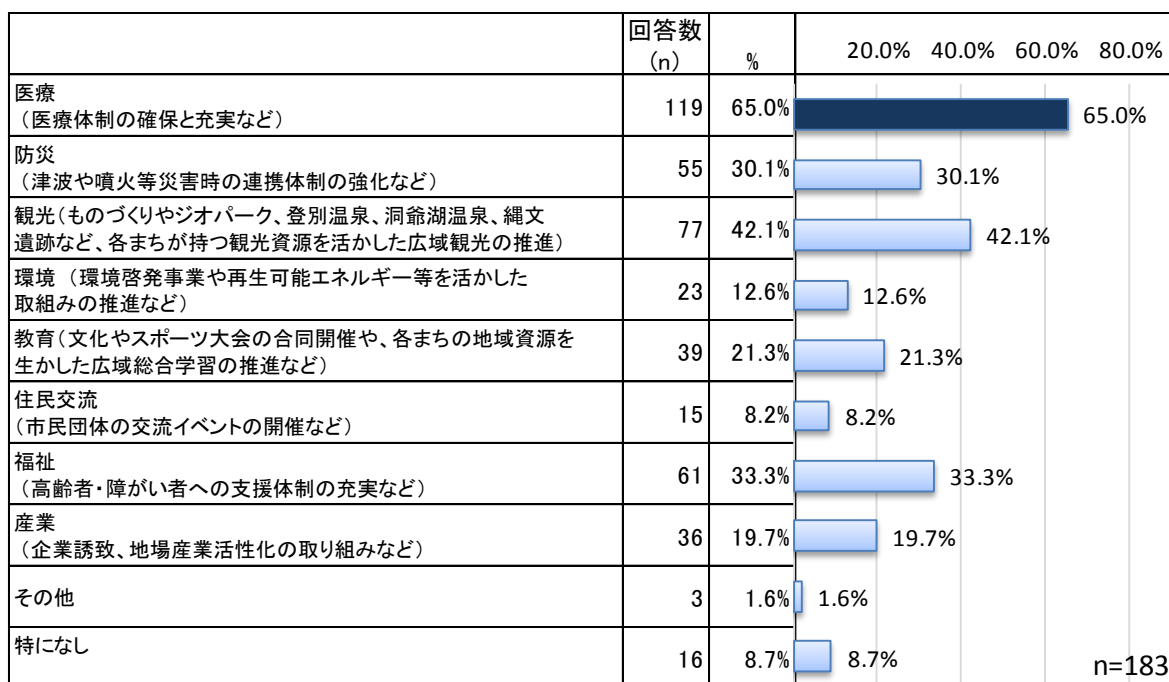
回答者の連携事業の認知度は、「10.1～9の取組みで知っているものはない」が43.7%、次いで「1.図書館利用者カードの相互利用（室蘭市、登別市、伊達市のみ）」が28.4%となっています。



※有効回答数 190 票に対する割合

問15 自分のまちだけで取り組むよりも、他のまちと連携して取り組んだほうが暮らしやすくなる、または地域の魅力が高まると思う分野はどれですか  
(3つまで選び番号に○)

回答者の地域の魅力度向上に関する意見は、「1.医療（医療体制の確保と充実など）」が半数以上を占めています。



※有効回答数 183 票に対する割合

問16 問15を選んだ理由や期待する取組みについて、具体的に記入してください

[問16自由記述 (1/5)]

番号	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもの医療費中学生まで無料化（3市3町どこの病院使用でも）</li> <li>• 3市3町の観光施設のフリーパス又は割引券</li> </ul>
2	<p>1, 2 に関しては、各病院間、国道市の連携はあるので各市町村の横のつながりを密にする事によって、急な災害時に迅速に対応でき、市民も安心して暮らす事が出来るのではないかと。</p> <p>7 に関しては高齢者の痴呆による行方不明の捜索や、様々な特色を持った障がい者、その家族に対して等、他市の情報も含めお伝えする事ができるので、やはり横の連携は必要だと思う。</p>
3	<p>1.今は、移動手段が車がほとんどなので、登別市外の場を利用する時が多い。7.幅広い場を利用できた方が、利用者の行動はんいも広がるし、「他のまちにも行ってみたい」という高齢や障がい者の人も多いと思うから。</p>
4	<p>①三大病院として市立、日鋼とあるが、産科の医師不足なのか市立においては産科がなく先日妊娠 10 週に出血したが、かかっている病院ですぐに診察してもらえず、他の病院へかかることを伝えると急に手のひらをかえたようにすぐに来てくださいといわれた。産科医が不足しているのではと思います。④エネルギー不足が今問題とされているので、コストは高いと思うが、太陽光パネルなど活用してみてもおもしろいでしょうか？家を建てる時にエコ住宅ポイントなどがあるが、自宅で太陽光パネルをとりつけ北電に売る制度はあるがもうすこし周囲に広め売る</p>
5	<p>1 市だけでは実現が難しいと考えるから</p>
6	<p>3.8.9 に関しては、その街のグルメをピックアップし、活動するのもありかと思う。</p> <p>4.に関しては、エネルギーを作る場と、その作ったエネルギーをどのように利用しているかを広く知ってもらうことも大事でないかと思う。</p>
7	<p>4 月に転勤で引越してきました。昔から子どもが 4 才になったら子どもにテニスを習わせてあげる予定だったのですが、子どものテニススクールがなく、断念し、とても残念です。又、病院も少なく、少ないためか待ち時間も長く不便に思います。胆振地方で協力しあい、子育てしやすい、子どもが生活しやすい環境をもっともっと望みます。</p>
8	<p>⑤いずれ、子ども達は、高校で、一緒になるかもしれない子ども達なので、早めに交流は、良いと思う。</p>
9	<p>この町だけじゃ少なすぎるから</p>
10	<p>なかなか職場以外の人と関る場が少ないと思うので、歳等に関係なく様々な地域の色々な世代の人と交流をする場、（イベント）がこれから増えていくと良いと思います。定年退職後の人にとってもそういう取り組みが必要だと思います。</p>
11	<p>ひとの流れを大きな視点で見てほしい。</p>



## [問16自由記述 (2/5)]

番号	内容
12	まず、子どもが増えなければ意味がないので、子どもの医療費・学費を無料にすれば子どもが増えるはず。
13	まずは医療は自分のかかりつけの病院の情報交換や病歴のやり取りや医療費の減額、防災関係の充実、福祉関係の取り組みや充実を前提とした連携をふやしてほしいと思います。
14	みんなで協力しましょう
15	もっと色々な交流を行い情報共有したり、地域の活性化になればと思う。登別温泉を登別市民に例えば1ヶ月に1回、無料で入浴。(～町別に)
16	安心してらせるように。
17	安心して暮らしていく上で欠かせないから
18	伊達市のように障がいをもった方が暮らしやすい環境がもっと広がってほしいです(学校や仕事面など)
19	医療：都市部に任せてしまう傾向がある。難しい症状など、地域では十分でない事が多い。福祉：身体障がい者の作業所が無い。就労が難しい。産業：商業施設などを充実させ、雇用を充実させないと就労世代は雇用がなく、結局都市部へ流れる。
20	医療・福祉は高齢化社会がすすむので、近隣の市町村で連携をとって施設の利用などしやすい環境がほしい
21	医療・福祉は今後、誰れにでも必要なため
22	医療・防災等はいざという時に他のまちと連携した方がより被害を防げると思うから
23	医療は私たちの生活にかかせないものだと思うので。
24	医療を充実させてほしい。障がい者への支援体制を他のまちと連携して行い、充実させてほしい。高齢者が住みやすいまちづくりを他のまちと連携して取り組んでほしい。
25	家族が昼間は登別・室蘭とバラバラなので、何かあったときは、はなれていても連絡できるようにしたい。
26	海や火山が近くにあるから。他のまちと連携してより早く情報などが伝わるようにしてほしい。
27	各市町、主に取り組むものがバラバラなので、お互いの協力があれば更に伸びると思う。
28	観光について…たとえば「登別温泉」だけより、他にも洞爺湖温泉や壮瞥にも温泉がある！の方が選択の幅が増えるし、印象も良くなるのでは？ 福祉…それぞれの町だけの取り組みより、全体的に見た方が利用する側にとっても、自分のニーズにあった場所(施設)を選択できるので良いと思う 医療…室蘭には大きな病院があるが、登別、伊達には少ない。それぞれの病院の得意分野をアピールして、どこに行けばよりよい医療サービスが可能か情報を流してほしい。
29	観光に力を入れるべき。登別温泉にあぐらをかきすぎ。

子育て施策向けアンケート結果

[問16自由記述 (3/5)]

番号	内容
30	企業誘致が進むことで、職業選択の幅が広がり、札幌等の都市部に行かずに済めば住環境などももっと良くなると思うので。
31	教育が子どもの仕事だから
32	教育は、幅広い情報が有れば役に立つのではないかと思います
33	現在も室蘭の病院へ行く人が多いので室蘭の総合病院と登別の自然（温泉等）を利用してリハビリなどする。
34	交流を深めることにより、人の流れができ、いろいろな効果が期待できると思う
35	高齢の祖母の為色々情報を集めたが言葉がむづかしく何がしたいのか伝わらない事があった。”福祉”はこれから利用する機会が増えるものだがどんな取組みをしているのかわからない。何を期待していいのかわからない。
36	高齢者が増えるこれから、連携して医療・福祉が充実していると安心。デイ等受け皿が広がり交流の機会が増える。
37	高齢者が多くなるので12は大事だと思いました
38	今後ますます少子高齢化が進んでいくので医療・福祉については考えていく必要があると思います。まちの活性化については、自分のまち以外の人の意見を聞きながら行うと良い面は伸ばしていける、悪い面は改善していくことが可能ではないかと考えます。
39	今住んでいる辺りは不便なので、医療や移手段など環境の改善を望んでいます。長くここに住みたいと思える環境作りや整備に期待しています。
40	災害時に物資の供給や疾病者への対応など、自分のまちだけでは負担も多いし不安も大きい。いろいろなまちと連携することによ手自分のまちでは出来なかったことも補うことが可能な気がするから。
41	札幌えきから、洞爺湖温泉までバスが来てほしいです。温泉に入りに行きたいです。
42	子どもがスポーツ（野球）をしていて、室蘭のチームとの大会等もあるが、野球だけではなく、バスケットやサッカー等、色々なスポーツを通して交流ができればその時に知り合った友達（高校等）再会した時に喜びがあるかなと思った。スポーツだけではなく『兄弟学校』のようなものを作って、違う学校と交流できる事（年に3回位）があれば、友達ができたり、楽しい時間を過ごせるかなと思う。電気代が値上がりしているので登別や伊達にあるソーラーパネルを独自で西胆振で提供できるようになると生活の面も助かるかな。よろしくお願いします。
43	子どもが少なく高齢者が多くなっているのので、登別市・室蘭市で色々住みやすい環境になる為に町作りをしてほしいです。（良くわかりませんが…）
44	子どもの医療費で、中学生まで無料という市町村もあるので、比べると不公平さを感じてしまう。中学生まで無料となれば助かる。
45	市内には総合病院がなく、室蘭でも主要病院が3つなため、混んでいることが多く、もっとかかりつけ病院を発展させてほしい。

## [問16自由記述 (4/5)]

番号	内容
46	室蘭の製造業が盛んなので、そのノウハウを他自治体にも伝授して産業創出を活発に行ってほしい
47	室蘭にすごい近い所に住んでいるのに、室蘭市民ではないからこれをうけられないということがあってめんどくさかった。市営住宅とかは登別市民も室蘭のに入れたりするとだから、全部一緒…合併しちゃえばいいと思います。
48	室蘭は総合病院が3ヶ所もあるので登別からの受診者が多い。より連携が必要と思う。観光客を呼びこめるように連携が必要と思う。高齢化がどんどん進んでいくのでサービスの共有やどこのまちでも同じような取り組みができるようにして欲しい。
49	室蘭や登別は苫小牧のような商業施設が少ないように思う。買い物の不便性を感じます。
50	借金減らすべき。
51	小樽や函館のように観光を主体として西胆振の活性化を強かに推進してもらいたいです。
52	新幹線が欲しかった。そうすれば観光目的の利用客の増加が見込めたのでは。その関連で企業が増えれば登別市が活性化したのでは。
53	人が少なく、活気があまりないと感じたので、人をもっと呼び込むべきと考えたから。
54	人口も減少し独自で観光産業の向上は望めないと思料する。防災は西胆振一帯に影響することから、連携強化は必要であり積極的に防災訓練を実施すべき。
55	人口減少の中で自分のまちだけで考えるよりも、もっと大きい地域で物事を考えた方がいいと思います。
56	全て命に関わるものを選んだが、具体策は考えられず。
57	他の地域と医療の分野等で連携したら人の暮らしはしやすくなると思う
58	他の地域と連携した未永い事業や、成果を明確ににできる事業・取組を期待。
59	大きい病院がない。観光に対する意欲が登別はいまいち感じられない。
60	地域経済活性のため。資源の有効利用、石油などの有限の資源を使うより、持続できるエネルギーを使う方がいいから。教育格差を減らし、子どもの将来の選択の幅をひろげるため。
61	地産地消のアピール
62	登別の温泉と室蘭のグルメと、伊達方面の何かしらのレジャースポットを組み合わせ一つにしたコースを作ったらどうでしょう？中国人富裕層に向けて…登別温泉に行った時、旅館以外で食べる所が全く無いのはびっくりでした。
63	登別の観光。室蘭は工業が産業の中心だと思うが、他にも仕事の選択肢があれば良いと思う。雇用・産業の分野において活性化すれば人も集まるし、子育てするにも良い影響があると思う。
64	本当は全てに○をしたかったが、とりあえず命に関わるものを選んだ

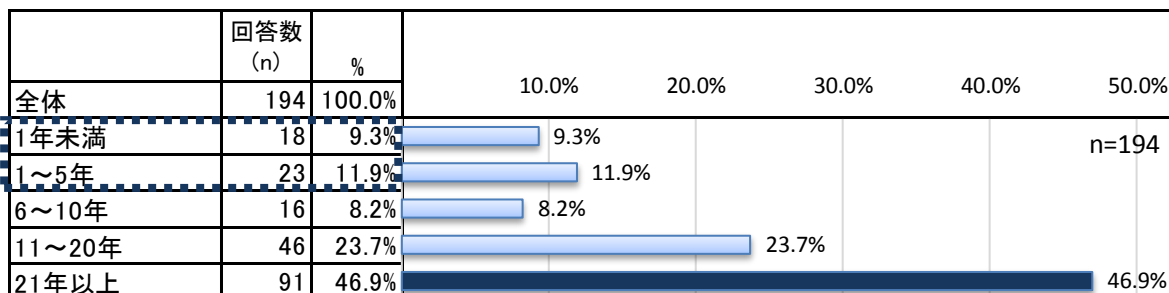
[問16自由記述 (5/5)]

番号	内容
65	登別は資源的にも恵まれている部分があるが、交通の便も悪く特に温泉街は現在外国人観光客が大多数を占めている。日本人観光客誘致を目指して、上記分野から何か活動出来ないかと思った。
66	登別駅前の閑散とした店並び、全ての観光客が目にして残念な気持ちにさせてしまう。登別駅前と温泉街の発展 札内町方面には体験型のアクティビティがいくつかあるが、そこからへ行くバスの充実も 登別温泉⇒サンチャイルド⇒オフロードパーク・ホースパーク⇒幌別駅
67	登別市・室蘭市で子どもを病院につれていくと医療費はその場でかからないが、他の市町村では支払わなければいけない。そのお金は戻ってくるが、小さい子どもをつれて市役所へ行って手続きするのは大変。
68	登別市だけ使用できる伊達時代村などのクーポンを他市にも使用できれば・・・
69	登別市は水源が豊かなので、水力発電や飲料水をブランド化して国内外に広く販売し利益を上げてみたらいかがでしょうか。
70	登別市内には、子どもの病院や援助してくれる場所が少ない。情報が少なく、又、親の耳に届きにくいので、何をどこでやってるか等わかりづらい。
71	特に環境は各自治体の特色を生かした再生可能エネルギーの取組をして、相互に助け合える状況にしていけるといい。
72	年代別のスポーツ大会（ソフトボール・バレー等）を行ってほしい。
73	不審者情報など（犯罪に関わる）
74	保育所や幼稚園の職員をもっと増やせるような体制をとって、子どもをあずけられる様にして頂きたいです。
75	防災に関してはどの地域でも意識しなければいけないし、観光・交流も他の地域に協力があってこそだと思います。
76	北海道新幹線が開通すると、胆振地区は少なからず集落が悪くなっていくと思います。登別市は温泉が有名で安心はしておりますが、登別だけでは胆振の発展にはつながらないと考えます。他のまちと連携して魅力を多方面に発信することで、人を集め、さらに産業を発展させることで、この地域への移住といった人口増加、活性化をすすめていただくことを期待します。
77	北斗市は子どもの医療費や学童費（登別では児童クラブ？をいうのでしょうか?!）がかからない。函館も中学生までは医療費1割・・・登別もぜひ取り組んでもらいたい。子どもを育てる上ですごく助かる。
78	問14の2は、今はじめて知りました。知っていれば利用できたということがないように、もっと連携事業のPRを積極的に行ってほしいです。広報や回覧板にもっと大きく告知するなどして、HPをあまり見ない人でもメールを利用できるシステムを作ってほしいです。

⑤ 今後の居住について

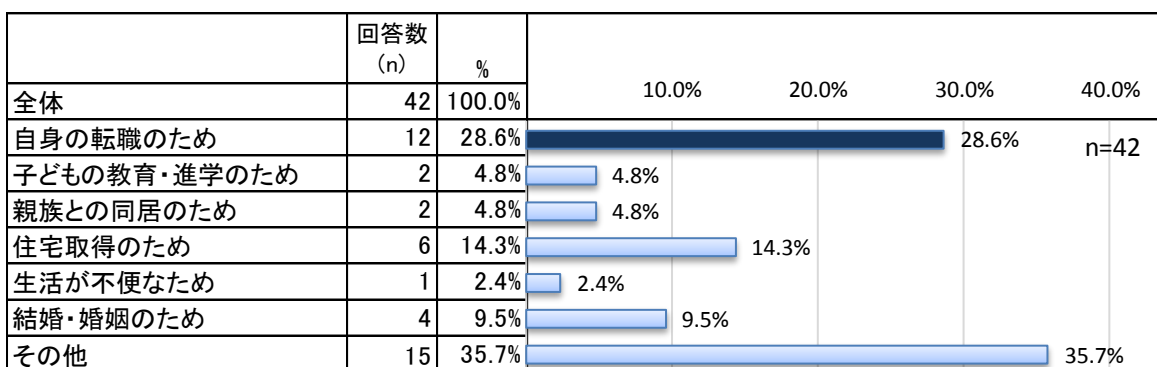
問17 あなたは、登別市にどのくらいの期間お住まいですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の居住期間は、「5. 21年以上」が46.9%と約半数近くを占めています。



問18 あなたが、登別市に移り住んだ理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の移住理由は、「自身の転職のため」が28.6%となっています。

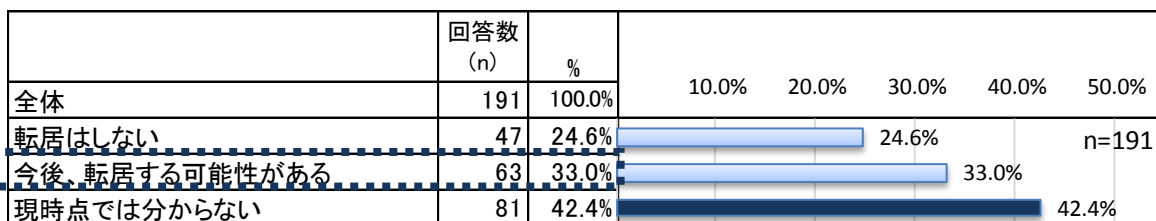


[その他]

転勤のため うちを買ったため 離婚して親と同居することになったため 就職	進学のため 専門学校入学→そのまま入職 人事異動のため
---	-----------------------------------

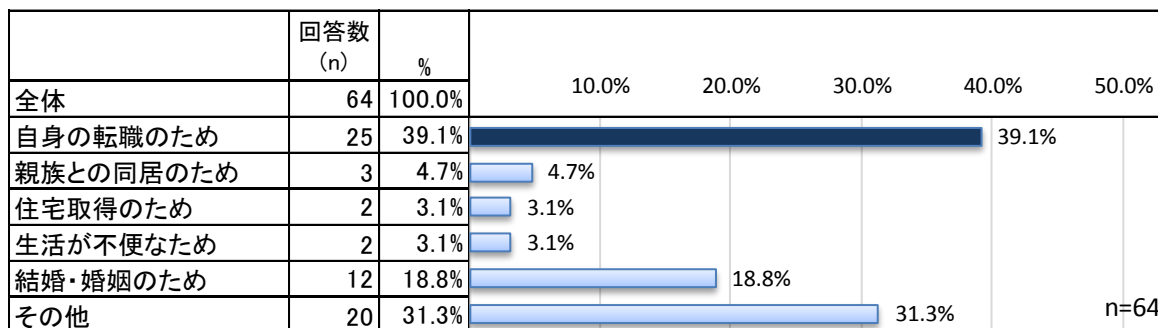
問19 今後、登別市以外に転居する可能性はありますか（1つだけ選び番号に○）

回答者の今後の転居可能性は、「現時点ではわからない」が42.4%となっています。



問20 あなたが、登別市から転居する可能性がある場合、理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

転居する理由は、「自身の転職のため」が39.1%で約4割を占めています。

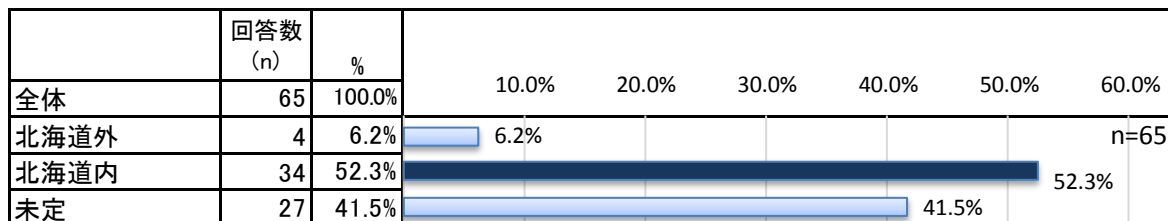


[その他]

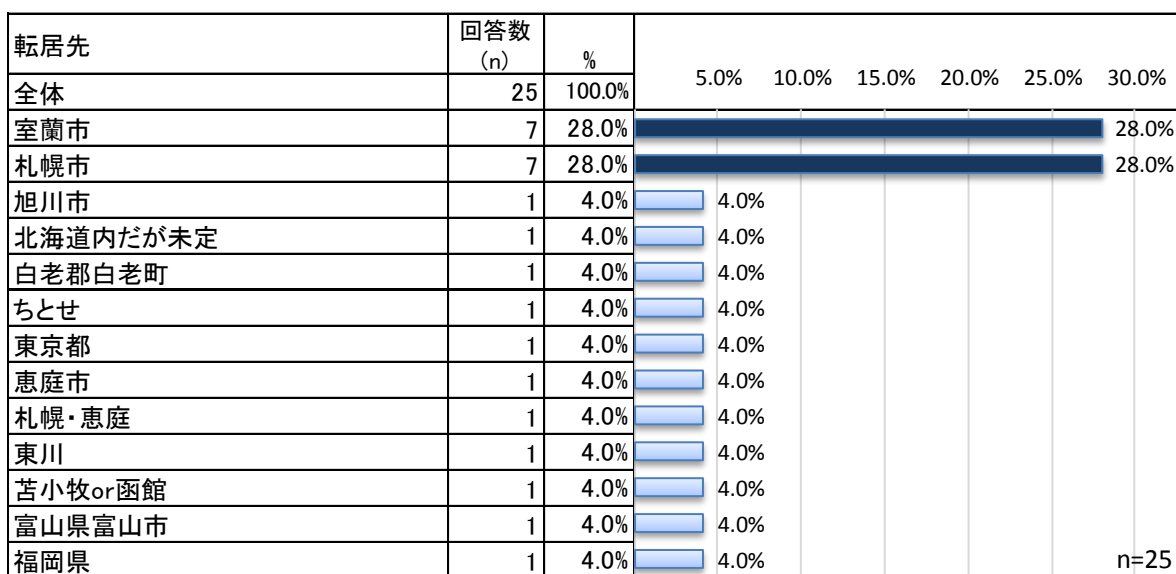
いまの所はわからない	転職のため
就職	1~2年住んでみて、ずっと住めるかどうか決めることになっている
職務上	人事異動のため

問 2 1 あなたが、登別市から転居する可能性がある場合、転居先はどこですか（1つだけ  
 選び番号に○）

転居先は、「北海道内」が52.3%と半数以上を占めています。  
 また、転居先としては、「室蘭市」・「札幌市」が多くなっています。



[転居先]



問 2 2 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/4)]

番号	内容
1	登別は全国でも有名な温泉観光地。でも温泉だけでは若い観光客には物足りない。アクティビティの充実と、その場所へのアクセスを充実してほしい。
2	このアンケートの解答者は本当に無作為に選んでいますか。以前のアンケートと同じ人に出していませんか。
3	子ども医療費を見直して欲しい。救急システムをかえて欲しい。函館の救急システムはすごく良かった。学童・児童クラブも高すぎる。働いてもほとんど学童費になるのはこまる。
4	政策が見えない。市政とは何をしているのか、さっぱりである。
5	市民共有の目標をもって政治的な枠にとらわれず、何を糧とするか考えてほしい
6	道の駅を作ってください。
7	市会議員の数が多すぎると思う。人口が減っているのだから、議員の定数も然るべきだと思う。
8	犬を遊ばせることができる公園がない。子どもが公園の水道で水遊びしている。七夕の子どもがうるさい。来ないでほしい。前のアンケートの結果・集計はどこで見られるのか、いつ掲載されるのか書いてほしい。
9	医療や福祉の充実をのぞみます
10	医療費は3才から1割ふたんはきびしい！！住やすい町づくりして下さい！！
11	ムダをなくしてください、手続きとかの。観光面でいえば、個人客の増加にともなう人の流れの変化など、細かい視点での情報収集をお願いします。
12	子育てしやすい環境や住宅の提供に期待しています。
13	柏木方面へのバス路線の検討を希望→柏木・柏木団地があり子どもの数も多いが近いバス停はホームストア前と遠く、高校へ通う際等かなり不便。
14	雇用、企業誘致を積極的に行ってもらいたい。
15	くわしくは知らないことも多いですが、市民のためにしていただけることがあるならば、色々やっていただければと思います。
16	登別市職員は、他市と比べだらしがないと思います。
17	市役所の人冷たい。態度が悪すぎ。不親切。だから室蘭に住みたくなる。
18	みんなで協力しましょう
19	子どもがいる家庭に対してもう少し支援があると嬉しい。東京都内では小6年まで医療費がかからない所があると聞きました。初診料も支払う事がない地域があるのと思ってしまいます。又、市立の幼稚園がないので私立の幼稚園が年々高い保育料になってるので市外で入園する所がないかと考える親は多い。



## [自由記述 (2/4)]

番号	内容
20	今のところ特に不満はありません。
21	ちいきかっせいかになる為に色々取りくんでほしいです。収入が少ない分、税金があがってしまうとこまりますね。両親が亡くなったら生保を受給しなければいけないかも…
22	今まで、高齢者中心の市政であった印象があります。今回のアンケートのように働く若い世代に目を向けていただき、高齢者を支えながらも、若い世代に満足度の高い生活が送れるような市をつくっていただきたいです。
23	登別の公共施設(?) 体育館や図書館の老朽化が気になります。
24	小学生の子どもを持つ母です。私は専業主婦の為、子どもは放課後児童クラブは利用しておりませんが、働くママから聞いたところ、室蘭市と登別市とでは、利用料に大きな差があるとの事ですが、なぜでしょうか?同額とは言いませんが、せめて半額ぐらいにはならないでしょうか?登別市!!高すぎると思います。
25	医療費の負担額の減額と、市役所の役員の市民への対応の仕方が悪い
26	アンケートにお答えできる能力を持ち合わせていないので、簡単な問だけに記入しております。(保護者)
27	子どもの遊べる室内の大きな遊び場があればいいです。公園の遊具が少ない。登別にも科学館があればいい。
28	もっと市営住宅を…子どもを産んだ時のメリットをおしえてほしい。子ども手当がいくらとか、それによっては子どもを産もうかと思える。
29	子育て施策向けアンケートってなんですか。子どもがほしくても色々なことでいけない(できない)人もいるのに、きいてなにがしたいんですか。この用紙も税金で使ってるとおもうとはらたかしいですけど。
30	都市部に居住していた事もあるため、生活の中で地方と都市との格差を感じる事がある。とりわけ北海道の人はのんびりしている印象。それは良い面でもあり悪い面でもある。登別は登別温泉など、せっかく有名な観光地なのに、それを生かしきれていない声がとても多い。本当にもったいないと思う。
31	市外から引っ越してきて子どもも産んで永住を考えてる人に、田舎みたく何かしらの助成金があったらと思います。久しぶりにひっこしてきて、お年寄りばかりになっていて、若い人の減り方に少し驚きました。それと、そだいゴミ。年に2回は少なくないですか?自分ではこぶトラックがないと、急な引っ越しができません。それとゴミステーション、カラスに荒らされまくっています。全て金属製 Box にできないものでしょうか?ゴミステーションについては皆さん同じ考えかと思いますが・・・

子育て施策向けアンケート結果

[自由記述 (3/4)]

番号	内容
32	とてもびんぼうなので、せめて冬はとうゆ代をこまらないようにしてください。11~4月まで6カ月の冬はなんとか生きてるだけでとってもさみしく思い、北電も高くなってTVを見るのもなやみます。今の私には子どものことより自分のことでいっぱいです。もちろん結婚どころではないんです。
33	地元のお土産を持って行きたくても、おもいつかないくらい「ない」。
34	最低賃金が低く、またアパートなどの賃貸の家賃が高く若者や収入が少ない者にとってつらい面もあるのでもっと住みやすくなると良いなと思っています。
35	子ども大きくなり利用回数が少なくなってきたが、図書館が明るくきれいになれば、利用する人が増えると思います。今は少し入りづらいので、室蘭の輪西にある図書館に行くことが多いです。
36	・学校が終わったら遊びに行ける児童クラブがあってほしい。室蘭では、気軽に利用できたし、学校の中にあって便利だった。 ・図書館が遠い。大阪に住んでいた時は、無料シャトルバスがあって良く行っていたけど、驚別は、本が少ないし、幌別の図書館に気軽に、行きたい。
37	・登別温泉や虎杖浜の温泉があるので、岩盤浴ができる施設もあつたらいい。東苗穂にある千の湯が理想。 ・雨の日や冬など休みの日に家族でいけるところが全然ない!!結局、苫小牧イオンまで行くしかない。 ・子ども連れで入れる個室ありのランチができるカフェなどが全然ない!!つぶれそうな食堂などはカフェに変われば絶対需要があると思う!!とにかく女性はカフェが好きです。 ・11月か12月にもらえる登別温泉の優待券を3000円割引券とかに変えて欲しい。しかも土日祝日の前は使えないとか、期限もなしにして欲しい。平日しか使えない
38	・土曜授業はなくすべき。 ・助産院がほしい。
39	レジャー施設などの割引券の充実や子どもに住みやすい町づくりをお願いしたいです。
40	婚活→少子化を食い止めることを積極的に行わないと登別市に未来はありません。職安と同じくらい婚活を斡旋してみるのはいかがでしょうか。
41	しんた21での検診、子育て支援センター、図書館など登別市役所の方に集中していて、室蘭よりの登別市民は、不便な部分が多いです。こちらの地区にも利用できる場所が増えるか、室蘭市への方が近いので利用してもよいなど何か考えてほしいです。(図書館は利用できるのは知っています)
42	登別といえば温泉街を想像する方がほとんどだと思います。 私たちのまちは三ツ星やマクドナルドなどたくさんの食べ物屋ができてきてさかんにはなっていますが、もりあがりにかけている部分もあると思います。 温泉街にも負けないようなビッグイベント、観光スポットを何かつくれば登別全体がもりあがっていくのではないかと思います。

## [自由記述 (4/4)]

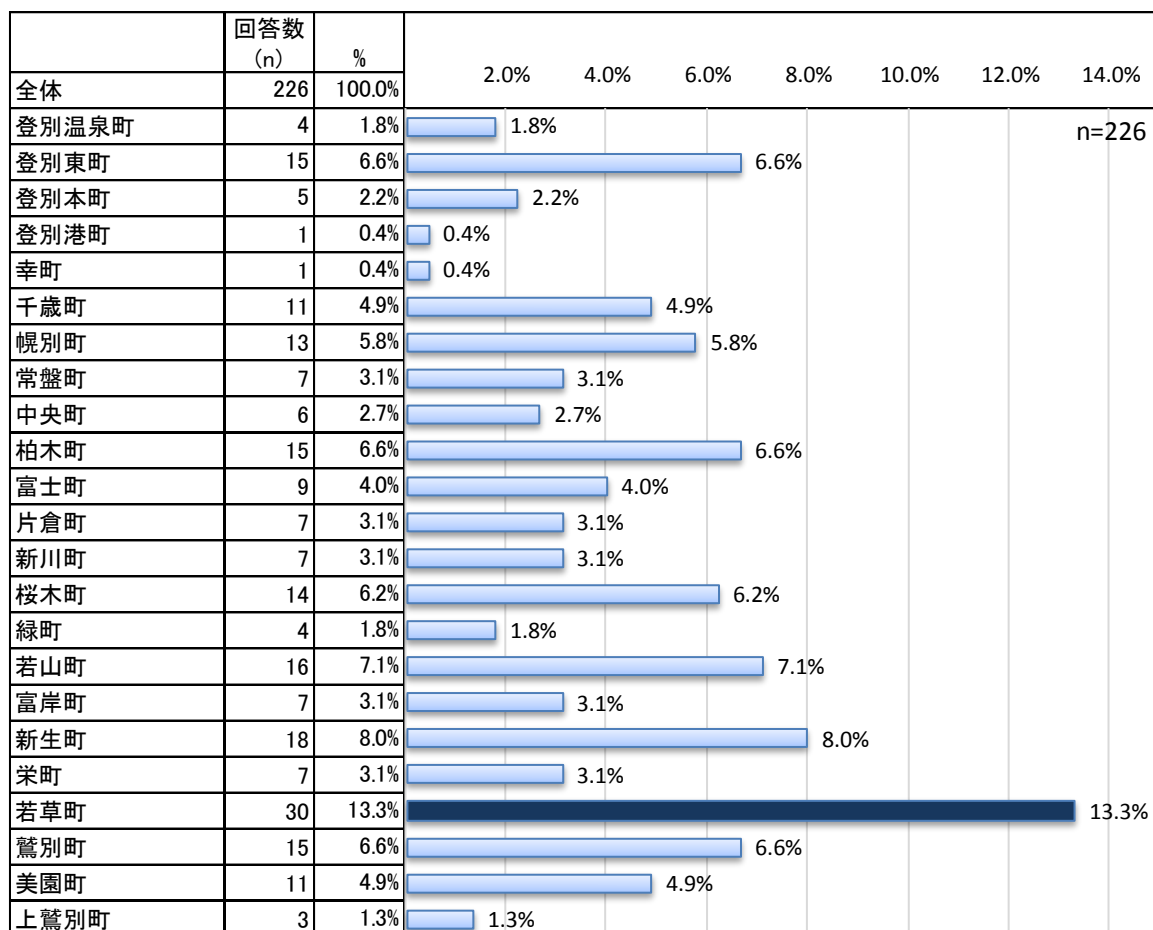
番号	内容
43	市民の立場にたった政策をお願いします。
44	子どもが安心して過ごせる環境にしてほしい。
45	借金減らすべき。
46	お金がないと嘆く前に、税金を上げる努力をして下さい。登別温泉という強みがあるのですから「こいのぼりマラソン」の参加者に温泉の割引券をつけるとか、来てくれるのを待つよりも、獲得するための戦略を練り、努力をして下さい。生まれ育った町が、豊かになってくれることを願っています。
47	室蘭市よりは住みやすいし市政もしっかりしていると思う。働く場所が市内にあまりない、温泉を除いて。若い人には住みにくいかもかもしれません。
48	登別市は通信関係の電波が弱いと感じます。ラジオの電波、携帯電波のワンセグが入りづらい地域がある。隣の室蘭市は鮮明にスマホとかの電波は入るのに登別に入ったとたんに電波が悪くなる。もっとIT関係にも力を入れた方がよいのでは。
49	常盤町の路地を出る際、垣根が視界を遮り、ヒヤリハットが何度も起こっているため、ミラーなどの対策をしてほしい。
50	登別温泉へ行くとマナーの悪い中国人、韓国人が多い。一時的にお金は落とすが、長期的に見るとブランドの価値が下がるので対策してほしい。
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ袋の料金を下げてほしい。</li> <li>・粗大ごみの回収日を増やしてほしい。</li> <li>・子どもにお金がかからない様にしてほしい。(教材費の助成、医療費等)</li> </ul>
52	自然災害(地震や強風等)の増加や温暖化による気温上昇を想定した際に、消防庁舎及び市役所庁舎の建て替え等が必要ではないかと考える。
53	ジャイアンが恐ろしい。
54	市議会議員の数や給料を見通して減らしてもよいのではないかと思います。
55	もっと財政を健全化し、市民が明るくくらせる市政をつくるため、もっと市役所に働く方の一層の努力を期待したい。登別に活力・活気がなさすぎます！

(2) 高齢者施策向けアンケート結果

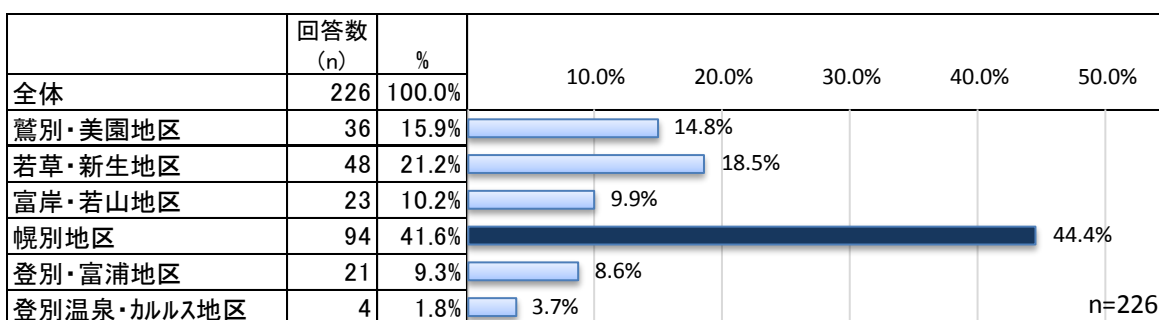
① 基本属性

問1 あなたのお住まいの町名を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、「若草町」が13.3%と一番多くなっています。

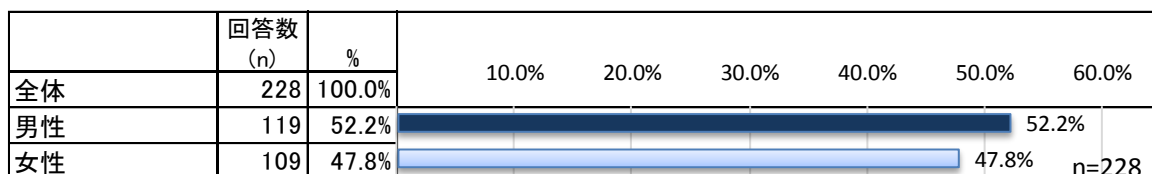


[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]



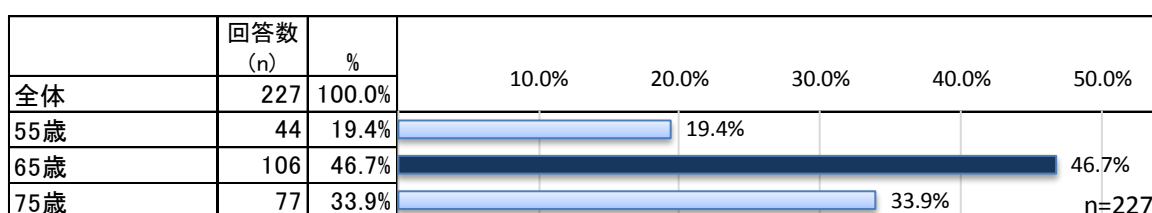
問2 あなたの性別を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の性別は、「男性」が52.2%、「女性」が47.8%となっています。



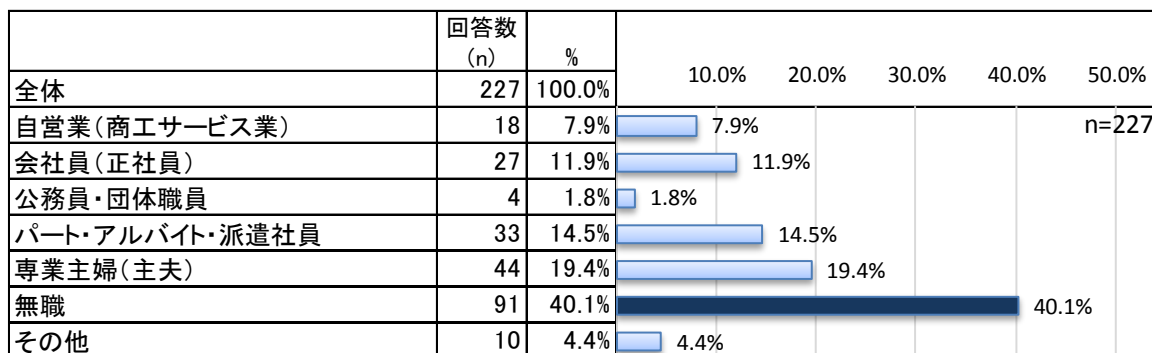
問3 あなたの年齢（平成27年4月1日現在）を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の年齢は、「65歳」が46.7%と半数近くを占めています。



問4 あなたの職業を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の職業は、「無職」が40.1%で半数近くを占めています。

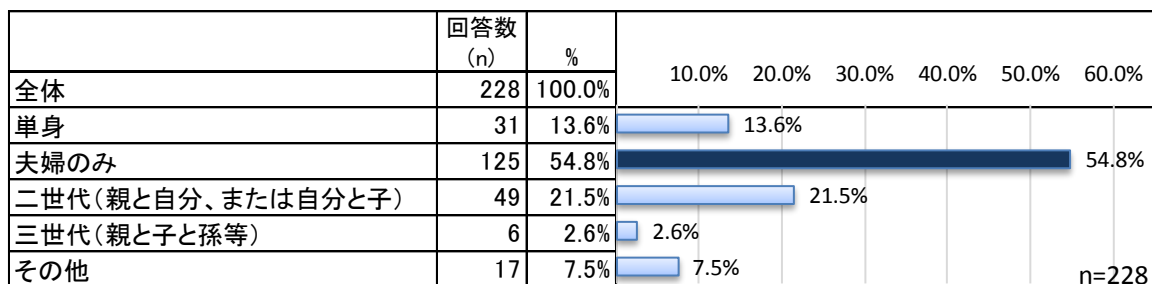


[その他]

団体職員	厚生年金	専門・技術職	介護職員	シルバー
AP賃貸業	加工業	嘱託	会社役員	

問5 あなたの世帯構成を教えてください（1つだけ選び番号に○）

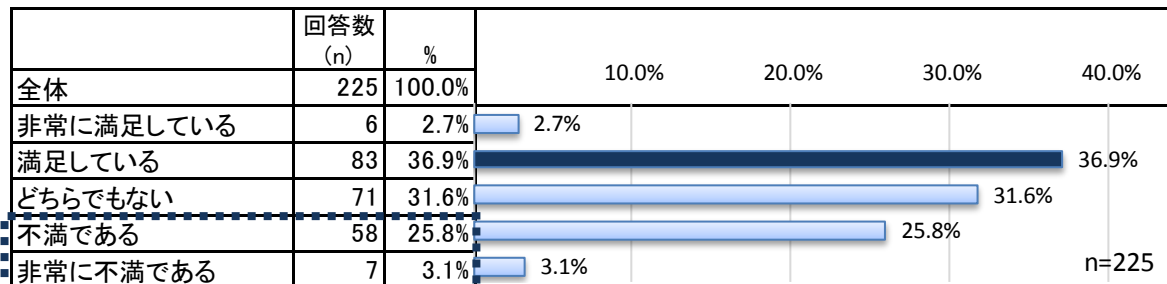
回答者の世帯構成は、「夫婦のみ」が54.8%と半数以上を占めています。



## ② これからの日々の生活について

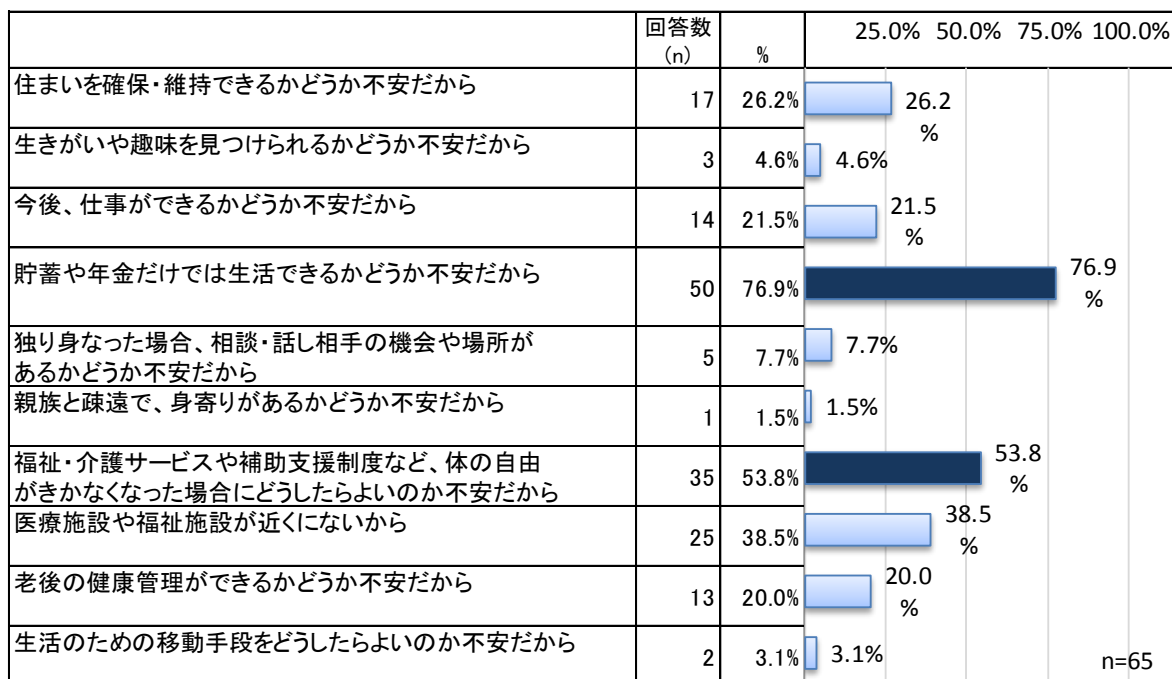
問6 あなたは、現在またはこれからの日々の生活について、満足度はどれくらいですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の日々の生活への満足度は、「非常に満足している」と「満足している」をあわせて、39.6%と低い状況となっています。



問7 現在またはこれからの日々の生活について、不満を感じる原因はなんですか（3つまで選び番号に○）

日々の生活への不満原因は、「貯蓄や年金だけでは生活できるかどうか不安だから」が7割以上を占めています。



※有効回答数 65 票に対する割合

### ③ 技術・知識を役立てた地域協力について

問 8 あなたが、これまで培った技術や知識を地域のために役立てていただくことはできますか（1つだけ選び番号に○）

地域貢献についての意志は、「ボランティアでいいので、可能な範囲で役立てたい」と「有償ならば、可能な範囲で役立てたい」とあわせて 48.0%となっています。

	回答数 (n)	%			
全体	198	100.0%	20.0%	40.0%	60.0%
ボランティアでいいので、可能な範囲で役立てたい	61	30.8%	30.8% n=198		
有償ならば、可能な範囲で役立てたい	34	17.2%	17.2%		
役立てる技術・知識がない	103	52.0%	52.0%		

問 9 あなたは、どのようなことならば、地域のために協力していただけますか（3つまで選び番号に○）

回答者の地域協力への可能性は、「地域の人々が住みやすくなるような町内会の活動」が 16.5%、次いで「保育所などに伺い、幼児との交流・保育サポート」が 16.1%となっています。

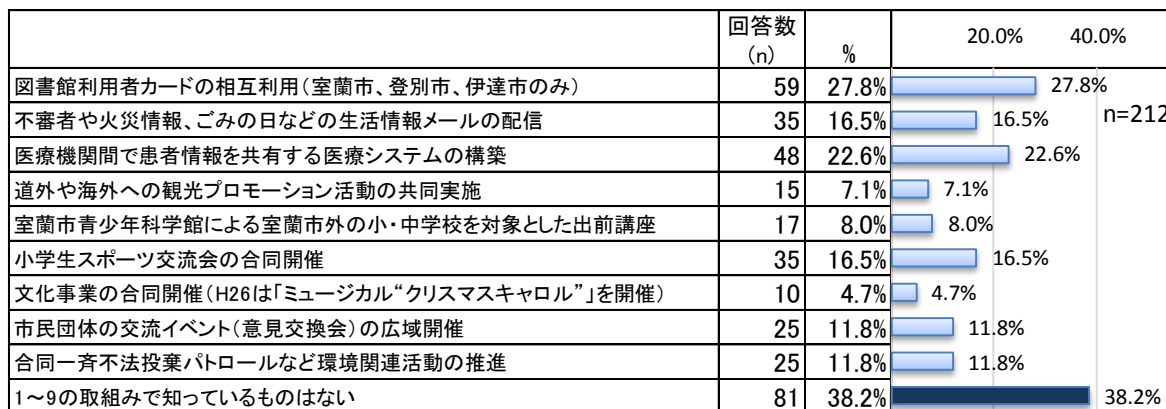
	回答数 (n)	%			
忙しい両親に代わって、乳幼児の預かりなどの保育サポート	26	14.4%	10.0%	20.0%	30.0%
保育所などに伺い、幼児との交流・保育サポート	38	21.1%	21.1% n=180		
伝承遊びや絵本の読み聞かせなどの出前講座	12	6.7%	6.7%		
小・中学校の教育サポート(家庭教師など)	27	15.0%	15.0%		
就職活動支援のための高等学校や大学への出前講座	15	8.3%	8.3%		
登別の観光案内などを行うボランティアガイド	25	13.9%	13.9%		
地域の防犯・防災活動への参画	21	11.7%	11.7%		
地域の人々が住みやすくなるような町内会の活動	39	21.7%	21.7%		
自分の趣味の知識を活かした市民活動	33	18.3%	18.3%		

※有効回答数 180 票に対する割合

#### ④ 圏域全体の活性化と魅力ある地域づくりについて

問10 次の取組みから、あなたが知っている連携事業はどれですか（該当するものをすべて選び番号に○）

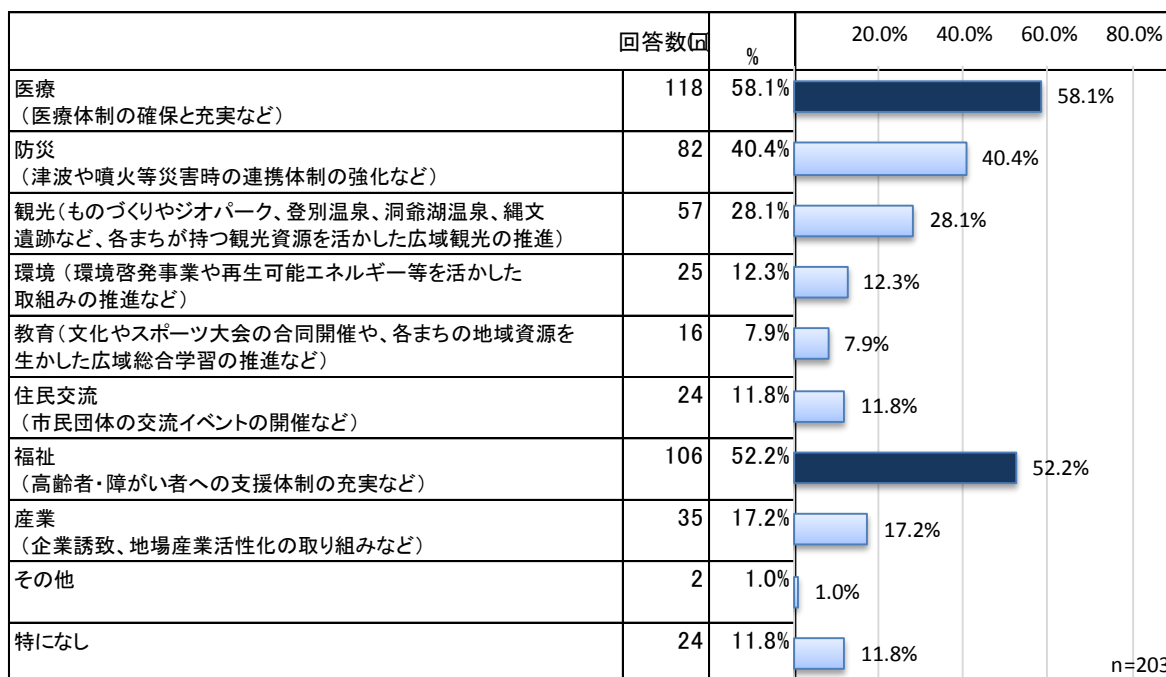
回答者の知っている連携事業は、「1～9の取組みで知っているものはない」が38.2%、次いで「図書館利用者カードの相互利用（室蘭市、登別市、伊達市のみ）」が27.8%となっています。



※有効回答数 212 票に対する割合

問11 自分のまちだけで取り組むよりも、他のまちと連携して取り組んだほうが暮らしやすくなる、または地域の魅力が高まると思う分野はどれですか（3つまで選び番号に○）

回答者の地域の魅力が高まると思う分野は、「医療」が58.1%、「福祉」が52.2%と半数以上を占めています。



※有効回答数 203 票に対する割合



問12 問11を選んだ理由や期待する取組みについて、具体的に記入してください

[問12自由記述 (1/4)]

番号	内容
1	既に取り組むと思う
2	医療関係が心配
3	少子化、高齢化、人口減に向けての対応
4	海が近い
5	高齢化社会への対応として安全・安心なまちづくりが大切になってくる。豊かな暮らしの中で人と人との交流が深まり、地域で支えあえる環境の整備が求められる。
6	温泉が日本一と言っても地元の人が誇りを持って口に出せないのが残念！！孤立化していると思う。もう少し近隣地区の人達が他の土地の温泉あそこは良かったと言う前に「この登別が何といっても一番と果たして口に出している人は何割あるのか？地元の温泉であって地元の人にはなかなかこういうのがあるといいなあ・・・という言葉は口に出せないのが現実だと思っています。変な言い方をすると「ハイソサエティ」的かも！！と思う事もあります。地元地元とあちこち一生懸命前進してほしいですね！！
7	健康で楽しく生活出来る町にほしい
8	色々な意見、体験等を多くの中で活用した方が、魅力等が向上する
9	大型の医療設備がない
10	どこの病院もこんでいる。何とかしてほしい。年寄りには大変です。どうにかありませんか。つかれてしまいます。
11	総合病院が室蘭に多いので、登別市民として不安である
12	1. 休日の医療体制の取組、2. 文化・スポーツの取組が非常に厳しい。
13	高齢者の多い地域は特に医療や福祉に力を入れてほしい
14	救急の時に消化器科にかかりたかったけれど、かかり付医が休診中で対応出来ず市立へ行く。患者としてはとてもきつい。(私は市立を要望していたが直接行く事が出来ず改善してほしい)
15	・地域内での縄張り意識が強く、社会生活を営んでいくために広域の共同した考えが必要。特にインフラ・環境・教育・スポーツ・病院等。・人口が減少して市としての役割が少なくなっている時代に室蘭市との合併はメリットがあるのではないか
16	他のまちの情報と高上心でもっと学習できるのではと期待したい。
17	7. 福祉：何処にどう云う施設があるのか、市、町の管理なのか、どう云う継がりがあるのか、特徴はどんなのか、特に施設では、違いがわかる様にしたい。利用する時の、紹介、手続etcもっと、まとめたものが欲しい。

高齢者施策向けアンケート結果

[問12自由記述 (2/4)]

番号	内容
18	・滞在型の観光プランを（避暑地など）すすめる。・廃熱、小型水力などのプチエネルギー発電など、エコな町作りプランを発信。（観光でもよい）
19	1人でも多くの市民参加（1つでも自分で出来る範囲の取組み）。市職員だけでなく、又、議会で市議員の質問だけではなく、産業活性化の基本的な案の必要性を望む。各業種の若い人の意見交換会（市・市議・商工会議所会員・各業種会リーダー等）50代以下に限定した交換会があってもいいのではないか。
20	西胆振だけではなく全道・全国との連携を進めてほしい
21	・人口が増える為に産業が活発になると良いと思います。・温泉熱（地熱）を利用して電気の利用に生かせないのでしょうか？
22	胆振地区は登別と洞爺という温泉の出る地域であるがもっと観光をひろめてほしい。登別駅は洞爺の虻田よりもみすばらしい。駅をもっときれいに造りかえてほしい！！
23	障がい者なので、自分が一人になった時に不安だ
24	1 高齢化が加速している現状を踏まえ、医療機関の充実と終末医療の充実が、責務と思います 2 日常からの防災意識を市民全員で確認・把握することが必要 3 近頃人気の“道の駅”伊達～洞爺方面では充実している。その土地の特色を、地元の産業者と共に手軽にアピール出来ると感じています
25	観光は、洞爺湖町、室蘭市、登別市と移動しながらの体験学習をしたり、環境は、地熱エネルギーや風力、太陽光発電を3市で利用する。
26	障がい者が参加できるスポーツ交流会等。
27	若者がたくさん集まる企業誘致がいいと思います。
28	1. 残念ながら登別市には、医療設備の整った病院がない。近隣の市と連携体制の強化が必要と思料する。2. 災害種別毎の連携体制（支援等態勢）を具体的にする事により安心安全な生活のできる環境が作れる。3. 室蘭市が進める水素社会の構築に向けても連携し進めて行くと良いと思う。
29	3. 観光～住民を対象に、又、外部の人でも利用できるよう、閑散時期限定にシャトルバスを出し、温泉地をめぐるもらう。（ホテルなど）収入アップになるのでは。
30	各市町村の交流を通して、知恵を高め、市町村の活性化を測ることができる
31	若草地区は高齢化が進んでおり家を持っている老人も多く、一人暮らしの高齢者への援助等
32	防災は特に身体の不自由な方の迅速な対応のしかた
33	これからの子ども達が大きくなって他の地方に行かないように
34	問11 選択理由
35	市の財政をキグして、市立の病院建設には、全くの及びゴシ、他市に頼る以外に方法がない。個人病院はキケンそのもの。

## [問12自由記述 (3/4)]

番号	内容
36	上記は単体行使よりも連携することでより相互に利便性や資金面で有利では？
37	特に室蘭とは連携は反対である……。登別市にて、自分の市だけで十分。
38	8の産業。室蘭にある企業のベッドタウンとして登別に住んでいる人が多くいると思いますが、室蘭だけでなく、登別にも、何とか企業誘致してほしいと思います。多くの企業が活躍してくれる事が、登別市民の生活を、守ってくれるのではないのでしょうか？
39	町会の福祉部長をしていたが高齢で全員がやめてしまい福祉活動が中止になった
40	他の市町村にないイベント行事、情報の交流事業、高齢者住宅（空）の活用、次世代に受けつぐ人材の育成（居、食、住）
41	広域的に考えた方がいいアイデアや意見などがでてくると思うので
42	色々な人達との意見交換 アイデアが多くなる
43	障がいのある子ども達が親が亡くなり1人に成った時に、生活が出来る施設を造る事を考えてほしいです。登別大谷高校の跡地利用など考えてほしいです。私のまわりにも、何人か障がいのある方がいますので考えて下さい。お願いします。
44	災害時の連絡放送等準備設置はされているが、風向き等や建物の気密化で室内に居ると聞こえず解らないときがある。 観光都市であるが、玄関口である登別駅前がみすぼらしい状況である。もう少し観光客に訴えるような環境にして、集客能力UPするべきと考える。 福祉については、高齢者がいきいきした目標を持った活動の場を提供して健常者と共に笑顔で生きがいを持てる様な環境作りをして欲しい。
45	観光だけで地域が生き残ることは難しいと思います。室蘭の技術、技能を売りとして、企業誘致を積極的に行なうことが必要と思います。室蘭港の魅力は夜景ではありません。天然の良港です。登別温泉も入浴後温泉街を歩きたくなるような環境が欠如しています。他の温泉地を参考にし、独自色を出すことが必要です。しかしこれが難しいですね。
46	3市3町が協力しあって、医療が安心してどんな事があっても診察が受けられる体制や、温泉という宝がありますので、大事に広げていってほしいと思います。
47	私が受診している呼吸器科が近くになく（専門医が少ない）室蘭までの通院（入院）となり出来る事なら近くの病院で受診スリの方箋の発行までの処置ができるような病院同士の連携は不可能でしょうか？
48	登別市には大きな医療機関（総合病院）がない。たとえば脳外科など、脳に関する命にかかわる病に急激になったとしても救急車で大川原病院や日鋼・市立など室蘭市内までと時間はかかる。一刻をあらそう病などの対応をできる病院が市内にできてほしい。
49	環境に優しいエネルギー、登別市なら地熱とかそういう事が出来たら良いと思う
50	まちによって医療、福祉が違っていると困ってしまうので一定の基準を合わせたほうが良い。

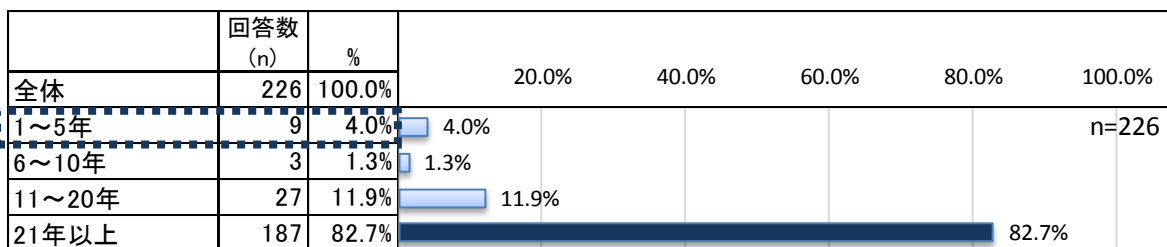
[問12自由記述 (4/4)]

番号	内容
51	北海道新幹線開通後に観光客がもっと多く地元に来て、活性化することを期待する
52	総合病院の設置（市立病院として）
53	個別の市より、隣接、関連する地域で連携し、効率をあげ、コストを下げるべき。
54	将来安心して生活が出来るため、子ども達が地元で生活していくために
55	広域で取り組んだ方が相乗効果が生まれより地域の特性を發揮した街づくりが出来ると 思います。
56	1) 医療：大型病院は室蘭市に集中しており、それらの病院で亡くなった故人の搬送は 割増しとなるようです。同じ胆振中央ゾーンとしての扱い方が望ましい。 2) 防災：登別・室蘭市民は仕事・買物等両市を横断することが多いので避難場所等の 情報を交換した方が良い。 3) 観光：登別温泉は国内外へのアプローチが強く、時々市民への優待券が発行される が、ネット上の価格と比べて魅力はない。地元の観光地の意識が持てない。マリンパー クの割引券も他市の友人が来ても登別市民しか割引対象でなく、行く動機付けが弱い。
57	これからの老後生活に医療、環境等など不安が少しでもなく穏やかに暮せる様に願いま します。
58	登別市には先進医療施設が少ないので、どうしても室蘭を頼ってしまうから。
59	災害などがおきた時の協力体制やボランティアなどの受け入れ体制を充実
60	医療は隣接する市に大型総合病院、専門病院があるので。
61	例えば病気で喉頭を摘出することを余儀なくされ声を失ない、代用音声を身につける時 に地元には自立する為の援護策がなされていないので、隣接した市に頼るのが現状とな っています。本人の前向きな意向がもちろん大切ですが高齢な方にとっては、隣りの市 へ出向くまでの交通手段が難しくなります。（室蘭市の発生教室へ）一度失ないはしま しても再び代用音声で発声する喜びを知らずに過ごすのではもったいないことです。
62	⑦低賃金からくる介護職の人材不足。少子高齢化で、老を介護の不安。その他の支援体 制にも取りくんで欲しい。 ⑧工業大学・専門学校もあり、企業誘致等で若者の流出を防いで欲しい。
63	充実した老後をすごせる取り組み
64	要望は医療のことですが今は室蘭に車で行っているのですが車に乗れなくなった場合心 配です。（交通の便が悪い）
65	1.急病時の対応を速やかに連携できるシステム、2.近隣市町村による観光誘致の充実化、 7.高齢者の安全、安心できる施設の充実化
66	近隣市町との交流・親睦を図る事。医療体制救急時の搬送の確保等々

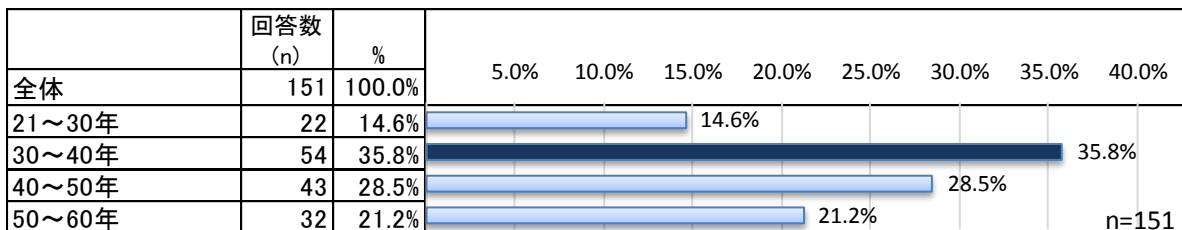
⑤ 今後の居住について

問13 あなたは、登別市にどのくらいの期間お住まいですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の居住期間は、「21年以上」が8割以上を占めています。

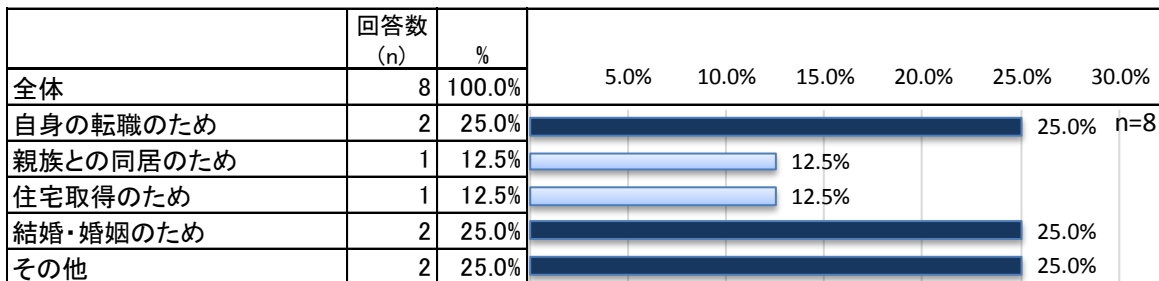


[21年以上の内訳]



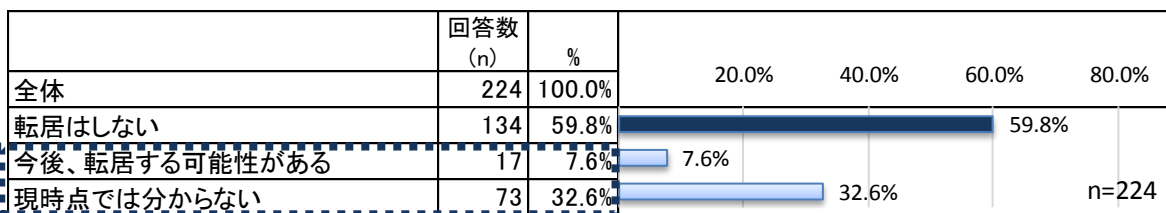
問14 あなたが、登別市に移り住んだ理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の移住理由は、「自身の転職のため」・「結婚・婚姻のため」が25.0%となっています。



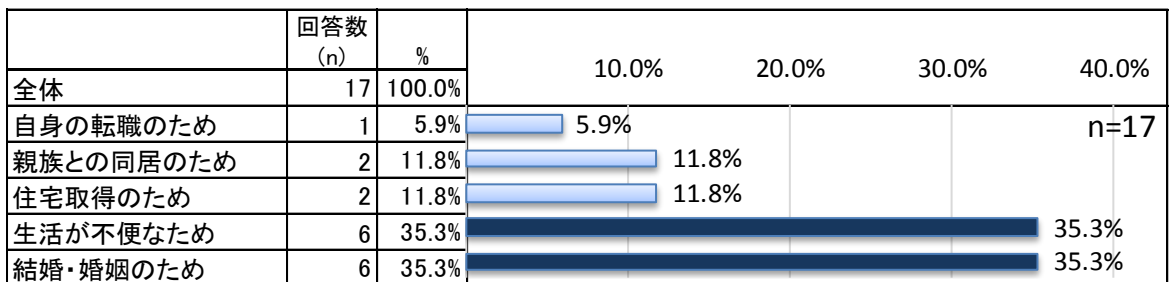
問15 今後、登別市以外に転居する可能性はありますか（1つだけ選び番号に○）

回答者の転居の可能性は、「転居はしない」が59.8%と半数以上を占めています。



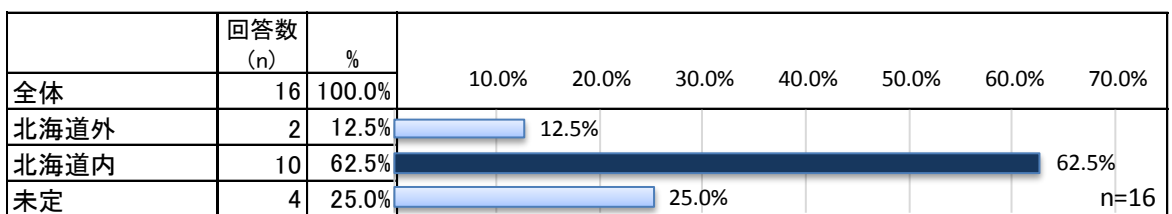
問16 あなたが、登別市から転居する可能性がある場合、理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

転居の可能性がある場合の理由は、「生活が不便なため」・「結婚・婚姻のため」が35.3%となっています。

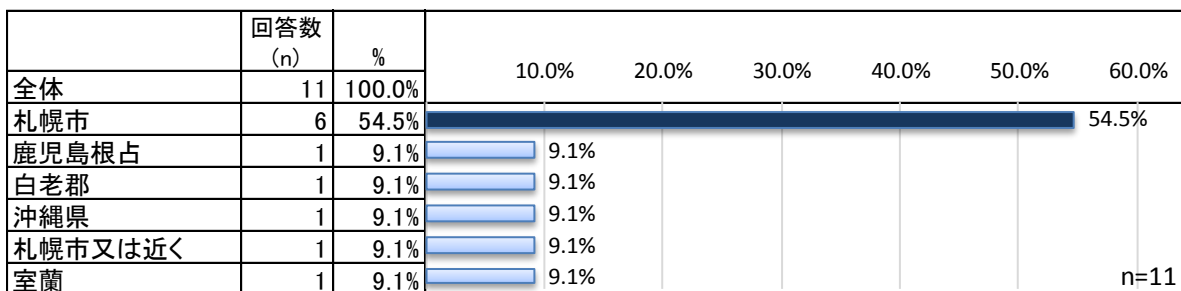


問17 あなたが、登別市から転居する可能性がある場合、転居先はどこですか（1つだけ選び番号に○）

転出の可能性がある場合の転居先は、「北海道内」が62.5%と半数以上を占めています。



[転出先]



問18 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/6)]

番号	内容
1	長い期間住み慣れると愛着が湧いてきます。高齢化が進む中安心して穏やかに暮らせる様に優しい登別市でいて下さい。今は満足していますが発展を望みます。
2	冬期、吹雪による停電を5時間以下にするように、計画願いたい。
3	総合病院が遠いのが不便です
4	何事にも単なる縦割行政を行うのではなく(かなり多い)常にやらせてもらっているという気持ちを持ちながら登別がより良い所と思わる様取り組んでいただきたい。
5	夫が軽い脳梗塞を患い、6年経過。マヒなどはないが、OT、PTさんの指導のもとに運動ができる施設があったらいいなと思います。健康チェックをしながら、データを基に運動の指導を受けられると、納得してできると思います。男の人は、理屈など理解しないと、なかなか周囲の言うことをきかないです。介護度がついていない人の悩みです。
6	別にありません。今住んでいる所はとても良い所で安心してあります
7	他の都市はわからないので比べられないけれど登別市はそんなに悪くないと思いますよ。道の駅があるととってもいいのにね。栄町の今トライアルがある所、前に土地空いていた時、「ここに道の駅出来ないかなー」とずっと言っていました。
8	国道添に交通が便利良く仕手ほしい。
9	高齢者が安心して住める条件整備が求められる。施設・医療などの完備と高齢者への支援・対応。
10	アナログ生活に慣れてしまい、新しいことに挑戦はむずかしいが若い人たちが一歩、二歩と前進できる町作りは早急に必要。この近辺の不動産も一定の人の利だけで回っていたら死の街になってしまう。前向きな考えや行動力は老若男女に持ってほしい！！
11	住み良い町づくり
12	柏木の通りに、スピード違反のカメラの設置を、おねがいしたい。
13	課題が多くある中、全ては困難なので取組む事に順番を決め、数点に絞り実行をして下さい
14	1. 企業誘致、2. 若者が住める町、3. 安心して子育てができる町
15	高齢化社会は、さけてとうれいな時代です、戦争はもうありません。平和でありつづけるような政治を努力して下さい。
16	市道を整備して下さい。
17	もっと楽しいことがあればいいとおもう。何も面白いことがなくてたいくつである。何か考えて下さいイベントを。他の町は色々考えてますよね

高齢者施策向けアンケート結果

[自由記述 (2/6)]

番号	内容
18	老後の生活で、どのようになるかによって。老人の入る介護者の受け入れ場所が出来る様 お願いしています
19	小さな町ながら仕事先も少なく又少数の年金からのカットで生活が苦しくなるばかりで す。少しは市民の声をお聞き下さい
20	観光地で売るのであれば道端の草取り（すごく気になります）花を植える等の工夫が必要 ではないでしょうか。
21	少い人口での市政で経済的にも、種々の対応が出来ない。そのため大都市等に比べて、種々 の不利益を被っている。スポーツ・教育・文化・学校の能力、就職・札幌間のJR本数、 特別な買物（衣類、本、・・・）が差別化されている。西胆振市等大きな考えで前向きに 検討すべきではないか。じり貧の一途をたどる傾向が、強くなっている
22	現時点の町内会のあり方や、公共施設の無料での使用など財政を圧迫する要素が蓄積され ている。無料で飲食するなどもってのほかだと思う。以前にも、いくつかのアンケートに 答えたが改善されているのだろうか。ましてやホームページだけの公表ではまったく意味 がない。広報等利用すべきである
23	道の駅を新設、各地の特産物の販売
24	老後の医療施設や老後安心して生活できる場所。1人暮らしの人は、毎日不安を持って過 ごしている人が多い。若者とお年寄りが助け合う生活があったりすると良いのでは。※市 民の合同墓地を（申入の中で資金は成り立つのでは）子ども市内にいないと墓の問題も悩 み
25	総花的で、まとまり、特徴がない。他市に対しても、どこが違うのか、どこに力点を置い ているのかわかりづらい。
26	草などが生い茂っている所や、川がきれいになると、もっと良い所になると思います。川 の周辺など、徒歩や自転車などで散歩できるとみんなが楽しめる場所になる事でしょう
27	友達が病院に入院していますが週一ぐらいで洗たくもの取りに行っているがあまりにも （差別）しすぎる
28	健康で、安心して、老後をすごせる登別市を作って、アピールする方向で、登別市が発展 すればいいと思います。
29	町内会の仕事を10年近く手伝いましたが市が住民の意見を良く聞こうと取くんで居ると 感心しました。今後も続けて欲しいと思います
30	環境作り（1人でも多くの参加）。劣悪な環境（登別市役所）で頑張っている市職員さん、 負けないで下さい。
31	登別駅周辺に活気がなさすぎる。退職者の雇用の受け入り先が不安だ
32	空家や統廃合した校舎の有効利用を考えて！
33	年金が少なく仕事が無くなると生活ができない



## [自由記述 (3/6)]

番号	内容
34	若草町に住んで 40 年になりますが、登別の温泉以外は利用する事がなく、何もわかりません。室蘭で仕事、病院、買物、JR も東室蘭と室蘭のお世話になっています（生活全般）。これからも変わらないと思います。
35	千歳町ですんでいます坂が多いので道に車を駐車しているので子どもが出て来てこわい思いをしたので道路に駐車しないでほしいです。それから家と家の細い道路にも駐車しているので車が通りづらいのでこれもやらないでほしいです。
36	市庁舎も新しく立て直すようにしたらどうですか。新しい市民となった人は市役所が幌別にあるというのはわかりづらいと思います
37	登別は温泉地なのに足湯がほとんど無い。（温泉街の足湯は道のりが遠い）苫小牧では、街中に足湯ブースがあり、驚いた。子どもから年配の方まで、気軽に、無料で楽しみ施設が、不足していると思います。
38	少子高齢化を防ぐ為、雇用確保や、大都市からの移住を働きかけるといいと思う。室蘭地方（3市）は、医療が進んでいるのでマスコミでも報道されています。（別府と室蘭地方の2ヶ所）
39	・小学校・中学校における「いじめ」への対応をしっかりやる事。・登別市内は、どうでしょうか？いつもどこでも事が起こってからあーでもない・こうでもないと言っている様な気がします。・サイン又は情報があったら直ちに対応して下さい。（先生、教育委員会等）・またそれらの感性を育てて下さい。
40	・活気ある市にしてほしい。・市役所の方の対応が不親切に思う。話し方が冷たい。
41	2013年に道新に登別市が合同墓検討という記事が出ていたのですが、どの位話が進んでいるのか知りたいです。出来れば少しでも早く、決めてくれればと思っています。
42	登別全体の観光、介護事業、商業の活性化を願ってます
43	登別市で、ここは見学してもらいたいヶ所に停車できる循環バスを出す。利用者は一日乗車券で目的場所を次のバス時間迄ゆっくりできる。名古屋ではメーグルという一日乗車券1000円で名古屋城～トヨタ博物館など見学できます。入場料は別料金でしたが。
44	若者が、種々の活動に参加できる様な企画（若者が）を考える（経済的援助も含め）
45	高齢者向けの住まい
46	高齢者から税金を取る事だけでなく少しでも地域を巡回し、いろいろな面で支援するようにしてほしい。又、市の職員、特に女性が無愛想なので笑顔で、窓口対応をしてほしいと思います。
47	きめ細やかな市政をしていただいていると感じています。
48	苫小牧及び室蘭にても2年おきに市民会館プロの歌手を向かえています。登別にても市長が進んで向かえてほしい。。。。。

高齢者施策向けアンケート結果

[自由記述 (4/6)]

番号	内容
49	高齢者が多くなってきていますので、施設の充実、若いお母さん達が働ける為に、保育所の充実を望みます。施設では、ヘルパーさん、保育所では保育士さんの雇用に継がると思っています。
50	過日登別の観光マップ（3つ折）を見る機会があり拝見しましたが、地元に住んでいる私でさえも、その内容が良く判らない。観光にいらした方々にしたら全く用をたしていません。一度考えてはどうでしょうか？
51	今現在は夫婦とも健康で心配はないので考えた事は子ども達が3人市外道外なのでありません。今後問題は沢山でるでしょう。（子どもはあてにしていませので）せめて、貯金はするようにしています。
52	若草町2丁目12に住んでいるが土地が低いので排水工事をしてほしい。いつも雨の日水がたまる。
53	先天性下肢障がい(第一種2級)のために御市の地域貢献出来ず申し訳なく思っております。
54	温泉だけではなく登別をもっとアピールして市の借金をかえしつつできれば新しい図書館を作ってほしい
55	住みやすく大変良い町と思っています。
56	介護保険が高いので、1度も使っていない人には少しでも割り引いてほしいです。年金が少ないので困ります。
57	年を重ねるほどに魅力を感じられませんが、芸術的に高いものに触れたいと思うのですが、札幌へ行かなければかきません。スポーツも高いレベルの技を観たいと思うのですが、登別ではかきません。
58	年金が少ないので子どもにめいわくをかけず年金ではいれるしせつが少ないので心配である
59	これから年金生活になって、ゆとりのある生活ができるような安心できる町作りをお願いします。
60	共同墓地があったら良いです。子どもが遠くにいて、迷惑をかけたくないので。
61	企業誘致、地場産業活性化等費用をかけなければ助成援ゴを実行してわずかでも成功すれば良しとし、三市があらゆる面で連携協調し、若年層の増加を達成し事件事故のない住み良い三市の発展を希望します。
62	財政赤字を子孫に廻してほしくない
63	財政のこともあるだろうが、魅力ある市政を望みます。余りにも沈滞して活気なく若者が育たない市だと思う。
64	登別市、室蘭市、伊達市を含んだ、広域な事業を増やし最終目的として三市合併が望ましいと思う。

## [自由記述 (5/6)]

番号	内容
65	できるだけ多方面の意見を聞くべき。
66	・メイン道路（36号線）に駐在所がない為以前同様にしてほしい。・コンビニが2件あったが閉店し身近な店がなくなった為不便である、それを解消してほしい。
67	若者が住みやすい町になってほしい（就職先が少ない）
68	次世代に続く活気ある街になってほしい。
69	・若い人が結婚出産をサポートできる様な市政を願う。 ・無駄のない、切れ目のない、市民の為の市政を、時には厳しさも？
70	市役所の窓口は他市と比較してもとても感じが良く行きやすい。市庁舎の老朽化が進んでいるようで庁内の環境が悪く職員の皆さんがたいへんそうです。移転新築を検討する時期に来ているかも知れません。
71	他の行政のまねをしたり、国や道の補助をあてにしない登別市独自の事業企画
72	高校を卒業した子どもたちが地元で就職できるように企業誘致などに力を入れて下さい。正社員になり働く所がありません。
73	現在民間の住宅に住んでおりますが、古い住宅のために冬は寒くて、灯油を400ℓ×3回仕入れます。又、風呂もないし、トイレもくみ取りです。 市営住宅、道営住宅も申込みしていますが、当らないです。 もう少し、単身住宅をふやしてほしいです。柏木団地や東団地は空いていると聞いています。
74	現時点でも市政に関して充分満足しているので、要望はとくに無い。
75	子どもさん達が笑顔で遊べる街を願っています。音楽・観劇などを市民会館へ出向いて観たり聴いたりする経験を出来るかぎり多くしてほしいです。現実的に無理な時でも優先する価値のあることだと思います。学校に音楽家の方に出向いてもらうこともしているのかと思いますが、なるべく回数を増やしてほしい」と思います。
76	高齢者世帯ですが地域の民生委員の方が訪ねてくださいますので少し安心しています。冬の除雪が大変です。除雪車が入るとせっかくきれいに除雪した玄関前に雪を置いていくのには毎年非常に困っています。除雪業者の方、また仕方に一考を！
77	1.体育館の建て直し 2.野球場（プロ一軍が来れる様に） 3.目・耳を楽しませてくれる各界のプロが来てくれる（一流の）スタジアムがあるといいですね。
78	生活弱者に寄り添える市政であってほしいと思います。
79	健康な老人が集う場所があると良いと思う。介護認定を受けていないと、行く所がなく、いえにこもってしまう。

高齢者施策向けアンケート結果

[自由記述 (6/6)]

番号	内容
80	今回のアンケートとは全く関係がないのですが一つ要望があります。ゴミ袋の販売方法ですが、もえるゴミ袋はいいのですが、もえないゴミ袋の場合割れた食器など小さな物から時には40Lにしか入らないような大きなものもあります。その為に10枚買っても結局それぞれの大きさで残ってしまい、だからといって小さな物を大きな袋に入れて出すのは不経済です。室蘭市が行っているように各種を1枚単位の販売にしてもらえないでしょうか。以前より気になっている点です。
81	○主人の転勤で17年登別をはなれていましたが、帰ってきたら以前にくらべて活気がないように感じます。 ○駅名をなんとかならないですか？（例：登別斎場にくるのに登別駅でおりた。） ○幌別駅を登別駅、登別駅を登別温泉駅はどうですか？
82	河川敷地樹木の整備
83	環境整備、特に幹線道路の樹木、雑草手入れ、花等を植え付け、美化に力を入れてほしい。
84	何時迄も住みやすい町であります様、知恵をしばって市政に取り組んでください。
85	最近各市町等で将来の墓地の問題を見ました。個人的には早期に共同墓地の実現を希望します。
86	市営住宅に長年いると色々問題があり、骨のすみから小虫、カビ、ケツロ、物置のケツロが最悪。

(3) 雇用・経済施策向けアンケート（高校生）結果

① 基本属性

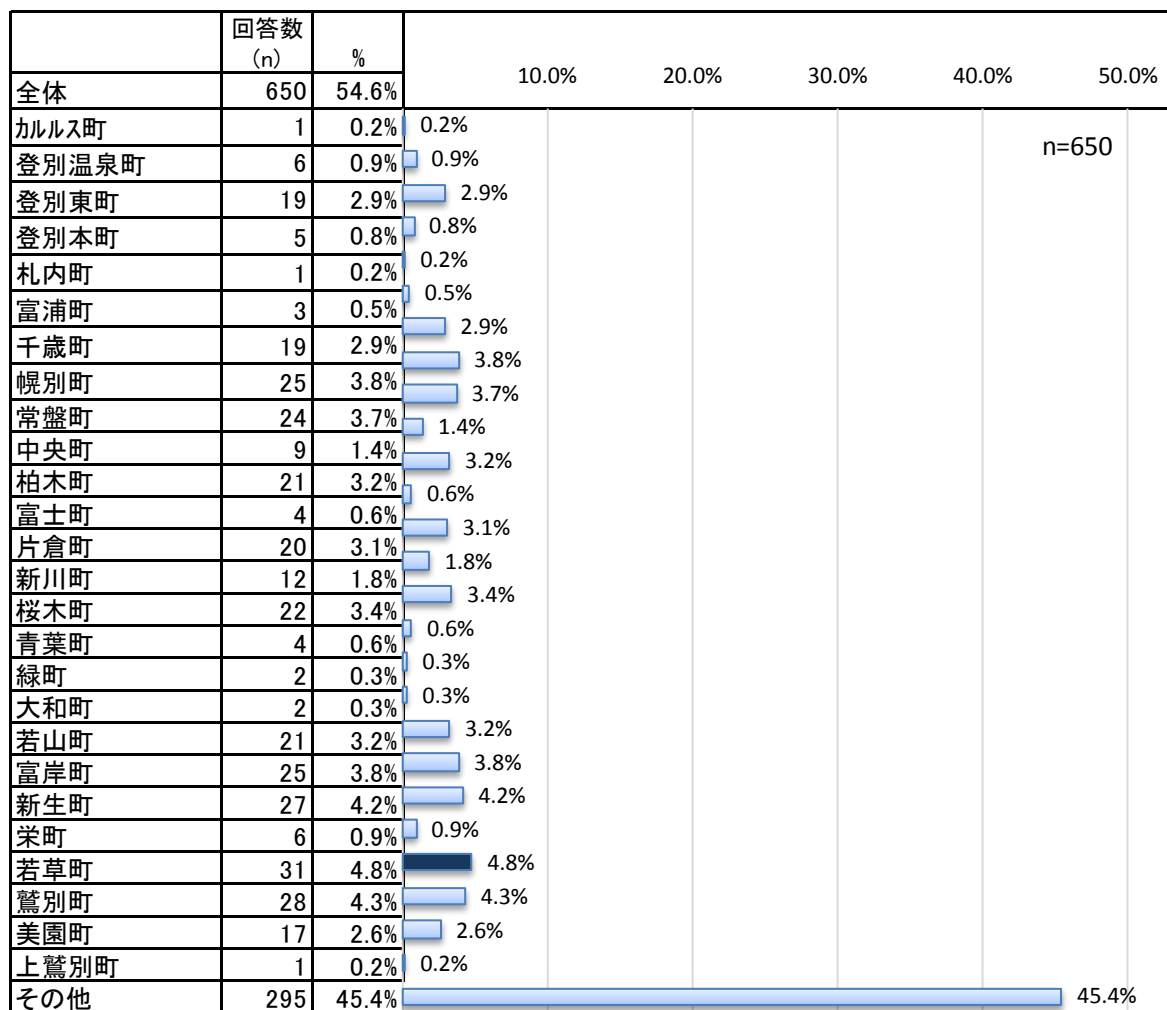
問1 あなたの学年を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の学年は、各学年ともに差はなく、3割以上となっています。

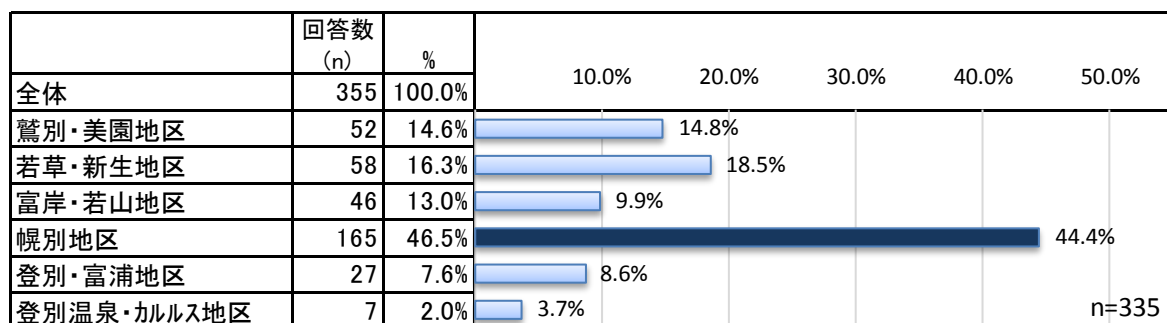
	回答数 (n)	%		10.0%	20.0%	30.0%	40.0%
全体	636	100.0%					
1年生(4年生)	226	35.5%					35.5%
2年生(5年生)	215	33.8%					33.8%
3年生(6年生)	195	30.7%					30.7% n=636

問2 あなたのお住まいの町名を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、市内全域に広がっています。

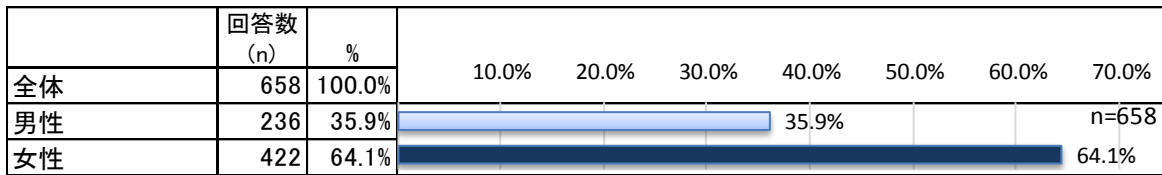


[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]



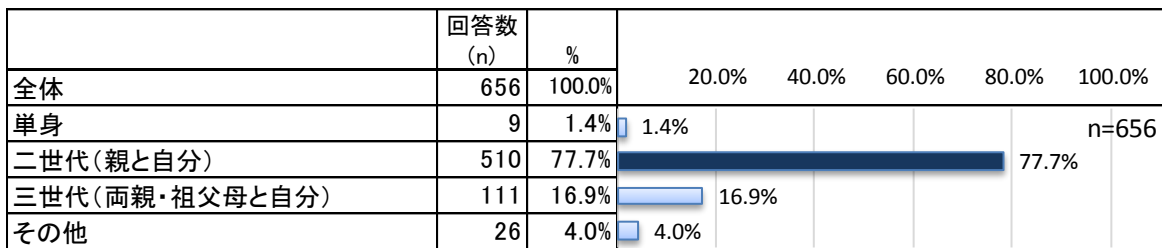
問3 あなたの性別を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の性別は、「男性」が35.9%、「女性」が64.1%となっています。



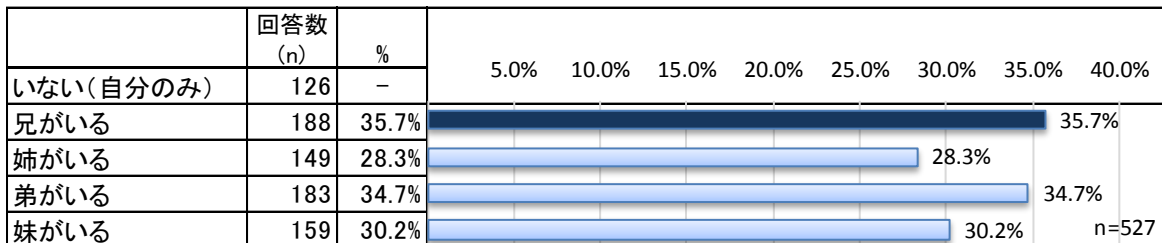
問4 あなたの世帯構成を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の世帯構成は、「二世帯（親と自分）」が8割近くを占めています。



問5 あなた以外の兄弟姉妹について教えてください（該当するものをすべて選び番号に○）

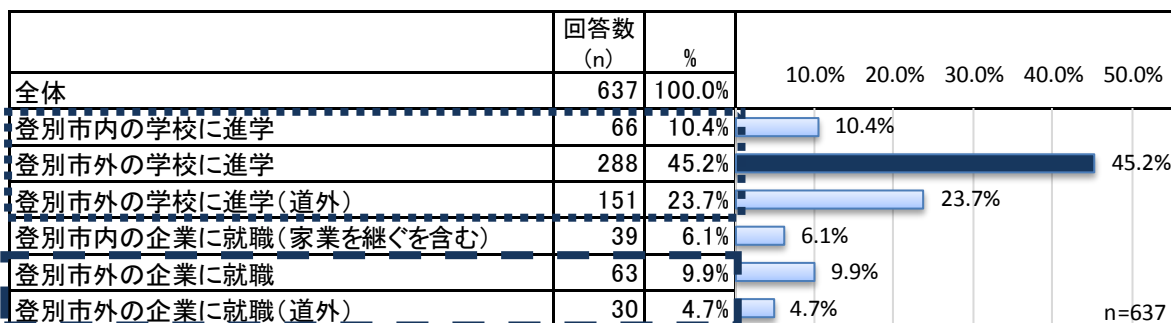
回答者の兄弟姉妹については、「弟がいる」が35.7%、次いで「兄がいる」が34.7%となっています。



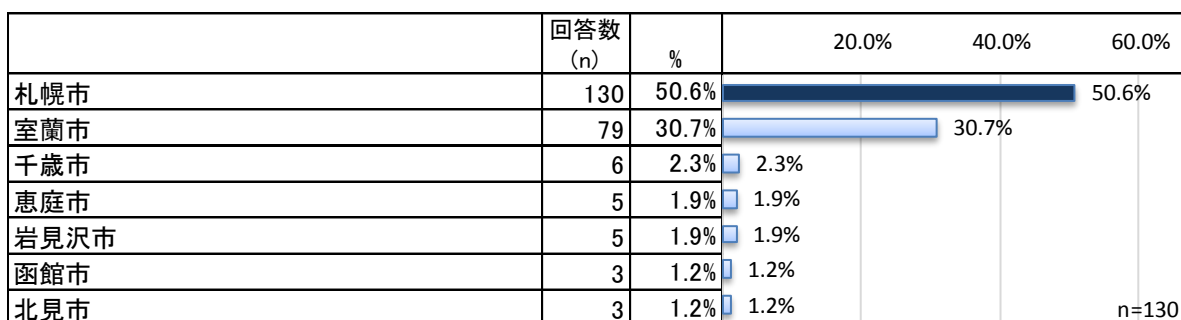
## ② 高校卒業後の進路について

問6 あなたの高校卒業後の進路について、予定または希望を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の高校卒業後の進路は、「登別市外の学校に進学」が45.2%と半数近くを占めています。

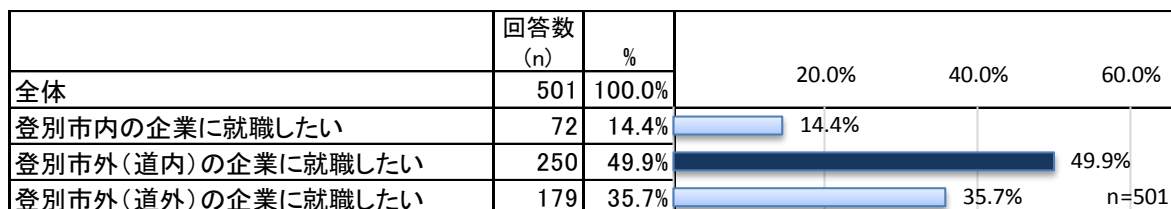


[市外（上位5位まで）]

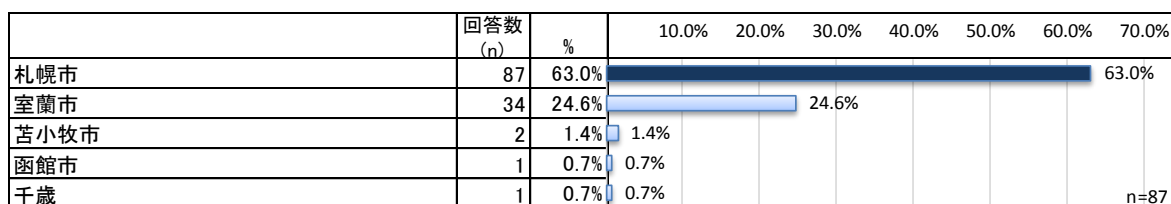


問7 あなたの進学後の地元就職の意志について教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の地元就職の意志は、「登別市外（道内）の企業に就職したい」が49.9%と半数近くを占めています。



[市外（上位5位まで）]





問8 あなたが市外で就職したいと思う理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の市外への就職希望理由は、「登別市内に志望する職場（企業等）が少ないため」が37.1%、「登別市外に出てみたい・出なければならないため」31.5%となっています。

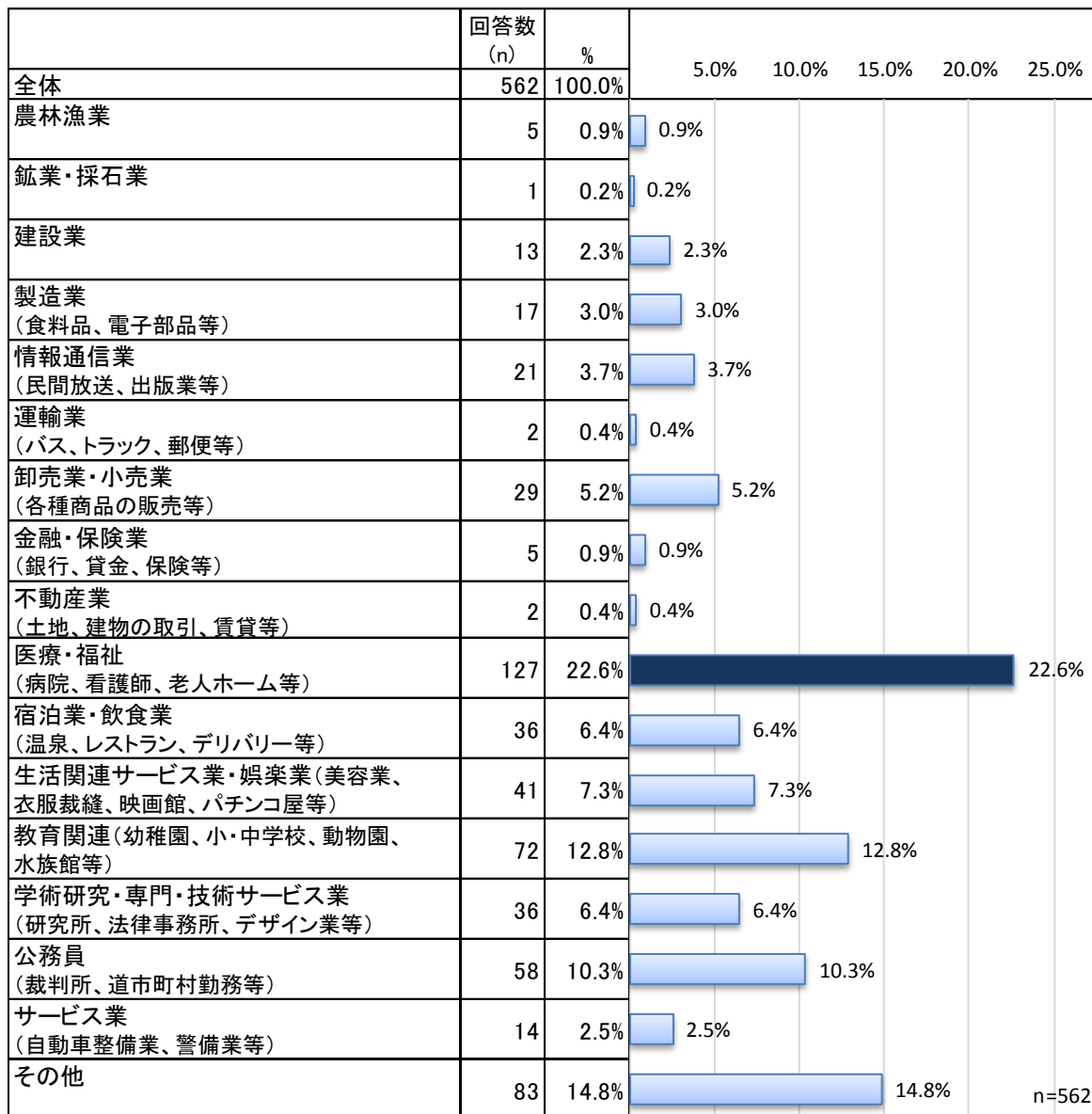
	回答数 (n)	%		
全体	482	100.0%		25.0% 50.0%
登別市内に志望する職場（企業等）が少ないため	179	37.1%		37.1%
登別市内の職場（企業等）までの交通手段が不便なため	29	6.0%	6.0%	
登別市内には遊ぶところや買い物の場が少ないため	50	10.4%	10.4%	
登別市外に出てみたい・出なければならないため	152	31.5%		31.5%
その他	72	14.9%	14.9%	n=482

[問8 その他（1/1）]

番号	内容	番号	内容
1	車でかよえればいい	28	就職したい場所が登別市街だから
2	家が室蘭市のため、近い方が良くから	29	札幌って決めているから
3	登別市のことをしらない	30	住んでいる場所が室蘭だから
4	親戚のように海外で働きたいと思ったから	31	今住んでいる周辺にしたいから
5	すすしいから	32	登別市に住んでいないから
6	室蘭が地元だから	33	住んでみたいから
7	室蘭市にすんでるから	34	自分の就職したいことが道外じゃないとできないことだから
8	たくさんつとめられるところがあるため	35	地元じゃないから
9	札幌に働きたいところがあるから	36	就職したい企業が市外にあるため
10	ここではできないから	37	自分の地元だから
11	もっと広い視野で日本を見てみたいから	38	私は日本を変える
12	地元だと自分のやりたい仕事ができない	39	海外ではたらかたいから。
13	地元で就職したい	40	いなかすぎるから
14	自分の家が室蘭だから	41	全体的に不便だから
15	行きたい所がない	42	登別市に思い入れがないため。
16	人生もったいない	43	登別市に特別な想いがあるわけではないから
17	家が近くにあるから	44	室蘭市に住んでいて、室蘭に帰ってきて働きたいから
18	公務員の給料が他と比べて少ない	45	道職員を希望しているので
19	就職先によって、まだ分からない	46	地元が札幌だから
20	技術向上を目指したいため	47	地元思考だから
21	住んでる市だから	48	登別市がダサいから
22	働きたい職場があるのが市街だから	49	志望する職場がまったくない
23	登別市民じゃないから	50	登別はアクセスが悪いし、田舎はきらいだから
24	決まっているから	51	挑戦できる機会を増やすため
25	色々不便だから	52	特に考えた事はない
26	北海道から出たい	53	流行に疎いため
27	実家から出てみたい	54	そもそも登別に住んでない

問9 あなたが就職する、また就職したいと考える業種を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の就職希望業種は、「医療・福祉」が22.6%となっています。



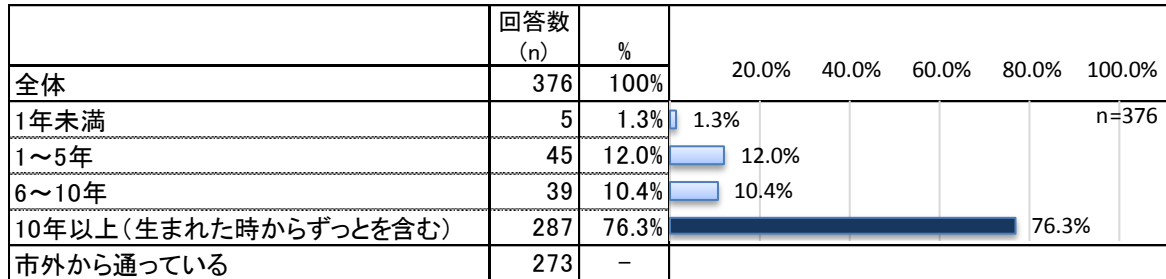
[その他]

イラストレーター	事務関係	情報関係	国際公務員
プログラマー・コンピュータプログラム系	スポーツ関係(プロ選手・インストラクター等)	芸能関係(声優・役者・マネージャー等)	IT企業
ゲーム関係(ゲームクリエイター等)	ダンサー	電気系の仕事	自衛官
ブライダル・ウェディングプランナー	社長・経営者	個人経営料理系	未定
接客業(観光等)	心理系	ペットショップ	考え中
接客業	なにかしらのプランを立てる、映像関係	旅行関係	考えていない
花火師	航空関係・空港関係	アーティスト・芸術系	わからない
調理師	音楽・舞台関係	栄養士・管理栄養士	教えない

### ③ 今後の居住について

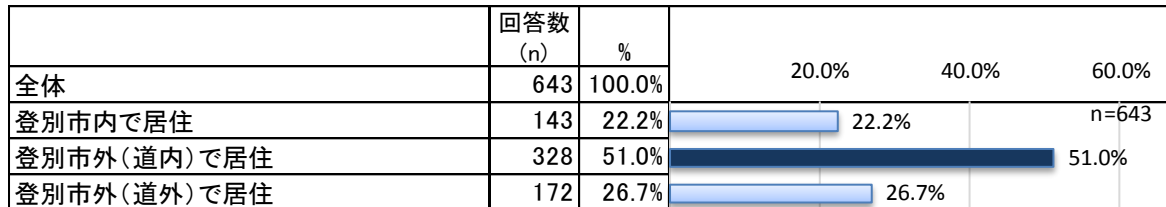
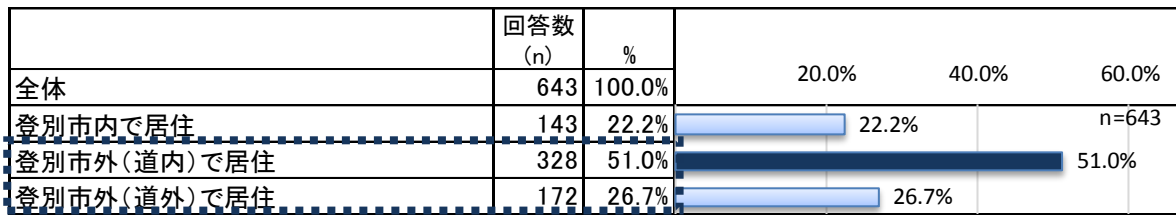
問10 あなたは、登別市にどのくらいの期間お住まいですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の居住期間は、「10年以上（生まれた時からずっとを含む）」が7割以上を占めています。

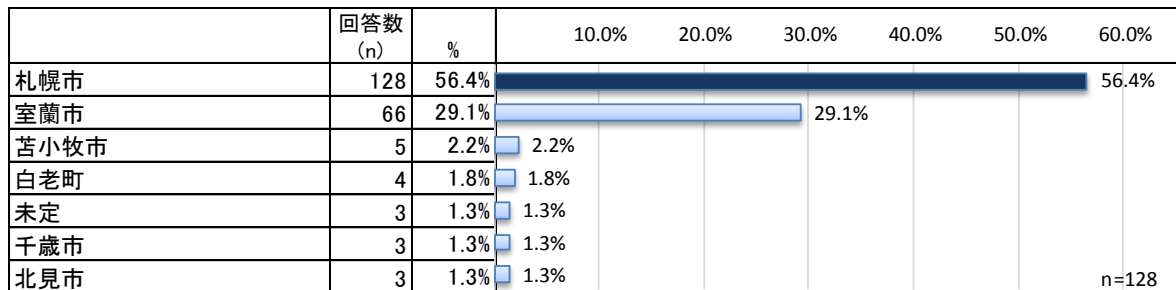


問11 あなたの高校卒業後の居住地について、予定または希望を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の卒業後の居住地は、「登別市外（道内）で居住」が半数以上を占めています。



[市外（上位5位まで）]



問12 あなたは、将来、登別市にUターンして、定住する可能性はありますか（1つだけ  
 選び番号に○）

Uターン意向については、「将来、登別市に戻ってくる予定はない」が6割近くを占めています。

	回答数 (n)	%	
全体	490	100.0%	20.0% 40.0% 60.0% 80.0%
学校を卒業したら就職のために登別に戻ってきたい	24	4.9%	
結婚をしたら子育てのために登別に戻ってきたい	21	4.3%	
親の介護が必要になれば戻ってきたい	90	18.4%	
将来、登別市に戻ってくる予定はない	292	59.6%	59.6%
その他	63	12.9%	n=490

[その他]

登別市内に住んでいない	状況による
死ぬ時は登別で	観光しに
専門学校を卒業してから	まだわからない
道内のどこか	今のところはない
ずっといると思う	特に考えてもない
戻りたいとは思うがいつかはわからない	

問13 あなたが、将来の居住地を選択する際、何を重視しますか（1つだけ選び番号に○）

回答者が居住地を選択する際の重視点は、「職場（企業等）への近さ」が24.3%となっています。

	回答数 (n)	%	
全体	596	100.0%	10.0% 20.0% 30.0%
職場（企業等）への近さ	145	24.3%	24.3%
小・中学校への近さ	31	5.2%	5.2%
実家への近さ	36	6.0%	6.0%
駅やバス停への近さ	60	10.1%	10.1%
土地や住宅の価格	105	17.6%	17.6%
周囲の自然環境	129	21.6%	21.6%
買い物や娯楽などのあそび場の近さ	67	11.2%	11.2%
その他	23	3.9%	3.9% n=596

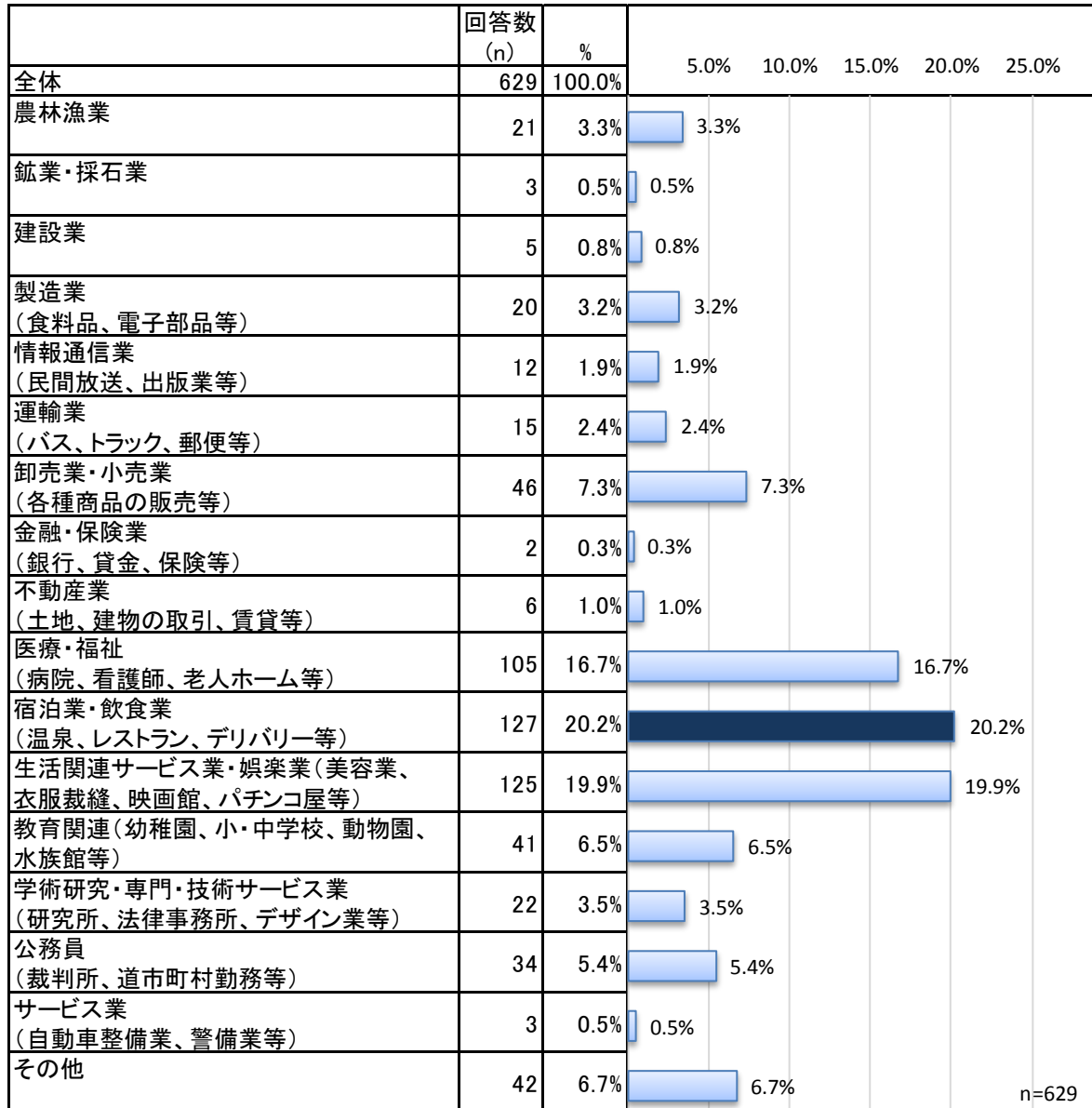
[その他]

住みやすさ	治安の良さ
引っ越すのが面倒	治安
近所付き合い	自然ではなく、きれいな所
親しみやすい街	自分がおちつけるかどうか
住みやすさ、その治安の良さ	芸術などやりたいことの本場
生まれた町	子供を育てやすい環境かどうか。
都心	

④ 将来の登別市の姿について

問14 あなたが、今後市内で増えると思う働き口はなんですか（1つだけ選び番号に○）

今後市内で増えると思う働き口は、「宿泊業・飲食業」が20.2%、「生活関連サービス業・娯楽業」が19.9%となっています。

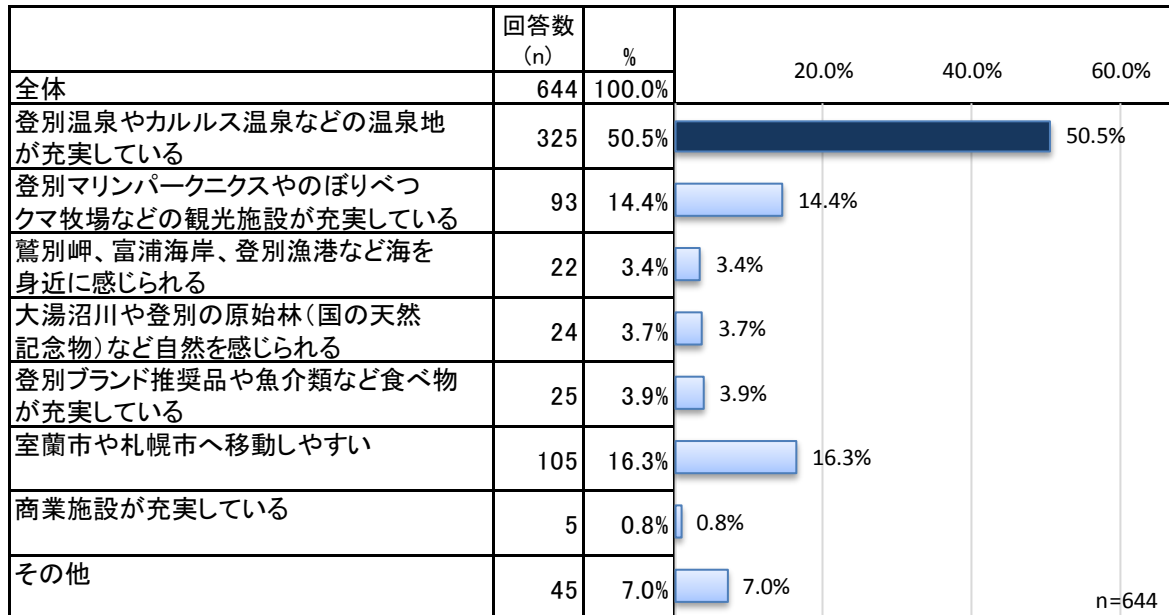


[その他]

イラストレーター	事務職
コンピュータプログラム系	ペットショップ
会計事務	遊園地
色々	温泉以外の観光施設

問15 あなたが、今の登別市で良いと思うところはなんですか（1つだけ選び番号に○）

登別市の良いと思うところは、「登別温泉やカルルス温泉などの温泉地が充実している」が半数以上を占めています。

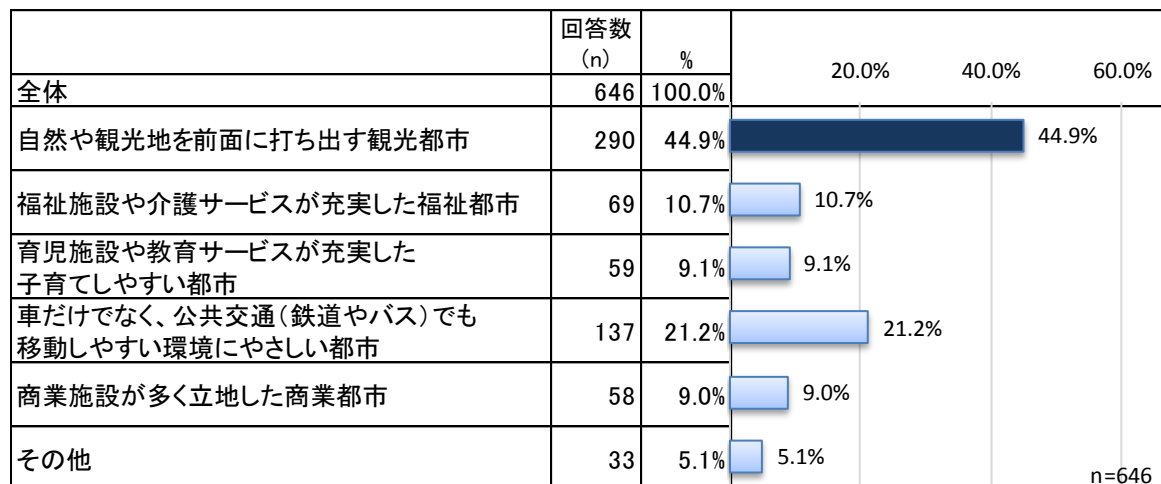


[その他]

人が利用しやすいお店が多い	程よい自然と町並み
また何があるかわからない	伊達時代村
すずしい	登別はすべてにおいて良い◎
まだ4か所ほどしかいないのでわからない	とても平和なところ
食べ物屋がたくさんある	アニメとコラボしてるとこ
海鮮がおいしい	全くそう思ったことはありません。ブランド品の値段は高いし・・・
登別伊達時代がある	住むのに不便がない程度には近隣に諸施設が充実している
平和なところ	

問16 あなたは、将来の登別市がどうあるべきだと思いますか（1つだけ選び番号に○）

登別市の将来像は、「自然や観光地を全面に打ち出す観光都市」が44.9%と半数近くを占めています。



[その他]

温泉を大事にする 遊べるところを増やした都市 とりあえず温泉を強調する。	大きいショッピングモールを作る 緑が多い街 バリアフリーをとっても多くすべき ショッピングモールとかを増やす お店を多くした方がいい 温泉の周辺だけさかえてるから他にも重点をおくべき 若者がたくさんいる活気あふれた都市 どうも思わない 何もなくていい
全部 都会化 漁業が盛んな都市 登別市に産婦人科があるといいですね 今のままで良い 大都会であるべき 国内アピールが少ない。カジノ施設をつくる 登別にはなんにもなさすぎる。登別駅周辺がもっと人が集まるような場所になればよいと思う。 様々な国の人が来る中で、全ての人がコミュニケーションに不自由しない都市	

問17 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/3)]

番号	内容
1	18時からの室蘭方向のバスの本数を増やして欲しい
2	アニメとコラボしたのナイスだと思います
3	いい市になるといいな。
4	いつも祖父がデイケアサービスにお世話になっています。
5	うす汚い商店街なんかを潰して新しいものにすればいいと思う。もっと店の種類を増やすべき
6	カラオケ店を増やして欲しい（幌別や登別に）
7	こちら（登別）にも札幌にあるようなデザイン学科があったらなと思っています。
8	ごみの分別はもっと細かくした方が良くと思います。
9	スタバつくって！！
10	スポーツする場所を増やして欲しい。
11	せっかく魚介がおいしい地域なので、もっとそういった店が増えたらいいな。（値段もお手軽で友達ともいける様な。）
12	そもそも通学生にとって登別は帰ってくる場所ではないんですが、質問内容をもう少し考えてほしい
13	デパートを増やしてほしいです。
14	電車やバスの時間を増やしてほしい
15	バスの本数があまり足りていない。お年寄りが車を運転できないのを考えて、もっと本数を増やすべきだ。
16	バスの来る時間のずれが激しい。など。税金を減らしてほしいなど。住んでいる団地が色々不便（桜木）。
17	バスを増やして、外灯をもっとつけてほしい
18	バス代が高い
19	ふるさと納税もっと頑張してほしい（商品とかあんまりよくない）
20	ほろべつえきと、わしべつえきの間にえきをふやしてほしい。朝と夜のバス時を増やしてほしい。飲食店を増やして欲しい。
21	マリンパーク、クマ牧場は書いてあるのになぜ時代村はかかないのですか
22	マリンパークニクスやクマ牧場はしょぼいので、もっと温泉をおしていくべきだと思う。
23	もう少し、遊ぶところを増やして欲しいです。ショッピングモールやもっと若者に人気になるような、所が欲しいです。正直に言うと、今の登別にはそんな所一つもありません



## [自由記述 (2/3)]

番号	内容
24	もう少しお年寄りが住みやすい街づくりをして欲しい。いつも整地されるのは富岸ばかりで桜木町は砂利があったり、そのほかにも全然バリアフリーになってほしい。
25	もっと楽しめる場所を増やして欲しいです
26	もっと観光地に力を入れて観光客を増やせるようにしてほしい。
27	もっと住みやすい街にした方がいい
28	もっと色々楽しめる場所を増やして欲しい。
29	もっと遊ぶところを増やしてほしい。街灯を多くしてほしい。
30	運動する場を多くしてほしい
31	温泉在住の人のバス賃を割引にして欲しい。月々1万5千円とかバカげてる。
32	温泉地をもっとうりだすべきだ。
33	海の眺めが最高だと思います
34	自由記入
35	外で遊べる場所を増やしてほしい
36	学校にエアコンを置くべき。暑いから。暑いと生徒も授業に集中できない。
37	漁師の手当とかをあつくしてほしい
38	交通機関が不便
39	公共交通機関で行けるところが少ない（市内で）。バス停はあっても便が少ないし通ってないところもある。
40	公務員での高校生採用者が工学院と同じでとても厳しいので考えてほしい
41	子どもがいないと町がつぶれるから育児しやすい環境を作ってください
42	子どもの遊び場は非常に少ないと感じる。また、海辺のゴミの多さは危険もあり、重要な問題だと思う。地域の学生等に意見を聞くこのような機会はとても良いと思う。市政は市民には見えづらく、積極的に市民の声を聞く姿勢が大切だと思う。
43	市外のインターンシップだけでなく市内でもすれば地元志向（就職面で）になるのでは…。
44	市内の高校のお金を平等にしてほしい
45	治安をもうちょっと改善してほしいです
46	自然のバランスを崩さない、生態系を壊さないようにしてほしい
47	若ものが楽しめる場を増やして欲しい。
48	若者が来やすいように、デパートや遊園地や公園（遊具いっぱい）などを作ればさかんになる。

[自由記述 (3/3)]

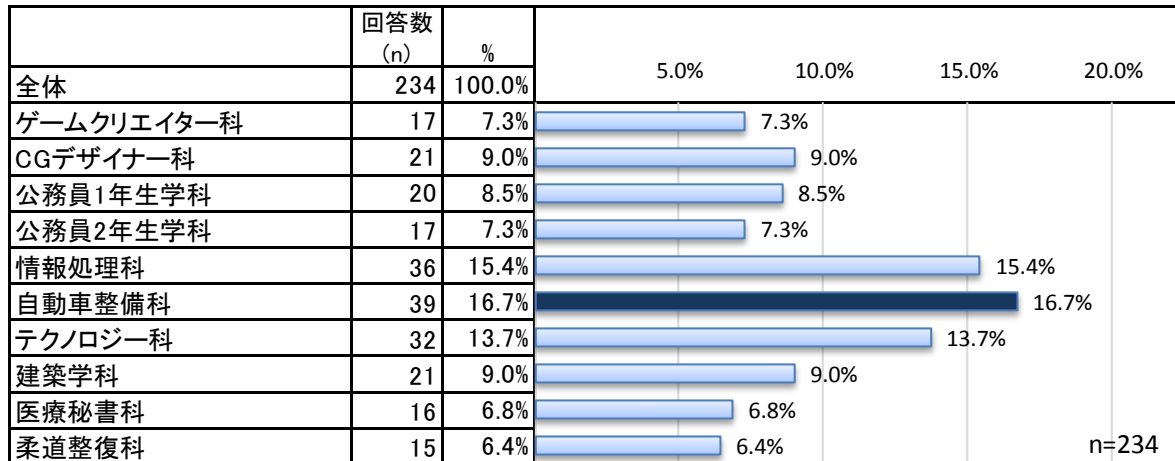
番号	内容
49	信号を多すぎ
50	新幹線開通&地下鉄開通
51	青嶺高校の近くにゲームセンターが欲しい。コンビニもカラオケも。
52	大きい複合施設（デパート）あと、自治体によってのうけられる支援金とか給付とか造ってほしい。（室蘭みたく）金とかの説明をしっかりとった方がいいと思う。
53	大変住み易そうな町だと思っています。伊達と同じく老後に住みたいかもしれません。
54	登別に来ないとないものがあるといい
55	登別の中心部などのお年寄りの施設ばかりではなく、西側の若い人たちがたくさん住むところにお金をかければ若い層が増えてくれると思います。
56	登別はとても良いところだけど全国に名が知れ渡っていないのもっとアピールしたらいいと思います。
57	登別駅側だけでなく、幌別や鷺別にもさかえてほしい
58	登別温泉最高っす
59	登別市にも100均があると助かる
60	登別自然が良いです
61	道の駅が無い事。
62	富岸川のフェンスを直していただきありがとうございます
63	福祉施設や介護サービス、育児施設など、人々が暮らしやすい市になってほしい。
64	文化祭の合唱の日に市民会館開けてほしい。
65	幌別西小学校付近の路側帯を広くしてほしい。
66	遊べるところを増やしてほしい
67	例) 若草中央公園のそうじをしてください。きたないので。

(4) 雇用・経済施策向けアンケート（専門学生）結果

① 基本属性

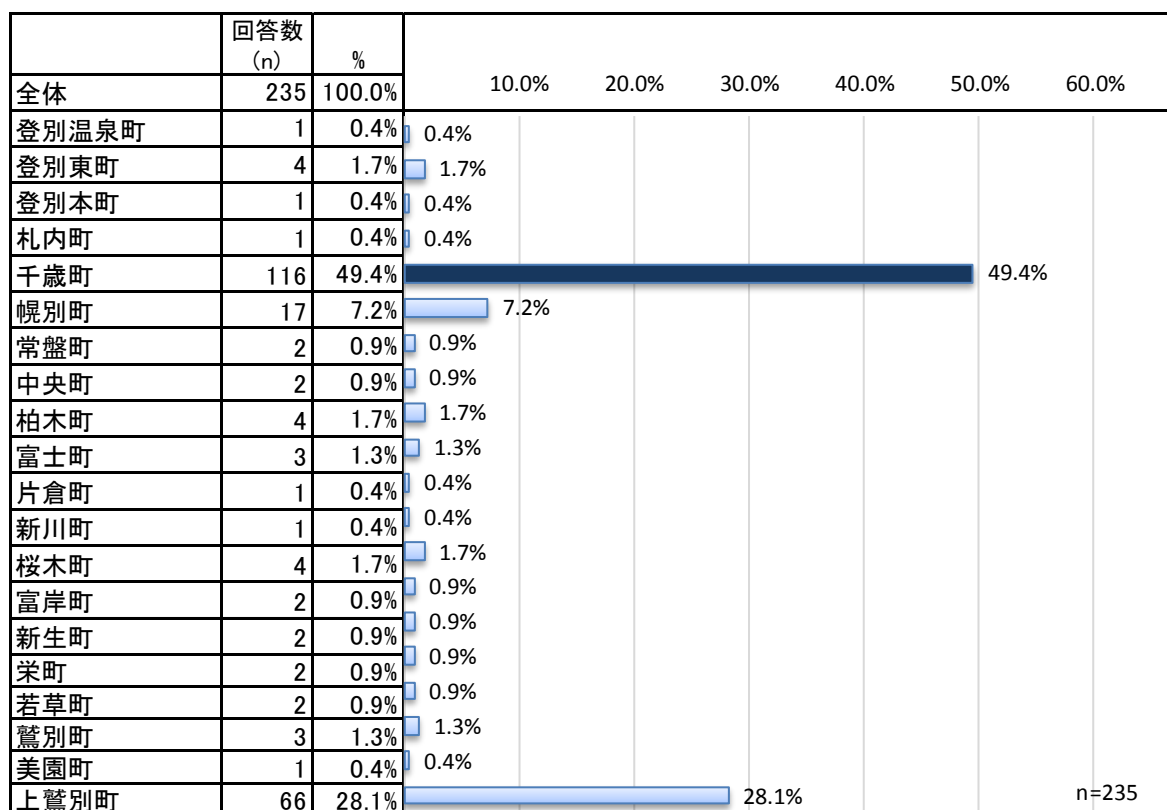
問1 あなたの学科を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の学科は、「自動車整備課」が 16.7%、次いで「情報処理科」が 15.4%となっています。

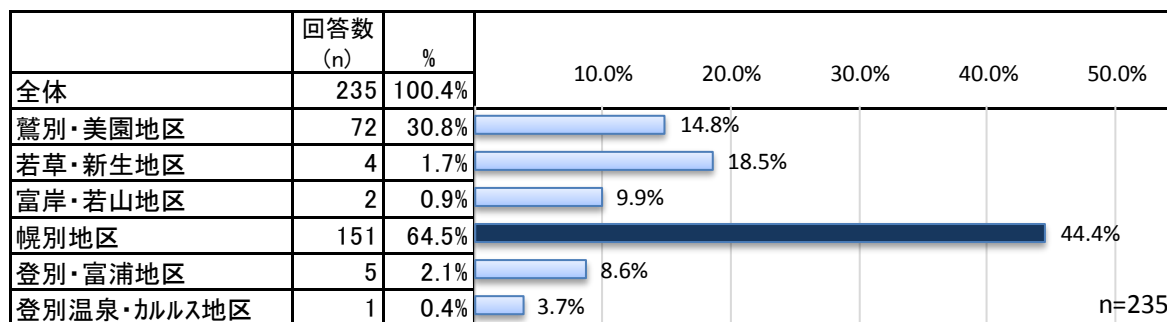


問2 あなたのお住まいの町名を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、「千歳町」が49.4%と半数近くを占めています。

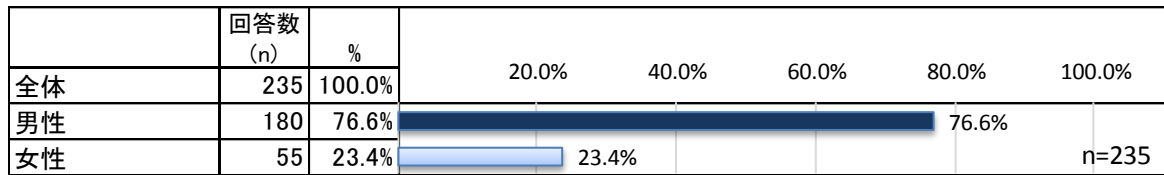


[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]



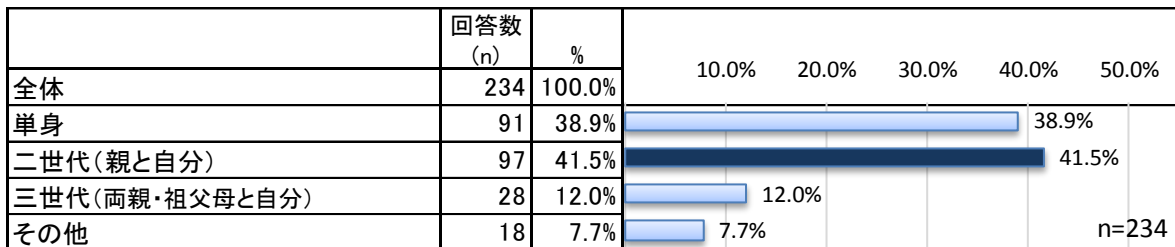
問3 あなたの性別を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の性別は、「男性」が76.6%、「女性」が23.4%となっています。



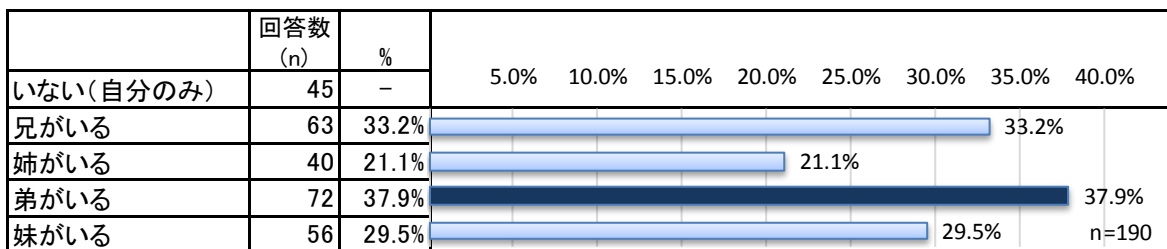
問4 あなたの世帯構成を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の世帯構成は、「二世帯（親子自分）」が41.5%、次いで「単身」が38.9%となっています。



問5 あなた以外の兄弟姉妹について教えてください（該当するものをすべて選び番号に○）

回答者の兄弟姉妹については、「弟がいる」が39.1%、次いで「兄がいる」が33.2%となっています。

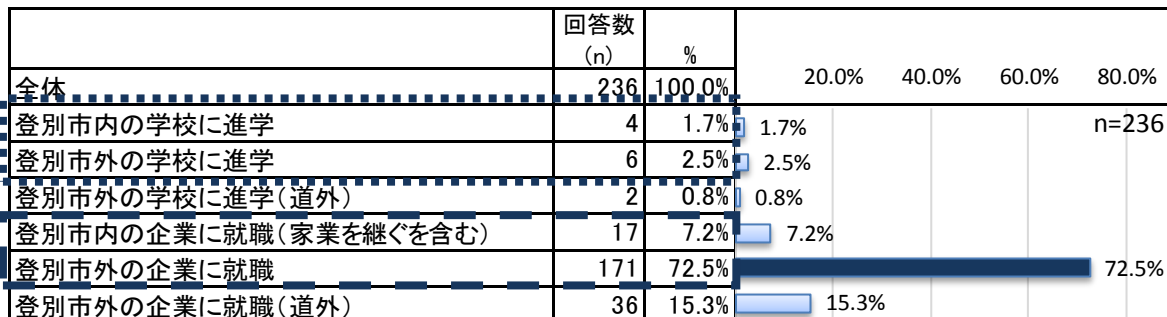


※有効回答数 190 票に対する割合

## ② 専門学校卒業後の進路について

問6 あなたの専門学校卒業後の進路について、予定または希望を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の専門学校卒業後の進路は、「登別市外の企業に就職」が7割以上を占めています。



問7 あなたの進学後の地元就職の意志について教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の地元就職の意志は、「登別市外（道内）の企業に就職したい」半数以上を占めています。



問8 あなたが市外で就職したいと思う理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の市外への就職希望理由は、「登別市内に志望する職場（企業等）が少ないため」が40.6%となっています。

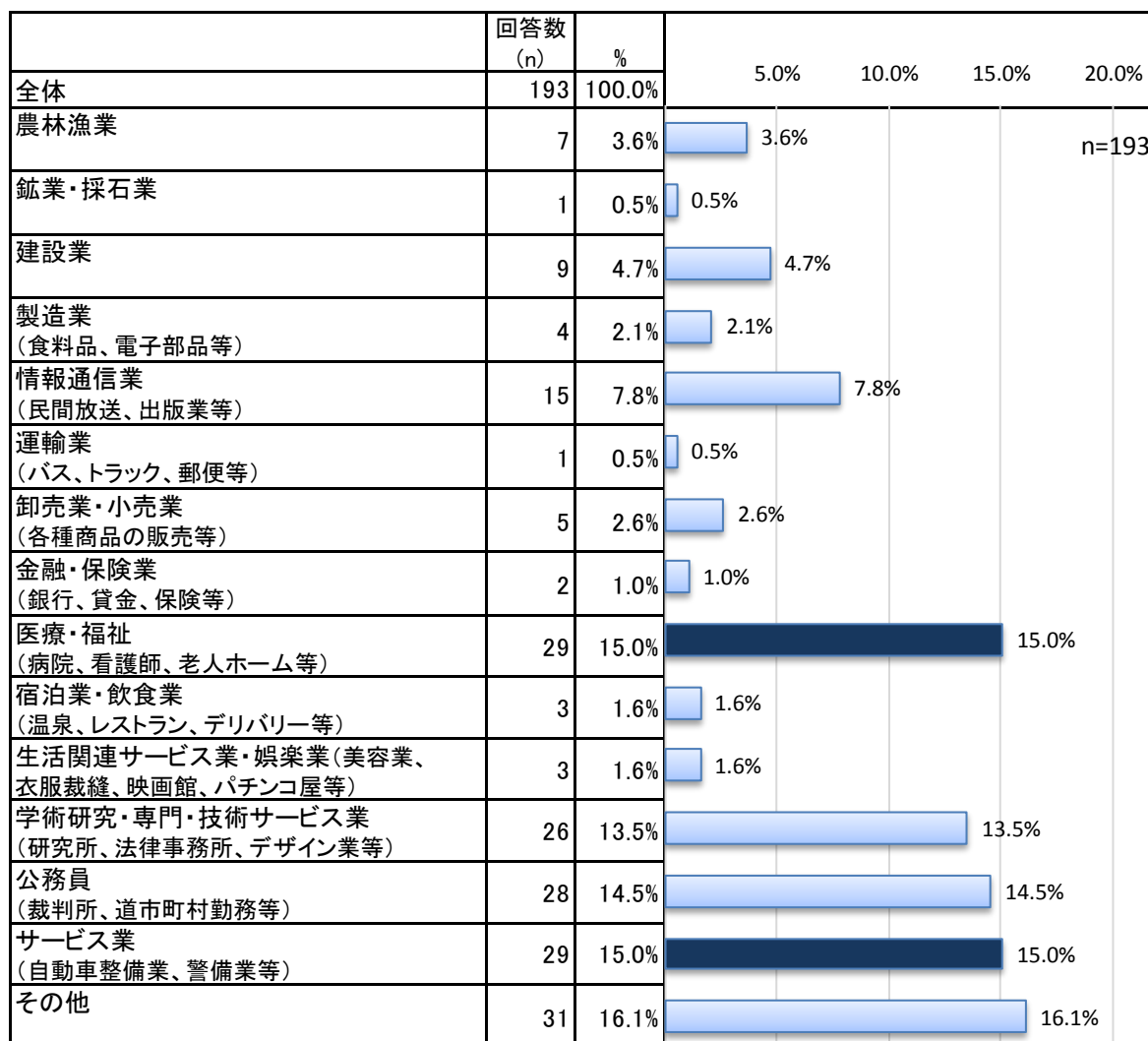
	回答数 (n)	%	
全体	212	100.0%	25.0% 50.0%
登別市内に志望する職場(企業等)が少ないため	86	40.6%	40.6%
登別市内の職場(企業等)までの交通手段が不便なため	8	3.8%	3.8%
登別市内には遊ぶところや買い物の場が少ないため	15	7.1%	7.1%
登別市外に出てみたい・出なければならないため	35	16.5%	16.5%
その他	68	32.1%	32.1% n=212

[問8 その他（1/1）]

番号	内容	番号	内容
1	全国で仕事がしたいから。国外含めて。	28	地元に戻りたいため
2	地元が帯広だから、そもそも求人が登別から来ていない	29	自宅から近いから
3	登別にいる理由がない。つまらない	30	家があるのが伊達市だから
4	企業の社長に魅力を感じたため	31	地元が登別じゃないから。
5	地元が遠いから	32	登別に会社がないから
6	就職先がないため	33	本州に対してのあこがれがあるため
7	求人が無い為	34	1～4 全てです。
8	地元が旭川だから	35	実家があるから
9	登別に興味がないから	36	実家に近い
10	小さい子がいっぱいいるため	37	実家が旭川だから
11	地元に戻りたいため	38	家の事情
12	ここが良いというところがなし	39	内定をもらった企業が道外だった。
13	就職できるならどこでも良い	40	地元へ戻り就職を考えているため
14	地元に近いほうが何かと安心できるため	41	志望する職場が市外だから
15	地元（根釧地区）の方が楽しく落ちつくため	42	地元が室蘭市なので。
16	実家を継ぐため	43	やりたい仕事があるから
17	地元就職がしたかったためです。	44	地元が釧路なので
18	実家へ就職	45	北海道警察を志望しているため
19	登別市外在住だから。	46	地元で就職したいから
20	地元である北見市に就職したいから	47	登別市にあまり興味もないし、北海道を出たいとおもっていたから。
21	地元が室蘭なのでそこで就職したいから	48	求人が無いため
22	出身地が登別市外だから	49	地元だから
23	登別市内で就職する理由がないため	50	地元ではないから
24	実家に近い所に住みたいため	51	求人がないため
25	家が遠い	52	特になし
26	自宅が室蘭市にあるため		
27	国家公務員の事務を志望しているため		

問9 あなたが就職する、また就職したいと考える業種を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の就職希望業種は、「医療・福祉」・「サービス業」が15.0%となっています。



[その他]

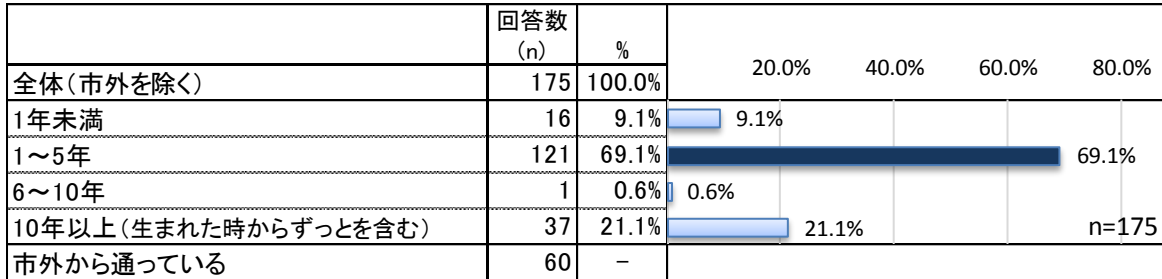
電気系	CGクリエイター
IT系	事務
電気工事	開発・研究
整備士	プログラマー
IT(プログラマー)	警察官
IT系など	未定
イラスト系	



### ③ 今後の居住について

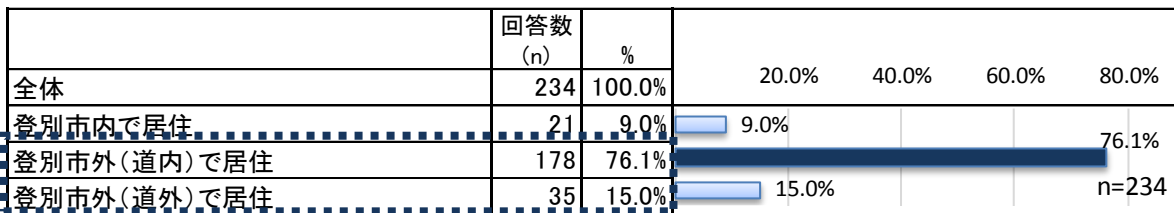
問10 あなたは、登別市にどのくらいの期間お住まいですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の居住期間は、「1～5年」が半数以上を占めています。

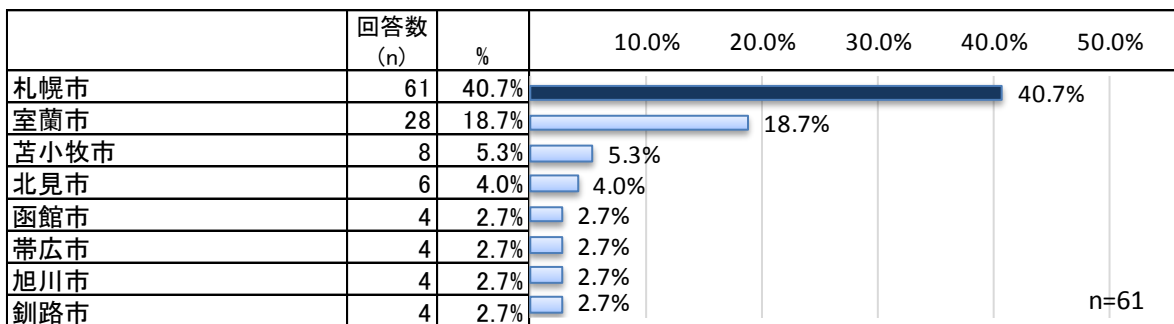


問11 あなたの高校卒業後の居住地について、予定または希望を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の卒業後の居住地は、「登別市外（道内）で居住」が7割以上を占めています。また、登別市外（道内）の内訳をみると、4割以上が「札幌市」の居住を望んでいます。



[市外（上位5位まで）]



問12 あなたは、将来、登別市にUターンして、定住する可能性はありますか（1つだけ  
 選び番号に○）

Uターン意向については、「将来、登別市に戻ってくる予定はない」が8割以上を占めています。

	回答数 (n)	%		
全体	210	100.0%	50.0%	100.0%
学校を卒業したら就職のために登別に戻ってきたい	1	0.5%	0.5%	n=210
結婚をしたら子育てのために登別に戻ってきたい	1	0.5%	0.5%	
親の介護が必要になれば戻ってきたい	14	6.7%	6.7%	
将来、登別市に戻ってくる予定はない	176	83.8%	83.8%	
その他	18	8.6%	8.6%	

[その他]

もともと登別に住んでいない	地元じゃない
室蘭に行きたい	旅行などで
転勤であるかも	考えてはいるがはっきりきまっていない
やることがあれば戻ってくる	まだなんともいえない
室蘭市民なので。	わからない
親の介護などで伊達に	知らない
登別市民じゃないので住もうとは思わない	未定

問13 あなたが、将来の居住地を選択する際、何を重視しますか（1つだけ選び番号に○）

回答者が居住地を選択する際の重視点は、「職場（企業等）への近さ」が35.3%、次いで「土地や住宅の価格」が15.8%となっています。

	回答数 (n)	%		
全体	190	100.0%	10.0%	20.0%
職場（企業等）への近さ	67	35.3%	35.3%	40.0%
小・中学校への近さ	4	2.1%	2.1%	
実家への近さ	22	11.6%	11.6%	
駅やバス停への近さ	12	6.3%	6.3%	
土地や住宅の価格	30	15.8%	15.8%	
周囲の自然環境	18	9.5%	9.5%	
買い物や娯楽などのあそび場の近さ	29	15.3%	15.3%	
その他	8	4.2%	4.2%	n=190

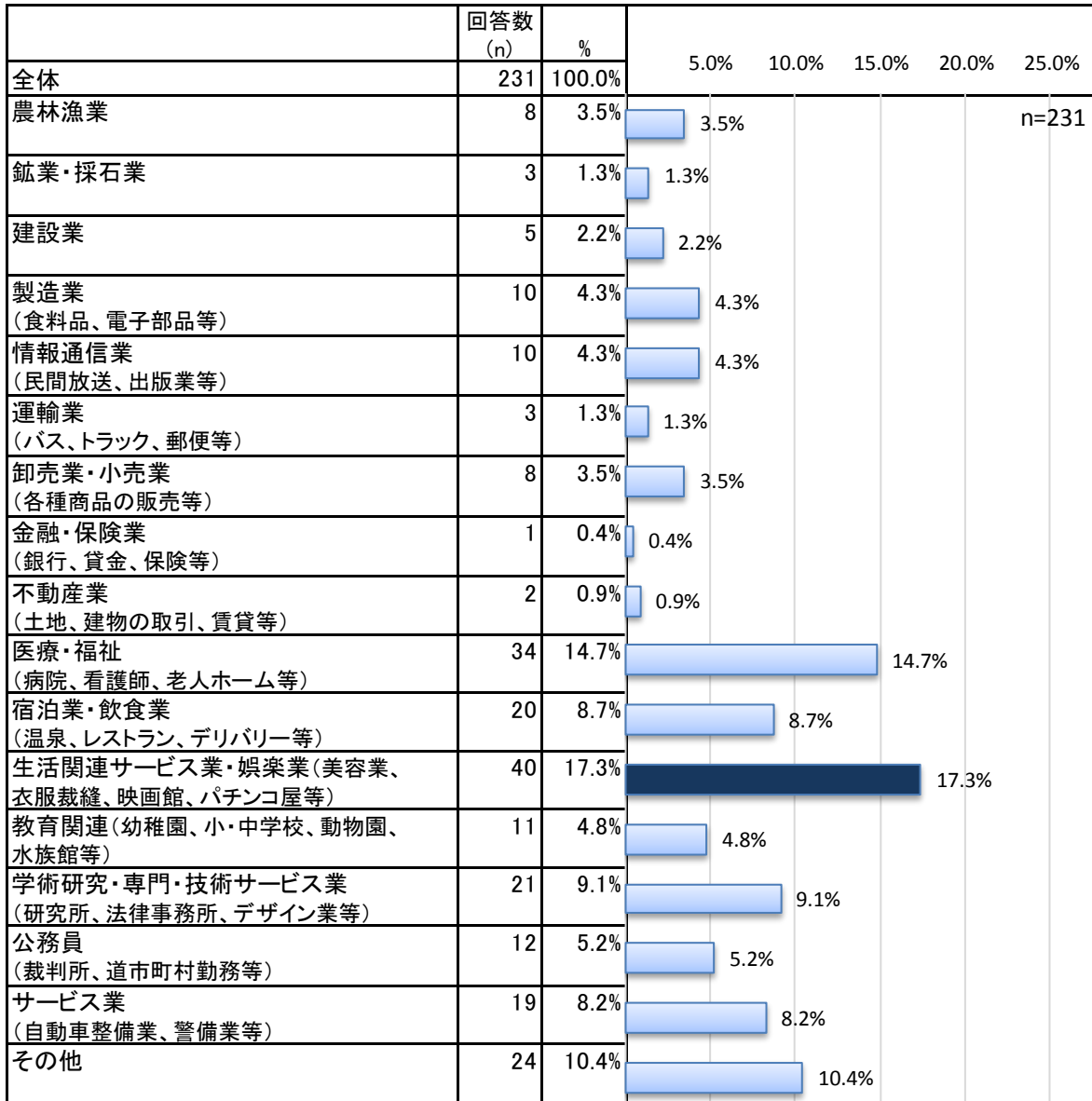
[その他]

周囲の人間関係、実家への近さ
生活に必要な買い物ができる場がどれくらいの距離にあるか
立地の良さ

④ 将来の登別市の姿について

問14 あなたが、今後市内で増えると思う働き口はなんですか（1つだけ選び番号に○）

今後市内で増えると思う働き口は、「生活関連サービス業・娯楽業」が17.3%、次いで「医療・福祉」が14.7%となっています。

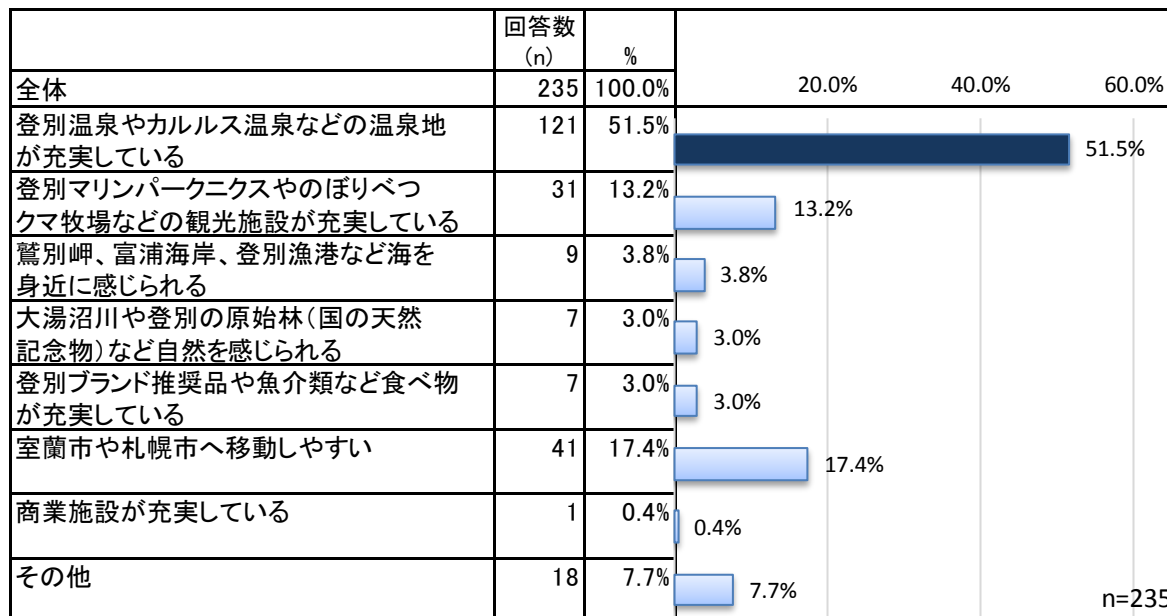


[その他]

電気系	デザイナー職
IT	娯楽系
娯楽施設	ラーメン屋
パチンコ	食べもの屋
送電線系の職	

問15 あなたが、今の登別市で良いと思うところはなんですか（1つだけ選び番号に○）

登別市の良いと思うところは、「登別温泉やカルルス温泉などの温泉地が充実している」が半数以上を占めています。

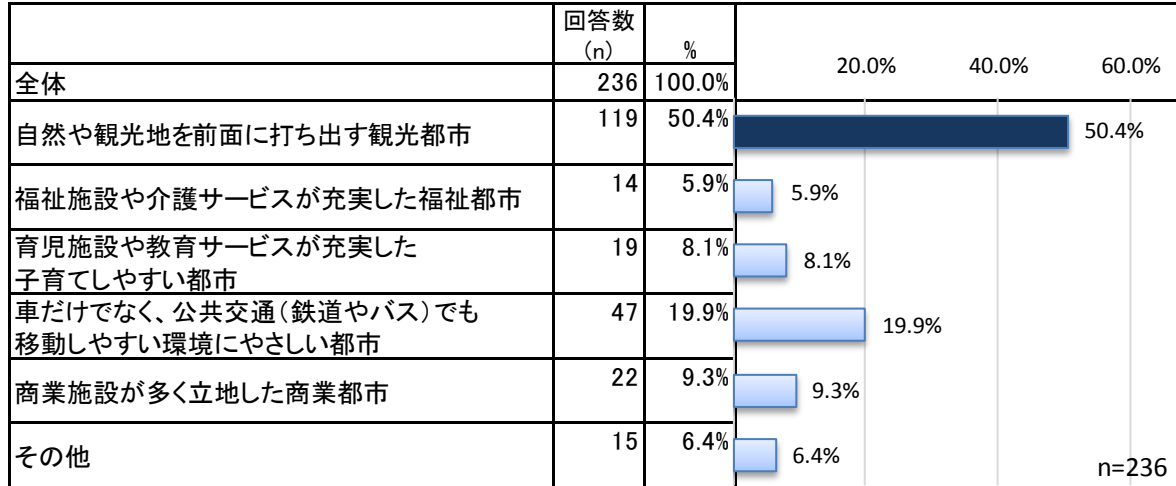


[その他]

何もない自然 自然がありますね。 牛乳がおいしい 少しだけ観光施設があるところ	林道の多さ 登別に来て、あまり日にちがたっておらず、よくわかりません。 考えても思いつかない。
--	---

問16 あなたは、将来の登別市がどうあるべきだと思いますか（1つだけ選び番号に○）

登別市の将来像は、「自然や観光地を全面に打ち出す観光都市」が半数以上を占めています。



[その他]

たくさんの方がスポーツを楽しめるまち  
もう少し駅をでかくしたらいいと思います。  
子供がたくさんいる  
パチンコ店を増やす

遊ぶ所が少ないので増やす。  
ガソリンスタンドの営業時間  
娯楽施設があるといい。  
興味がない。

問17 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/2)]

番号	内容
1	自然環境を大切に
2	良い町だと思います。
3	工学院バスが少ないので、バスを増してほしい。
4	バスを増やしてほしいよ
5	札幌から登別へ越してきましたが、札幌に比べると、やはり、交通手段がおとっているかなと思う。生活するにあたっては、たのしくすごしています。
6	市内の巡環バスが欲しいです。
7	がんばって下さい
8	千歳町にもっとコンビニ、スーパーをたててほしい
9	学生寮の近くに買い物できる場所があったら便利だなと思います。
10	豊かな自然を大切にしてください。
11	せっかく多くの自然があるので、もっと力を入れて観光地にして欲しいです。
12	図書館をどうにかしてほしい
13	これ書いて変わりますか？
14	夜暴走族がうるさい
15	娯楽施設を増やしてほしい
16	道路交通法のとりしまりの強化（特に自転車）
17	学生としては車が無いと交通面が不便なのでバス等の増便をしてほしいと思います。
18	登別市に遊べる店を出してほしい
19	JRの不足により満員になることが主なので車両を増やしてほしい。
20	駅をでかくして
21	店を増やしてほしいです。
22	JR 増やしてください
23	交通をべんりにしてください
24	今残っている自然・古風を守り続けたい
25	交通機関の充実
26	子育てしえんとか教育にもっと力を入れてください

## [自由記述 (2/2)]

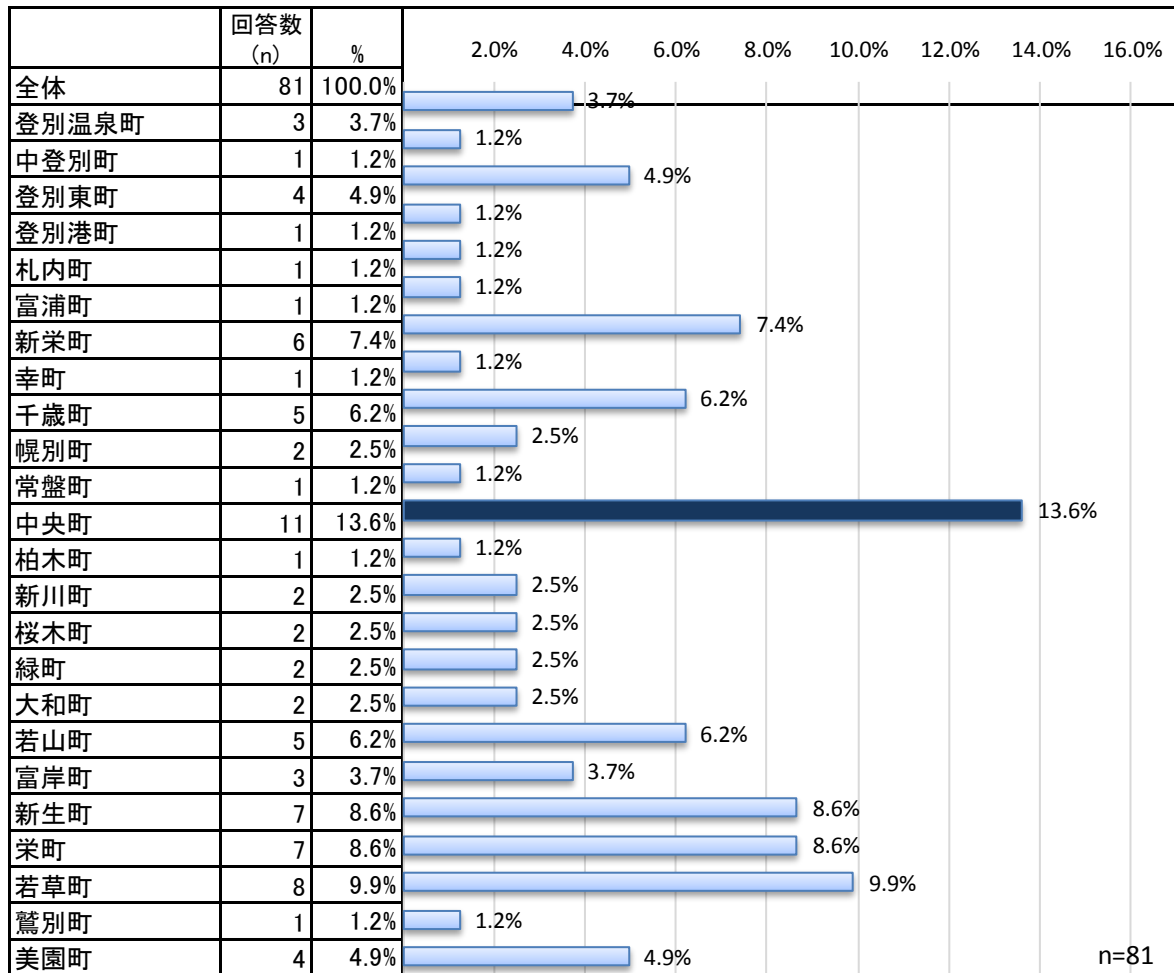
番号	内容
27	アミューズメントパークが増えるとうれしい
28	いい町にしてください
29	登別は高齢者が多いため、医療・福祉が充実した暮らしやすい場にすべきだと思う。
30	コンビニ作って下さい。
31	店を増やしてほしい
32	パチンコ屋をなくしてほしい遊び場を増やしてほしい
33	遊び場を増やしてほしい
34	もっとお店を増やしてほしい
35	特にありません。（温泉施設を多く！）
36	特に有りません（今のままでいいと思います。）
37	大変で難しいと思いますが、若い人を増やし、お年寄りが安全に暮らすためには、職場を増やし、育児と福祉の両方の進歩が必要だと思います。
38	設備や施設をもっと増やしてほしい。（専門的電子機器など）
39	登別のイオン周辺に駅があると便利。登別温泉街の活性化（お土産屋等が少なすぎる。ホテルからの眺めが悪い。）
40	田舎なので特に求めている事はない
41	登別温泉をもっと市民が利用しやすいようにしてほしいです。
42	市をかせいかしてほしい！！
43	本屋とか店を増やしてほしい。
44	若者は室蘭と登別だと室蘭に住みたいと言うと思います。もっと若者を引きつかるものがあれば良いかと思います。
45	冬の除雪を国道以外にもしてほしい
46	観光客を呼びこもうとする政策と同じくらい今現在登別市に住んでいる人を外に出さないような政策をするべきだと思います。観光で面白いだけでなく住んでいて楽しい町づくりをしてほしいと思います。

(5) 雇用・経済施策向けアンケート（事業所）結果

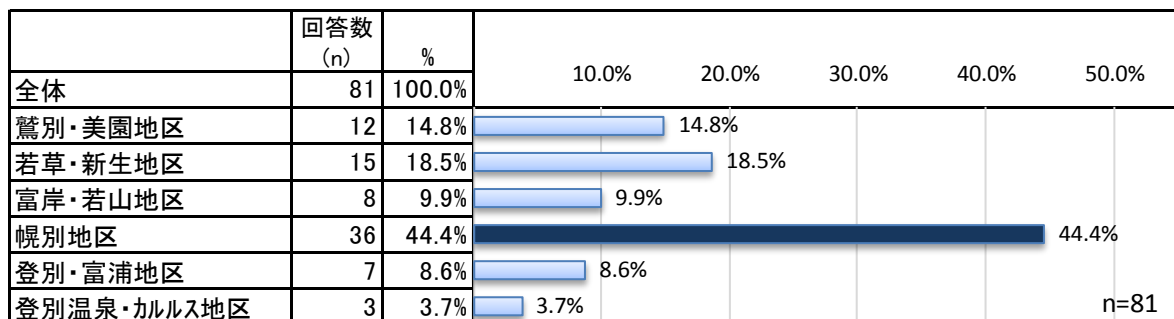
① 基本属性

問1 貴事業所の住所を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、「中央町」が13.6%、次いで「若草町」が9.9%となっています。



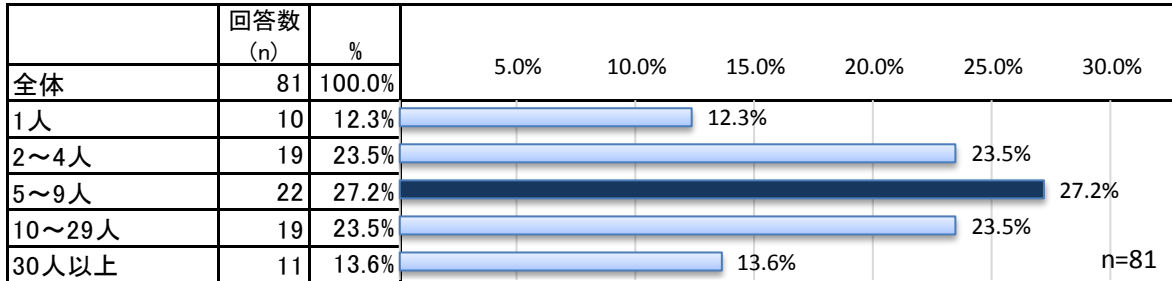
[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]





問2 貴事業所の従業員数を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の従業員数は、「5～9人」が27.2%、次いで「2～4人」・「10～29人」が23.5%となっています。

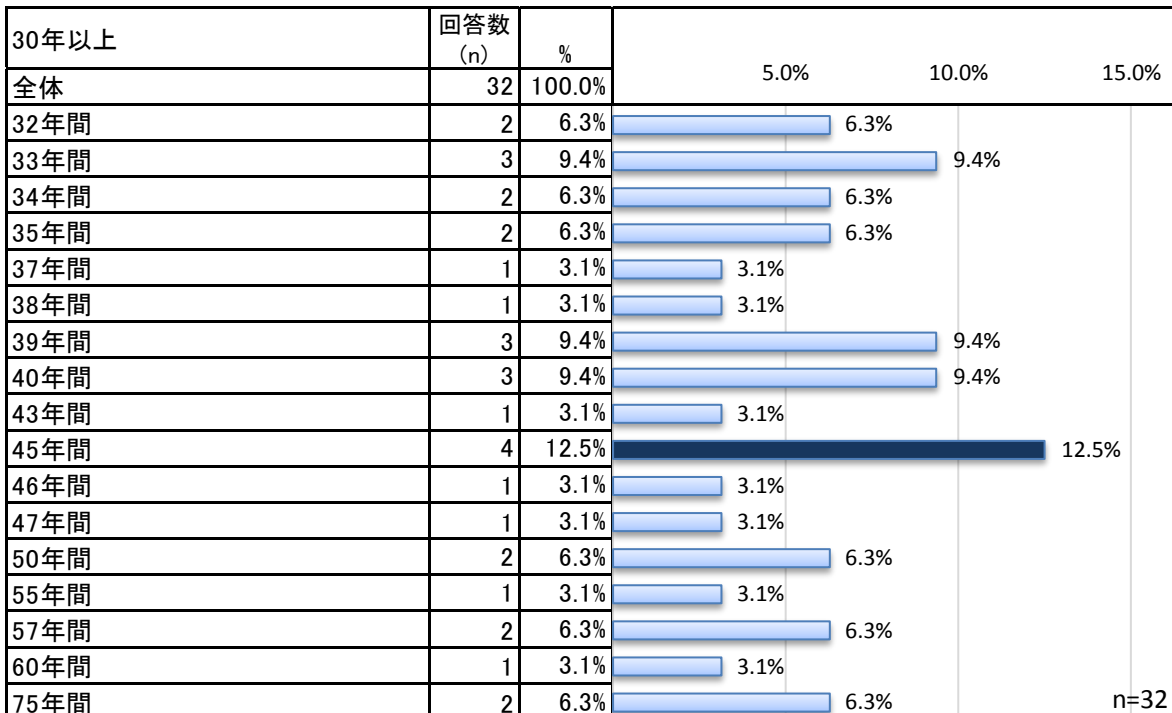
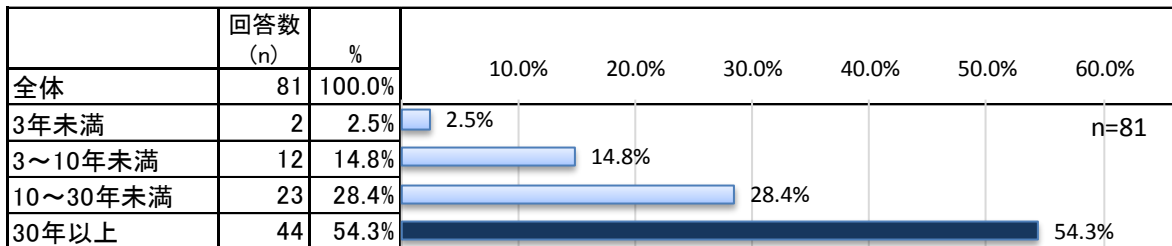


[その他]

30人以上	43人
34人	70人
38人	450人
40人	

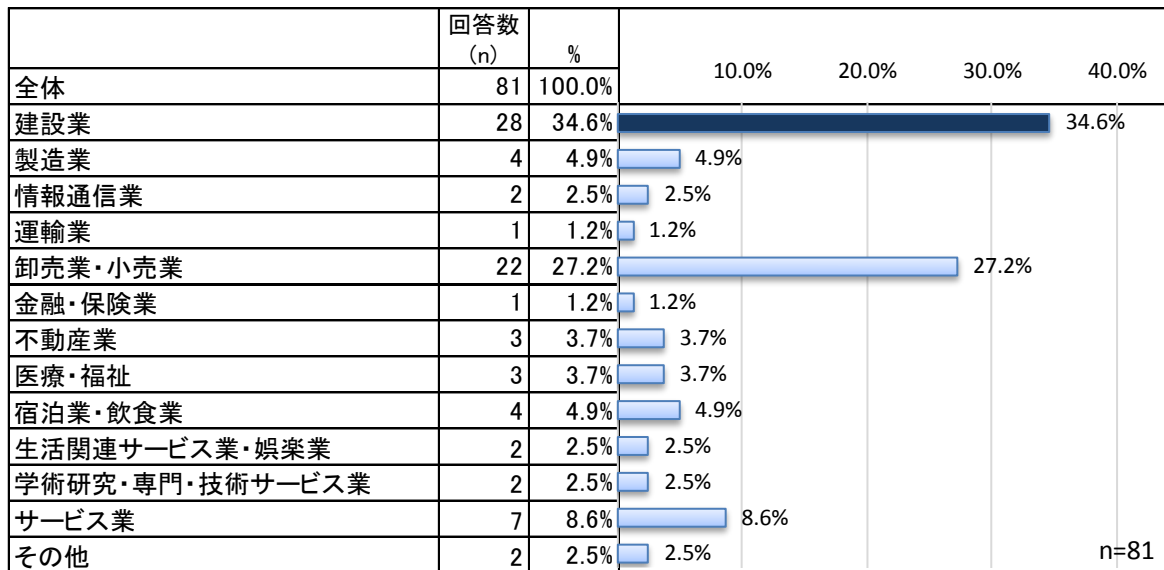
問3 貴事業所の当市内での営業年数を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の当市内での営業年数は、「30年以上」が半数以上を占めています。



問4 貴事業所の業種を教えてください（代表的なものを1つだけ選び番号に○）

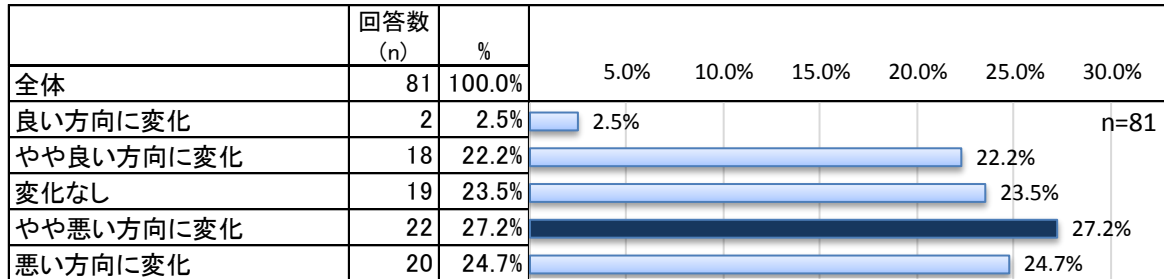
回答者の業種は、「建設業」が34.6%、「卸売業・小売業」が27.2%となっています。



② 営業の現状と今後の展望について

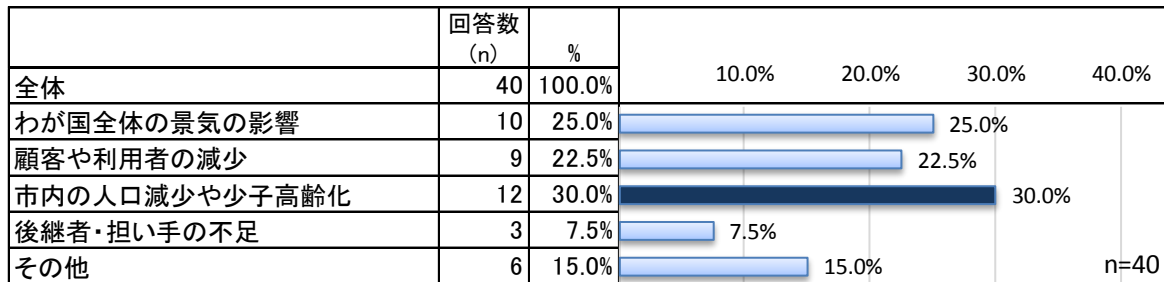
問5 以前と比べて最近の売上はどのように変化しましたか（1つだけ選び番号に○）

最近の売上の変化は、「やや悪い方向に変化」・「悪い方向に変化」があわせて、51.9%となっています。



問6 売上が悪い方向へ変化した主な原因はなんだと思いますか（1つだけ選び番号に○）

売上が悪い方向へ変化した主な原因は、「市内の人口減少や少子高齢化」が30.0%、次いで「我が国全体の景気の影響」が25.0%となっています。



[その他]

社内努力不足  
 国の施策の展開（介護報酬の減額）  
 消費税増税とデジタル化  
 登別市民の景気の影響  
 一人親方増加により顧客単価を下げられている。会社経費がかからず、申告せずやれているので、消費税も不要とのことで価格で負ける。

問7 今後数年間における事業継続の見通しについて教えてください（1つだけ選び番号に○）

今後の事業継続の見通しは、「市内で事業を継続する」が94.7%と9割以上を占めています。

	回答数 (n)	%						
全体	76	100.0%	20.0%	40.0%	60.0%	80.0%	100.0%	
市内で事業を継続する	72	94.7%						94.7%
事業の撤退も検討している	4	5.3%						n=76

問8 今後も市内で事業を継続するためにどのような支援が必要だと考えますか（1つだけ選び番号に○）

事業を継続するための必要な支援は、「顧客・利用者確保に対する支援」が22.7%、次いで「後継者・従業員確保に対する支援」が18.7%となっています。

	回答数 (n)	%					
全体	75	100.0%	10.0%	20.0%	30.0%		
資金調達の支援	11	14.7%					14.7%
新たな販路拡大に対する支援	12	16.0%					16.0%
顧客・利用者確保に対する支援	17	22.7%					22.7%
他業者との連携機会に対する支援	1	1.3%					1.3%
後継者・従業員確保に対する支援	14	18.7%					18.7%
事業所用地確保に対する支援	1	1.3%					1.3%
技術支援や製品・商品開発に対する支援	3	4.0%					4.0%
人材育成に対する支援	5	6.7%					6.7%
その他	11	14.7%					n=75

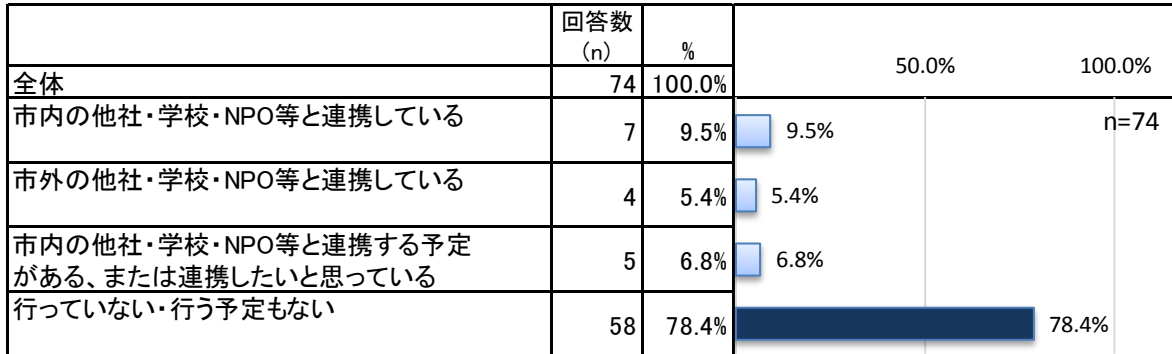
[その他]

企業誘致、移住の促進  
 公共事業の地元発注  
 空家等対策の推進に関する特別措置法のすすめ  
 市内での市の工事及び市事業者の工事は市内の業者を使う！  
 市内の産業構成をもっと深く斟酌した工夫に基づく支援  
 人口流出のくい止め、移住・定住の促進、働く場の確保！！

③ 地域連携の現状と今後の展望について

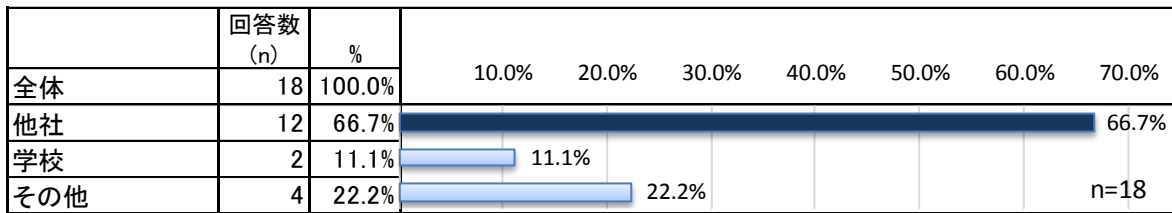
問9 現在、他社・学校・NPO等との連携※を行っているか教えてください（1つだけ選び番号に○）

地域連携を行っている事業所は、1割程度に留まっています。



問10 具体的にどこと業務上の連携を行っていますか（該当するものをすべて選び番号に○）

具体的な連携先は、「他社」が66.7%と半数以上を占めています。



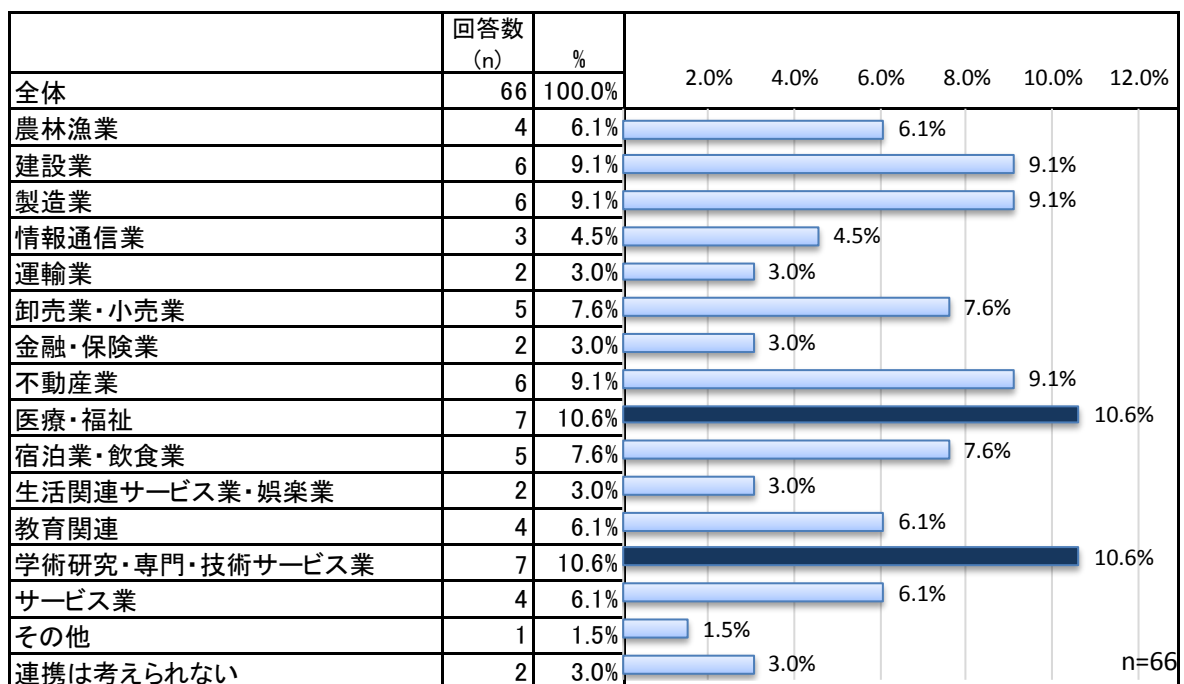
問11 業務上の連携内容について、具体的に記入してください

具体的な連携内容は、生産協力、人材派遣、研究開発など多岐に渡っています。

番号	内容
1	・ これまでに何度か実績がある
2	・ 仕事の分担、技術者のシェア、営業情報の共有
3	・ 商品物流、人材派遣
4	・ 他社：製造、販売等で連携している。ex.シンジケート等。 ・ 学校：大学と技術研究、開発を行っている。
5	・ 中小企業同士がお互いの状況に応じ、人材の貸借又は重機などの貸借をする。
6	・ 登別温泉の新しい食の魅力の開発等
7	・ 当施設で行う行事等への参加等
8	・ 良質乳、良質豚の協力生産
9	・ 他社：共同購入、情報交換など。 ・ その他：主に異業種の人が集まり、中小企業の活性化のための組織。 ・ 具体的に企業の決裁権者が集まり、商品開発や仕事の紹介、発注、共同での仕事を行う。 ・ 市町村の枠にこだわるとマンネリ化し、動きが遅いと感じている。

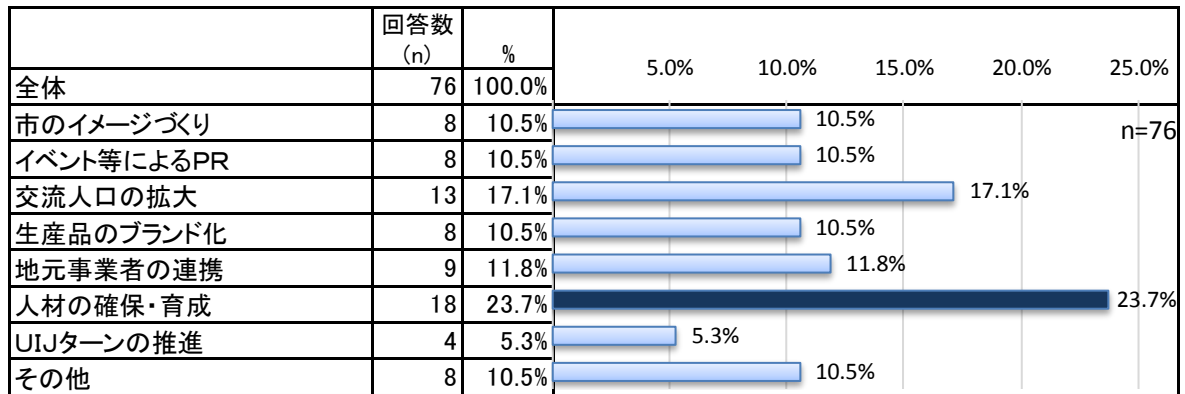
問12 現在または将来、市内で業務上の連携が可能な分野を教えてください（該当するものをすべて選び番号に○）

将来の業務上の連携可能分野は、「医療・福祉」・「学術研究・専門・技術サービス業」が10.6%と一番多くなっています。



問13 地域活性化や産業振興のために重要と考えられるものを教えてください（1つだけ  
 選び番号に○）

地域活性化や産業振興のために重要なものは、「人材の確保・育成」が23.7%と一番多く、次いで「交流人口の拡大」が17.1%となっています。



[その他]

企業誘致、雇用の拡大

問14 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/1)]

番号	内容
1	【図あり】個人的にですが、道の駅があると嬉しい（毎日開いているといいな）。前に道内でどこの町か忘れたのですが、市の建物が道路沿いにずらっと並んでいるんです。どこかの建物で行事があったらその駐車場は混むけど、その続きの所へ止められるみたい。遅く行くとだんだん遠くへ止める事になるけれど、駐車場が空いていなくてぐるぐる回るといふ事がないようなので、いいなと思いました。例えばこんな感じだったから。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい案件等に対して、面倒くさいから拒否というような姿勢を排除すべし！！</li> <li>・市役所全体のイメージとして積極性が非常に不足しているように感じる（一部を除く）。</li> <li>・役所内における様々な対立や葛藤を克服する努力をもっとキチンとするべき。</li> </ul>
3	<p>①投資効果と予測を正しく評価すること（市職員を正しく評価できる人材に育てる）。</p> <p>②小中学校で市税と自分の小遣いの関係を教育すること。大人・子どもが街の設備を壊す、汚す。ゴミを捨てる。→それらを外注で保全する（業者は潤うが、新しいことができない）→親の市税があがる＝子どもの小遣いが減る→自分たちができることは自分達です（グラウンドの石拾い、清掃、トイレの掃除、テニスコートの整備 etc.）</p> <p>③街おこし：36号線沿いに道の駅・山の駅・海の駅・街の駅</p>
4	観光都市のわりに登別駅前がひどすぎる。駅舎もエレベーター、エスカレーターがなく、夜はタクシーもひろえない。世界中からの観光客からも苦情が出ているのを耳にしたことがあります。
5	希少性のきわめて高い登別酪農・畜産の振興と発展に大きく支援願いたい。生産から地元の素材又は地元根拠ある商品企画開発に対する強力なバックアップ方針をかかげてください。真のブランド開発をしっかりと目指していただけると明るい未来があります。食品加工（特に乳・肉製品）の技師者要請の機会をご検討下さい。
6	建設業及び関連業者のイメージアップにご協力下さい。
7	公共事業を地元で長く商売している会社にも割り当ててほしい。一部の業者のみが独占して、なかなか仕事が回らない様になっている。地元企業優先で会を持ち、労災雇用、社会保険をかけている会社に仕事を回してほしい。
8	市を活性化させる為に、市内の多種目の業者が連携を組み、業者が活気付けば市民も潤うと思われる。市内の活動しなければならぬ仕事は、市外からの業者を入れないで、市内の業者を使うべきだと思う。
9	市外からの投資を呼び込む政策、市民の消費を促す政策の推進を願います。
10	市職員、商工会議所職員はもっと勉強すべき。市・会議所が先頭に立って販路拡大すべき
11	将来において展望できるような計画的な事業量の確保を要望します。
12	働きやすい環境作り、子育てをしながら働ける保育と子育て支援、子育ての悩みの支援、若い人が登別で定住してくれることが大切。道路わきに毎年植えている花はもったいないので、多年草にした方がいいのでは・・・。市議会議員の数をもっと減らすべき。市のために仕事をしないで、議会に出れば給与をもらえるのは大きな間違いです。定数を減らせば真剣に仕事すると思うし、市の負担も減らせる。その分、市政の中で忙しい部署を増員したほうがいい。
13	働く場の確保、移住・定住の促進！！

以上